

Title	日本語とベトナム語における使役表現の対照研究 : 他動詞、テモラウ、ヨウニイウとの連続性
Author(s)	Nguyen Thi, Ai Tien
Citation	大阪大学, 2014, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50580
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪大学

博 士 論 文

題目

日本語とベトナム語における使役表現の対照研究
—他動詞、テモラウ、ヨウニイウとの連続性—

提出年月 2014年6月10日

言語文化研究科言語社会専攻

氏名 NGUYEN THI AI TIEN

(グエン ティ アイ ティエン)

目次

序章	1
1. はじめに	1
2. 研究目的	5
3. 研究方法	6
4. 研究の枠組み	7
5. 分析資料	7
6. 論文の構成	7
第1章 先行研究と本研究の位置づけ	10
1.1 日本語の使役に関する研究	10
1.1.1 阪田（1980）の主張	10
1.1.2 高見（2009）の主張	12
1.1.3 寺村（1982）の主張	13
1.1.4 柴谷（1978）の主張	15
1.1.5 仁田（2009）の主張	16
1.1.6 先行研究の概観	17
1.2 ベトナム語の使役に関する研究	17
1.2.1 Nguyễn Kim Thản の主張	17
1.2.2 Nguyễn Thị Quy の主張	20
1.2.3 Diệp Quang Ban の主張	25
1.2.4 先行研究の問題点	29
1.3 使役とは	33
1.4 ベトナム語における bắt、cho、đề、làm、khiến 使役文について	39
1.4.1 bắt 使役構文	40
1.4.2 cho 使役構文	41
1.4.3 đề使役構文	46
1.4.4 khiến 使役構文	49
1.4.5 làm 使役構文	52
第2章 他動詞文の使役性	57
2.1 自動詞、他動詞、使役形における日本語とベトナム語の違い	57

2.1.1	日本語とベトナム語における自動詞と他動詞の違い	57
2.1.2	自動詞、他動詞、使役形における日本語とベトナム語の違い	62
2.2	働きかけを表す他動詞	67
2.3	働きかけと状態変化の結果を表す他動詞	70
2.3.1	日本語の場合	70
2.3.2	ベトナム語の場合	72
2.4	NP1 の働きかけと NP2 の位置の変化を表す他動詞	81
2.5	「NP1 が NP2 を X にする」構文について	86
2.5.1	X が身分、職業、地位、資格などを表す名詞の場合	86
2.5.2	X が人間の属性、評価などの場合	88
2.5.3	X が形容詞・形容動詞の場合	90
2.6	無生物主語の問題	92
2.6.1	無生物主語の種類	92
2.6.2	無生物主語文で使われる動詞の性質	96
2.7	日本語とベトナム語における他動詞についてのまとめ	98
3.1	日本語の「させる」使役構文における被使役者の格について	99
3.1.1	「を」しか取れない使役構文	105
3.1.2	「に」しか取れない使役構文	106
3.1.3	「に」と「を」とどちらも取れる使役構文	107
3.2	ベトナム語における bắt、cho、đề、làm、khiến の違いについて	108
3.3	「させる」と bắt、cho、đề (cho)、khiến (cho)、làm (cho) の共通性	111
3.3.1	補文を持つ	111
3.3.2	様々な動詞と結合する	117
3.3.3	誘発の意味を持つ	118
3.3.4	強制の意味を持つ	118
3.3.5	許可の意味を持つ	119
3.3.6	放任の意味を持つ	121
3.3.7	責任の意味を持つ	122
3.4	「させる」と bắt、cho、đề (cho)、khiến (cho)、làm (cho) の違い	124

3.4.1	構文上の違い	124
3.4.2	NP2 の状態変化の結果を含意するか	124
3.5	誘発使役	133
3.5.1	強制的使役	134
3.5.2	日本語の二重他動詞に対応する表現	136
3.5.3	人の心理的・生理的变化を表す使役表現	142
3.5.4	いわゆる所動詞の場合	147
3.6	許容使役	152
3.6.1	許可を与える使役文	153
3.6.2	許可を求める使役文	155
3.7	放任・放置使役文	157
3.8	使役者が有生物で、被使役者が無生物の場合	160
3.8.1	被使役者（NP2）が使役者（NP1）の体の一部である場合	160
3.8.2	NP2 が身体部位ではない無生物の場合	165
3.9	両言語における対応する他動詞のない自動詞の使役形	169
3.9.1	日本語では対応する他動詞がない自動詞であるが、ベトナム語では他動詞が存在する場合	169
3.9.2	ベトナム語の場合では対応する他動詞がない自動詞であるが、日本語では他動詞が存在する場合	170
3.10	使役者が無生物で、被使役者が有生物の場合	172
3.10.1	自然現象が主語になる場合	174
3.10.2	一般の物事が無生物主語になる場合	175
3.10.3	無生物疑問詞が主語になる場合	177
3.10.4	動詞を補う型が主語になる場合	178
第4章	ベトナム語における使役動詞とそれに対応する日本語の表現	180
4.1	使役性が非常に高い（絶対的）グループ	184
4.1.1	bắt buộc 「無理やりさせる」使役文	184
4.1.2	ra lệnh 「命令を下す」使役文	185
4.2	使役性がやや高いグループ	186
4.2.1	yêu cầu 「要求」使役文	186

4.2.2	sai 「遣いに出す」使役文	188
4.2.3	báo / biểu 「言いつける」使役文	190
4.3	使役性が中間レベルのグループ	191
4.3.1	đề nghị 「頼む」使役文	191
4.3.2	khuyên 「勧める」使役文	192
4.4	使役性が低いグループ	194
4.4.1	nhờ 「～てもらう」使役文	194
4.4.2	mời 「招く」使役文	196
4.4.3	xúi / xúi giục 「唆す」使役文	198
4.5	使役性が非常に低いグループ	198
4.6	無生物主語	199
4.7	NP2 の動作の実現を含意する使役動詞と含意しない使役動詞	202
4.7.1	bắt 、 sai 、 báo のグループ	203
4.7.2	chỉ thị 、 ra lệnh 、 chỉ đạo のグループ	205
4.7.3	yêu cầu 、 đề nghị 、 nhờ のグループ	206
4.7.4	khuyến khích 、 khuyên 、 mời のグループ	207
第5章	日本語における「～ように」「～てもらう」構文に対応するベトナム語の表現	209
5.1	「～てもらう」「～ていただく」構文について	209
5.1.1	「～てもらう」構文の文法的特徴	210
5.1.2	「受動」、「使役」の解釈と影響度	212
5.1.3	「～てもらう」とベトナム語に対応する表現	215
5.1.4	mời 「招く」の構文	223
5.1.5	yêu cầu 「要求する」構文	224
5.1.6	đề nghị 構文	226
5.2	「～ようにいう」構文について	228
5.2.1	命令の間接化の場合	228
5.2.2	使役動詞の陳述的用法の場合	234
5.2.3	NP2 の動作の実現を含意しない場合	236
第6章	結び	241
	参考文献	247

序章

1. はじめに

ベトナム語を母語とする日本語学習者が日本語を習う際、いくつかの文法項目において学習に戸惑ったり、学習していてもその用法の理解が十分でないために誤用をおかしたりすることがある。その文法項目の中の一つが使役文である。ベトナム語の使役文と日本語の使役文には、相違点が多くみられる。本研究は、日本語の使役構文とそれに対応するベトナム語の表現との関係について考察するものであり、それは主に以下の2つの観点での指摘に関して有益なものであることを目指す。まず、ベトナム人日本語学習者が日本語の使役構文の学習に際して、しばしば困難を感じるという点である。次に、ベトナム語の使役文と日本語の使役文に関して、その相互の翻訳でしばしば重大な誤訳が見られる点である。例えば

- ① 他動詞構文では、NP1 の働きかけと NP2 の動作の実現のあり方が異なる。そして、他動詞構文の主語が有生物か無生物かについても両言語では異なる。
- ② 「させる」使役文では NP1 の働きかけと NP2 の動作の実現のあり方が異なる。そして「させる」使役文の主語が有生物か無生物かについても両言語では異なる。
- ③ 「させる」使役表現が表す意味は幅広く、誘発の意味、強制の意味、許可の意味、放任の意味など様々な意味を表す。一方、ベトナム語では、それぞれの意味で、bát、cho、làm (cho)、khiến (cho) 等の異なった使役動詞を用いる。
- ④ 「～てもらおう」と「～ようにいう」表現はベトナム語における様々な使役動詞に対応する。

等である。

これら2つの領域における困難さの最も大きな原因は、ベトナム語の使役動詞 bát、cho、đề (cho)、làm (cho)、khiến (cho) を日本語の使役接辞「～せる、～させる」に機械的に置き換えてしまうということにある。これらは一見翻訳上等価であるように思われるが、実際

にはしばしば場面や状況のずれが存在している。

従って、本研究は日本語とベトナム語のいわゆる使役構文を比較対照し、考察することを通して、そこから一定のパターンを抽出することである。これは日本語学習にも翻訳にも有益であると考えられる。

まず、日本語における使役構文を考察してみよう。

- (1) 太郎は花子に宿題をやらせた。
- (2) 太郎は花子を早く帰らせた。
- (3) 太郎は花子を泣かせた。
- (4) 彼女に説明させてください。
- (5) 太郎は面白い話をして、皆を笑わせた。
- (6) 自己紹介させていただきます。

上記の例文は一般に使役構文と呼ばれ、以下の特徴を持つ。まず、動詞に「～せる、～させる」を付加するという形態になっている。そして、文の主語は「に」か「を」格を取る。意味的には、使役者が被使役者に対してある動作・作用または状態変化をするように仕向けるということである。また、使役者は被使役者が行っている行為を放任する、許可を与える意味も表わす。

上の例文をベトナム語に訳すと以下のような文になる。

- | | | | | | |
|-----|------------------|------------|--------|-----|----------|
| (7) | Taro | <u>bắt</u> | Hanako | làm | bài tập. |
| | 太郎 | させる | 花子 | する | 宿題 |
| | (太郎は花子に宿題をやらせた。) | | | | |
| (8) | Taro | <u>cho</u> | Hanako | về | sớm. |
| | 太郎 | させる | 花子 | 帰る | 早く |
| | (太郎は花子を早く帰らせた。) | | | | |

- (9) Taro làm cho Hanako khóc.
 太郎 させる 花子 泣く
 (太郎は花子を泣かせた。)
- (10) Hầy đề cho cô ấy giải thích.
 ~ください させる 彼女 説明する
 (彼女に説明させてください。)
- (11) Taro nói chuyện vui khiến mọi người cười.
 太郎 話す 面白い させる 皆 笑う
 (太郎は楽しそうに話して、皆を笑わせた。)
- (12) Cho phép tôi được tự giới thiệu.
 させる 私 得る 自己紹介する
 (自己紹介させていただきます。)

ベトナム語では **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**làm (cho)**、**khiến (cho)** を用い、使役者は文の主語として、被使役者は使役動詞の目的語かつ、その後に来る補文の主語として表現される。意味的には日本語と同様で、使役者が被使役者にある動作・作用あるいは状態変化をするように仕向ける、また、被使役者が行っている行為を放任する、許可を出す意味を表す。ベトナム語においてこのような構文は「発話行為構文」「使役構文」「因果結果構文」などと呼ばれる。以下は日本語とベトナム語における二つの構文の形式と意味の特徴である。

意味		NP1 が NP2 に NP2 が 何らかのことをするよ うに仕向ける	放任、許可を出す	許可を求める
形式	日本語	NP1 が NP2 に / を V さ せる	NP1 が NP2 に / を V させる	NP2 に / を V させ る
	ベトナム 語	NP1 bắt, cho, làm, khiến NP2 V	NP1 đề, cho NP2 V	cho phép NP2 V

上記の表を見ると、日本語とベトナム語における使役構文は意味的に対応しているように見える。従って、日本語とベトナム語の使役をとりあげる場合には、この二つの構文を比較

し議論すればよいように思われる。しかし、文法構造に異なる点が多く、例えば以下のような文はベトナム語には対応しない。(13)では、日本語の場合、使役を表わす「～させる」を使えるのに対して、ベトナム語では使役を表わす動詞を用いない。

(13) キエンは足を滑らせて倒れ、転んで落ちた。

例(13)は日本語の「～させる」使役構文をそのままにベトナム語に訳すと不自然な文である。

(14) *Kiên làm cho chân trượt, ngã xuống.

キエン させる 足 滑る 転んだ

(キエンは足を滑らせて倒れ、転んで落ちた。)

例(13)の日本語の表現と意味的に対応すると思われるベトナム語は、次のような文である。

(15) Kiên trượt ngã (BN:1990)

キエン 滑る 転ぶ

(直訳：キエンは滑って転んだ。)

(キエンは足を滑らせて倒れ、転んで落ちた。)

(バオ:1999)

また、ベトナム語では使役を表わす動詞を使って、使役表現を用いる。日本語でも意味的にはベトナム語の使役文に対応するが、「～させる」以外の構文で対応する場合もある。

(16) Tôi bắt con dọn phòng nhưng nó không dọn.

私 させる 子供 片付ける 部屋 しかし 彼 ~ない 片付ける

(直訳：私は子供に部屋を片付けさせたが、彼はしなかった。)

(私は子供に部屋を片付けるように言ったが、彼はしなかった。)

(17) Bộ phim đó đã khiến/làm cho nhiều người rơi nước mắt.

映画 その [過去] させる 多くの 人 流す 涙

(直訳：その映画は多くの人を泣かせた。)

(その映画を見て多くの人が涙を流した。)

(18) Tôi đã làm rơi ví.

私 [既然] 落とす 財布

(直訳：私は財布を落ちさせた。)

(私は財布を落とした。)

(16) ～ (18) では、同じ意味を表すためには異なった構文を使わなければならない。ベトナム語の表現では、それぞれ *bắt*、*cho*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* の使役を表わす動詞が使われているが、日本語では「～ようにいう」や使役表現ではない構文や他動詞構文が使われている。

こうしてみると、日本語、そしてベトナム語における使役文とされる「NP1 が NP2 に／を V させる」構文と「NP1 *bắt*、*cho*、*để (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* NP2 V」構文とはそれぞれ重なる部分と重ならない部分があると言えよう。つまり、両言語における使役構文は完全に対応している訳ではないということが分かる。

以上より、解き明かしていくべき課題は以下の二点だと言える。

まず、両言語におけるいわゆる使役構文とする表現の形態論上、統語論上の相違点と類似点はどのようなものであろうか。それから、全体として、どのような体系をなすものとして捉えられているかという点である。

第二の問題は、日本語とベトナム語、それぞれの使役表現の意味の広がりがどのようなものであり、そして、中心点はどこにあるのかという問題である。両言語における使役表現は意味的に対応し、共通しつつも、どこか深い所での微妙な違いが存在すると予想される。また、日本語における「～せる、～させる」表現は、ベトナム語におけるいくつかの使役動詞に対応しはするものの、それぞれには意味の微妙な違いが潜んでいるのではないだろうか。

2. 研究目的

本研究の最終目的は、以下の二つである。

- a. ベトナム人の日本語学習者が使役文の用法の誤りを犯さないよう、日本語の使役文の特徴を明らかにする。更に、ベトナム語の使役文の特徴を知ることによってベトナム人日本語学習者の使役文の誤用の原因を把握する。
- b. 日本語における使役文のベトナム語に対応する適切な表現を探す。日本語の使役文をベトナム語に翻訳する際の困難を軽減し、より良い翻訳の方法を探る。

上に述べた目的以外に、ベトナムでは日本語についての情報がまだ少なく、反対に日本ではベトナム語についての情報がまだ不足しているため、本稿の成果がベトナムにおける日本語教育及び日本におけるベトナム語教育の一助となることを望んでいる。また、ベトナム語日本語相互の対照研究及びベトナム語の文学作品、日本語の文学作品の相互翻訳に貢献できることを期待している。

3. 研究方法

本研究は以下の手順にしたがって進める。

① 先行研究の分析方法を確認する。

これまでの先行研究とそのデータを分析し、それぞれの言語における使役文の特徴を確認し、相違点と類似点を抽出する。

② 実例を通して、両言語における使役文を対照比較する。

実際に日本語に翻訳されたベトナム語の小説、及び日本語の小説をベトナム語に翻訳された小説の例文を利用して分析する。

また、筆者自らが例文を作成し、日本語に訳し、容認度を確認する。実際の翻訳作業の中で応用可能な両言語における使役文の相違点、類似点を抽出し、日本語の使役文をベトナム語に翻訳する際の留意点を述べ、より適切な表現を提案する。

4. 研究の枠組み

本研究では、日本語における使役表現と、筆者の母語であるベトナム語における使役表現との対照を研究対象とする。

本研究は意味事象を中心に、日本語、ベトナム語の使役をより包括的に捉えるために、従来の日本語における「～させる」使役構文とベトナム語における *bắt, cho, đẽ(cho), làm(cho), khiến(cho)* の他、*yêu cầu, đề nghị, sai, buộc, mời, nhờ* 等の使役の意味を表す動詞構文、また一部他動詞文及び *làm*+自動詞文、日本語の「～ようにいう」、「～てもらおう」構文も使役表現として取り上げることとする。

この観点からすれば、本研究で取り上げる使役表現は従来の使役表現より意味範囲が広いということに留意しなければならない。上記の構文は NP1 が NP2 に働きかけ、NP2 に何らかの動作・作用あるいは状態変化をさせるという意味を表す点においては一致し、共通する部分があるため、本研究においてこれらの構文を扱うこととする。

5. 分析資料

本論で用いられる例文はベトナム語、日本語、英語のものがあり、小説からの実例、先行研究からの例、筆者の内省からの作例の三種類がある。論述をできるだけ簡潔にするのが本論の方針であるので、直接的に関係のない要素は省略した上で用いる場合もあることを付記しておく。

6. 論文の構成

本論は7章から構成され、各章は以下の通りとする。

序章では、研究の背景、目的、研究方法等について述べる。

第1章では、日本語、ベトナム語における使役構文についての先行研究に触れた上で、使役表現を再確認する。そして、ベトナム語において使役構文に最もよく使われている五つの使役動詞の用法を紹介する。

第2章では、自動詞、他動詞に関する日本語とベトナム語の違いについて触れる。ここで

は、日本語とベトナム語における自動詞・他動詞の違い、働きかけを表わす他動詞、働きかけと状態変化の結果を表わす他動詞、働きかけと位置の変化を表わす他動詞、「NP1 が NP2 を X」構文、そして、他動詞文の無生物主語について述べる。

第3章では、日本語における「させる」使役表現の特徴とベトナム語における *bắt*、*cho*、*đề*、*làm*、*khiến* の違いについて触れた上で、両言語における使役の相違点と類似点について考察する。「させる」と *bắt*、*cho*、*đề* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) の誘発、強制、許可、放任、責任の意味を持つ共通点を論証する。また、「させる」と *bắt*、*cho*、*đề* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) の違いでは、NP2 の状態変化の結果を含意するか否かや、使役者が有生物で被使役者が無生物の場合、特に被使役者 (NP2) が使役者 (NP1) の体の一部である場合などについて考察する。また、両言語における対応する他動詞のない自動詞の使役形、対応する他動詞がない絶対自動詞、そして使役者が無生物で、被使役者が有生物の場合などの相違点も証明する。

第4章では、ベトナム語における使役動詞とそれに対応する日本語の表現について述べる。ベトナム語における使役動詞では4つのグループに分ける。使役性が非常に高い(絶対的)グループ：*bắt buộc*「強引に従わせる」、*ép buộc*「強引に従わせる」、*ra lệnh*「命令を下す」等である。使役性がやや高いグループでは *bắt*「～させる」、*sai*「使いに出す」、*bảo/biểu*「言いつける」、*yêu cầu*「頼む」、使役性が中間レベルのグループでは *cho phép*「許可を出す」、*cho*「～させる／～与える」、*đề nghị*「請う」、*khuyên*「勧める」等である。そして、使役性が低いグループは *nhờ*「～てもらう」、*mời*「招く」、*xúi giục*「唆す」等で、使役性が非常に低いグループは *xin*「要請する」、*xin phép*「許可を求める」、*van*「切願する」等である。それぞれの動詞は陳述的用法としても遂行的用法としても使われる。それぞれの動詞は使われる用法によって、日本語の「～てください」、「～てもらう」、「～ように」等に対応することを示す。

第5章では、日本語における「～ようにいう」「～てもらう」構文に対応するベトナム語の表現について考察する。まず、「～てもらう」の文法的特徴、そして、「～てもらう」と「させる」の相違点について述べる。ベトナム語において「～てもらう」に対応するのは、一般的に *được*「(利益を)得る」であるが、他にも *nhờ*「頼む」、*yêu cầu*「要求する」、*đề nghị*「請う」、*đề/đề cho*「～させておく」、*mời*「誘う」等も「～てもらう」に対応するということを証明する。また、「～ようにいう」構文については命令の間接化の場合や NP2 の動作の実現

を含意しない場合に用いることを考察する。日本語の「させる」使役構文では、NP2の動作の実現を含意するものである。NP1の働きかけは終わったが、NP2の動作はまだ実現していないという場合には用いられない。このような場合は「～ようにいう」を用いることを述べる。

第6章では本論の見解をまとめた上、その展開の可能性と今後の課題を述べる。

第1章 先行研究と本研究の位置づけ

序章で日本語とベトナム語の使役の意味と形式、そして、それぞれの言語におけるいわゆる使役が相互に対応する場合と対応しない場合に簡単に触れた。本章では、日本語、ベトナム語における使役についての概念を紹介する。そして、それぞれの言語での使役はどのように扱われているのかについて概観し、本研究の位置づけを行う。さらに、ベトナム語における五つの真正使役動詞を紹介する。

1.1 日本語の使役に関する研究

1.1.1 阪田（1980）の主張

阪田（1980）「せる・させる」によって表される形式は、一般的に使役表現と呼ばれている。使役とは、本来、相手にある行為を命令または要求し、そうするようにし向ける意を表わすものであるが、「せる・させる」の用法はそれだけにはとどまらない。主格に立つ人が直接関わった結果だと捉えられる事象から、直接には関わっていないのに相手に何らかの結果をもたらしたと捉えられる事象まで広く及んでいると述べている。動作性の意味を有する動詞の中で、人が主格に立つ動詞の多くは使役の形式になりうる。一方、状態性の意味を表す「要る・見える・聞こえる・できる」や「可能動詞」などは使役の形式にならない。

阪田は使役を幾つかの段階に分けた。

a. 相手に命令または要求をし、相手はその命令や要求に応じた行動をするという関係にある事象を命令・要求をした側の視点から表現する。

(1) 私はいつも妹に部屋の掃除をさせている。

(2) 父親は子供を遣いに行かせた。

b. 相手に予測・期待通りの反応が現れることを意図して、ある行為を行い、意図通りの結果になるという意味を表している。

(3) 気まづくなつたので、面白いことを言ってみんなを笑わせた。

c. 元来当人の意志だけでは行い得ないことについて、ある人が許可を与えた結果、当人の意志通りにそれが実現される意味を表わす。「～てやる」などが添えられることが多くなる。

(4) 本人の希望を入れて、アメリカに留学させた。

d. 本来黙って見過ごす訳にはいかない相手の行動をあえて黙認したり、放任したりする意味を表す。「～ておく」が添えられることが多い。

(5) あの男、言わせておけば、きりが無い。

e. 自分自身したことが原因となって、そうなることを意図してはいなかったのに、ある事態（好ましくない）を引き起こす結果になるという意味を表している。「～てしまう」で文が結ばれることが多い。

(6) 朝寝坊をして、友達を1時間も待たせてしまった。

阪田は、日本語における使役文は一般的に有情物（意思・感情を有するもの）が主語に立つのが伝統であり、非情物が主語になるのは、明治以後、欧文の影響によって一般化したと指摘した。

(7) 博士の講演は多くの聴衆を感動させた。

(8) その事故は多くの人に原子力に対する不安を抱かせた。

これらのような例文は日常の話し言葉で耳にすることはまれである。

日本語では、このような文は因果関係を表わす使役構文である。日本語ではこのような表現より、原因を表わす格が「で」格を取るものがよく使われる。つまり、原因を表わす使役表現では、主語が無生物の場合、因果構文に置き換えることができる。この点に関しては第3章で言及する。

1.1.2 高見（2009）の主張

一方、高見（2009）は使役の意味を以下のように分けている。

a. 「強制」使役：

(9) 親は嫌がる子供に苦い薬を飲ませた。

b. 「説得」使役：

(10) 妻は、お酒は身体に悪いからと、夫に酒を止めさせた。

c. 「人間関係に基づく指示」使役：

(11) 母は、子供に夕飯前には遊びから帰らせた。

d. 「許容・放任」使役：

(12) 母親はレストランで子供に希望どおり、大好きなハンバーグを食べさせた。

e. 「原因」使役：

(13) 子供が誕生日に作ってくれた「腰もみ無料券」が、私をととても喜ばせた。

f. 「責任」使役：

(14) 社長は不景気で、会社を倒産させてしまった。

高見は細かく使役の意味を分類した。強制使役、説得使役、人間関係使役の例文から見ると、一般的に使役者は被使役者に言葉により指示・命令・要求などで働きかけ何かをさせる

意味を表す。これらの使役表現は誘発使役の特徴を持っている。この点については第3章で言及する。

また、高見は使役に語彙的使役と迂言的使役が存在すると主張した。その違いは以下のようである。

	形	意味
他動詞	語彙的使役	主張指示物が自らの意志や力で一方的に引き起こす事態を表す。
「一させる」(および「一さす」) 使役	迂言的使役	主張指示物が目的語指示物に指示等だけして、目的語指示物が自らの意志や力で引き起こす事態を表す。

高見によると無生物は自らの意志を持たず、そのため自らの意志で何らかのことは行わないので、他動詞の目的語としては用いられるが、「一さす／させる」使役の被使役者としては用いられないと述べている。

(15) a.皿を割る。[他動詞形]

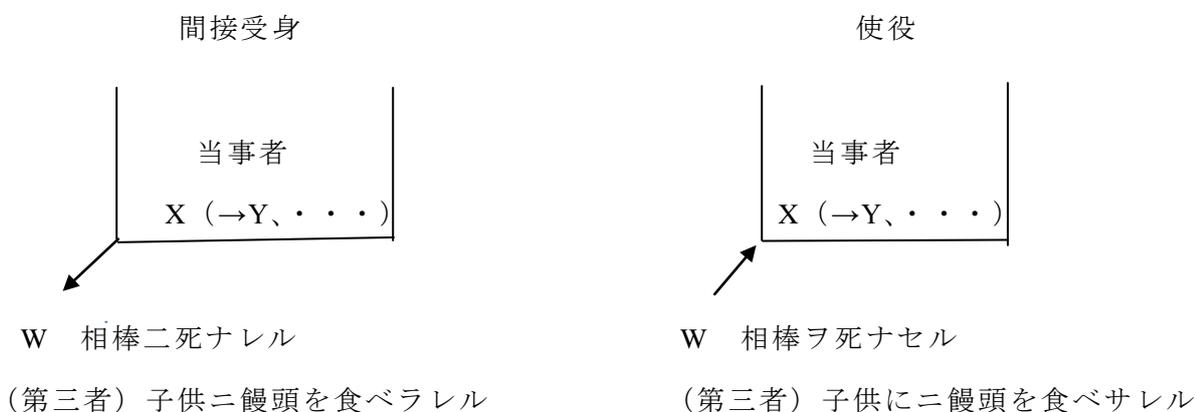
b.*皿を割れさす／割れさせる。[使役形]

1.1.3 寺村（1982）の主張

寺村（1982）は使役表現に関する様々な観点や議論を踏まえて、使役構文の成立事情と本質を次のように捉えている。

あるもの（X）の動作・作用が本人以外の存在（Y）を必要とするものであるか否かに関わりなく、ある事象が X を主役として描かれる場合、「X ガ（Y ヲ／ニ）～スル」という描き方になるが、その事象についての当事者でない、つまり第三者であるもの（W）が、新たに舞台の出来事と関わりをもつ者として登場し、それが主役としてはじめの事象がいわば描きなおされるとき、山田のいう「間接作用」の表現が生まれる。W がその事象の出来については全く関知せず、あるいは責任はなく、いわば天からふっておい

たようにそのできごとが起って、その結果が彼にふりかかる、という表現が間接受身の表現である。この意味で、使役表現は、247 ページで視覚化して見た間接受身の表現と、登場人物の役のふりかたにおいて性格を同じくするものと思われる。



W が、自分自身は事態の中の行為者ではないが、その事態の出来に「責任がある」というときの中味はいろいろある。(寺村：1982)

寺村によると、使役文の主体は「W ガ」であるが、その W が惹き起こした、ないしはその出来事に責任がある事態の中の主体 X がとる助動詞は「ニ」であったり「ヲ」であったりする。その動詞が自動詞であればどちらでもよく、他動詞であれば「ニ」をとるといわれている。また、一般的に「X ニ～させる」は任意・許容的、「X ヲ～サセル」は強制・命令的と言われる。いずれも間違いとはいえないが、大体の傾向がそうだと、という程度のことだと思おうと寺村は述べている。

寺村は使役表現の構文・意味特徴、述語動詞が使役態と呼ばれるための形態的特徴を次の形を示し、説明している。

W ガ X $\left[\begin{array}{l} \text{ヲ} \\ \text{ニ} \end{array} \right]$ (Y ニ・・・) V- $\left[\begin{array}{l} \text{aseru} \\ \text{sase} \end{array} \right]$ -ru $\left[\begin{array}{l} \text{短縮形 V-} \\ \left[\begin{array}{l} \text{as} \\ \text{sas} \end{array} \right] \text{-u} \end{array} \right]$

意味：「X が (Y ニ／ヲ・・・) V する」事態を、W が惹き起す、あるいはそれを妨げ得るのに妨げない、あるいはその発生に主観的に責任があると感じている。

寺村は使役を態の一つとして、「使役態」として取り上げる。自発態に連なるものとして自

動詞が続き、それに対応する他動詞、それに連なる使役態、また受身態などの態全体の体系の中で、使役の本質を考察した。しかし上記の図のように、寺村は間接受身と使役との関係を取り上げて説明してはいるが、使役と他動詞の関係については触れられておらず、この点がまだ十分に明らかにされていないと思われる。日本語には、使役形で表わすものの中にも実際には他動的な用法として捉えられるものもある。

1.1.4 柴谷（1978）の主張

柴谷（1978）は使役の意味について「誘発使役」と「許容使役」とに分け、それぞれ次のように規定している。

誘発使役状況とは、ある事象が使役の誘発がなければ起こらなかったが、使役の誘発があったために起こったという状況を指す。一方許容使役状況とは、ある事象が起こる状況にあって、許容者（使役者と形態的に同じ）はこれを妨ぐことができたのにそれが控えられ、その結果その事象が起こったという状況を指す。

日本語では（109・ア）に観察できるように、使役構文の補文が自動詞を含む場合は、動作主として働く被使役者を「に」でも「を」でも表わすことが出来る。また両方の形が誘発使役文としても許容使役文としても使うことが出来る。（柴谷 1978: 310）

なお、誘発使役における「を」使役文、「に」使役文の違いについては以下のように述べている。

誘発使役に於ける「を」使役と「に」使役の基本的な違いは、前者は被使役者の意志を無視した表現であるが、後者は使役者の意志を尊重した表現であるということである。

「を」使役文は、強制的に強いられた状況とか、使役者が直接手を下して物事を引き起こした場合とか、それに使役者が権威者である場合を典型的に表わす。一方、「に」使役文は、被使役者の意志を重んじ、使役者がそれにうって、物事を引き起こしたような状況を典型的に表わす。（柴谷 1978: 311）

許容使役における「を」使役文と「に」使役文の違いについては次のように説明している。

許容使役に於ける「を」使役文と「に」使役文の違いは主に許容の違いにある。許容には、承諾を与えて積極的に許すという場合と、積極的に承諾を与えないが、ある物事の発生・進行を妨げるのを控えるという消極的な許容がある。(柴谷 1978: 314)

使役を誘発使役と許容使役の二つに分けるこの分類は、使役における使役者の働き方の仕方を把握するのに妥当なものだと思われる。本研究は、この考え方に基づいて日本語とベトナム語における使役文を対照比較することを試みるが、ベトナム語の使役の分析には更なる細分類が必要となる。

1.1.5 仁田 (2009) の主張

仁田 (2009) は、一般的な使役は対応する能動文には含まれていない人や物を主語として、能動を表わす事態の成立に影響を与える主体として表現するとしている。

そして、使役のタイプについては使役者が間接的に事態の成立に関わるもの、直接的に関わるもの、事態の成立には積極的に関わらないものの三つのタイプがあると述べている。

使役者が間接的に事態の成立に関わる使役には、能動的使役文と受容的使役文がある。

(16) 警察官が男を止まらせた。(能動的使役文)

(17) 申請者を全員入国させた。(受容的使役文)

使役者が直接的に事態の成立に関わる使役には、原因的使役と能動的使役文がある。

(18) 鈴木の突然の訪問がみんなを驚かせた。(原因的使役文)

(19) 私は車を走らせた。(他動的使役)

使役者が事態の成立に積極的に関わらない使役文には、有責的使役文がある。

(20) 私は飼い犬を死なせた。(有責的使役構文)

「を」使役と「に」使役について仁田は、自動詞から作られた使役文は「を」格を取るも

のが多く、「を」使役は被使役者の意志に関わりなく動作を働きかけるのに対して、「に」使役は被使役者の意志を尊重して動作を働きかける場合に用いられる、さらに他動詞から作られた動詞は「に」格で表わされると主張した。

1.1.6 先行研究の概観

以上、日本語の使役を表わす「させる」について、いくつかの代表的な観点を紹介した。それぞれの観点からみると、使役文をめぐる問題は以下のようにまとめられる。

一つは使役文の分類である。「させる」使役文は色々な意味を持っている。その分類に関しては、先に見たように、同じではない。もう一つは「に」使役文と「を」使役文の区別にも違いがある。最後に、使役文には「他動詞文」「～てもらう」「～ようにいう」構文も関連していると考えられるが、先行研究ではそれらの関係について詳細に検討がなされていない。これらの構文はそれぞれ異なる構文であるが、ある使役の意味を持っている点で共通している。ベトナム語における使役文との対照比較によって、その共通点がより明確に現れる。

1.2 ベトナム語の使役に関する研究

ベトナム語における使役構文についてはまだ深く研究されていない。同じベトナム語の研究者でも、発話行為構文 (directive utterance) と使役構文(causative)の区別を明瞭に区別しない場合もある。ベトナム語の動詞、文の構造などの研究の中では、Nguyễn Kim Thán (1977), Nguyễn Thị Quy (1995), Diệp Quang Ban (2004)が使役構文について触れている。

1.2.1 Nguyễn Kim Thán の主張

Nguyễn Kim Thán (1977) はベトナム語における動詞を幾つかのグループに分けた。使役動詞グループはその中の一つのグループである。ベトナム語における使役動詞は使役者が活動をして被使役者に何かを促す、許可を出す、助ける、阻止する等を表わす。使役動詞の構文は「NP1 V1 NP2 V2」である。

使役動詞は通常二つの目的語を取る。第一の目的語 (NP2) は V1 の対象になり、必ず名詞である。言い換えれば、N2 は N1 の許可や助けを受けたり、促進されたりするか、あるいは N1 に妨げられる。第二の目的語は基本的に動詞 (V2) である。V2 は N2 の行為あるいは動作で、N1 の促進、許可、助けあるいは妨げたことの結果を表す。使役構文の中で V2 は時制またはヴォイスなどを表す機能語と結合できないため普通の動詞の役割を果たさず、述語動詞ではない。

使役動詞の中で、もっともよく使われる 4 つの使役動詞は *cho*、*đề* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) である。この四つの使役動詞は必ず V2 を取る。また、*cho*、*đề* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) は V2 の位置には動詞だけではなく、(1) のように形容詞でも可能である。

- (1) *Các anh đừng làm nhà tôi nó then*
 あなた方 ~しないで させる 妻 彼女 恥ずかしい
 (妻を恥ずかしくさせないで下さいよ。)

Nguyễn Kim Thản (1977) によると *cho*、*đề* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) は真正使役動詞で、フランス語における *faire*、*laisser* という使役動詞と非常に近いと述べた。*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) は動詞だけではなく形容詞と結合することも可能である。

「NP1 *khiến* NP2 V2」では、NP1 は無生物 (陳述名詞句を含める) でも有生物でも可能である。

- (2) *Ý kiến của anh khiến ai cũng sùng sốt*
 意見 の あなた させる だれでも びっくりする
 (直訳：あなたの意見は皆をびっくりさせた。)
 (あなたの意見を聞いて、皆はびっくりした。)

làm 使役構文では、有生物でも、無生物でも可能である。

- (3) Máy bay quân sự Nga rơi làm 9 người chết.
 飛行機 軍事 ロシア 落ちる させる 9人 死ぬ
 (ロシアの軍機が落ちて、9人を死なせた。)

一方、để と cho 使役構文では、NP1 は必ず有生物である。

- (4) Thầy u để cho con ở nhà chơi với em con.
 父母 させる 私 いる 家 遊ぶ と 妹 私
 (お父さん、お母さん、私を家にいさせて、妹と遊ばせてください。)

- (5) Tôi cho thư ký về sớm.
 私 させる 秘書 帰る 早く
 (私は秘書を早く帰らせた。)

また、Nguyễn Kim Thản も làm という使役動詞は、他の使役動詞より他動詞化の役割を持っていると述べている。このような場合では、làm 構文は「NP1 V NP2」である。以下の例文は使役動詞+V2 ではなく、一つの他動詞になるということである。

- (6) Mà y chỉ làm bận ông Chánh.
 お前 ただ させる 忙しい 長官様
 (お前は長官様を忙しくさせるだけですよ、(何も役に立たないよ。))

最後に Nguyễn Kim Thản は bắt buộc、buộc 「～させる」という使役動詞だけは受身の意味を表すと述べている。

- | | | | | | |
|-----|-----------|----------|------|----------|------------|
| (7) | Chúng tôi | bắt buộc | phải | tiếp tục | chiến đấu. |
| | 我々 | させる | ～べき | 続ける | 戦う |
- (我々は戦い続けなければならないようにさせられた。)

1.2.2 Nguyễn Thị Quy の主張

Nguyễn Thị Quy は使役動詞を用いる構文を発話行為構文と使役構文に区別した。発話行為構文には以下の文法的特徴が認められる。

発話行為構文の主な動詞は *mời* 「誘う」、*sai* 「命ずる」、*cho phép* 「許可する」、*thỉnh cầu* 「依頼する」、*ra lệnh cho* 「命令を下す」、*giục* 「促す」などである。

発話行為構文は「NP1 V1 NP2 V2 [+意志]」である。上に述べた動詞以外にも、いくつかの動詞が発話行為動詞の使役動詞として存在する。*báo* 「告げる」、*bắt* 「強制する」、*bắt buộc* 「強引に従わせる」、*buộc* 「強要する／～させる」、*cầu* 「祈願する」、*cầu xin* 「請願する」、*cử* 「指名する」、*đòi* 「強請る」、*nài* 「せがむ」、*nài nài* 「強請する」、*năn nỉ* 「頼む、願う」、*xin* 「願う、要請する」、*dặn* 「忠告する、勧告する」、*sai* 「～させる」、*nhờ* 「頼む」、*ra lệnh* 「命令を出す」、*khiến* 「～させる」、*yêu cầu* 「要求する」、*giục* 「促す」、*thúc giục* 「急かす／催促する」、*khuyên* 「勧める」、*cấm* 「禁じる」、*cho phép* 「許可する」、*cho* 「～させる」等である。

使役構文も構文的には発話行為構文と同様である。使役構文は以下のような構文である。使役構文の主な動詞は、*xô (ai) ngã* 「(誰か) を倒す」、*bẻ gãy (cái gì)* 「(何か) を折る」、*giết chết (con gì)* 「(誰か) を殺す」、*làm (cho ai) đau* 「(誰か) を痛がらせる」、*làm (cho cái gì) vỡ* 「(何か) を割る」、*buộc (ai) phải đi* 「(誰か) を行かせる」等である。

Nguyễn Thị Quy によると、発話行為構文と使役構文は構文的にかなり類似しているが（いずれも「NP1 V1 NP2 V2」構文である）、内容的には相違点があるので、構文上完全に一致するわけではない。以下は発話行為構文と使役構文の7つの相違点である。

	発話行為構文	使役構文						
1	<p>「NP1 V1 NP2 V2」構文は許すが</p> <p>「NP1 V1 V2 NP2」構文は不可能</p> <p>(8) a .Tôi sai con đi 私 命じる 子供 行く (私は子供が行くように命じた。)</p> <p>(8) b. * Tôi sai đi con 私 命令する 行く 子供</p>	<p>「NP1 V1 NP2 V2」構文も「NP1 V1 V2 NP2」 構文も許される。</p> <p>(9) a .Tôi làm bát vỡ 私 (する) お椀 割る (私はお椀を割った。)</p> <p>(9) b .Tôi làm vỡ bát 私 (する) 割るお椀 (私はお椀を割った。)</p>						
2	中心動詞 V1 は「言う」という意味を持つ。	中心動詞 V1 は他動性動詞で「言う」という意味を持たない。主には khiến (cho) (～させる)、làm (cho) (～させる)、bẻ (gãy) (折る)、đốt (cháy) (燃す)、đánh vỡ (割る) 等である。						
3	NP2 は NP1 からあることをするように仕向けられ、動作・作用を行うことができるのは有生物だけである。	NP2 は有生物でも、無生物でも容認できる。						
4	V2 は必ず [+意図的] 動詞である。	<p>V2 はどんな動詞でも容認できる。</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">有意志</td> <td style="padding: 0 10px;">又は</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">無意志</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">動的</td> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">状态的</td> </tr> </table>	有意志	又は	無意志	動的		状态的
有意志	又は	無意志						
動的		状态的						
5	発話行為構文では NP1 の行為は動作を行うことではなく、事柄の発言である。その発言の内容は NP2 が V2 を行うことである。その内容は実現したことではなく、NP1 が NP2 にしてもらったり、期待したりする	<p>使役者は（積極的な場合でも、消極的な場合でも良い）現実的な結果を引き起こす。</p> <p>V2 はその結果を表わす。chẳng, không, chả 「～ない」と結合して否定形を表わす。</p> <p>(11) a *Nam bẻ cái que gãy đôi, nhưng nó</p>						

	<p>こと等である。従って肯定の意味を表わす時、V2の前に hãy「～ください」、nên「～べき」を用いる。そして、否定の意味を表わす時には、chẳng、không、chả「～ない」ではなく、禁止の đừng、chớ「～しないでください」が V2 の前に来る。</p> <p>(10) a. Nam bảo em đi chợ nhưng nó không đi.</p> <p>(ナムは妹に市場に行くように言ったが、妹は行かなかった。)</p> <p>b. Nam bảo em đừng đi nhưng nó vẫn đi</p> <p>(ナムさんは弟に行かないように言ったが、それでも、弟は行ってしまった。)</p>	<p>không gãy</p> <p>(*ナムは串を半分に折ったが、串は折れなかった。)</p> <p>b. *Nam bẻ cái que không gãy nhưng nó vẫn gãy.</p> <p>(ナムさんは串を折れないように折ったが、どうしても串は折れてしまった。)</p>
6	<p>V1 は bắt「～させる」、ra lệnh「～命令を出す」の場合は NP2 と V2 の間に、phải「～なければならない」以外他の要素を入れることはできない。V1 は cho phép「許可を出す」の場合は được しか NP2 と V2 の間に入れることができない。</p>	<p>NP2 と V の間に否定の意味を表わす không「～ない」、chưa「まだ」又は対象を表わす cho「二格」を入れることが可能である。</p>
7	<p>V2 の主語は文全体の補語である。</p>	<p>使役構文では V2 の主体 (NP2) は V1 の主語になることが可能である。言い換えれば使役行為の主体になる。</p>

しかし Nguyễn Thị Quy によると、使役構文であるか発話行為構文であるかの区別がはっきりできない場合もある。場合によって両方とも理解できる場合もある。

(12) a. Họ đá con chó trẹo cả hông.
彼ら 蹴る 犬 脱臼する 程 腰

(12) a では以下の通り二つの意味に解釈できる。まずは「彼らは「犬が腰を脱臼する」まで犬を蹴った」の意味と、「彼らは犬を蹴ったため、自分が脱臼した」の意味である。

(12) b. Họ đá cái xe trẹo cả hông.
彼ら 蹴る 車 脱臼する 程 腰
(彼らは車を蹴って腰を脱臼した。)

(12) a では二つの意味に解釈できるのに対して、(12) b では「彼らは犬を蹴ったため、自分が脱臼した」の一つにしか解釈できない。

Nguyễn Thị Quy は英語の例文を取り上げて、ベトナム語と比較し、そして、発話行為構文と使役構文を区別している。

(13) a. I told him to go. → Tôi bảo nó đi.
b. I made him go. → Tôi làm cho nó đi.
c. I had him go. → Tôi làm cho nó đi. / Tôi bảo nó đi.

上の例文から見ると、(13) a は発話行為構文、(13) b は使役構文であるのに対して、(13) c は使役構文でも、発話行為構文でも捉えられる。(13) a では、go の前に to が必要であるのに対して、(13) b と (13) c は to を入れるのは不可能である。これは、使役構文と発話行為構文を区別する基準の一つである。

発話行為構文と使役構文を区別するため、Nguyễn Thị Quy は以下の例文を取り上げて、比較した。

(14) a. Tôi sai nó đi.
私 させる 彼 行く

(私は彼を行かせた。)

b. Tôi bảo nó đi.
私 言う 彼 行く

(私は彼に行くように言った。)

c. Tôi làm nó đi.
私 させる 彼 行く

(私は彼を行かせた。)

上の例文は同じ「私の働きかけで、彼が行く」事象を表わす。構文上ではほぼ同じであるが、それぞれの意味が異なる。それは、発話行為構文、あるいは使役構文かによって表している意味が異なる。(14) a と (14) b は発話行為構文であるのに対して、(14) c は使役構文である。以下にいくつか相違点を挙げる。

- ・ (14) a では、*ràng*、*là*「～と」を入れる事が不可能である。(14) b に *ràng*、*là*「～と」と入れても可能であるが、文全体の意味が変わる。*ràng*、*là*「～と」を入れると、(14) b は「私は彼が行くと言った。」という意味になる。
- ・ (14) a と (14) b の後に *nhưng nó chưa đi*「しかし、彼はまだ行っていない。」と *nhưng nó không đi*「しかし、彼は行かなかった。」という文を入れることが可能であるのに対して (14) c には入れる事が不可能である。
- ・ (14) a では *nó*「彼」と *đi*「行く」の間に (15) のように進行形を表わす *đang*「～ている」と過去形を表わす *đã*「～た」と未来形を表わす *sẽ* 等のモダリティを表わす言葉を入れることが許容できない。

(15) *Tôi sai nó đang / đã / sẽ đi
私 させる 彼 [進行形]/[過去形]/[未来形] 行く

- ・ (14) b では *nó* 「彼」と *đi* 「行く」の間に *đừng* 「～しないで」を入れることが可能である。一方、この現象は同じ発話行為構文 (14) a では、*đừng* 「～しないで」を入れることが不可能である。
- ・ (14) b では、モダリティあるいは否定を表わす言葉を *nó* 「彼」と *đi* 「行く」の間に入れると、この構文は発話行為構文ではなく、普通の陳述的構文になる。その時の *báo* は単に「言う」の意味を表す。そして、*rằng*、*là* 「～と」入れることが可能である。
- ・ (14) c では、*làm* (使役動詞) と *nó* (目的語) の間に *cho* を入れることが可能である。この現象は *làm*、*khiến* 使役構文ではよく見られる。(14) a、b では、この現象はない。上に述べた相違点から見ると、使役構文と発話行為構文は意味上だけではなく構文上でも異なると結論づけられる。

1.2.3 Diệp Quang Ban の主張

Diệp Quang Ban (2004)は、使役構文で用いられる述語動詞は使役的な動詞であり、文の主語は発動体（使役者）として、被使役者に命令や指示を出したり、何らかのことはするよう仕向けたりすることが可能であると述べている。目的語は使役行為や命令などを受ける対象で、同時に使役行為や命令の内容との関係では動作の主体であるという。

使役構文でよく用いられる使役動詞は *bắt ép* 「強制する」、*cho phép* 「許可する」、*đề nghị* 「請う」、*cấm* 「禁止する」、*giục* 「促す」、*khuyên* 「勧める」、*mời* 「招く」、*sai* 「命ずる／言いつける」、*xin* 「願う／要請する」、*yêu cầu* 「要求する」等である。

(16)	<i>Giám đốc</i>	<i>buộc</i>	<i>nó</i>	<i>ngừ</i>	<i>việc.</i>
	社長	させる	彼	辞める	仕事

(社長は彼に仕事を辞めさせた。)

例 (16) は以下のように分析される。

	Giám đốc 社長	buộc ～させる	Nó 彼	ng nghỉ việc 仕事を辞める
統語構造	主語	述語	目的語	補語
表現意味構造	発動体	働きかけ 仕向ける ⇒	目的体 動作主体	⇒事柄

使役構文では、描写的な要素や量を表わす要素がある場合、NP2 と V2 の位置を交換するのは可能である。(16)では以下の(17)のように NP2 と V2 を置き換えることが可能である。

- (17) Giám đốc buộc nghỉ việc người chưa thạo việc.
社長 させる 辞める 仕事 人 まだ 熟す 仕事
(社長は仕事に慣れない人を辞めさせた。)

上に述べた使役構文では、主語は発話者（つまり第一人称）そして発話する時に命令を出す場合、その使役構文は発話行為構文になると述べている。

- (18) Tôi mời em Giáp đọc bài.
私 請う ~さん Giáp 読む。
(Giáp さんに教科書の文を読んでもらいます。)

この文は、先生が教室で学生に教科書の文を読んでほしい時に直接学生に話す表現である。また、ある人がもう一人の人に何か頼むときにも以下のような表現を用いることができる。

- (19) Tôi không ép anh phải làm điều đó.
私 ない 強要する あなた しなければならない こと その
(私はあなたにそのことを強要しはしない。)

Diệp Quang Ban (2004)によると、ベトナム語では使役構文に非常に近い構文も存在する。それは NP1 が原因となって NP2 が生じるという原因結果を表す構文である。以下、これを因果関係構文と呼ぶ。この構文では主語は原因、述語は結果、両者は因果関係にあることを表す。

因果結果構文では必ず二つの出来事が表される。出来事①は原因を表し、出来事②は結果を表わす。この二つの出来事が因果関係を表わすためには、以下の条件を満たさなければならない

- ・ 原因を表す事態①は必ず結果を表す事態②より先に起きること。
- ・ 事態①は事態②が出現するまで効果があること。
- ・ 事態②が起こるのに、事態①は必要条件であること。
- ・ 事態②が起こるのに（具体的な場合）事態①十分条件であること。

原因を表わす主語は単一の名詞でも必ずある事態を表す、あるいは、主語自身が出来た事態である。もしくは間接的に事態を表す。次の例を見てみよう。

(20) a. Gió tắt đèn.

風 消す ランプ

(直訳：風はランプを消した。)

(風でライトが消えた。)

b. Giáp tắt đèn.

Giáp 消す ランプ

(Giáp はランプを消した。)

(20) a での「風」はただ「風」を意味する名詞ではなく、出来事（この場合は空気の動き）を表す。「風が吹く」という事態があるからこそ、「ランプが消える」という事態が引き起こされた。つまり、(20) a は因果関係構文と呼ぶことができる文である。

一方 (20) b では Giáp は事態を表すのではなく「ランプを消す」という行動を行う動作主

である。この構文は「Giápさんはランプを消した」という一つの事態しか表わさないの、原因関係とは言えない。

(20) b に làm 「～させる」を入れれば、因果関係を表す構文になる。

(20) c. Giáp làm tắt đèn.

Giáp させる 消す ライト

(Giápはライトを消えさせた。) 直訳

(Giápは電気を消した。)

(20) c では「Giápは何らかをした」、そして、「ランプが消えた」二つの出来事を表す。

Diệp Quang Ban (2004) によると、マークされる因果関係構文では、làm は間接的に NP2 に働きかけてある結果を引き起こすという役割を持つ。この làm は二つの目的語を必要とする。この定義から見ると、使役構文の定義に近い。しかし、使役構文との区別は因果関係構文では、làm、khiến などの使役動詞の後に cho 「与える」を取ることができるが、使役構文では使役的動詞 làm、khiến、buộc、bắt 等の後には、cho を取ることができない。

(21) a. Ông ấy bắt hai người kia nghỉ việc

彼 させる 二人 人 あの 辞める 仕事

(彼はあの二人に仕事を辞めさせた。)

b.*Ông ấy bắt cho hai người kia nghỉ việc

彼 させる 二人 人 あの 辞める 仕事

(彼はあの二人に仕事を辞めさせた。)

(21) b では動詞の後に cho が来ることが不可能なため、因果関係構文ではなく使役文だと Diệp Quang Ban は主張している。

また Diệp Quang Ban は (22)、(23) のような文も因果関係構文ではなく、他動詞文である

と述べた。

(22) Giáp uốn cong cây sắt.

Giáp 曲げる 曲がっている 鉄棒

(Giáp は鉄棒を曲げた。)

(23) Giáp bẻ gãy thanh gỗ.

Giáp 折る 折れている 木

(Giáp は木を折った。)

(22) では cây sắt「鉄棒」は uốn「曲げる」の目的語で、NP1 の uốn「曲げる」動作を受けて、結果は「曲がっている」状態になる。cong「曲がっている」は uốn「曲げる」の結果である。(23) も同様に giáp は uốn「折る」という動作を行って、その動作を受けた結果、木が折れたことを表わす。Diệp Quang Ban によると (22)、(23) は因果関係構文ではなく、他動詞構文であると主張する。

上の (22)、(23) は以下の (24)、(25) に置き換えることが出来る。

(24) Giáp uốn cây sắt cong.

Giáp 曲げる 鉄棒 曲がっている

(Giáp は鉄棒を曲げた。)

(25) Giáp bẻ thanh gỗ gãy.

Giáp 折る 木 折れている

(Giáp は木を折った。)

1.2.4 先行研究の問題点

以上、ベトナム語の使役について、いくつかの代表的な説を概観した。Nguyễn Kim Thán

はベトナム語における真正使役動詞について述べている。Nguyễn Thị Quy は発話行為構文と使役構文の区別を述べている。そして、Diệp Quang Ban は使役構文、因果関係構文、他動詞文などについて述べている。いずれにせよ、ベトナム語のいわゆる使役表現をめぐる問題は次のようにまとめられるだろう。

Nguyễn Kim Thán は、使役構文とは使役者の行為により被使役者に何かを促す、許可を出す、助ける、阻止する等を表わすという基本的な特徴を述べている。ベトナム語における使役動詞では、cho、đề、khiến (cho)、làm (cho) の 4 つの真正使役動詞がよく使われていると述べている。真正使役動詞と他の使役動詞を区別する根拠について Nguyễn Kim Thán は明確に述べていないが、cho、đề、khiến (cho)、làm (cho) は他の使役動詞より本動詞の意味が弱く、機能語としての役割が強く感じられるためではないかと思われる。khiến (cho)、làm (cho) は NP1 が NP2 に何らかの行為を行わせるのではなく、NP1 は原因で、NP2 は間接的に NP1 の行為を受けて、ある行為または状況に至る意味を表すのに対して、cho、đề は許可を出す、あるいは放任の意味を表す。これらが、日本語の「～させる」に対応する度合いが最も高い使役動詞であることは重要な示唆を与える。すなわち、これらが典型的な使役動詞であるということは日本語の使役構文との対照からも裏付けられるのである。また、Nguyễn Kim Thán は làm の用法についても他動詞化の役割と使役を表す役割があると論じた。しかし、1.3 節で見ると、使役は他動詞構文をプロトタイプとする連続的カテゴリであると考えられ、その一部を取り出して論じても、ベトナム語の使役構文とその周辺との関係を明らかにすることはできない。従って、Nguyễn Kim Thán の研究は、ベトナム語の使役の機能を十分に明らかにしたとは言えない。

Nguyễn Thị Quy はいわゆる使役構文を発話行為構文と使役構文に区別している。Nguyễn Thị Quy の発話行為構文と使役構文の 7 つの相違点に関しては以下のような問題点がある。

まず、第一の区別では発話行為構文は「NP1 V1 NP2 V2」という語順を許すが、「NP1 V1 V2 NP2」は不可能である。一方使役構文では「NP1 V1 NP2 V2」構文も、「NP1 V1 V2 NP2」構文も存在すると述べている。しかし、以下のような例文は Nguyễn Thị Quy の基準に合わない。

(26) a. Tôi làm anh ấy giận.

私 させる 彼 怒る

(私は彼を怒らせた。)

b. *Tôi làm giận anh ấy.

私 させる 怒る 彼

(私は彼を怒らせた。)

(27) a. Anh ấy làm mọi người cười.

彼 させる 皆 笑う

(彼は皆を笑わせた。)

b.*Anh ấy làm cười mọi người.

彼 させる 笑う 皆

(彼は皆を笑わせた。)

つまり、感情動詞の場合、NP2 と V2 の位置を交換できない場合があるのである。

次に第 2 の相違点では、発話行為構文では中心動詞 V1 は「言う」という意味を持つのに対して、使役構文では V1 は「言う」という意味を持たないと述べているが、発話行為構文の動詞リストの中では、「言う」の意味を表す動詞以外にも *khiến* 「～させる」、*bắt* 「～無理やりさせる」、*cưỡng bức* 「～強制する」、*cho* 「～させる／許可を出す」等の使役動詞を取り上げている。上に述べた動詞が「言う」の意味を含意するか否かは文脈に依存する。例えば *khiến* の場合は、NP1 は何らかのことを言い出して、その結果、NP2 はある行為を行うという解釈も可能であるが、NP1 は何も言わず、何らかの行為を行ったため、その結果、NP2 は V2 の行動を行うという解釈の仕方もある。しかも、NP1 が「何らかのことを言う」と言っても、直接 NP2 に命令等を出すことではない。

(28) Anh ấy khiến cô ta phải nói ra sự thật.
彼 させる 彼女 ~なければならない 言い出す 事実

(彼は彼女に事実を言わなければならないようにさせた／言わせた。)

(28) では彼は「事実を言いなさい」と言って彼女に事実を言わせたという解釈もあり得るし、彼は何も言わずに怖い顔をしただけで彼女がつい事実を言い出したという解釈もある。

さらに第3の相違点では、使役者は（積極的な場合でも、消極的な場合でも）現実的な結果を引き起こすと述べている（Nguyễn Thị Quy:1995）。

(29) Nam bẻ cái que gãy đôi, nhưng nó không gãy
ナム 折る 串 折れる 二つ でも 串 ない 折れる。

(*ナムは串を半分に折ったが、串は折れなかった。)

上の例文では、gãy đôi「二つに折れた」があるため非文であるが、gãy đôi「二つに折れた」を入れなければ(30)のように自然な文である。

(30) Nam bẻ cái que, nhưng nó không gãy
ナム 折る 串 でも 串 ない 折れる。

(ナムは串を半分に折ろうとしたが、折れなかった。)

bẻ「折る」だけでなく、giết「殺す」、đốt「燃やす」、xe「破る」、phá「壊す」等も同様である。

Nguyễn Thị Quy が取り上げた発話行為構文でも、使役構文でも主語がある行為を行った結果、何らかの事態が生じるという意味を表すと述べている。Nguyễn Thị Quy は発話行為構文と使役構文を区別する目的として、前者は主語による〈命令〉や〈許可〉という発話行為であり、その結果生じる事態は目的語が〈行為〉を遂行するものであるのに対し、後者は NP1

と NP2 とが密接に結びついて単一の事態を構成するものであることを挙げている。つまり NP1 が何らかの行為を行った結果、NP2 の状態か位置等を変化させる意味を表すという事実にある。

この指摘は、日本語との対照を行う上で有益なものと言える。Nguyễn Thị Quy の発話行為構文と使役構文の区別から見ると、発話行為構文は日本語の「~させる」を用いる使役構文と同様である。そのうち、「言う」という意味を持つ使役動詞の場合は日本語の「~ように言う」、「~てもらおう」に対応する。そして、「言う」の意味を持たない使役動詞は「~させる」に対応する。ここから、ベトナム語の使役構文は日本語の語彙使役構文に対応するという仮説をたてることができる。実際、3 章以下では、主に日本語における使役構文とベトナム語における発話行為構文と使役構文の相違点と類似点を検討していく。

Diệp Quang Ban は使役構文で用いられる述語動詞は使役的な動詞であり、使役者は被使役者に命令や指示を出したり、何らかの件事をするように仕向けたりすると述べている。Diệp Quang Ban の定義は使役文の基本的な特徴と一致する。また、使役構文に非常に近い原因結果構文も存在する。それは NP1 と NP2 の間で、NP1 が原因となって NP2 が生じるという原因結果を表す構文であると述べている。西村（1998）によると、X が原因となって Y が生じるのが因果関係であり、このような因果関係を表す構文を“causative”（「使役的」）または「使役構文」（causative construction）と呼ぶのが適切であろうと述べた。したがって、Diệp Quang Ban が述べている因果関係構文も使役構文と呼ぶことができると思われる。

以上のように、先行研究から見ると、ベトナム語における使役構文は Nguyễn Kim Thán、Nguyễn Thị Quy、Diệp Quang Ban が述べている使役構文以外に、Nguyễn Thị Quy が述べた発話行為構文と Diệp Quang Ban の因原因結果構文も含まれると思われる。

1.3 使役とは

これまで、日本語とベトナム語に関する従来 of 捉え方を概観したが、この節では、本研究の位置づけを試みる。日本語とベトナム語はそれぞれ膠着語と孤立語であり、言語形式が異

なる。意味の面においても様々な見方が可能である。日本語における使役構文では、語彙的使役表現以外には、「させる」を用いる迂言使役も存在するのに対して、孤立語であるベトナム語では日本語のような「～させる」形態素が存在せず、語彙的な使役しかない。そして、Nguyễn Kim Thản (1978) が述べているように、ベトナム語では使役表現を表すいくつかの真正使役動詞がある。ベトナム語では使役表現についての定義はまだ確立されておらず、1.2で述べたように研究者ごとに異なった構文が使役として扱われている。例えば、NP1がNP2に何かをするように直接に命令を出したり頼んだりする「発話行為構文」、NP1が何らかの働きかけでNP2がある状態、地位を変化させる「使役構文」、また、NP1が原因となって、NP2がある状態、位置などが変化する「原因結果構文」などである。従って、本研究では、使役についての通言語的な定義を確認し、ベトナム語の様々な使役表現の位置づけを行うことで研究対象を絞るとともに、日本語との使役表現の構文上、主に意味上の相違点と類似点を考察したい。

西村 (1998) によると、使役構文とは使役動詞を述語動詞とする（「使役」の意味が述語動詞によって表現される）構文である。西村は英語の **causation** の意味を含むと考えられる種類の動詞を使役動詞と呼んでいる。

- (1) a. Mary killed John.
b. 花子は太郎を殺した。

例文 (1) では、普通の解釈では、花子の行為の結果（太郎を銃で撃つ、刃物で刺すなどの行為）、太郎が死ぬという事態が生じる意味を表す。

英語の“causation”に「因果性」あるいは「因果関係」という意味がある。その因果関係を詳しく考えてみると、事態 X と事態 Y の間に、X が原因となって Y が生じるという因果関係が成立している。つまり、(1) では kill (殺す) は CAUSE TO DIE という意味を表す。

- (2) a. They made me repeat the whole story.
b. 彼らは私にその話を全部また繰り返させた。
- (3) a. Let me introduce myself.
b. 自己紹介させてください。

上の (2) (3) の例文において、英語では **make** と **let** という異なる使役動詞が使われているのに対し、日本語では同じ「させ」の形式が用いられている。ベトナム語は英語と同じく異なる動詞を用いる。すなわち、以下のように (4) の **bắt** 構文と (5) の **cho** 構文になる。

(4) Họ bắt tôi kể lại toàn bộ câu chuyện.

彼ら させる 私 繰り返す すべて 話

(彼らは私にその話を全部また繰り返させた。)

(5) Cho phép tôi tự giới thiệu.

させる 私 自己紹介する。

(自己紹介させてください。)

例 (4) の **bắt** 構文は NP1 が NP2 に働きかけ無理やり何らかのことをさせる意味を表す。そして例 (5) の **cho** 構文は許可を求める・許可を出す意味を表す。西村 (1998) は (2) や (3) の文も、何らかの因果関係 (この場合には、主語による命令や許可などが原因で補文の表す行為が結果) を表しているので、使役文と呼ぶことに問題はないと述べているが、その点では (4) や (5) のベトナム語の文も使役文と呼べるだろう。

そして、西村 (1998) は使役構文を表す因果関係の性質については以下のように述べている。

〈1〉原因は主語の行為であるが、〈2〉それがいかなる行動であるのかは明示されず、〈3〉結果の部分のみを取り出して、単独の文として表現できるということである。〈4〉主語が〈1〉の行為を行うのは、〈3〉の結果を生じさせるためである (換言すれば、この場合の因果関係は手段・目的関係でもあると述べている)。(西村 1998: 121)

この西村の観点から見ると、ベトナム語の他動詞文 (**Diệp Quang Ban** が使役構文と呼ぶもの)、NP1 が NP2 に命令・指示を出して何らかをさせる「発話行為」構文、そして、因果関係を表わす構文はすべて使役構文と呼ぶことは問題ではないだろう。使役構文の因果関係の性質について言えば、ベトナム語では、(6)、(7) のように「NP1 khiến NP2 V」の **khiến** 使役構文と「NP1 làm NP2 V」の **làm** 使役構文は主語の NP1 が原因で、後続に来る事象の NP2 が位置、状態などが変化する意味を表す。

(6) Anh ấy làm mọi thứ rối tung.
彼 させる すべて 混乱する

(彼はすべてのことを混乱させた。)

(7) Tiếng súng đã khiến cho mọi người hoảng sợ.
銃の音 [既然] させる 皆 怖がる

(銃の音は皆を怖がらせた。)

したがって、*khiến* と *làm* は原因的な使役表現であり、それは西村（1998）の因果関係の規定に当てはまっている。

日本語における使役構文も、仁田（2009）によると「因果的な使役文とはある事態が原因やきっかけとなって別の事態が引き起こされることを述べるもの」であるとされている。ある事象が起き、その事象が原因となって後続する事象が直接的に引き起こされた意味で、二つの事態は強い因果関係で結ばれている。因果的な使役文の主語には、事柄がくる場合と、人がくる場合とがあると述べている。つまり、日本語における使役構文でもベトナム語における使役構文でも原因的使役文が存在するという共通点がある。

また、使役構文のプロトタイプについて、西村（1998）は以下のように述べている。

- A. 行為者（人間）は行為対象に（位置、状態などにおける）何らかの変化を生じさせることを目標とする。
- B. 行為者は A の目標を達成するために、何らかの身体的な動作を行為対象に対して行う。
- C. 行為者はその身体的動作をコントロールしている（他者などに強制されているわけではない。）
- D. B の動作によって、行為者から行為対象にエネルギーが伝達された結果、後者に A の目標通りの変化が直ちに生じる。
- E. B の動作の実行およびその結果行為対象に生じる D の変化の主たる責任は行為者に帰せられる。（西村 1998 : 124）

すなわち、〈(使役) 行為者〉のプロトタイプは自らの力ないしエネルギーを、意図的にかつ自らの責任において用いることによって、〈対象〉の位置ないし状態に何らかの変化を生じ

させるという目標を達成する人間である。

このような使役構文のプロトタイプの定義から見た場合、ベトナム語における使役動詞を用いる使役構文がそれに該当する。

- (8) *Tên cướp* *đó* *đã* *giết chết* *Hanako.*
強盗 あの [既然] 殺す 花子
(あの強盗は花子を殺した。)

- (9) 太郎はパソコンを壊した。

上記の例文から見ると、ベトナム語の他動詞文の例(8)では行為者の NP1 が「銃で花子を撃つ」あるいは「刃物を使って花子を刺す」などの身体的動作を行う。その結果、NP2 がある状態(「花子が死んでいる」)に変化する。そして、例(9)では NP1 の太郎はある目標をもって NP2 に働きかけて、その結果、NP2 が「壊れている」という状態に変化する。つまり、日本語もベトナム語と同様で、使役文では行為者は行為対象に(位置、状態などにおける)何らかの変化を生じさせることを目標とする。

ベトナム語における *giết chết* 「殺す」、*đốt cháy* 「燃やす」、*di chuyển* 「動かす」、*xé rách* 「破る」、*phá hỏng* 「壊す」、*bẻ gãy* 「折る」等の使役動詞を用いる使役構文、そして日本語における他動詞構文はプロトタイプの使用構文の条件 A、B、C、D と一致する。ベトナム語では単独の他動詞は一般的に NP2 の位置、状態などを変化させることまで表わさず、NP1 の動作を表わすことが多いが、他動詞+自動詞から形成される複合動詞は NP1 の動作と同時に NP2 の位置、状態変化を表わす。一方日本語では、単独の他動詞のみでも、NP1 の動作、同時に NP2 の位置、状態変化も表わす。この点については日本語とベトナム語は異なる。すなわち、日本語では他動詞文はプロトタイプ使用の条件 D も満たすのに対して、ベトナム語における単独の他動詞文はこの条件を満たさない。この点については、第 2 章で詳述する。

次に日本語における「させる」表現とベトナム語における真正使役動詞を用いる構文について見てみる。

(10) 太郎は花子に服を洗わせた。

(11) Taro bắt Hanako giặt áo quần.
太郎 させる 花子 洗濯する 服

(太郎は花子に服を洗わせた。)

(12) 太郎は花子をびっくりさせた。

(13) Taro khiến/làm cho Hanako giật mình.
太郎 させる 花子 びっくりする

(太郎は花子をびっくりさせた。)

例(10)の日本語ではNP1の太郎がNP2に働きかけて、ある動作をさせる。NP1が動作を行うと同時にNP2の動作も実現されたという意味を表す。一方、例(11)のベトナム語では、NP1の働きかけを受けても、NP2が動作を行わない場合もある。例(12)(13)では両言語ともに、NP1の太郎の働きかけを受けて、NP2の花子がある状態に変化する。従って、日本語では「～させる」形態素を用いる表現もこのプロトタイプの条件A、B、C、Dを常に満たすのに対して、ベトナム語ではプロトタイプの条件A、B、Cは常に満たすが、条件Dを満たすかどうかは使われる使役動詞によって異なっている。

また、プロトタイプの使役では行為者が人間であるという条件について言えば、日本語の使役表現は確かにこの特徴を持っている。一方、ベトナム語では、人間だけではなく無生物でも使役構文の主語になることができる。しかし、無生物が使役文の主語になるのは、単独の他動詞ではなく「他動詞+自動詞」から作られた複合動詞の場合のみ用である。無生物が主語になる場合、NP1はNP2に直接ではなく、間接的に働きかける。この点は、ベトナム語がプロトタイプの使役からずれている点である。

上から見ると、日本語における使役文とベトナム語における使役文はそれぞれ、ある程度プロトタイプの使役構文の条件を満たす。しかしそれぞれの言語では、プロトタイプ使役からずれるところもある。

以下は日本語とベトナム語における他動詞文のまとめである。

		結果含意	無生物主語	直接働きかけ	意図性
日本語	他動詞「殺す」	○	×	○	○
ベトナム語	他動詞「giết」	×	×	○	○
	他動詞＋自動詞 「giết chết」	○	○	○ (無主：×)	○ (無主：×) ¹

上に述べたように、日本語とベトナム語はそれぞれ異なる言語形式であるものの、使役表現はプロトタイプの特徴を満たすので、本論文ではそれに基づいて、日本語そしてベトナム語における使役構文を対照比較し、相違点と類似点を抽出する。そして、両言語がプロトタイプの特徴からずれる部分もそれぞれ見ていくこととする。

その際に重要なのは、ここでは、Nguyễn Kim Thán (1977)、Nguyễn Thị Quy (1995)、Diệp Quang Ban (2004) によって定義された使役動詞を用いる構文、因果関係を表わす構文、発話行為構文を含んでいると考えている点である。これらの中には、確かに西村 (1998) が規定するプロトタイプからは外れているものもあるが、プロトタイプを規定する条件を少しずつ満たしながら連続的に並立している。本研究の目的の一つは、そのような連続性がどのように成り立っているのかを具体的な統語現象や意味解釈に基づいて明らかにすることである。

ベトナム語の使役表現に対してこのような見方を適用することで、日本語の使役表現についても従来以上に幅広く見なければならぬことが明らかになる。これまでの研究ではいわゆる語彙的使役と呼ばれる他動詞文、及び分析的使役と呼ばれる「させる」構文が取り上げられることが多かったが、それに関する「てもらう」構文や「～ようにいう」構文、「～ようにする」構文といったこれまであまり注目されなかった構文も対象となる。

1.4 ベトナム語における bắt、cho、đẽ、làm、khiến 使役文について

この節では bắt、cho、đẽ、làm (cho)、khiến (cho) の五つの形式について考察しようと思う。これらの動詞はベトナム語の使役を表わす形式としてよく取り上げられるものであり、また意味的にも構文的にも性質が異なる。しかしながら、前述の通り、その違いについては

¹ 無主：無生物主語

従来あまり一貫した議論がなされているとは言えない。それぞれの形式の特徴については、第2章以下で詳しく扱うが、本節では、**bắt**、**cho**、**đề**、**làm (cho)**、**khuyến (cho)** の違いについて簡単に紹介しておく。

1.4.1 **bắt** 使役構文

bắt は多義性の動詞で、本動詞としては「捕まえる」、「逮捕する」、「キャッチする」、「捕る」、「握る」、「強制する」などの意味を表わすが、ここでは使役動詞として使われる **bắt** について紹介する。

「NP1 **bắt** NP2 V」構文では、使役者の NP1 はある目的を達成するために被使役者の NP2 に働きかけ、その働きかけを受けた被使役者が自らの意思である行為を引き起こす意味を表す。そのため、**bắt** 構文では通常、使役者と被使役者が共に有生物でなければその意味は成り立たない。ただ、有生物と言っても、通常は使役者から被使役者に対する働きかけは言葉による指示が多いので、思考する能力や言葉を駆使する能力のない人間以外の有生物が **bắt** 使役構文の主語の位置に現れるには基本的に無理があると考えられる。

bắt 構文では、使役者は自分の意志で、強制的に被使役者にある行為をさせることが、被使役者の望み、気持ちに反するものであり、その働きかけを受け、やむを得ず、被使役者は使役者の要求どおりにある行為を行わなければならない。言いかえれば、被使役者が行うつもりがなかったり、行うのを嫌がっていた事象を、使役者が被使役者にそれをするように言ったり、命令したり、強制的にさせたことを表している。このように、**bắt** 使役構文は被使役者が行うことを望まない事象を、使役者が被使役者にそれを行うように言ったり命令したりして、無理やり引き起こす強制使役を表す。これを本研究では〈強制使役〉と呼ぶこととする。

- (1) Chuyện cũ mà bắt tui kể đi kể lại hoài.
 話 古い しかし させる 僕 繰り返す ずっと
 (古い話なのに何回も繰り返させるなんて)

(1) では、使役者が省略されているが、被使役者は自分が何回も話を繰り返させられたことに不満を持っている意味を表す。bắt 使役構文では、使役者と被使役者の関係は統制－被統制関係である。そして、V の位置に当たる動詞は通常、NP2 が自分でコントロールできる意思動詞、動態動詞である。mệt 「疲れる」、buồn 「悲しむ」、vui 「喜ぶ」、hung phấn 「興奮する」など形容詞的な動詞や静態動詞、感情動詞とは結合できない。また、(2) のように「苦しむ」という動詞は動作動詞ではない、つまり動作主が自分の意志で「苦しむ」か「苦しめない」ということを決めることができない動詞であるため、非文である。

- (2) *Tôi bắt cô ấy khổ
 私 させる 彼女 苦しむ
 (私は彼女を苦しませた。)

以上に考察した bắt 使役構文の用法をまとめておこう。

意味	使役者の役割	被使役者（被使役事象）の役割
意図的に強制使役	被使役者に対する、指示や命令などの言葉による強制的な働きかけ	被使役者が自ら動作を行うが、それは「仕方がないこと」である。

1.4.2 cho 使役構文

使役動詞としての役割を果たす cho は以下のような三つの意味を持っている。

1.4.2.1 社会慣習によって何らかの行為をさせる意味

ベトナム語では、程度の軽い使役を表す場合、**cho** を使う。使役者が被使役者に何らかのことをするように仕向ける。**cho** は **bắt** 程、無理やり、強制的な命令が含意されず、やや軽い使役構文である。あるいは、使役者が機械やものに力を入れ、あるいは何かに関与して、出来事を引き起こす。

- (3) **Chúng tôi sẽ cho người đến sửa ngay.**
私達 [未来] させる 人 来る 修理する すぐ
(すぐ係の者を修理に来させます。)

(3) では話し手が、自分の部下、会社の技術者、関係者などに修理に行かせるのであるが、夫婦、親子、会社の上司、部下など、その社会的な立場によってお互いに様々な事柄を指示したり、依頼したりできるという一定の社会慣習的な制御力を持っている。そして、「修理に行かせる」被使役者は、指示・依頼さえすればやってくれる。そして NP2 にとっては、行為を行うことによって自分には利益が発生したりを被害受けたりするわけではなく、頼まれたら行為を行うことになる。そこに責任があるため、あるいは、自分の業務として行為を行う意味を表す。

cho 使役構文では普通 NP1 は NP2 より社会的地位が高いので、NP2 が社長、親など、発話者より社会的地位が高い場合、**cho** 使役構文を用いることはできない。NP2 が NP1 より社会的地位が高い場合は、**nhờ** 使役構文を用いるのが一般的である。上に述べたように、会社の上司部下の間、親子間、夫婦間でよく使われるが、夫婦の場合では、**tôi sẽ cho vợ tôi** 「私は妻に～させる」というように夫が妻に何かをさせる表現のみが用いられる。それとは反対に、**tôi sẽ cho chồng tôi** 「私は主人に～させる」というように妻が夫に何かをさせる表現は不自然である。(3) では NP1 も NP2 も両方有生物である。一方 (4) のように、NP1 は有生物で NP2 は無生物の場合でも用いられる。

- (4) Giám đốc đã cho cuộc họp bắt đầu/kết thúc.
 社長 [既然] させる 会議 始まる/終わる
 (人事部部長は会議を始めた/終わった。)

(4) では NP2 の位置に来るのは人間ではなく「会議」であるので、NP1 と NP2 の関係も明白ではない。この文は使役者は被使役者に命令などして被使役事象を行うように強制するのではなく、使役者は何かを意図的に行い、被使役者に何らかの作用をもたらしたり状態を変化させたりするという意味を表す。

1.4.2.2 被使役者に何かをする機会を与える意味（「許可」の意味）

この意味では、使役者は被使役者の意志に従って許可を出すという意味を表す。つまり、被使役者には何らかの出来事を引き起こす願望があり、それに対して、使役者はその願望の実現に向けて許可を与えることを表す。この使役構文では、NP1 と NP2 の関係は統制と被統制の関係である。使役者は被使役者が主体となる出来事の発生に許可を与えるという形で積極的に関与する。

- (5) Con gái tôi thích Piano nên tôi đã cho con gái học
 娘 私 好き ピアノ だから 私 [既然] させる 娘 習う
 (娘はピアノが好きなので、私は彼女にピアノを習わせた。)

(5) では被使役者に「ピアノを習う」という願望があり、その実現に向けて支配的立場にある使役者が許可を与えることを表すので、「許可使役」と呼ぶ。この使役では、使役者と被使役者間の関係は統制と被統制関係である。一般的に、被使役者の願望の実現に向けて使役者が許可を与えるということは、利害授受的観点から言えば「好意」を表す。言いかえれば、この構文では NP2 にとっては利益を得られると捉えられやすい。

また、cho 使役構文では被使役者が望まなくても、使役者が善意で、被使役者にとって良いと考えられることに関して、被使役者に何らかのことをするチャンスを与える。または、「NP1 cho NP2 V」構文には、被使役者に『・・・してもよい』という恩恵／好意的な許可を与える」という用法がある。(19) では、花子は何も望んでいなかったが、花子の様子を見て太郎は彼女を休ませた、という解釈になる。

- (6) Thấy Hanako sắp kiệt sức, Taro đã cho cô ấy nghỉ ngơi.
 見える 花子 もう直 疲れ果てる 太郎 [既然] ～与える彼女 休む
 (疲れ果てた花子を見て、太郎は花子を休ませてあげた。)

1.4.2.3 何かをする機会を与えるよう求める意味（「許可」を求める意味）

ベトナム語では、許可を求める際に「(NP1) cho / cho phép NP2 V」構文を用いる。この構文では NP2 は発話者であると同時に動作主である。

- (7) Cụ cho phép cháu bày tỏ cùng cụ vài điều.
 お爺さん 許可する 私 話す 一緒 お爺さん いくつ こと
 (お爺さんといくつかお話したいことがあるんですが、話させていただけませんか、)
 (Khái Hưng- Nửa chừng xuân)

(7) では NP1 は NP2 に何らかのことをする許可を与える意味を表す。cho/ cho phép 使役構文では発話は使役者であるか、あるいは被使役者であるかによって許可を出す文なのか許可を求める文なのかが決まる。

「NP1 cho/ cho phép NP2 V」構文では発話者は NP1 であれば、許可を出す文であるのに対して、発話者は NP2 であれば、許可を求める文である。

(8) a. Hôm nay, tao cho chúng mày nghỉ sớm.
 今日 俺 させる お前たち 休む 早く
 (今日、お前たちを早く帰らせてやるよ。)

b. Hôm nay, anh cho chúng em nghỉ sớm nhé.
 今日 あなた させる 私たち 休む 早く ね
 (今日、早く帰らせて下さいね。)

(8) a は許可を出す表現であるが、発話者は使役者の NP1 である。一方、(8) b は許可を求める表現であるが、発話者は被使役者の NP2 である。

一方、許可を求める表現では、cho phép を用いると非常に礼儀正しい表現である。許可を求める人の謙虚な態度を表す。

(9) a. Anh cho em giải thích lý do.
 貴女 させる 私 説明する 理由
 (理由を説明させて下さい。)

b. Anh cho phép em được giải thích lý do.
 貴女 させる 私 できる 説明する 理由
 (理由を説明させていただきませんか。)

許可を求める cho 使役構文では許可を出す cho 使役構文と違って構文が二つしか存在しない。

以上考察した cho 使役構文の三つの用法をまとめておこう。

意味	使役者の役割	被使役者の役割
ある出来事に新たな使役者が関与して、その出来事を引き起こす。	社会習慣的な制御力による指示・依頼	抵抗なし
使役者が機械やものに力を入れ、あるいは何かに関与して、出来事を引き起こす。	直接操作を行って、機械を動かしたり、止めたりする。 あるいは、会議などを始めさせたり終わらせたりする。	機械、会議など
「許可」を出す	被使役者の願望の実現に向けて許可を与える。	願望、希望がある
	使役者は自分の善意で、被使役者にとって良いと考えて、被使役者に何らかのことはするチャンスを与える。	願望、希望がない
「許可」を求める	許可を出す。	願望、希望がある。許可を求める

1.4.3 de 使役構文

de の元々の意味は「置く」「置いてある」である。本節では、de 使役構文の二つの用法について考察してみよう。それは「放任」の用法と「承諾を得て何らかのことはする」という用法である。

1.4.3.1 「放任する」意味

この用法では、被使役者が自らの意思によってある行為を引き起こそうとしている、ある

いは引き起こしていることに対して、使役者が妨げようとするには、そうせずに成り行きに任せる意味を表す。この構文では NP1 と NP2 の関係は、cho 使役構文と同様に統制と被統制の関係である。被使役者が主体となる出来事の発生を妨げないで、成り行きに任せる形で消極的に関与する。この構文では NP1 も NP2 も通常有生物であるが、場合によって NP2 の位置に神様や無生物が来る場合もある。被使役者が人間の場合は、その人が望んだり意図したりしている事象を使役者が許容・許可したり、禁止しないことによってその事象が生じる場合に用いられる。この用法は cho 使役構文の用法と類似している。

- (10) Tôi đề con trai tự quyết định tương lai của mình.
私 させる 息子 自分 決める 将来 自分の
(私は子供に自分の将来を決めさせた。)

(10) では、被使役者である「息子」が自らの意思によって「自分の将来を決める」という行為を引き起こそうとしていることを、使役者である「私」が妨げようとするには、そうせずに息子に任せたことを表す。

「放任」の意味以外では、đề 使役構文は「放置」の意味も表す。この用法では使役者は NP2 が引き起こしていることを放置して、干渉しない。

- (11) Anh ấy đề cho cỏ mọc đầy vườn.
彼 させる 草 生える いっぱい 庭
(彼は庭に草をいっぱい生えさせておいた。)

(11) では被使役者が自然にそうなる現象に、使役者は干渉しない意味を表す。

đề 使役構文の NP2 が無生物の場合もある。

- (12) Cú để cho thời gian chữa lành vết thương lòng.
 そのまま させる 時間 直す 傷 心
 (時間が心の傷を癒してくれる。)

1.4.3.2 承諾を得て何かをする意味

「放任」の意味以外に、để 使役構文は以下のように、被使役者の NP2 が自分の行動について NP1 の承諾を得て実行する意味も表す。

- (13) Để tôi làm.
 させる 私 する
 (私をやらせてください。)

この場合、許可を表す構文ではなく、NP2 には自分で行為を行う権利がある。NP1 と NP2 の関係は NP2 が NP1 より社会的地位が高い、あるいは同等である。

以上考察した để 使役構文の二つの用法をまとめておこう。

意味	使役者の役割	被使役者の役割
許容、放任、放置	被使役者に対する言葉による命令、指示なく、被使役者の行動に無干渉する	希望、自然発生
承諾を得て何かをする (放流)	承諾をする。	承諾を得て、行為を行う。

1.4.4 khiến 使役構文

ベトナム語の辞書によると、**khiến** はある事象やモノなどの無生物が原因となって、人間の感情、あるいは心理的状态を変化させるという意味である。その本動詞の意味から派生された **khiến** 使役構文では、使役者が原因となって当該の事象が非意図的に引き起こされることを表す。

「NP1 **khiến** NP2 V2」構文では、NP1 は主にモノあるいは事象などの無性物である。**khiến** 使役構文は以下のように4つの用法に分けられる。

1.4.4.1 原因を表す場合

- (14) Anh ấy khiến cho tôi bị mất việc.
彼 させる 私 被る 失業する

(直訳：彼は私を失業させた。)

(彼のせいで私は失業した。)

(14) は、NP1 の出来事によって NP2 がある動作、作用を行ったことを表す。(14) の「彼」は一見人間であるように思えるが、実際には彼が無意識的に何らかをしたことによって、その結果、私は失業状態になったということである。このように、原因の存在が被使役事象を非意図的に引き起こしている。主語の使役者はすべて無生物であるため、これらが原因となって当該の被使役事象が生じていることは明らかである。

1.4.4.2 人間の心理的状态変化を表す場合

khiến 使役構文は NP1、そして NP1 が行った出来事が原因となって、NP2 の心理状態を変化させる意味を表す。

(15) Bệnh tình của mẹ khiến anh ấy lo lắng.
病状 の 母 させる 彼 心配する

(直訳：母の病状は彼を心配させた。)

(母の病状で彼は心配している。)

khiến 使役構文は、NP1 がしたことが原因で NP2 の心理的な状態変化を引き起こしたものと理解すべきである。そして、V に当る位置に来る動詞は、人間の心理状態を表す無意志動詞であり、感情動詞が多い。一般的に NP2 の意志でそのような作用を行うことは不可能である。V の位置に来る動詞に関しては、NP1 が NP2 に言葉によって働きかける指示、命令などは不可能である。通常 NP1 は何らかのことをして、あるいはしないことで、その結果、NP2 にある心理状態を変化させるという意味を表す。「母の病状」のコトが原因となって、「彼が心配している」という結果をもたらした。この種の使役構文は使役者はすべて無生物であるため、当然言葉による働きかけは不可能である。

khiến 使役構文の V の位置に来る動詞は普通、以下のような動詞である。

sợ 「怖がる」、lúng túng 「困る」、hốt hoảng 「焦る」、bực mình 「苛立つ」、giận 「怒る」、lo lắng 「心配する」、ganh tỵ 「羨ましい」、giật mình 「びっくりする」、khóc 「泣く」、cười 「笑う」、đau khổ 「悲しむ」、vui sướng 「喜ぶ」、an tâm 「安心する」、tuyệt vọng 「絶望する」、thất vọng 「がっかりする」、xấu hổ 「恥ずかしがる」、phân vân 「迷う」、thỏa mãn 「満足する」、bất mãn 「不満に思う」

また、khiến は形容詞と結合することが可能である。

1.4.4.3 使役者の責任を表す場合

khiến 使役構文は原因を表す意味の他に、使役者の「責任」も表す。この意味の用法では、普通発話者が使役者の立場に来る。

- (16) Tôi đã khiến cho các con tôi thất học rồi.
 私 [既然] ~させる 子ども 無教養 ~てしまう
 (私は子供を無教養にさせてしまった。)

(16) では、「子どもが無教養になった」ことに「私」がまったく関与していなくても、その出来事の発生に「私」に責任があることを表すことになる。その出来事の発生は話し手が望ましくない出来事として捉え、「残念な気持ち」を表す。発話者が使役者の立場の場合、使役者の責任を表す。つまり、使役者は出来事の発生に直接関与してはいないが、使役者の位置に据えることによって発生した出来事と関連付け、その出来事が使役者の位置にある人間の責任によることを表している。使役者は自分がその出来事の発生を防ぐ責任や義務があるのに、しなかったことでその出来事が発生してしまったため、それは自分の「責任」であるということになるのである。

1.4.4.4 使役者を非難する意味を表す場合

また、khiến 使役構文は「責任」の意味以外に「非難」の意味も表す。この構文では通常、NP2 は被害を受ける人間である。この意味の用法では、発話者が被使役者の立場に来ることが多い。つまり、発話者は被害者の立場で、使役者を非難する意味を表す。

- (17) An ninh lỏng lẻo của sân bay đã khiến cho máy bay bị cướp.
 セキュリティー甘い の 空港 [既然] ~させる 飛行機 ハイジャック
 (空港のセキュリティが甘かったので、ハイジャックされた。)

(17) において「飛行機がハイジャックされた」ということは「空港のセキュリティの甘さ」のせいであった。「責任」の意味と異なり、「非難」の意味では発話者は自分の力では出来事の発生を防ぐ責任と義務がない。それは「使役者」の防ぐ責任や義務だが、「使役者」が

それを怠ったことで、発話者がこのような被害を受けたという「非難」である。

khien 使役構文は使役者が被使役者に被使役事象を行うように言葉によって強制するのではなく、使役者の行為・存在・状態などが原因・きっかけとなって、非意図的に被使役事象を引き起こす場合にも用いられる。

以上考察した **khien** 使役構文の三つの用法をまとめておこう。

意味的	使役者の役割	被使役者の役割
非意図的強制使役	被使役者に被使役事象を行うように言葉によって強制するのではなく、使役者の行為、存在、状態などが原因、引き金となって非意図的に被使役者に何らかを引き起こす。	使役者が原因となり、被使役者が自発的に引き起こす動作。
人間の心理的状态変化を表す	使役者の行為、存在、状態などが原因、引き金となる。	被使役者の心理的状态が変化する。
使役者の責任を表す	発話者が同時に使役者である場合。 自分の行為、存在、状態などが原因となる	望ましくない出来事が発生する。
使役者を非難する意味を表す	使役者の行為、存在、状態などが原因となる。	望ましくない出来事が発生する。 発話者は被使役者の立場にいる。

1.4.5 làm 使役構文

làm はもともと「する」「作る」「働く」を意味する動詞で、使役を表わす形式としてよく使われる。元々直接目的語を取ることが可能であり、他の動態動詞とは結合できない。**làm**

使役構文では、使役者は有生物でも無生物でも可能であるが、有生物の方が比較的多い。Làm
には以下のような用法がある。

1.4.5.1 原因を表す

使役動詞の làm は上記で考察した khiến と用法が類似している。主語の使役者がある事象
やモノ等の無生物の場合に、それが原因となって当該の事象を生じさせることを表す。この
用法では、làm は khiến と置き換えることが可能である。

- (18) Chiến tranh đã làm (cho) gia đình chị ấy ly tán.
戦争 [過去] させる 家族 彼女 離散する
(直訳：戦争は彼女の家族を離散させた。)
(戦争で彼女の家族は離散してしまった。)

làm と khiến との重要な違いは、khiến 使役構文では基本的に使役者は無意図的に使役者に
働きかけて、被使役者はある作用を行うのに対して、làm 使役構文は使役者が非意図的な場
合もあるが、意図的な場合もありうる点である。使役動詞の làm は、使役者が意図的、ある
いは非意図的に被使役事象を強制的に引き起こす場合に用いられる。làm 動詞の動作主が人
間であり、意図を持って何らかをする場合、被使役者に当該の事象を行うように言ったり、
命令したりするものではない。

- (19) Tôi đã cố gắng làm cho cô ấy quên đi quá khứ của mình.
私 [既然] 努力 ~させる 彼女 忘れる 過去 の 自分
(私の努力で、彼女に自分の過去を忘れさせた。)

(19) では、彼女が自分の過去を忘れるように私が努力したことは使役者の意図性によって

できる出来事であるが、それは被使役者へのことばによる働きかけによるとは解釈できない。

1.4.5.2 人間の心理状態の変化を表す場合

làm 使役構文では *khiến* と同じように、人間の心理状態の変化を表す。

- (20) Anh ấy bỏ học làm cho bố mẹ thất vọng.
彼 学校を辞める される 両親 失望する。
(彼は学校を辞めて、両親をがっかりさせた。)

この用法として使われている làm 使役構文には、*khiến* と同様に、感情動詞や形容詞がよく V の位置に用いられる。

1.4.5.3 他動詞化自動詞の意味を表す場合

他の使役動詞と異なり、使役動詞の làm は自動詞、主に感情動詞や感覚動詞や状態動詞と結合して他動詞の意味を表す役割がある。

làm を感情動詞や感覚動詞や状態動詞の前に置くと、その感情や感覚や状態を引き起こす作用動詞になる。その場合は必ず直接目的語を取る。

- (21) Tôi làm vỡ kính cửa sổ.
私 割る ガラス 窓
(私は窓のガラスを割った。)

日本語では「割る／割れる」「汚れる／汚す」などの自動詞／他動詞が対応する動詞のペアが存在するが、ベトナム語の場合自動詞しかないので、làm を使って他動詞化させる。

「NP1 làm V NP2」構文では「NP1 làm NP2 V」構文のように NP2 と V の位置交換が可能である。しかし、すべての動詞で NP2 と V の位置交換が可能である訳ではない。vui mừng 「喜ぶ」、tức giận 「怒る」、đau buồn 「悲しむ」等の感情動詞は NP2 と V の位置を自由に交換することは不可能である。

また làm は、動態動詞でありながらも、時に意志が入らず自発的に表面化する動詞、即ち cười (笑う)、khóc (泣く) などとも結合できる。

以上考察した làm 使役構文の三つの用法をまとめておこう。

làm 使役構文	使役者	被使役者 (使役事象)
非意図的強制使役 あるいは意図的強制使役	被使役者に被使役事象を行うように言葉によって強制するのではなく、使役者の行為、存在、状態などが原因、引き金となって非意図的に被使役者に何かからを引き起こす。	使役者が原因となり、被使役者が自発的に引き起こす動作。
人間の心理的状态変化を表す	使役者の行為、存在、状態などが原因、引き金となる。	被使役者の心理的状态が変化する。
他動詞化自動詞の意味を表す		

ベトナム語の使役文に関して、本章で考察した事柄を以下に再録し、本章のまとめとしたい。

	bắt 使役構文	cho 使役構文	đề 使役構文	khiến 使役構文	làm 使役構文
構文	NP1 bắt NP2 V NP1 は有生物 NP2 は有生物 V は意志的動詞 感情動詞は不可	NP1 cho NP2 V NP1 は有生物 NP2 は有生物、無生物 (「機械」等比較的少ない) V は意志的動詞	NP1 đề (cho) NP2 V NP1 は有生物 NP2 は有生物 無生物 V は意志的動詞、無意志的動詞も対応できる。	NP1 khiến(cho)NP 2 V NP1 は無生物(モノあるいは事象等) NP2 は有生物、無生物 V2 は状態動詞、感情動詞	NP1 làm (cho) NP2 V NP1 は無生物(モノあるいは事象等) NP2 は有生物、無生物 V2 は状態動詞、感情動詞、対応する他動詞がない自動詞
意味	堅い文語表現である。使役者が被使役者に言葉によって指示、命令などを出して無理やり強制的に働きかけ、被使役者は自分の意志で事態を引き起こす。	・使役者があ る出来事に関 与して、その 出来事を引き 起こす。 ・被使役者に 何かの機会を 与える。(許可 を出す。) ・許可を求め る。	・妨げず、放任す る。 ・承諾を得て何か をする。	使役者の行為、存 在、状態などが原 因、引き金となっ て、被使役者に非 意図的に被使役 者事象を引き起 こす。あるいは、 被使役者の心理 状態を変化させ る。	・他動詞化する。 使役者の行為、存 在、状態などが原 因、引き金となっ て、被使役者に意 図的、あるいは非 意図的に被使役 者事象を引き起こ す。または、被使 役者の心理状態 を変化させる。

第2章 他動詞文の使役性

第1章で述べたように、日本語とベトナム語における動詞の他動詞性には相違点も類似点も存在する。その相違点は主に動詞の結果を含意するかしないか、動詞が意図性を持っているかないか、動詞が直接的あるいは間接的に目的語に働きかけるかという点である。本章では、日本語そしてベトナム語における他動詞文による使役表現をとりあげて、考察してみる。まず、他動詞文についてみてみよう。

2.1 自動詞、他動詞、使役形における日本語とベトナム語の違い

この節では自動詞、他動詞において、自動詞だけあって対応する他動詞がない場合、日本語、ベトナム語では、それぞれどのような形をとって他動詞の役割をさせるのかについて論じる。

2.1.1 日本語とベトナム語における自動詞と他動詞の違い

ベトナム語においては、自動詞、他動詞、及び使役形の間関係は日本語とかなり異なる。ベトナム語における自動詞と他動詞の区別においては客観的な基準が問題になる。ベトナム語では自動詞・他動詞の分類の仕方の一つとして、目的語を取るか取らないかによって自動詞・他動詞を分けるという方法がある。自動詞は目的語を取らないが他動詞は目的語を取る。例えば *cửa mở* 「ドアが開いている」、*anh ấy ngủ* 「彼は眠っている」は目的語を取らないため自動詞ということになる。そして、ベトナム語では、一般的に自動詞は受身文にもならない。一方、*tôi ăn cơm* 「私はご飯を食べる」、*Taro giết hổ* 「太郎は虎を殺した。」等では *ăn* 「食べる」、*giết* 「殺す」は *cơm* 「ご飯」、*hổ* 「虎」等の目的語を取ることができる他動詞である。そして、このような他動詞は受身文になることができる。

このような方法で自動詞・他動詞を分けることができるが、自動詞であるか、他動詞であるか区別できない場合もある。

- (1) a. Anh ấy khóc.
 彼 泣く
 (彼が泣く。)
- b. Anh ấy khóc mẹ.
 彼 泣く 母
 (直訳：*彼が母を泣く。)
 (彼が母のことで泣く。)

例 (1) a では *khóc* 「泣く」は目的語を取らないので自動詞であるが、(1) b では *mẹ* 「母」という目的語を取るため、他動詞としても解釈できる。また、以下のような動詞も目的語を取るか否かの基準で自動詞と他動詞の区別をするのは難しい。

- (2) Anh ấy ăn đũa.
 彼 食べる 箸
 (直訳：*彼は箸を食べる。)
 (彼は箸で食べる。)
- (3) Cô ấy ngủ giường.
 彼女 寝る ベッド
 (直訳：*彼女はベッドを寝る。)
 (彼女はベッドで寝る。)

例 (2)、(3) は見かけ上、*ăn* 「食べる」、*ngủ* 「寝る」は *đũa* 「箸」、*giường* 「ベッド」という目的語を取るようであるが、実際には、*đũa* 「箸」、*giường* 「ベッド」は目的語ではなく、動詞が表す動作を実現するための手段として捉えられる。このように、日本語では純粋な自動詞であるが、ベトナム語では場合によって自動詞としても他動詞としても使われる。また、道具が目的語の位置に来る場合もあるので、ベトナム語では、目的語があるか否かで自動詞か他動詞かの判断をすることは難しい。ベトナム語の動詞の性質を把握せずに、そのまま、日本語に置き換えると不自然になる可能性がある。したがって、ベトナム語のこのような現象を踏まえつつ、ベトナム語と日本語の自動詞・他動詞の異なる点を明らかにすることが必要であると考えられる。

日本語と異なり、ベトナム語の自動詞と他動詞は形式的に対応関係がない。ベトナム語においては、語順で自動詞か他動詞かを定めることができる。多くの場合、同じ動詞が自動詞としても他動詞としても用いられる。普通は「NP2 V」の語順の場合は自動詞であるのに対して、「NP1 V NP2」は他動詞である。

(4) **Buổi họp kết thúc.**

会議 終る

(会議が終わった。)

(5) **Kết thúc buổi họp.**

終える 会議

(会議を終えた。)

ベトナム語では、**mở**「開ける／開く」、**đóng**「閉める／閉まる」、**bắt đầu**「始める／始まる」、**kết thúc**「終える／終わる」、**thay đổi**「変える／変わる」、**dừng**「止める／止まる」、**tắt**「消す／消える」等は自動詞としても、他動詞としても用いられる。これらの動詞は日本語の自動詞にも他動詞にも対応していると言える。

ベトナム語の動詞が他動詞として用いられる場合、対応する日本語の他動詞と異なり、動作性に焦点が置かれ、動作の意図した目的は必ずしも達成されるとは限らない。

(6) a. **Tôi đã đốt rồi nhưng nó không cháy.**

私 [既然] 燃やす 完了 しかし 資料 ~ない 燃える

b.*私は資料を燃やしたが、まだ燃えなかった。

(7) a. **Nó bẻ rồi nhưng vẫn không gãy.**

彼 折る 完了 しかし まだ ~ない 折れる

b.*彼は折ったが、まだ折れないよ。

(8) a. **Taro đã cắt rồi mà sợi dây không đứt.**

太郎 [既然] 切る 完了 しかし 紐 ない 切れる

b.*太郎は紐を切ったが、紐はまだ切れていない。

例 (6) ~ (8) a は日本語に訳したら b のように非文になる。結果含意に関する両言語の違いについては、2.2 と 2.3 で詳しく議論する。

また、ベトナム語では、他動詞用法しかない動詞が、**bị/được** を付けると自動詞のように用いることができる。

(9) a. **Đội cứu hộ đã cứu người bị thương.**

救護班 [既然] 助ける 怪我した人

(救護班が怪我した人を助けた。)

b. **Người bị thương đã được cứu.**

怪我した人 [既然] 助かる

(怪我した人が助かった。)

(10) a. **Cảnh sát cuối cùng đã bắt được tên ăn trộm**

警察 ようやく [既然] 捕まえる [可能] 泥棒

(警察はようやく泥棒を捕まえた。)

b. **Anh ấy bị bắt vì lái xe trong tình trạng say xỉn.**

彼 捕まる 故 運転する で 状態 酔っ払い

(彼は酔っ払い運転で捕まった。)

(11) a. **Anh ấy đã sửa xe máy cho tôi.**

彼 [既然] 直す バイク くれる 私

(彼は私のバイクを直してくれた。)

b. **Xe máy của tôi đã được sửa.**

バイク の 私 [既然] 直る

(私のバイクが直った。)

上の例 (9)、(10)、(11) b は目的語の主題化、あるいは「受身文」として取ることもできる。

一方ベトナム語では、対応する他動詞がなく自動詞用法しかないものもある。これらの動詞は他動詞として使われる場合は、使役を表わす **làm** と結合する。例えば **vỡ** 「割れる」/ **làm vỡ** 「割る」、**rách** 「破れる」/ **làm rách** 「破る」、**bẩn** 「汚れる」/ **làm bẩn** 「汚す」、**roi** 「落ちる」/ **làm roi** 「落とす」、**hỏng** 「壊れる」/ **làm hỏng** 「壊す」である。

- (12) a. Cái váy mới mua bản mất rồi.
 スカート ~ばかり 買う 汚れる ~てしまう
 (買ったばかりのスカートが汚れてしまった。)
- b. Tôi làm bản cái váy mới mua mất rồi.
 私 汚す スカート ばかり 買う ~てしまう
 (私は買ったばかりのスカートを汚してしまった。)
- (13) a. Chiếc xe đạp của tôi hỏng mất rồi.
 自転車 の 私 壊れる ~てしまう
 (私の自転車が壊れてしまった。)
- b. Taro làm hỏng chiếc xe đạp của tôi mất rồi.
 太郎 壊す 自転車 の 私 ~てしまう
 (太郎は私の自転車を壊してしまった。)

例 (12)、(13) a は自動詞文であるが、例 (12)、(13) b のように làm を付けることによって、他動詞文になる。また、これらの構文は使役文として捉えることもでき、感情動詞の多くもこのグループの動詞に属する。例えば: giận 「怒る」、ngạc nhiên 「びっくりする」、vui mừng 「喜ぶ」、khóc 「泣く」、cười 「笑う」、đau khổ 「苦しむ」、thất vọng 「がっかりする」等も対応する他動詞がなく、làm と結合することで他動詞文になる。「làm+感情動詞」という表現は原因を表わす使役構文としても捉えることができる。対応する他動詞を持たない自動詞も感情動詞も làm と結合して、他動詞化、あるいは使役の意味を表すが、言葉による命令・指示の使役文を表わす bắt、cho などと結合することはできない。感情動詞は làm 以外に、原因を表わす使役動詞の khiến と結合することもできる。一方、感情動詞のうち、「泣く」と「笑う」は làm 以外にも、bắt、cho と結合できる。

ベトナム語における他動詞がない自動詞として、他にでも、đi 「行く」、đứng 「立つ」、ngồi 「座る」、chạy 「走る」、nhảy 「踊る」、sống 「住む」、say 「酔う」、về 「帰る」等も存在する。物の性質、状態また感情を表わす自動詞と違って、これらの動詞は人間の動作を表わす。これらは、絶対自動詞と呼ばれる類である。これらの動詞自体は動作を表わし、NP2 は自分の意思で動作を行う能力があるので、làm を付けて他動詞になるものではない。一方、これらの動詞の動作主は有生物であるため、言葉による指示・命令を表わす bắt、cho 使役動詞と結合することができる。

その他にも、**bắt**「無理やりさせる」、**cho**「～許可を出す」、**đề**「～させておく」などと結合してそれぞれ強制使役、許容使役、放任使役の意味を表す。この場合では NP2 は NP1 の動作の対象であると同時に、V の動作主である。

(14) Tôi bắt anh ấy đến.
私 させる 彼 来る
(私は彼を来させる。)

(15) Tôi cho anh ấy ngồi
私 させる 彼 座る
(私は彼を座らせてあげる。)

(16) Tôi để anh ấy đi.
私 させておく 彼 行く
(私は彼を行かせておいた。)

以下はベトナム語の自動詞、他動詞と使役動詞との結合のまとめである。

	bắt	cho	làm	khuyến
対応する他動詞がない自動詞	×	×	○	○
感情動詞	×	×	○	○
絶対自動詞	○	○	×	×

2.1.2 自動詞、他動詞、使役形における日本語とベトナム語の違い

日本語では「入る／入れる」、「降りる／降ろす」など形式的に対応する自動詞・他動詞のペアが多い。普通、自動詞は NP2 の動作、変化を表し、他動詞は NP1 の働きかけと同時に NP2 の変化を表す。他動詞文では、対象者をヲ格で表す「が、を」構文を取る。一方、自動詞に使役を表す「させる」形態素を結合して、使役文を作ることも可能である。使役文も NP1 が NP2 に働きかけて、NP2 が何らかの行為を行う、あるいは NP2 が変化することを表す。自動詞の使役文では、被使役者をヲ格で表す「が、を」文型を取る。この場合、三者の役割分

担がはっきりしている。

自動詞	他動詞	使役形
寝る	寝かす	寝させる
帰る	帰す	帰らせる
起きる	起こす	起きさせる
乗る	乗せる	乗らせる
降りる	降ろす	降りさせる
乾く	乾かす	乾かせる
減る	減らす	減らせる
漏る	漏らす	漏らせる
回る	回す	回らせる
立つ	立てる	立たせる
固まる	固める	固まらせる
上がる	上げる	上がらせる
逃げる	逃がす	逃げさせる
残る	残す	残らせる
入る	入れる	入らせる
止まる	止める	止まらせる

しかし、すべての自動詞において「させる」を付けることが可能というわけではない。青木（1995）では以下のような動詞は「させる」と結合することが不可能であると述べられている。

壊れる	壊す	×壊れさせる
建つ	建てる	×建たせる
なおる	なおす	×なおらせる

日本語では他動詞文を自動詞使役形文にすることができる。

- (17) a. 学生を集める。
 b. 学生を集まらせる。
- (18) a. 子供たちを早く帰す。
 b. 子供たちを早く帰らせる。
- (19) a. 途中で彼を降ろす。
 b. 途中で彼を降りさせる。

仁田（2009）によると、他動詞と自動詞使役形が類似した意味を表すのは、被使役者が意志的に行為を行う有生物である場合だけであり、被使役者が無生物の時は使役文が不自然である。

- (20) a. 道具を戻す
 b.*道具を戻らせる。
- (21) a. 命令を下す。
 b.*命令を下らせる。
- (22) a. 棒を立てる。
 b*棒を立たせる。

反対に、被使役者が有生物で、その意思を無視できない場合には他動詞文より使役文を用いる方が自然である。

- (23) a. ?先生が生徒たちを運動場に 1 列に並べた。（他動詞文）
 b. 先生が生徒たちを運動場に 1 列に並ばせた。（自動詞使役文）（仁田：2009）
- (24) a. ?先生は子供を立てた。
 b. 先生は子供を立たせた。

2.1.1 ではベトナム語では同一の形式の動詞が自動詞としても他動詞としても使われることが多いと述べたが、日本語の自他対応動詞との対照という観点からもう一つ大きなグループを成すのが、自動詞と他動詞が全く異なる形式を持つ場合である。つまり、形式ではなく

意味的に対応するペアも多い²。

(25) a. 太郎は棒を折った。

b. 棒が折れた。

(26) a. Taro bê cái cây.

太郎 折る 棒

b. Cái cây gãy.

棒 折れる

例(26)では日本語では「折る」と「折れる」という自他対応する動詞のペアに対してベトナム語では bê「折る」と gãy「折れる」という全く異なる動詞が対応する。

日本語と同様に自動詞は NP2 の動作、変化のみを表す。その対応する他動詞は NP1 の動作を表す。一方、自動詞に làm を付けて使役文を付けることも可能である。

自動詞	他動詞	使役形
chìm (沈む)	đìm (沈める)	làm chìm (沈ませる)
chết (死ぬ)	giết (殺す)	làm chết (死なせる)
gãy (折れる)	bẻ (折る)	làm gãy (折れさせる)
cháy (燃える)	đốt (燃やす)	làm cháy (燃えさせる)
rách (破れる)	xé (破る)	làm rách (破れさせる)
khô (乾く)	phơi (乾かす)	làm khô (乾けさせる)
rụng (抜ける)	nhô (抜く)	làm rụng (抜かせる)
tróc (剥げる)	bóc (剥ぐ)	làm tróc (剥げさせる)
thức dậy (起きる)	đánh thức (起こす)	làm~thức dậy (起きさせる)
đứt (切れる)	cắt (切る)	làm đứt (切れさせる)
nát (砕ける)	nghiền nát (砕く)	làm nát (砕けさせる)

日本語では NP2 が無生物か有生物かによって使役形が対応するか否かが決まる。すなわち、

² ベトナム語には、自動詞・他動詞の対応という概念はない。それぞれの動詞は、お互いに関連はなく、独立に存在する。ここでは、日本語との翻訳上の対応に基づいて、便宜的に自動詞・他動詞の対応するペアと呼ぶことにする。

NP2 が有生物の場合使役形を用いることが可能で、無生物の場合は不可能になるのである。それに対してベトナム語における使役形の成立条件は、NP2 がどうであるかよりも NP1 が意識的か無意識的かで決まる。他動詞の場合は NP1 が意図的に NP2 に働きかけ、何らかの変化を発生させる。つまり、NP2 は NP1 の対象者であり、NP1 と NP2 の間に直接的な出来事が生じるという意味をあらわす。一方、自動詞に *làm* を付ける構文では NP1 は意図的ではなく、NP1 が原因で NP2 は何らかの動作、あるいは状態変化を引き起こすという意味を表す。

(27) a. *Sợi dây phơi áo quần đứt mất rồi.*
 紐 干す 服 切れる ~てしまう
 (服を干すための紐が切れてしまった。)

b. *Tôi đã cắt sợi dây phơi áo quần.*
 彼 [既然] 切る 紐 干す 服
 (彼は服を干すための紐を切った。)

c. *Tôi làm đứt sợi dây phơi áo quần mất rồi.*
 私 させる 切れる 紐 干す 服 ~てしまう
 (私は不注意で服を干すための紐を切れさせてしまった。)

(28) a. *Con mèo chết.*
 猫 死ぬ
 (猫が死んだ。)

b. *Taro đã giết con mèo của Hanako.*
 太郎 [既然] 殺す 猫 の 花子
 (太郎は花子の猫を殺した。)

c. *Taro đã vô tình làm chết con mèo của Hanako.*
 太郎 [既然] 無注意で させる 死ぬ 猫 の 花子
 (太郎は不注意で花子の猫を死なせてしまった。)

(29) a. *Nhà bảo tàng (bị) cháy.*
 博物館 燃える
 (博物館が燃えている。)

b. Họ đã đốt cháy nhà bảo tàng.
 彼ら [既然] 燃やす 博物館

(彼らは博物館を燃やした。)

c. Tia lửa hàn đã làm cháy nhà bảo tàng.
 火花 溶接 [既然] させる 燃える 博物館

(直訳：溶接の火花が博物館を燃えさせた。)

(溶接の火花で博物館が燃えてしまった。)

例 (28)、(28)、(29) a は、それぞれ自動詞文である。例 (28)、(28)、(29) b では、主語が主に有生物で、意識をもって NP2 に何らか動作、作用を与える。つまり、NP1 の行動は意図性が高い。特定の場合に限って無生物が他動詞の主語になる場合もあるが、そのときの無生物主語は擬人化されたものとして捉えられる。一方 (28)、(28)、(29) c では、NP1 は無生物でも有生物でも生起できる。しかし、NP1 は無意識に NP2 に作用、動作を与えて、NP2 に何らかの状態変化を引き起こさせる。NP1 は間接的に NP2 に働きかけて、NP2 がある作用を行わせる、あるいはある状態を変化させる意味を表す。làm+自動詞、つまり、自動詞使役形では原因となる NP1 の行動は非意図的である。

2.2 働きかけを表す他動詞

他動詞は普通、動作主の働きかけと働きかけを受けた対象者の状態変化を表すとされる傾向があるが、実際には、すべての他動詞が働きかけと状態変化を表すわけではない。そして、それぞれの言語においてどの動詞がどちらを表すかは異なっている。日本語では、他動詞は働きかけと同時に状態変化の結果も表わすが、ベトナム語における他動詞は、単純に動作を表す動詞もあれば動作と同時に結果を表す動詞も存在する。ベトナム語は日本語より、他動詞が NP1 の働きかけと NP2 の状態変化を表す動詞が多い。

日本語においては、他動詞が NP1 の働きかけのみに言及し、NP2 の状態変化については全く触れない動詞には以下のようなものがある。

触る	殴る	蹴る	引っ張る	こする	なでる
押す	いじる	握る	うつ	嘔む	抑える
読む	聞く	叩く	招く		

- (1) 太郎は音楽を聞いた。
(2) 太郎は次郎を殴った。

例 (1)、(2) では、「聞く」「殴る」は動作主の太郎と動作の対象「花子」「次郎」を同時に示すが、NP1 の NP2 に対する働きかけ、つまり NP1 の動作のみを表すものであり、NP2 の状態変化には言及していない。従って、以下のような文でも許容できる。

- (3) 太郎は花子を結婚式に招いたが、彼女は来なかった。
(4) 私はドアを力一杯押したがびくともしなかった。
(5) 私はあの男と結婚しないようにと娘を説得したが、聞いてくれなかった。

一方ベトナム語では、上に述べた動詞に対応する動詞以外にも、NP1 の働きかけのみ表す他動詞が非常に多い。ベトナム語における他動詞は一般的に、動作のみを表す。同じような意味を表す動詞でも、日本語では状態変化も表すのに対して、ベトナム語では状態変化を表さないことが多い。ベトナム語では、NP1 の働きかけのみ表す動詞は、単純な一つの単語である場合が多い。

- (6) a. Taro đã giết con hổ, nhưng nó không chết.
太郎 [既然] 殺す 虎 しかし 虎 ~ない 死ぬ
b. (直訳：*太郎は虎を殺したが、虎は死ななかった。)
c. 太郎は虎を殺そうとしたが、虎は死ななかった。
- (7) a. Tôi đã cắt miếng da này, nhưng nó không đứt.
私 [既然] 切る 革 この しかし 革 ~ない 切れる
b. (直訳：*私はこの革を切ったが、切れなかった。)
c. 私はこの革を切ろうとしたが、切れなかった。

(8) a. Tôi đã xé áo của Taro nhưng nó không rách.
私 [已然] 破る シャツ の 太郎 しかし シャツ ~ない 破れる

b. (直訳：*私は太郎のシャツを破ったが、破れなかった。)

c. 私は太郎のシャツを破ろうとしたが、破れなかった。

(9) a. Tôi đã bẻ cây sắt này nhưng nó không gãy.
私 [已然] 折る 鉄棒 この しかし 鉄棒 ~ない 折れる

b. (直訳：*私はこの鉄棒を折ったが、折れなかった。)

c. 私は鉄棒を折ろうとしたが、折れなかった。

例(6)～(9) aでは、ベトナム語における giết「殺す」、cắt「切る」、xé「破る」、bẻ「折る」という動詞はそれぞれ働きかけという行為のみを表し、状態変化の結果を含意しない。一方、これらの動詞は日本語では、NP2の状態変化に言及する。従って、(6)～(9) bはすべて非文になる。上の例文はいずれも「完了」の意味を表す rồi を用いるが、rồi はその働きの結果を含意せずに、ただ動作の完了の意味を表す。

しかし、状態変化の結果を表す語を働きかけ動詞の直後に入れると状態変化の結果も含意されることになるため、文の後節で否定すると以下のように非文になる。

(10) *Tôi cắt đứt miếng da này rồi, nhưng không đứt.
私 切る 切れる 革 この [完了] しかし ~ない 切れる

(11) *Tôi xé rách áo của Taro rồi nhưng không rách.
私 破る 破れる シャツ の 太郎 [完了] しかし ~ない 破れる

(12) *Tôi bẻ gãy cây sắt này rồi nhưng không gãy.
私 折る 折れる 鉄棒 この [完了] しかし ~ない 折れる

このような場合、rồi は状態変化の結果が完了した意味を表す。

一方、2.1.1 節で言及した語順で自・他動詞が決まる動詞は、他動詞の場合動作しか表さず、自動詞の場合状態変化の結果しか表さないものもある。例えば、tắt (đèn) 「(電気を) 消す」 / (đèn) tắt 「(電気が) 消える」、mở (cửa) 「(ドアを) 開ける」 / (cửa) mở 「(ドアが) 開く」、lăn (hòn đá) 「(石を) 転がす」 / (hòn đá) lăn 「(石が) 転がる」などである。これらの動詞は他動詞として使われる場合、状態変化の結果を含意しない。

- (13) Tôi đã mở cửa rồi, nhưng vẫn không mở được
私 [既然] 開ける ドア 完了 しかし まだ ~ない 開く できる
(*私はドアを開けたが、開けることができなかったなかつた。)

例(16)では普通、後の節に không được「できない」を用いて否定文を表すものが多い。このような場合、không được「できない」は動作主の能力を表すものである。動作主が実際の行為を行ったが、動作主の力では思い通りの結果が実現できないという意味を表す。

2.3 働きかけと状態変化の結果を表す他動詞

2.3.1 日本語の場合

ベトナム語では、自動詞が NP2 の状態変化のみを表し、他動詞は NP1 の働きかけ、つまり NP1 の動作を表すことが多い。そして、NP1 の働きかけと同時に NP2 の状態変化を表す動詞は通常動作を表す他動詞と状態変化の自動詞の結合から形成される。それに対して、日本語では一つの他動詞でも NP1 の働きかけと NP2 の状態変化を表す動詞の数が比較的多い。この種の動詞の代表的なものとして以下のような例がある。

壊す 破る 殺す 倒す 落とす 折る 切る 曲げる 弱める 開ける 回す
潰す 漏らす 乾かす 燃やす 消す 汚す 直す 冷やす 緩める 動かす

これらの動詞は動作と共に意図された結果の達成をも示すので以下の例文は不自然な文である。

- (1) *太郎は次郎を殺したが、次郎は死ななかつた。
- (2) *パソコンを壊したが、壊れなかつた。

働きかけと状態変化の結果を表す動詞について、宮島(1985)は次の3つのグループに分けて、それぞれのグループの特徴を述べている。

- (A) 基本的に結果を表す動詞
- (B) 基本的には、動作・作用を表す動詞
- (C) 結果の段階に問題のある動詞

(B) (C) の動詞は直接に関係しないので、この節では詳述しない。(A) グループの動詞は主に対象に働きかけて、それを変化させる動作・作用を表す他動詞である。

例えば「開ける」という動詞は、NP1 はドアのノブを握り、回し、手前に引くという動作を表し、又同時に、その結果としてのドアの状態変化をも表す。つまり、「開ける」は「あけた」ことと「あいた」ことを表すということである。したがって、以下のような例文は矛盾した表現である。

- (3) 開けたが、開かなかった。
- (4) 入れたが、入らなかった。
- (5) 落としたが、落ちなかった。

しかし一定の条件のもとでは、もっぱら働きかけの段階に重点がおかれて、このような表現も不自然ではなくなる。宮島はアンケートを行って、文脈また動詞によって結果性の程度を確かめている。

- (6) 太郎は次郎を殺したが、次郎は死ななかった。
- (7) 荷物を箱に入れたけれど、入らなかった。
- (8) 着物を乾かしたが乾かなかった。
- (9) 木の枝を燃やしたが、燃えなかった。

調査によると、例 (6) の「殺す」という動詞は最も結果性がはっきりしている。そして、例 (7) の「入れる」という動詞は「殺す」より自然だとするものの比率がずっと高い。一方、(8) の「乾かす」(9) の「燃やす」は「殺す」「入れる」より、自然だとする比率がずっと高くなっている。

また宮島は、同じ動詞でも「一生懸命」という副詞を入れることによって、文の許容度が異なると主張した。

- (10) a. 柿の実を落としたけれど、落ちなかった。
 b. 一生懸命、柿の実を落としたけど、落ちなかった。
- (11) a. がけを登ったけど、登れなかった。
 b. 一生懸命、がけに登ったけど、登れなかった。
- (12) a. ドアを開けたけれど、開かなかった。
 b. 一生懸命ドアを開けたけれど、開かなかった。

例(10)、(11)、(12) a では、許容度が低いですが、b のように、「一生懸命」を入れると許容度がずっと高くなる。「一生懸命」努力するということは動作の結果よりもある時間持続する動作そのものにかかる。つまり、これらの文では結果よりも動作そのものに焦点が当てられることになるということである。

宮島の調査から見ると、同じグループに属する動詞でも動詞によって結果性が異なるということが明らかになった。

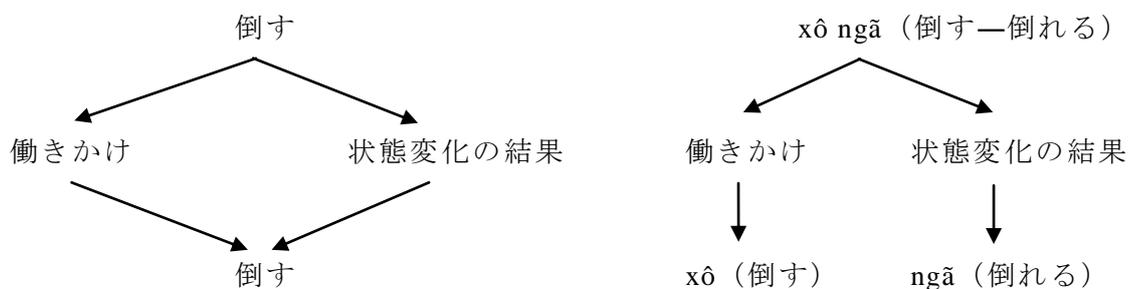
2.3.2 ベトナム語の場合

2.3.2.1 動作を表わす他動詞と結果を表わす自動詞の結合現象

日本語では、他動詞は働きかけと同時に状態変化の結果も表わすが、ベトナム語における他動詞は、単純に動作を表す動詞もあれば、動作と同時に結果を表す動詞も存在する。前者は単純な一つの単語であるのに対して、後者は二つの単語からなっており、前の単語が働きかけを示し、後ろの単語は状態変化の結果を示す複合動詞として捉えられる。下の左側のような動詞は動作のみ表すのに対して、右側の動詞は動作を表す他動詞と状態変化の結果を表す自動詞である。日本語の働きかけと状態変化を同時に表している一つの他動詞はベトナム語の二つの動作を表す他動詞と状態変化の結果を表す自動詞から出来た他動詞と対応する。例えば、日本語の「壊す」に対するベトナム語は *phá* 「壊す」と *hông* 「壊れる」が結合した *phá hông* である。日本語の「燃やす」に対するベトナム語は *đốt* 「燃やす」と *cháy* 「燃える」が結合した *đốt cháy* 等である。

動作	動作	結果	結果	動作+結果	動作+結果
phá	(壊す)	hỏng	(壊れる)	phá hỏng	(壊す+壊れる)
đốt	(燃やす)	cháy	(燃える)	đốt cháy	(燃やす+燃える)
giết	(殺す)	chết	(死ぬ)	giết chết	(殺す+死ぬ)
bẻ	(折る)	gãy	(折れる)	bẻ gãy	(折る+折れる)
đập	(潰す)	nát	(潰れる)	đập nát	(潰す+潰れる)
thối	(消す)	tắt	(消える)	thối tắt	(消す+消える)
xô	(倒す)	ngã	(倒れる)	xô ngã	(倒す+倒れる)
cắt	(切る)	đứt	(切れる)	cắt đứt	(切る+切れる)
xé	(破る)	rách	(破れる)	xé rách	(破る+破れる)
chữa	(治す)	khỏi	(治る)	chữa khỏi	(治す+治る)
phơi	(干す)	khô	(乾く)	phơi khô	(干す+乾く)
sấy	(乾かす)	khô	(乾く)	sấy khô	(乾かす+乾く)
tìm	(見つける)	thấy	(見つかる)	tìm thấy	(見つける+見つかる)
nghiền	(砕く)	nát	(砕ける)	nghiền nát	(砕く+砕ける)
đánh	(戦う)	thắng	(勝つ)	đánh thắng	(戦う+勝つ)
đun	(沸かす)	sôi	(湧く)	đun sôi	(沸かす+湧く)
uốn	(曲げる)	cong	(曲がる)	uốn cong	(曲げる+曲がる)

日本語とベトナム語の違いは簡単に以下のような図表でまとめることができる。



日本語の場合では一語であるため分離することは不可能なのに対して、ベトナム語では役割が異なる二つの単語から成る。

上に述べた複合動詞は一旦完了の形で用いると、働きかけのみならずその結果も含意する。

そのため、結果への否定はできないことになる。すなわち、以下のような例文はすべて非文である。

- (1) *Taro đã giết chết Hanako nhưng Hanako không chết.
 太郎 [既然] 殺す 花子 しかし 花子 ~ない 死ぬ
 (*太郎は花子を殺したが、花子は死ななかった。)
- (2) *Taro đã đốt cháy nhà nhưng nó không cháy.
 太郎 [既然] 燃やす 家 しかし 家 ~ない 燃える
 (*太郎は家を燃やしたが、家が燃えなかった。)
- (3) *Hanako đã xé rách cái váy nhưng nó không rách.
 花子 [既然] 破る スカート しかし スカート ~ない 破れる
 (*花子はスカートを破ったが、スカートは破れなかった。)
- (4) *Hanako đã thổi tắt cây nến nhưng nó không tắt.
 花子 [既然] 消す 蠟燭 しかし 蠟燭 ~ない 消える
 (*花子は蠟燭を消したが、蠟燭は消えなかった。)
- (5) *Hanako đã chữa khỏi bệnh cảm cho con nhưng nó vẫn chưa khỏi.
 花子 [既然] 治す 風邪 ~あげる 子供 しかし
 子供 まだ ~ない 治る
 (*花子は子供の風邪を治したが、子供はまだ治らなかった。)

上記の例文はベトナムでも、日本語でもいずれも不自然である。Nguyễn Thị Quy (1995)によると、上に述べたこれらの動詞を用いる文では、動作主が行った行為は消極的にしろ積極的にしろ、必ずある結果を引き起こす。前の動詞は働きかけを表すのに対して、後ろの動詞はその状態変化の結果を表す。従って、上の例文は後の節で、状態変化が起こらないと非文になると述べている。

ベトナム語では、働きかけ動詞と状態変化の結果を表す動詞は元々関係のない二つの動詞である。両者は常に一緒に用いられなければならないことはない。働きかけを表す動詞は単独で動作を表す他動詞として使われている。その働きかけの結果を表したい場合、結果を表す動詞と結合する。一方、後ろの状態変化の結果を表す動詞も単独で自動詞として使われて

いる。その結果を生じさせる原因を表したい場合、働きかけを表す他動詞と結合する。二つの動詞の関係は制限されていない。状態変化の結果を表す後の動詞は、意味が許容できる限り様々な他動詞と結合できる。例えば *chết* 「死ぬ」は *đâm chết* 「刺す＋死ぬ」、*dẫm chết* 「踏む＋死ぬ」、*bắn chết* 「撃つ＋死ぬ」、*đụng chết* 「ぶつかる＋死ぬ」、*dìm chết* 「沈める＋死ぬ」、*cán chết* 「軋く＋死ぬ」、*đá chết* 「蹴る＋死ぬ」、*đánh chết* 「打つ＋死ぬ」、*chém chết* 「斬る＋死ぬ」、*cắn chết* 「噛む＋死ぬ」等、死に至らしめる様々な方法を表す他動詞と結合することができる。また、*đứt* 「切れる」も様々な他動詞と結合することができる。例えば、*cắt đứt* 「切る＋切れる」、*cắn đứt* 「噛む＋切れる」、*giật đứt* 「引っ張る＋切れる」のように様々な方法で「切れる」状態を表すことができる。結果は同じ状態を表すが、働きかけ動詞が異なると、働きかけの手段も違って来る。以下の例文は結果として NP2 が死んでいる状態を表すが、その働きかけ方が異なることによって、文の意味も異なっている。

(6) *Cảnh sát đã bắn chết tên sát nhân.*
警察 [既然] 撃つ 死ぬ 殺人犯

(警察は殺人犯を撃って、死なせた。＝警察は犯人を撃ち殺した。)

(7) *Taro đã đánh chết con chó.*
太郎 [既然] 殴る 死ぬ 犬

(太郎は犬を殴って、死なせた。＝太郎は犬を殴り殺した。)

(8) *Taro vô ý dẫm chết con kiến.*
太郎 無意識 踏む 死ぬ 蟻

(太郎は無意識に蟻を踏んで死なせた。)

(9) *Tên cướp đã dìm chết đứa trẻ.*
強盗 [既然] 沈める 死ぬ 子供

(強盗は子供を水に沈めて死なせた。)

(10) *Quân Mỹ đã chém chết nhiều người dân vô tội.*
アメリカ軍 [既然] 斬る 死ぬ 多く 人民 無罪

(アメリカ軍は罪のない多くの人民の首を斬って、死なせた。＝アメリカ軍は罪のない多くの人民の首を斬って殺した。)

(11) Trong một phút nóng giận, anh ấy đã đâm chết người.
 中 一瞬 怒る 彼 [既然] 刺す 死ぬ 人

(怒った瞬間、彼は人を刺して死なせた。＝怒った瞬間、彼は人を刺し殺した。)

例(6)～(11)の *bắn chết* 「撃つ＋死ぬ」、*đánh chết* 「打つ＋死ぬ」、*dẫm chết* 「踏む＋死ぬ」、*dìm chết* 「沈める＋死ぬ」、*chém chết* 「斬る＋死ぬ」、*đâm chết* 「刺す＋死ぬ」はすべて、NP1がある働きかけをしてNP2を死なせたという意味を表すが、その働きかけの動作、方法は異なる。*bắn chết* 「撃つ＋死ぬ」は銃で相手を撃って死なせる。*đánh chết* 「打つ＋死ぬ」という動詞は、動作主が自分の手で相手を打って死なせる。*dẫm chết* 「踏む＋死ぬ」は死ぬまで足で踏む。*dìm chết* 「沈める＋死ぬ」は水の中に入れて、呼吸ができないようにして死なせる。*chém chết* 「斬る＋死ぬ」は刃物などを使って、相手の首を斬って死なせる。そして、*đâm chết* 「刺す＋死ぬ」は包丁など、尖っているものを使って、相手を刺して、死なせる等の意味を表す。上の例文からみると、「撃つ」、「打つ」、「踏む」、「沈める」、「斬る」、「刺す」は死ぬまでの結果を引き起こすかどうかは言及していない。日本語でもそれぞれの働きかけ動詞はベトナム語と同様で、結果を含意しない。これらの動詞は働きかけしか表さない。従って、「死ぬ」という状態を表したい場合には、ベトナム語では働きかけ動詞に状態変化の結果を表す動詞を結びつけることによって働きかけと状態変化の結果を表すことが可能であるのに対して、日本語ではベトナム語と同じように表現することは不可能である。そのような場合には、連続した二つの動詞を用いる。(6)～(11)まででは、「撃って、死なせる」、「犬を打って、死なせる」、「踏んで死なせる」、「斬って、死なせる」、「刺して死なせる」等、「～V、～V」の形がよく取られる。このような構文では前者が後者の原因で、後者は前者の結果であるということになる。NP1の働きかけを表し、それから「自動詞＋させる」でその結果を表すという方法をとる。

日本語にも、「刺し殺す」、「撃ち殺す」、「押し殺す」、「噛み殺す」、「斬り殺す」、「蹴殺す」、「絞め殺す」、「叩き殺す」、「突き殺す」、「殴り殺す」、「押し倒す」、「蹴倒す」、「殴り倒す」、「引きずり倒す」などの複合動詞が存在し、これらの動詞も「刺す」＋「殺す」、「撃つ」＋「殺す」、「押す」＋「殺す」、「押す」＋「倒す」、「蹴る」＋「倒す」等、二つの単語からなるものである。一見これらの動詞はベトナム語の働きかけと状態変化の結果を表す動詞に似ているように思われるが、ベトナム語では前の語は働きかけを表す他動詞で、後の語は状態変化の結果を表す自動詞であるのに対して、日本語における複合動詞は前の語と後の語はい

ずれも他動詞である点が異なる。どちらの動詞も NP1 が NP2 に対して働きかける意味を持ち、前の働きかけを表す動詞は後ろの働きかけ動詞の方法になっている。ベトナム語と異なり、前者が原因を表し後者が結果を表すという形にはなっていない。一方、働きかけ他動詞は、意味が許容できる限り、様々な状態変化の結果を表わす自動詞と結合することも可能である。例えば、*xé đút* 「千切る＋切れる」、*xé rách* 「千切る＋破れる」、*xé nát* 「千切る＋砕ける」、*xé vụn* 「千切る＋粉々になる」、*bẻ cong* 「折る＋曲がる」、*bẻ gãy* 「折る＋折れる」、*dẫm nát* 「踏む＋砕ける」、*dẫm chết* 「踏む＋死ぬ」、*phá hỏng* 「ぶち壊す」、*phá nát* 「粉碎する」、*phá hủy* 「打ち壊す」等である。このような動詞は働きかけについては同様であるが、状態の変化の結果が異なるため文全体の意味も違ってくる。日本語は、ベトナム語のように働きかけと状態変化の結果を表すものが結合することはできない。例 (12) ～ (15) も前者が後者の原因で、後者は前者の結果であるということになる。しかし、(6) ～ (11) では働きかけの方法が中心になるのに対して、例 (12) ～ (15) では結果状態の区別が中心になる。

(12) Taro đã xé rách cái túi.

太郎 [既然] 千切る 破れる 袋

(太郎は袋を破れるまで、ズタズタに千切った。)

(13) Hanako đã xé đứt cái khăn tay.

花子 [既然] 千切る 切れる ハンカチ

(花子はハンカチをいくつにも千切った。)

(14) Những lời nói của cô ấy đã xé nát trái tim tôi.

言葉 の 彼女 [既然] 千切る 砕ける 心 私

(彼女の言葉で私の心が引き裂かれた。)

(15) Hanako đã xé vụn bức thư

花子 [既然] 千切る 粉々 手紙

(花子は手紙を粉々に千切った。)

また、ベトナム語では働きかけ動詞は状態変化の結果を表す動詞と結びついて、働きかけと状態変化の結果を表すのに対して、日本語では動詞一つだけを用いることによっても表現可能である。

- (16) Taro đã uốn cong thanh sắt.
 太郎 [既然] 曲げる 曲がる 鉄棒
 (太郎は鉄棒を曲げた。)
- (17) Người cha đã bẻ gãy bó đũa.
 父親 [既然] 折る 折れる 束 箸
 (父親は箸束を折った。)

上に見たように、日本語では一つの動詞でベトナム語の働きかけと状態変化の結果を表すペアに完全に対応する。「曲げる」は「bẻ cong」と対応し、「折る」は「bẻ gãy」と対応する。これらの動詞は働きかけと状態変化の結果を含意するからである。

2.3.2.2 VP 連続現象

ベトナム語では NP1 が NP2 に働きかけ、NP2 が何かをする場合、bắt 使役動詞を付けて使役文を表わす。例 (18)、(19)、(20) のように日本語に訳すと「させる」が現れる。

- (18) Tôi kéo anh ấy bắt anh ấy ngồi xuống ghé
 私 引っ張る 彼 させる 彼 座る 椅子
 (私は彼を引っ張って、椅子に座らせた。)
- (19) Tôi kéo anh ấy bắt anh ấy về
 私 引っ張る 彼 させる 彼 帰る
 (私は彼を引っ張って、帰らせた。)
- (20) Tôi kéo anh ấy bắt anh ấy đi
 私 引っ張る 彼 させる 彼 行く
 (私は彼を引っ張って、行かせた。)

一方、ベトナム語は、例 (18)、(19)、(20) のように bắt を削除することもできる。」

(21) Tôi kéo anh ấy ngồi xuống ghế.
私 引っ張る 彼 座る 椅子

(私は彼を引っ張り椅子に座らせた。)

(22) Tôi kéo anh ấy về.
私 引っ張る 彼 帰る

(私は彼を引っ張り帰らせた。)

(23) Tôi kéo anh ấy đi.
私 引っ張る 彼 行く

(私は彼を引っ張り、行かせた。)

例 (21)、(22)、(23) では NP2 の「彼」 NP1 の目的語、同時に直後に来る V2 の主語である。つまり、(21)、(22)、(23) では NP1 の「私」は「彼」を引っ張るという動作を行って、そして「彼」が座るという動作を行った意味を表す。このような現象はベトナム語によく見られる。ここでは、これを「VP 連続」と呼ぶことにする。一方、日本語ではベトナム語におけるこのような現象はない。このような場合、日本語では V2 に「させる」を付ける。日本語で V2 に「させる」をつけなければならないのは、V1 と V2 が合わせて一つの事象を表す場合に、それらの主語が一致していなければならないからである。

2.3.2.3 働きかけと状態変化の結果を表わす漢語動詞

ベトナム語では、漢語からできた二つの漢語動詞は、日本語と同様に働きかけと状態変化の結果を同時に表す。例えば以下の動詞である。

tăng cường (増強する)	khuyếch đại (拡大する)
khuyếch trương (拡張する)	tiêu diệt (消滅する)
cải thiện (改善する)	cải chính (改正する)
cải tiến (改進する)	phá hoại (破壊する)
phá hủy (破壊する)	hủy diệt (壊滅する)
gia tăng (増加する)	giảm thiểu (減少する)
đính chính (訂正する)	triệt tiêu (撤去する)

上のような動詞は元々漢語起源のもので、左側は働きかけ、右側は状態変化の結果を表わすにもかかわらず、左側は結果を表わす語だと見なされていない。両者は完全に一つの動詞になっていて形態的に分離できないものであるからである。以下のような (24)、(25) は非文である。

(24) *Chúng tôi đã tăng thêm nhiều nhân viên bảo vệ,
 我々 [既然] [増] より 多く 警備員
 nhưng chưa cường được.
 しかし まだ [強] できる。

(25) *Chúng tôi đã khuyếch quy mô nhưng chưa đại được.
 我々 [既然] [拡] 規模 しかし まだ [大] できる

tăng cường 「増強」、khuyếch đại 「拡大」の間に言葉を入れるのは不可能である。

また、動作主が行為を行ったもののまだ実現できない場合は、以下のようになるが、これらの動詞は働きかけと状態変化の結果を表わすため不自然となる。

(26) *Chúng tôi đã cải thiện đời sống nhân viên rồi,
 我々 [既然] 改善する 生活 社員 完了
 nhưng vẫn chưa cải thiện được.
 しかし まだ 改善する できる

(*社員の生活を改善したが、まだ改善できていない。)

(27) *Chúng tôi đã đính chính rồi nhưng vẫn chưa
 我々 [既然] 訂正する 完了 しかし まだ
 đính chính được.
 訂正する できる

(*我々は訂正したが、まだ訂正できていない。)

例 (26)、(27) は正しく伝えるなら、日本語と同様に định 「～ようとする」を入れる必要がある。

(28) Chúng tôi đã định cải thiện đời sống
 我々 [既然] ~ようとする 改善する 生活
 nhân viên rồi, nhưng vẫn chưa cải thiện được.
 社員 完了 しかし まだ 改善する できる
 (社員の生活を改善しようとしたが、まだ改善できていない。)

(29) Chúng tôi đã định đính chính rồi nhưng vẫn chưa
 我々 [既然] ~ようとする 訂正する 完了 しかし まだ
 đính chính được.
 訂正する できる
 (我々は訂正しようとしたが、まだ訂正できていない。)

2.4 NP1 の働きかけと NP2 の位置の変化を表す他動詞

前節では、他動詞の NP1 の働きかけと NP2 の状態変化を表わす動詞について考察した。この節では、NP1 の働きかけと NP2 の移動の意味を表す動詞を考察してみよう。

- (1) 太郎は箱に本を入れた。
- (2) 太郎は網棚から、荷物を降ろした。

例 (1)、(2) では、日本語では「入れる」「降ろす」等の動詞は NP1 の働きかけと同時に NP1 の移動も表わす。このグループの動詞は「上げる」「下げる」「入れる」「出す」「落とす」「乗せる」「放す」等である。

上げる	上がる
下げる	下がる
入れる	入る
出す	出る
落とす	落ちる
乗せる	乗る
放す	離れる

日本語では、左側の他動詞を用いると NP1 の働きかけも NP2 の位置の変化も表す。右側の自動詞のみ用いる場合、単に NP2 の位置の変化を表す。左側のこれらの動詞は NP1 の働きかけと NP2 の移動を同時に表し、形式上でこの二つの意味を分離することは不可能である。NP2 の移動は NP2 の意志によるものではなく、NP1 の働きかけによるものである。

一方ベトナム語では日本語と異なり、日本語と同じような他動詞でも、同時に NP1 の働きかけと NP1 の移動を表わすことは不可能である。NP1 の働きかけと NP2 の移動がそれぞれ異なる形態素によって表される。通常は働きかけを表わす他動詞と方向を表わす自動詞あるいは方向を表わす補助動詞から形成される。

働きかけを表わす	移動を表わす	働きかけ+移動の結果
nâng (上げる)	Lên (上がる)	nâng lên (上げる+上がる)
hạ (下げる)	xuống (下がる)	hạ xuống (下げる+下がる)
chất (乗せる)	Lên (上がる)	chất lên (乗せる+上がる)
dở (下ろす)	xuống (下がる)	dở xuống (下ろす+下がる)
trả (返す)	về (かえる)	trả về (返す+かえる)
lấy (出す)	Ra (出る)	lấy ra (出す+出る)
thả (放す)	Ra (出る)	thả ra (放す+出る)
bỏ (入れる)	Vào (入る)	bỏ (入れる+入る)

日本語とベトナム語の違いは簡単に以下のような図表でまとめることができる。



上の動詞から見ると、ベトナム語では、NP1 の働きかけと NP2 の移動を表す動詞は、働きかけを表す V1 と移動の状態を表す V2 から形成されているため、この二つの形態素を分離することは可能である。従って、働きかけを表す動詞のみ使うと、移動の状態が含意されないということである。

また、V1 と V2 の間に目的語を表す名詞句が入っている。この目的語が省略される場合、V1 と V2 が隣り合うことが可能であるが、目的語の名詞句が省略されない場合は必ず V1 と V2 の間の位置に来る。従って、このような働きかけを表す V1 と位置の変化を表す V2 の結合は緊密ではなく、意味が許容される限り、自由に結び付くものである。つまり、一つの働きかけを表す動詞は他の移動の状態を表す自動詞、あるいは方法を現す補助動詞と結合することが可能である。また一つの移動の状態を表す自動詞、あるいは方法を表す補助動詞は他の他動詞と結合することも可能である。

(3) Taro chất hành lý lên xe.

太郎 乗せる 荷物 上がる 車

(太郎は車に荷物を乗せた。)

(4) Taro dở hành lý xuống xe.

太郎 下ろす 荷物 下がる 車

(太郎は車から荷物を降ろした。)

(5) Hanako lấy sách trong cặp ra.

花子 出す 本 中 かばん 出る

(花子のかばんから本を出した。)

(6) Taro thả dừa xuống đất.

太郎 落とす ココナツの実 下がる 地面

(太郎はココナツの実を地面に落とした。)

上の例では主に NP2 は無生物であるが、有生物の場合でも同様に、働きかけを表す他動詞と移動の状態を表す自動詞も用いる。

(7) Taro đã thả con chim con ra khỏi lồng.

太郎 [既然] 放す 小鳥 出る かご

(太郎は小鳥をかごから放した。)

(8) Tài xế thả hành khách xuống bến.
 運転手 下ろす 乗客 降りる 停車場

(運転手は停車場で乗客を降ろした。)

ベトナム語では、有生物でも働きかけの動詞と移動を表す動詞の間に入れることが可能であるとはいえ、実際に使われる頻度は低い。どちらかという、働きかけの動詞と移動を表す動詞の間に入れるものは、NP1 の意志によって NP2 の意志を無視して移動させることができる無生物である。NP2 の意志を尊重する場合は、働きかけの動詞と移動を表す動詞から形成される動詞ではなく、「cho+移動を表す動詞」を用いた方が自然である。

(9) a. Ban đêm không cho trẻ con ra ngoài.
 夜 ~ない させる 子供 出る 外

b. 夜は子供を外へ出すな。

(10) a. Tôi bị cho ra khỏi phòng.
 私 ~れる させる 出る から 部屋

b. 私は部屋から無理やり出された。

(11) a. Anh ấy cho bà cụ xuống xe lăn.
 彼 させる お婆さん 降りる 車いす

b. 彼はお婆さんを車いすから降ろしてあげた。

(12) a. Giám đốc nói với thư ký cho mình xuống tầng bốn.
 社長 言う に 秘書 させる 自分 降りる 4階

b. (エレベーターの中で) 社長は4階で降ろしてくれと秘書に言った。

(13) a. Tôi cho bạn lên ghế phụ trên xe.
 私 させる 友達 上がる 助手席 車

b. 私は友人を助手席に乗せた。

(14) a. Tôi bị mẹ nhắc là không cho bạn
 私 ~れる 母 言う と ~ない させる 友達
 lên nhà khi mẹ đi vắng
 上がる 家 時 母 留守

b. ママが留守の時は友達を家に上げちゃいけないって言われているの。

- (15) a. Huấn luyện viên bóng đá lúc nào cũng suy nghĩ
 監督 サッカー 常に 考える
 cho cầu thủ nào vào vị trí nào.
 させる 選手 どんな 入る ポジション どんな
 b. サッカーの監督はどの選手をどのポジションに入れるか常に考えている。
- (16) a. Phải cho một nhân viên mới năng động vào
 ~べき させる 一人 新人 元気な 入る
 để làm cho nơi làm việc sáng sủa hơn.
 ~ため させる 職場 明るい より
 b. 職場を明るくするには元気な新人を入れることだ。
- (17) a. Anh gác cửa không cho tôi vào.
 ガードマン ~ない させる 私 入る
 b. ガードマンは私を入れてくれなかった。

これらの文では、日本語では他動詞文を用いるのに対して、ベトナム語では cho+自動詞を用いる。ベトナム語では日本語の他動詞に対応する動詞もあるが、NP1 が自分の手で NP2 に動作を行って働きかける場合しか使わない。例 (9) ~ (17) の「出す」「降ろす」「あげる」「入れる」は NP1 が自分の手で NP2 に働きかける場合、đưa ra 「出す」 thả xuống 「降ろす」 nâng lên 「上げる」 đưa vào 「入れる」 等の他動詞を用いる。一方、自分の手ではなく許可を得て NP2 の動作を承諾する、あるいは、NP2 の意志に従って動作を行って働きかける場合は、「cho+自動詞」を用いた方が自然である。以下の例 (18)、(19) は他動詞を用いる例である。

- (18) a. Anh gác cửa đưa tôi vào.
 ガードマン ~入れる 私 入る
 b. ガードマンは私を入れてくれた。
- (19) a. Tôi muốn làm cái gì đó để đưa anh ấy vào Đảng của mình.
 私 ~たい 何とかして ~ため 入れる 彼 入る 党 自分の
 b. なんとかして彼を我が党に入れたいものだ。

例 (18) では đưa 「入れる」という他動詞を用いて、「私」が道が分からないなどのため、

ガードマンが私を連れて一緒に中に入るということを表す。例（19）でも他動詞の đưa vào 「入れる」を用いる。この場合の đưa vào 「入れる」は NP2 の力のみでは入ることができず、NP1 の力で NP2 が入ることができるということを表す。つまり、đưa vào 「入れる」という他動詞は、NP1 の自らの手で、あるいは自らの力で直接 NP2 に働きかける場合に用いる。

日本語の他動詞文に対応するベトナム語では、二つの表現が存在する。「cho+自動詞」表現は NP2 が自分で動作を行う意味を表すのに対して、他動詞の場合は NP1 自らの手で、あるいは自らの力で直接 NP2 に働きかける意味を表す。

2.5 「NP1 が NP2 を X にする」構文について

2.5.1 X が身分、職業、地位、資格などを表す名詞の場合

日本語では、NP2 自身がある身分に変化する場合は、「NP2 が X になる」という構文を使うのに対して、NP1 の働きかけによって NP2 が自分の身分の変化を生じる場合には「NP1 が NP2 を X にする」構文を用いる。以下では、楊（1989）による中国語との対照を参照し、日本語とベトナム語の「NP1 が NP2 を X にする」構文の性質について検証する。

例（1）と（2）は対応する自動詞文と他動詞文である。

- (1) 太郎の息子はサッカー選手になった。
- (2) 太郎は息子をサッカー選手にした。

例（1）は NP1 の働きかけによらず、NP2 が自分の意志によってサッカー選手になったということを表す。つまり、例（1）では太郎は何も働きかけをしておらず、太郎の息子自身がサッカー選手になりたいということを表わす。一方例（2）では、NP1 の太郎が息子に働きかけた結果として、息子がサッカー選手になったという意味を表す。（1）の使役形は（3）のように「ならせる」であるが、日本語では、「ならせる」という表現がやや不自然である。

- (3) ?太郎は息子をサッカー選手にならせた。

しかし「NP1 が NP2 を X にする」構文は、ベトナム語にはそれに対応する表現がない。ベ

トナム語では、日本語のような「なる」の使役形である「ならせる」を用いる。ベトナム語では NP1 がことばによる指示・命令によって働きかけることができ、NP2 が NP1 の働きかけを受けて、自らの意志によって変化を起こす場合、bắt 使役動詞を用いる。一方、NP1 が直接 NP2 に X するように指示したり命令したりしない、つまり NP2 が自分の意志によって変化を起こす場合は cho 使役動詞を用いる。

- (4) Taro bắt con trai trở thành cầu thủ bóng đá.
 太郎 させる 息子 なる 選手 サッカー
 (直訳:太郎は息子をサッカー選手にならせた。)
 (太郎は息子をサッカー選手にした。)

- (5) Taro cho con trai trở thành cầu thủ bóng đá.
 太郎 させる 息子 なる 選手 サッカー
 (直訳:太郎は息子をサッカー選手にならせた。)
 (太郎は息子をサッカー選手にした。)

このように、「NP1 が NP2 を X」構文はベトナム語に訳す場合、「NP1 bắt/cho NP2 trở thành X」(「NP1 が NP2 を～ならせる」)を用いる。

一方、X 部分に来る身分、職業、地位、資格などによっては、他動詞を用いる場合もある。例えば、X が「医者」「先生」「弁護士」など子供を立派な仕事を得るまで親が色々苦勞して育てなければならぬ場合などは、(6) のように nuôi dạy 「育てる」という動詞を用いる。

- (6) Taro đã nuôi dạy con trai trở thành bác sỹ.
 太郎 [既然] 育てる 息子 なる 医者
 (太郎は息子を医者になるまで育てた。)

また、NP1 が NP2 を選んで、ある地位に据えるような場合は、ベトナム語では chọn/bầu 「選ぶ」を用いる。

- (7) Cô giáo đã chọn Taro làm lớp trưởng.
先生 [既然] 選ぶ 太郎 する クラス長
(先生は太郎を選んで、クラス長にした。)

2.5.2 X が人間の属性、評価などの場合

次の文を見てみたい。

- (8) a.花子は有名な歌手になった。
b.太郎は花子を有名な歌手にした。
c.??太郎は花子を有名な歌手にならせた。
- (9) a.太郎はまじめな学生になった。
b.花子は太郎をまじめな学生にした。
c.??花子は太郎をまじめな学生にならせた。

日本語では、X が人間の属性などの名詞の場合は「NP1 が NP2 を X にする」という構文をよく用いる。このような構文では、NP1 が NP2 に命令・指示を出したり働きかけたりするだけでなく、NP1 が何らかのことは行って、NP2 が NP1 の行為の影響を受けた結果、X になるという意味を表す。つまり、NP2 が X になるのは自らの意志によってではなく、NP1 の何らかの行為の結果によってなるのである。そのため、「NP1 が NP2 を V させる」表現はやや不自然である。

一方、このような構文に対応するベトナム語の表現は「làm cho NP2 trở thành X」という表現である。しかし、この表現も二つの用法に分けられる。

2.5.2.1 NP1 が原因で、NP2 がある属性を用いるようになる意味

次の文を見てみたい。

(10) a. **Bố mẹ nó đã làm cho nó trở thành kẻ hư hỏng.**
 親 彼 [既然] させる 彼 なる 駄目な人

b. (直訳：彼の親が彼をだめな人間にならせた。)

c. 彼の親が彼をだめな人間にした。

(11) a. **Anh ấy làm cho cấp dưới của mình**
 彼 させる 部下 の 自分

trở thành kẻ phản bội đất nước.

なる 裏切り者 国

b. (直訳：彼は自分の部下を国の裏切り者にならせた。)

c. 彼は自分の部下を国の裏切り者にした。

この場合日本語では「NP1 が NP2 を X にする」という構文を用いるのに対して、ベトナム語では「NP1 làm cho NP2 trở thành X」(直訳：NP1 が NP2 を X にならせる)という構文を用いる。làm cho 使役構文では、NP1 が何らかをしたことが原因で、それを受けた NP2 が NP3 になる。つまり、NP1 が何らかのことをすることによって、NP2 がその行為の結果を受けて X になる意味を表す。この場合、làm cho の代わりに khiến cho を用いることも可能である。この構文では NP1 が NP2 に言葉による命令・指示などを働きかけることはできない。

しかし、日本語では NP1 が NP2 を X にする構文では NP1 が人間でなければならないのに対して、ベトナム語では無生物でも、NP1 の位置に来ることが可能である。この場合、làm cho の代わりに khiến cho で置き換えることも可能である。そしてこの構文でも、NP1 が原因で、NP2 が NP1 の行った行為の結果を受けて X になるという意味を表す。

(12) a. **Cuộc sống khó khăn đã làm cho**
 生活 苦しい [既然] させる
cô ấy trở thành con người lừa lọc.
 彼女 なる 人間 インチキ

b. (直訳：生活が苦しいことは彼女をインチキ者にならせた。)

c. 生活が苦しく彼女はインチキ者になった。

- (13) a. Bóng đá đã làm cho anh ấy trở thành người nổi tiếng.
 サッカー [既然] させる 彼 なる 有名人
- b. (直訳：サッカーは彼を有名人にならせた。)
- c. サッカーのおかげで、彼は有名人になった。

2.5.2.2 NP1 の意志で NP2 がある属性を用いるようになる意味

一方、以下の (14)、(15) では làm cho は使役を表す意味以外にも、làm cho の làm 「する」という本動詞の意味(「作為」)としても捉えられる。つまり、NP1 が様々な方法で NP2 を X にさせるという意味を表す。例 (10)、(11) では、NP1 が自分の意志で様々なことをして、NP2 を「ベトナムのミス」「有名な歌手」等にさせるので、原因を表す使役構文とは異なる。従ってこのような構文を khiến cho と置き換えるのは不自然である。

- (14) a. Tôi sẽ làm cho em trở thành hoa hậu Việt Nam.
 私 きっと させる あなた なる ミスベトナム
- b. (直訳：僕は君をミスベトナムにならせる。)
- c. 僕は君をミスベトナムにする。
- (15) a. Taro làm cho Hanako trở thành ca sỹ nổi tiếng.
 太郎 させる 花子 なる 歌手 有名
- b. (直訳：太郎は花子を有名な歌手にならせた。)
- c. 太郎は花子を有名な歌手にした。

2.5.3 X が形容詞・形容動詞の場合

日本語では、X が形容詞・形容動詞の場合は使役を表す「させる」ではなく、「形容詞く／にする」表現を用いる。楊 (1989) は「形容詞／形容動詞にならせる」という形は成立しないとしている。その理由は、NP1 が NP2 に対してそういう状態になるように指示し、その指示に従って NP2 がそういう状態になることが考えられないからであると述べている。

「形容詞く／にする」を用いる理由は、「形容詞／形容動詞にならせる」という形が成立しないからであることの他に、NP1 が自分の力で直接 NP2 にある状態をもたらすという意味を

表すため、「NP2 が X になる」が他動詞化しなければならないからと考えられる。つまり NP1 の意志を表す場合は、「NP1 が NP2 を形容詞く／にする」を用いるのが自然であるとも考えられる。

- (16) a. 花子が幸せになる。
 b. 太郎が花子を幸せにした。
 c.?太郎は花子を幸せにならせた。
- (17) a. 憂鬱な花子が明るくなった。
 b. 太郎は憂鬱な花子を明るくした。
 c.?太郎は憂鬱な花子を明るくならせた。

例 (16)、(17) では「形容詞く／にする」が他動詞文であると同時に、その使役文の働きをもしていると考えられる。

ベトナム語では、X の位置に形容詞、形容動詞が来る場合、日本語と同様で làm cho 「～にする」表現を用いる。この làm cho 2.5.2.2 と同様に、NP1 の意志によって NP2 がある状態をもたらす。しかし「NP1 làm cho NP2 形容詞」構文での形容詞は、通常人間の力でできるものでなければならない。つまり生まれつきの性質ではないということである。

- (18) Taro đã làm cho Hanako
 太郎 [既然] させる 花子
- hạnh phúc / nổi tiếng / giàu có / vui / đau khổ / bất an / xấu hổ.
 幸せ / 有名 / お金持ち / 楽しい / 悔しい / 不安 / 恥ずかしい
- (太郎は花子を幸せ / 有名 / お金持ち / 楽しい / 悔しい / 不安 / 恥ずかしくした。)

一方、ベトナム語では以下の例 (18) のように、thông minh / xinh đẹp / sáng sủa などの生まれつきの性質を現す形容詞は「NP1 làm cho NP2 形容詞」構文に来ることが不可能である。このような生まれつきの性質は人間の働きかけで変化するものではない。

(19) ? Taro đã làm cho Hanako thông minh / xinh đẹp / sáng sủa.
 太郎 [既然] させる 花子 頭がいい / きれい / 明るい

このような形容詞は必ず *trở nên* 「なる」あるいは *lên* 「上がる」、*hơn* 「より」などという語と結合する必要がある。*trở nên* 「なる」は元々、ある状態が別の状態に変化するという意味を表す。また *lên* 「上がる」*hơn* 「より」はある状態がアップする意味を表す。つまり、NP1 は NP2 「～にする」ではなく、NP1 の働きかけによって、その NP1 の行為の結果を受けた NP2 が徐々にある状態になるという意味である。

(20) Taro đã làm cho Hanako trở nên thông minh / xinh đẹp / sáng sủa
 太郎 [既然] させる 花子 なる 頭がいい / きれい / 明るい
 (太郎は花子を頭がいい / きれい / 明るくした。)

(21) Taro đã làm cho Hanako xinh đẹp / xinh đẹp / sáng sủa hơn.
 太郎 [既然] させる 花子 頭がいい / きれい / 明るい より
 (太郎は花子をより頭がいい / きれい / 明るくした。)

(22) Taro đã làm cho Hanako xinh đẹp / xinh đẹp / sáng sủa lên.
 太郎 [既然] させる 花子 頭がいい / きれい / 明るい アップ
 (太郎は花子をより頭がいい / きれい / 明るくした。)

例 (20)、(21)、(22) は NP2 自身が変化する意味を表すので、自然な文である。

2.6 無生物主語の問題

2.6.1 無生物主語の種類

Nguyễn Văn Hiệp (2008) によると、ベトナム語では人や動物に加え、地名や無生物なども主語になることができる。無生物主語はテレビ、新聞などの改まった場面において使われるだけでなく、日常会話でもよく使用される。

日本語には無生物主語がないとは言えないが、ベトナム語ほど多くないと思われる。角田 (1982) によると、実際には無生物主語の他動詞文であっても不自然でない文も多少はあり、

無生物でも自然の力を持っている物の場合はおかしくないようだと述べている。

以下はベトナム語と日本語における無生物主語の相違点である。

2.6.1.1 自然現象が主語になる場合

(1) **Lũ** đã cuốn trôi nhiều nhà cửa.

洪水 [既然] 押し流す 多く 家屋

(直訳：洪水が多くの家屋を押し流した。)

(洪水で多くの家屋が押し流された。)

(2) **Bão** đã tấn công đất liền

台風 [既然] 襲う 大陸

(台風が大陸を襲った。)

このような場合、ベトナム語では「洪水」、「台風」が主語になり、「洪水が～を押し流した」「台風が～を襲う」等の他動詞を使う。

日本語では、「洪水」、「台風」などの自然現象が主語になる場合もある。これらの文は日本語では自然に使われる。しかし、無生物主語の使用は動詞と関係があり、ある現象だけに限定されると思われる。

(3) 洪水が多くの家屋を押し流した。

(4) 台風が大陸を襲った。

2.6.1.2 病気、性格、災害などが主語になる場合

ベトナム語の使役構文の主語には、病気、性格、災害、薬、毒などが生起可能である。これらも自らの力で他の存在に働きかけて影響を及ぼす主語と見なすことができる。それは、これらの主語は擬人化しやすいためである。

(5) Chất độc màu da cam đã giết chết em tôi.
 枯れ葉剤 [既然] 殺す 妹 私

(直訳：枯れ葉剤が妹を殺した。)

(妹は枯れ葉剤で死んだ。)

(6) Ung thư giết chết hàng ngàn người mỗi năm
 癌 殺す 何千 人 毎年

(直訳：癌が毎年何千もの人を殺す。)

(癌で毎年何千もの人が死ぬ。)

(5)、(6) の例では、主語が抽象的な力を持っている。ここでは〈対象〉(人間)に働きかける力がある無生物を〈行為者〉として擬人化している。日本語ではこのような場合は、「無生物主語」の使役構文を用いないのが普通である。

2.6.1.3 無生物疑問詞が主語になる場合

日本語では、疑問詞を使って文を作ると通常、疑問文になる。つまり無生物疑問詞は主語にならない。

池上 (1981) によると、”What made her do so?”という表現は英語の話し手にとっては全く擬人的な意味合いを感じさせない表現である。一方以下の (7) のような表現は、日本語では話し手が意図的にふざけているとしか受け取られない、日本語では擬人法的な言い方が成立する素地がないために、日常的な言葉使いと修辭的な擬人法との間の落差が余りにも大きいのであろうと述べている。

(7) 何が彼女をそうさせたか? (池上 1981 : 207)

しかしベトナム語では、日常的な言葉遣いから、擬人法という修辭的な表現手法に至るまでの距離は遠くはない。日常的なレベルの言葉で、無生物を示す疑問詞が主語として使われる使役構文がある。

(8) Con đường nào đưa bạn đến thành công vậy?
道 どの 連れていく あなた 来る 成功 [強調]

(直訳：どの道があなたを成功に導いたの。)

(どうやって成功したの。)

(9) Ngon gió nào đưa bạn đến đây.
風 どの 連れる 貴方 来る ここ

(直訳：どの風が貴方をここに連れてきたの?)

(とういう風の吹きまわしでここに来たの。)

これらの例文から見ると、ベトナム語では無生物を表す疑問詞を文の主語として使う構文が典型的な使役構文になる文が多い。一方日本語では、無生物疑問詞が主語になる文は不自然な文である。角田（1991）によると、日本語ではこれらのような例文は動作が階層の上で低い方（無生物）から高い方（代名詞）に向かっているから不自然であると述べている。

2.6.1.4 何らかの行為が含意されている場合

(10) Con đường này sẽ đưa bạn đến La Mã.
道 この きっと 連れる 貴方 来る ローマ

(直訳：この道が貴方をローマに連れて行く。)

(この道を行けば、ローマに行ける。)

(11) Sự tuyệt vọng đã đôn anh ấy vào con đường tự sát.
絶望 [既然] 追いやる 彼 に 道 自殺する

(直訳：絶望が彼を自殺へ追いやった。)

(希望を失って彼は命を断った。)

主語が単なる名詞、あるいは名詞句の 2.6.1.1 と 2.6.1.2 そして、無生物疑問詞の 2.6.1.3 と異なり、2.6.1.4 の (10)、(11) では主語は動作の一部を使って動作の全体を表す。すなわち、動作それ自体は含意されているに過ぎない。しかし、聞き手はその動作を連想でき、そして、文全体の意味を解釈できる。一方日本語では、無生物名詞のみ文の主語になることは不可能

である。(10)、(11)のように、「この道を行けば」「希望を失って」、など、動詞を入れないと許容できない。

(11)のような場合、*sự tuyệt vọng*「絶望」は単なる名詞であるため動詞を連想するのは難しいが、*mất hết hy vọng*「希望を失う」という意味で捉えられるので、動詞を補うパターンにしても差異がない。

上に述べたように、ベトナム語では無生物でも他動詞文の主語になる。無生物主語に来る他動詞は、有生物主語の他動詞とは意味上では異なる。それは、NP2の結果を含意するか否かの点である。ここで少し触れてみたい。

2.6.2 無生物主語文で使われる動詞の性質

2.2節で述べたように、日本語ではNP1の働きかけでNP2がある状態の変化を生じるのに対して、ベトナム語における他動詞は動作のみ表わす。つまり、NP1の働きかけを表わすが、NP2の状態変化の結果に言及しない。

(12) *Tên cướp* *đã* *giết* *cô gái.*
強盗 [既然] 殺す 女の人
(強盗は女の人を殺した。)

例(12)ではベトナム語の *giết*「殺す」は「死ぬ」という結果に言及しない。文末で何も述べない場合「死ぬ」まで解釈してもよいが、(13)のようにまだ「死なない」という補文を入れたら、その「死ぬ」という結果が含意しない。一方日本語では、「殺す」は一般的に「死ぬ」という状態まで含意するので、例(13) bのように訳すと非文になる。例(13) cのように「～ようとする」という表現で訳せば自然になる。

(13) a. Tên cướp đã giết cô gái, nhưng may thay, cô ấy không chết.
 強盗 [既然] 殺す 女の人 幸い 彼女 ~ない 死ぬ

b. *強盗は彼女を殺したが、幸い、彼女は死ななかつた。

c. 強盗は彼女を殺そうとしたが、幸い、彼女は死ななかつた。

また、結果まで表したい場合、動作を表わす他動詞と状態変化の結果を表わす自動詞から形成した複合動詞を用いる。例 (14) のように giết chết 「殺す+死ぬ」という複合動詞は、日本語の「殺す」と対応する。

(14) Tên cướp đã giết chết cô gái.
 強盗 [既然] 殺す 死ぬ 女の人

(強盗は女の人を殺した。)

例 (14) では、(13) のように、「幸い、彼女は死ななかつた」という補文を入れることが不可能である。

一方、無生物主語の他動詞文は、有生物主語の他動詞文と違って、動作のみを表わすことが不可能である。無生物主語は直接自分の手で動作を行わない。無生物主語はある力をもって、その影響で、NP2 が状態変化を生じるという意味を表す。従って (15)、(16) のように動作のみ表わす他動詞は、無生物主語の他動詞文には来ない。

(15) ??Chất độc màu da cam đã giết em tôi. (cf 例 (5))
 枯れ薬剤 [既然] 殺す 妹 私

(16) ??Ung thư giết hàng ngàn người mỗi năm (cf 例 (6))
 癌 殺す 何千 人 毎年

ベトナム語では、有生物でも無生物でも他動詞文の主語になることが出来るが、有生物主語の場合は動作のみ表わす動詞と結合できるのに対して、無生物主語は NP2 の状態変化の結果を表わす動詞と結合しなければならない。

2.7 日本語とベトナム語における他動詞についてのまとめ

以下は日本語とベトナム語における他動詞についてのまとめである。

		結果含意	無生物主語	直接働きかけ	意図性
日本語	他動詞「殺す」	○	× 「自然現象等は○」	○	○
	自動詞+させる「死なせる」	○	×	○	?
ベトナム語	他動詞「giết」	×	× 「自然現象等は○」	○	○
	他動詞+自動詞「giết chết」	○	○	○ (無主:×)	○ (無主:×) 3
	他動詞か「làm+自動詞」 làm rơi	○	○	×	×
	使役形「làm cho+自動詞」 làm cho ~rơi	×	×	?	○
	làm+感情動詞 làm ~buồn	○	○	×	×

上の表から見ると、ベトナム語における動作を表す他動詞+状態変化の結果を表す自動詞から形成した動詞は、無生物主語を取るかとらないかという問題以外、基本的に対応している。そして、それぞれの言語における他動詞が状態変化の結果を含意するか否かの違い以外に対応する。

³ 無主：無生物主語

第3章 日本語の「させる」とベトナム語の代表的な使役形式について

第1章では日本語とベトナム語の使役構文に関するこれまでの主な説を概説し、本研究の位置づけを試みた。第2章では両言語における他動詞文を考察した。この章では、日本語の「させる」とベトナム語の「bắt, cho, đẽ (cho), khiến (cho), làm (cho)」についての相違点と類似点を考察する。まず、日本語の使役形態素「させる」に関する先行研究から、その特徴を概観する。そして、ベトナム語で使役を表すとされる「bắt, cho, đẽ (cho), khiến (cho), làm (cho)」について、それぞれの形式の特徴を述べる。次に、両言語における使役表現の統語的・意味的共通点と相違点を観察する。さらに、柴谷(1978)の分類に基づき、それぞれの言語が使役のどの意味をどのように表現するかを詳細に検討する。

3.1 日本語の「させる」使役構文における被使役者の格について

日本語における使役構文では、使役者が「が」格を取ることはいかなる状況の中でも変わらないが、被使役者が「を」格を取る場合と「に」格を取る場合がある。日本語研究者の間では被使役者が「を」格を取るか「に」格を取るかはしばしば問題になる。文によって「を」しか用いられないものと、「に」しか用いられないものがあり、また、「に」「を」のいずれを用いてもよいが、いずれを用いるかによって意味の違いが生じるものもある。

井上(1976)は「を」使役文は補文の主語の意志に関わらず行為をさせるという意味を持ち、「に」使役は補文の主語の意志による行為の場合でなければならないと述べている。

つまり、「を」使役文は補文の主語の意志を無視するのに対して、「に」使役文は補文の主語の自発的行為を前面に出して、主文の主語と間接的な働きかけを表わす使役文である。「を」使役文は強制的使役を表し、「に」使役が許容的な使役を表わす。

- (1) a. 太郎は弟を泣かせた。
b.*太郎は弟に泣かせた。

例(1) aでは、泣くという動詞は被使役者の意志によって行う行為ではなく、被使役者が自己制御できない動詞なので、「を」格を取る。しかし、葬式などで、「泣く」ことを商売とするいわゆる「泣き女」などの場合には「に」格を取ることも可能であろう。

(2) 太郎は泣き女に泣かせた。

一方、以下の、(3) bは補文の主語の自発的行為という想定ができないため、(3) bは非文である。

(3) a.係長が新しい車を走らせてみた。

b.*係長が新しい車に走らせてみた。

	主文の主語	補文の主語
「を」使役文	有生名詞句（動作主格）	有生名詞句（動作主格、経験者各） 無性名詞句 （自発性を持つ対象格、対象格）
「に」使役文	有生名詞句（動作主格）	有生名詞句（動作主格）

井上は次の例文を挙げ「を」と「に」の違いは必ずしも被使役者の意志の有無によるとは言えないことを証明した。

(4) a.彼は妻を働かせた。

b.彼は妻に働かせた。（「彼の代わりに」）

(5) a.僕は弟を進学させた。

b.僕は弟に進学させた。（「僕の代わりに」）

例(4)(5) bは被使役者の意志に関係なく、使役者の代わりに動作を行う意味を表す。つまり、b文では「誰かの代わりに」という意味を持っている。

柴谷(1978)は、使役文の被使役者の助詞による表示は被使役者の意味的な働きによることがあるとした。日本語の使役文を意味的に「誘発使役」と「許容使役」に分け、それぞれの意味を表す場合の「を」と「に」の相違点を以下のように述べている。使役文の補文が自動詞を含む場合は、動作主として働く被使役者を「に」でも「を」でも表わすことが出来る。両方の形が誘発使役文としても、許容使役文としても使うことが出来る。

誘発使役文における「を」使役文と「に」使役文の基本的な意味の違いは、前者は被使役

者の意志を無視した表現であるが、後者は被使役者を尊重した表現であるということである。その根拠は、「を」使役文は、強制的に強いられた状況とか、使役者が直接手を下して物事を引き起こした場合とか、それに使役者が権威者である場合などを典型的に表し、一方「に」使役文は、被使役者の意志を重んじ、使役者がそれを訴えて物事を引き起こしたような状況を典型的に表す、と指摘している。

(6) あそこで家人を豆腐屋に走らせて、おからを買わせる一方、・・・。

(7) 土曜日に修一に行かせよう。

上の例(6)は家の主人が権威者の立場で家人の意志を無視して用事を言いつけた状況の表現であり、例(7)は父が息子の修一に言って聞かせ、行かせるという状況の表現である。

(6)の場合は「を」を「に」に置き換えると、不自然な文になる。家の主人と家人の関係では統制と被統制の関係なので、使役者は被使役者の意見を尊重する意味を捉えにくいからである。一方(7)では、父は息子の意志を無視するか、尊重するかといったような意味がむしろかなり希薄である。(6)では、「に」を「を」に置き換えることもできる。「に」を使う場合は被使役者の意志を尊重するという意味を表す以外に、誰かの代わりに、「修一」を指定して、「修一」に行かせる意味も表す。また、「修一」が選ばれる意味も表す。例えば、4人の子供を持っている母親が、子供たち全員を旅行に連れて行くことが無理な場合、一番成績がよかった修一を選んで、今回「修一に行かせよう」と言うこともできる。

(8) 太郎は次郎を／*に気絶させた。

(9) 太郎は次郎を／*にびっくりさせた。

「に」を使えない理由は、「に」使役文は被使役者の意志に訴える状況を表すが、「を」使役文は被使役者の意志に関係なく、使役者が自らの手を下してある状況を引き起こす状況を表すためである。また動作主となり得ないものが被使役者となっている文に「に」が起こらないのも同じ理由である。

(10) 花を／*に咲かせた。

(11) 汽車を／*に走らせる。

柴谷は、「に」使役文は被使役者が動作主の場合に限られ、被使役者の自発性を重く見た表現に対して、「を」使役表現は被使役者が使役行為の対象として捉えられると述べている。両者の違いは深層構造レベルで被使役者を使役者の対象として考えるか、それとも、動作主として考えるかにあるという点である。この意味において、「を」は被使役者の意志を無視し、「に」は被使役者の意志を尊重するということができる。

柴谷は (12) (13) のような例文を取り上げて、自然さの相違を見ている。

(12) 奴隷監督は鞭を使って奴隷達を働かせた。

(13) *?奴隷監督は鞭を使って奴隷達に働かせた。

上の例文では (12) と (13) ではどちらも「鞭を使って」という言葉が入るため、監督が鞭を振り振り奴隷達を追い回している光景が思い浮かぶので、(13) よりも (12) の方が自然な文であるという。

また柴谷は、被使役者が意志的に引き起こせない状況を表す使役文は「を」使役文でなければならないとしている。

次に、「許容使役」における「を」使役と「に」使役の違いは、主に許容の種類の違いにある。許容には、承諾を与えて積極的に許すという場合と、積極的に承諾を与えはしないが、ある物事の発生・進行を防げるのを控えるという消極的な許容がある、と指摘している。柴谷は以下の例文を取り上げて分析を行っている。

(14) よし、と言って、子供に／?を行かせた。

この場合では、親が積極的に承諾を与えたとすれば、「に」使役文のほうが自然である。一方、消極的に許した場合は「を」使役文の方が自然である。

(15) 見て見ぬふりをして子供を／?に行かせた。

池上（1981）は「ニ使役」と「ヲ使役」について以下のように述べている。

- (16) a. 太郎は次郎に行かせた。
b. 太郎は次郎を行かせた。

(16) a の「ニ使役」の方が (16) b の「ヲ使役」よりも使役者に対する強制力が緩やかな言い方である。(16) a のような「ニ使役」では、次郎は被使役者でありながら、なおその自主性が尊重されているものとして捉えられている。一方、(16) b のような「ヲ使役」の場合には、次郎は被使役者として使役主である太郎の完全な支配下に置かれていると感じられると述べている。

寺村（1982）では一般的にあって、X（被使役者）が「ヲ」を取るか「ニ」を取るかを決定するのはその動詞の性質、とくにそれがどういう補語を取る動詞であるかということと、X の性質、とくにそれ自体が意志をもって行動できるものであるかということが基本的な条件であると述べている。寺村（1982）は使役構文では、「を」格を取る場合、「に」格をとる場合、そして「に」格「を」格どちらも可能な場合が存在する。

他動詞としたものが使役態をとる時にはその動作主格は「ニ」格を取る。

- (17) 母親が赤ん坊にミルクを飲ませる。（寺村：1982）

寺村（1982）も V が自動詞のうち、感情的な動詞の中「一時的な気の動き」を表すようなものであるとき、その動作（感情）主体は被使役者になったとき、「を」格を取り、「に」格を取らないと述べている。「失敗する、ぎよっとする、感心する、安心する、笑う、泣く」も同類である。

- (18) 彼ハ巧ミナ手品デ皆ヲオドロカセタ。

- (19) 見セビラカシテ、皆ヲウラヤマシガラセタ。（寺村：1982）

また、「降る、咲く、光る、輝く、さびる、腐る、済む」など、自然現象を表すものはすべてその主体が意志を持たないものである。これらの動詞も「を」格を取る。

他動詞であるが、対象は「～に」という形を取る動詞、例えば「噛み付く、飛び掛る、賛

成する、反対する」などの動詞は「に」格のほうが「を」格より自然である。

- (20) a. 彼が犬にその男に噛み付かせる／飛び掛らせる。
b. ?彼が犬をその男に噛み付かせる／飛び掛らせる。

移動する動詞の場合、出所の「を」をとる場合、それを「～から」にかえれば、被使役者は「を」、「に」どちらをとっても重複するという問題は起こらないが、一般に「を」のほうが「に」よりも自然と感じられるようである。

- (21) a. 子ドモガ親元ヲ離レル。
b. *子ドモヲ親元ヲ離レサセル。
c. 子ドモヲ親元カラ離レサセル。
d. ?子ドモに親元から離レサセル。

しかし、出所の「を」は「から」に変えられない場合、重複を避けるためなら「に」の方が自然であるはずだが、「を」の方が自然だと感じる場合もある。

- (22) a. 息子ガ大学ヲ卒業スル。
b. 息子ヲ大学ヲ卒業サセル。
c. ?息子ヲ大学カラ卒業サセル。
d. ?息子ニ大学ヲ卒業サセル。

また、「通り道」の「～を」の場合は、「出所」のように「から」に変えるわけにはいかないこともある。その場合は被使役者に「を」を付けると文の中に「～を」が二つになるため不安定になるが、それにもかかわらず「に」より「を」の方がましな感じがする場合もある。

最後に、被使役の意思を考慮してそれに働きかけるのか、その意思を無視するのかで「に」格を取るか、「を」格を取るかが決まる。

「誘発」「放任」の使役なら、「に」格、被使役者の意思無視の「強制」「誘発」使役は「を」格を取ると指摘した。

仁田 (2009) によると他動詞から作られる文型では使役者が「が」、被使役者が「に」で表

される。

他動詞から作られる使役文では、ヲ格名詞が文の中で重なってしまうので、被使役者を「を」で表すことが出来ない。

そして自動詞から作られる使役文の文型では、対応する能動文の動詞が自動詞の場合、使役文は2種類の文型を取る。それは、使役者が「が」、被使役者が「を」で表せることが多いのと、もう1つは使役者が「が」、被使役者が「に」で表されるためである。

仁田は被使役者に「を」「に」の両方が用いられる場合、「を」は被使役者の意志に関わらず動作を働きかける場合、「に」は被使役者の意志を尊重して動作を働きかける場合に用いられることが多いと述べている。

(23) a. 息子を働かせる。

b. 息子に働かせる。

この「を」使役文と「に」使役文の意味の違いについて、先行研究の典型的な観点を取り上げる。井上(1976)は、「に」使役文は許容使役で、被使役者の意志を尊重した表現であるのに対して、「を」使役文は強制の使役で、強制の意味、被使役者の意志を無視した表現であると指摘している。柴谷(1978)は使役構文の補文が自動詞を含む場合は、動作主として働く被使役者を「に」でも「を」でも表すことができる。両方の形が誘発使役文としても許容使役文としても使うことが出来ると指摘している。寺村(1982)、仁田(2009)は動詞の本来の性質から両者の違いを分析し、被使役者が「を」と「に」のいずれを取っても自然になる場合、「に」しか取らない場合、また「を」しか取らない場合などを取り上げている。そして、被使役者の意志の有無についても指摘している。本研究では寺村の立場を取る。

上記の先行研究から見て、「に」使役構文と「を」使役構文の違いは動詞の性質や文脈に左右されると言える。そして、被使役者の意志を無視するか尊重するかについても、文脈に影響されるということである。

3.1.1 「を」しか取れない使役構文

自動詞から作られる使役構文は、使役者が「が」、被使役者が「を」で表されることが多い。

- (24) a.野菜を腐らせた。
b.*野菜に腐らせた。
- (25) a.新しい車を走らせてみる。
b.*新しい車に走らせてみる。

被使役者が無生物の場合は「を」格を取ることが多い。無生物の被使役者は自分の意志によって、動作を行うことは不可能である。そして、以下の例文のように、被使役者は自分の意志で動作を行うことはなく、使役者の働きかけを受けて、何らかの変化が生じたものであるので、被使役者は「を」格しか取らない。従って、a はいずれも自然な文であるが、「に」格を取った b はいずれも不自然な文である。

- (26) a.花子は皆をがっかりさせた。
b.*花子は皆にがっかりさせた。
- (27) a.ご両親を心配させないように、よく電話して下さい。
b.*ご両親に心配させないように、よく電話して下さい。

「興奮する」「驚く」「疲れる」「びっくりする」「気絶する」「がっかりする」「悲しむ」「喜ぶ」「失望する」「泣く」「笑う」など、自分の意志によって行うことができない感情動詞は「を」使役を取る。

また、「降る」「咲く」「光る」「輝く」「さびる」「腐る」「済む」など、自然現象を表すものはすべて主体が意志を持たないものである。これらの動詞も「を」格を取る。

- (28) 花を早く咲かせるために、毎日水をやる。
- (29) 霧でキャベツの畑を腐らせた。

3.1.2 「に」しか取れない使役構文

他動詞から作られている使役構文はほとんど被使役者が「に」格を取る。

- (30) a.強盗は銀行員にお金を出させる。
b.*強盗は銀行員をお金を出させる。
- (31) a.私は娘に日本語を勉強させる。
b.*私は娘を日本語を勉強させる。

これらの文では、使役者の働きかけを受けた被使役者は状態変化の主体ではなく動作を行う主体である。被使役者は自分の意志によってその動作を行うことができる。他動詞から作られる使役構文では、「を」

格名詞が文の中で重なってしまうので、被使役者は「を」格しかとれない。(30) a では使役者の「強盗」は被使役者の「銀行員」の意志を尊重しているから「に」格を取るわけではなく、無理やりさせる意味で「に」格を取る。(31) b では使役者の「私」が許可を出す場合、つまり許容使役の場合、あるいは娘は「日本語を勉強したくないのに使役者の「私」が無理やり勉強させる、つまり強制使役の場合でも、被使役者は「に」格しか取れない。「を」を使うと重複の原理を犯すからである。

3.1.3 「に」と「を」とどちらも取れる使役構文

自動詞から作られる使役文は「を」格しか取らない文型以外、被使役者が「を」と「に」の両方とることができる場合もある。「を」を取る場合は被使役者の意志を無視する意味を表す。一方、「に」を取る場合、被使役者の意志を尊重する意味を表す。

- (32) a.息子を早く帰らせた。
b.息子に早く帰らせた

また、動詞の性質から見ると「を」格と「に」格いずれも取れるが、文脈に制限されて「を」格しか取れない使役文も存在する。それは、使役者と被使役者の関係が被使役者の意志を尊重するという意味で捉えられない「奴隷監督と奴隷」、「家の主人と家人」などの統制関係である。また、無理やり、強制的な意味を表す修飾語がある使役文では「を」格を取ることが多い。

- (33) a. お手伝いさんを市場に行かせた。
 b. ?お手伝いさんに市場に行かせた。

「に」使役文は被使役者の意志を尊重する意味を表す。そして井上（1976）が述べているように、「誰かの代わりに」という意味を表す。

日本語における「に」使役構文は、「を」の重複の問題を避けるために使われる以外には、被使役者の意志を尊重する意味を表す。そして、「誰かの代わりに」という意味も表す。

3.2 ベトナム語における **bắt**、**cho**、**đề**、**làm**、**khiến** の違いについて

ベトナム語における使役構文は、使役の意味を表す動詞を用いる構文である。その使役動詞のうち、最もよく使われている真正使役動詞は第1章で述べたように、**bắt**、**cho**、**đề** (**cho**)、**khiến** (**cho**)、**làm** (**cho**) である。この五つの形式は使役を表わすが、それぞれ違う意味を表し、異なる文法的特徴を持っている。つまり、意味的にも構文的にも性質を異にしている。まず、**bắt** と **cho** の違いを見よう。

- | | | | | | |
|-----|-------------|-----|---------------------------|----------------|----------|
| (1) | Công ty | đầy | <u>bắt</u> / * <u>cho</u> | người lao động | làm việc |
| | 会社 | あの | させる | 労働者 | 働く |
| | không lương | cả | vào | ngày nghỉ. | |
| | 無給 | も | に | 休日 | |

(あの会社は休日にも労働者を無給で働かせた。)

- | | | | | | |
|-----|---------|-----|-------|---------------------------|---------|
| (2) | Con gái | tôi | thích | đi | du học, |
| | 娘 | 私 | ～たい | 行く | 留学 |
| | nên | tôi | đã | <u>cho</u> / * <u>bắt</u> | con đi. |
| | 故 | 私 | [既然] | させる | 娘 行く |

(娘が留学したがっているので子供を留学させた。)

上の例文から見ると、**bắt** は被使役者が行うつもりがなかったり行うのを嫌がっている事象を、使役者が被使役者にそれをするように言ったり命令したりして、強制的にさせることを表す。被使役者はその指示に従い自らの意志でそのことを行うことを表している。一方、**cho**

では使役者は被使役者の意志に従って許可を出すという意味を表す。つまり、被使役者には何らかの出来事を引き起こす願望があり、それに対して、使役者はその願望の実現に向けて許可を与えたことを表す。

cho 使役構文では NP2 が NP1 の許可を求める時に、使われる。より丁寧な許可を求める表現として、cho phép がよく使われる。一方、bắt 使役構文はこの用法はない。

- (3) Cho phép / *Bắt em được phát biểu ý kiến.
 させる 私 得る 発表する 意見
 (私に自分の意見を話させていただけませんか。)

次に làm cho / khiến cho と bắt / cho の違いについて見ておく。

- (4) Anh ấy kể chuyện hài làm / khiến (cho) mọi người cười.
 彼 話す 笑い話 させる 皆 笑う
 (彼は可笑しい話をして、皆を笑わせた。)
- (5) Anh ấy nói dối làm / khiến (cho) mọi người thất vọng.
 彼 嘘つく させる 皆 がっかりする
 (彼は嘘をついて、皆をがっかりさせた。)

例 (4)、(5) では NP1 の「彼」は「話した」「嘘をついた」ことが原因となって、NP2 が「笑う」「がっかりする」という状態に変化する。

bắt / cho による使役文は使役者の働きかけが意図的であるのに対して、làm (cho) / khiến (cho) は使役者の意図とは関係がない。làm cho / khiến cho の使役構文では、使役者による指示や命令による働きかけではなく、使役者の行為を受けた、自然な結果によるものである。

bắt と cho 使役構文では NP2 は動作主として意志的動詞とともに用いられるのに対して、làm (cho) / khiến (cho) 使役構文では NP2 は経験者主として無意志的動詞（主に感情動詞）とともに用いられる。

khiến はある事象やモノなどの無生物で、それが原因となって、人間の感情、あるいは心理的状态を変化させる場合に用いられる。

làm 使役構文は khiến 使役構文と用法が類似している。主語の使役者がある事象やモノ等の無生物の場合に、それが原因となって当該の事象を生じさせることを表す。この用法では、làm は khiến と置き換えることが可能である。làm 使役構文では khiến と同じように、人間の心理状態の変化を表す。

làm と khiến との重要な違いは、khiến 使役構文では基本的に、使役者が無意図的に使役者に働きかけて被使役者がある動作を行うのに対して、làm 使役構文は使役者が無意図的の場合も意図的の場合もありうる点である。使役動詞の làm は、使役者が意図的、あるいは非意図的に被使役事象を強制的に引き起こす場合に用いられる。それは、khiến 動詞はもともと原因を表す動詞であり、動作主が無生物であるため、動作主の意図性が表されないのに対して、làm 動詞はもともと人の動作を表す動詞である。làm 動詞の動作主は人間であり、意図を持って何らかの動作を行う。

例 (4)、(5) では、文の主語 NP1 が原因となって NP2 をある状態に変化させる。あるいはある作用が及ぶ点から、原因結果構文と呼ばれる。原因結果を表すため、ベトナム語ではこのような構文は làm cho / khiến cho の他、vì ~ nên、tại ~ nên のような原因を表す構文に置き換えることも可能である。

(6) Vì anh ấy kể chuyện hài nên mọi người cười.
 ため 彼 話す 笑い話 だから 皆 笑う
 (彼が可笑しい話をしたので皆は笑った。)

(7) Vì anh ấy nói dối nên mọi người thất vọng.
 ため 彼 嘘つく だから 皆 がっかりする
 (彼が嘘をついたので、皆はがっかりした。)

最後に để 使役構文について見てみよう。

(8) Tôi đề con tự quyết định chuyện hôn nhân của mình
私 させる 子供 自分 決める 結婚のこと 自分の

(私は子供に自分の結婚のことに決めさせた。)

被使役者が自らの意思によってある行為を引き起こそうとしている、あるいは引き起こしていることに対して、使役者が妨げようとするならば出来るのに、そうせずに成り行きに任せる意味を表す。

また以下の例文では、NP1 はあることを行って、NP2 に「何らかのことはする／しないように」させる意味を表す。

(9) Hãy gọi điện về nhà để gia đình khỏi lo.
～ください 電話をかける に 家 させる 家族 ない 心配する

(家族を心配させないように、家に電話してください。)

例(9)では để は NP2 の動作・作用が NP1 の指示や命令による働きかけではなく、NP1 の行為を受けた自然な結果によるものである。

以上、ベトナム語における bắt、cho、để (cho)、khiến (cho)、làm (cho) の違いについて考察した。

3.3 「させる」と bắt、cho、để (cho)、khiến (cho)、làm (cho) の共通性

3.3.1 補文を持つ

「NP1 が NP2 に／を V させる」と「NP1 bắt NP2 V」を比較してみると、どちらも NP1 は NP2 に働きかけてある動作・作用を引き起こさせる主体である。つまり、NP1 は使役者で、NP2 は被使役者であり V の動作主あるいは作用の主体である。使役者は被使役者に対して、言葉や身振りをもって働きかけ、行為の実行を促す。あるいは使役者が原因やきっかけとなって、被使役者がある状態に変化させる意味を表す。

(1) 太郎は花子に服を洗濯させた。

(2) Taro bắt/cho/đề Hanako giặt áo quần.
太郎 させる 花子 洗濯する 服

(3) 太郎は花子を苦しませた。

(4) Taro làm/khiến (cho) Hanako đau khổ.
太郎 させる 花子 苦しむ

従来の分析では、これらの使役文は NP2 を主語、V を述語とする (5) ~ (8) のような補文を含むとされてきた。すなわち、例 (1) (2) では両言語とも、太郎は花子に「服を洗濯して」といった指示や依頼を働きかけ、その働きかけを受けて花子が「服を洗濯する」という行為を行うという意味を表している。また、(3) (4) では太郎が何らかのことをして、「花子が苦しんでいる」状態にすることを表す。

(5) 花子が服を洗濯する。

(6) Hanako giặt áo quần.
花子 洗濯する 服

(7) 花子が苦しんでいる

(8) Hanako đau khổ.
花子 苦しむ

構文から見ると、日本語では動詞に使役を表す「させる」という形態素を付けるのに対して、孤立語であるベトナム語では使役の意味を表す動詞と結合させる。ベトナム語の使役構文では、被使役者は使役動詞の目的語であると同時に、後ろの動詞の主体でもある。

このように、日本語における「させる」構文も、ベトナム語における cho、đề (cho)、khiến (cho)、làm (cho) 構文も補文を持つという点で共通していると言える。以下では、楊 (1989) が中国語の使役形に用いた統語テストを参照して、日本語とベトナム語の使役形の複文としての性質について検証する。

まず再帰代名詞を入れてみよう。再帰代名詞の「自分」と数字の副詞のテストについては柴谷 (1978) 4.1 と井上 (1976) 4.8.2 を参照している。

(9) a. 太郎は次郎に自分の電話を使わせる。

b. Taro bắt/cho/đề (cho) Jiro sử dụng điện thoại của mình.

太郎 させる 次郎 使用 電話 の 自分

(10) a. 太郎は次郎に自分のことを心配させる／恥ずかしがらせる／悲しませる／困らせる。

b. Taro khiến cho/làm cho Jiro lo lắng / xấu hổ / buồn / lúng túng

太郎 させる 次郎 心配する／恥ずかしがる／悲しむ／困る

về chuyện của mình.

に 話 の 自分

例 (9) (10) a では「自分」は太郎と次郎の両方を指すと捉えられる。(9) (10) b のようにベトナム語でも mình 「自分」 は太郎と次郎の両方を指す。つまり、日本語でも、ベトナム語でも、二つの解釈が可能である。

一方、日本語では(11)のように他動詞文はこのような二義性がない。以下の(11) (12)は他動性と「させる」形式の違いである。

(11) 太郎は次郎を自分の部屋で殺した。

(12) 太郎は次郎を自分の部屋で死なせた。

日本語では(11)の「太郎は次郎を自分の部屋で殺した。」では「自分」は「太郎」を指すという解釈しかない。それに対して、「太郎は次郎に自分の部屋で死なせた。」の場合、「自分」は「太郎」でも「次郎」でも解釈できる。それは、この文では「殺す」という他動詞が使われているのに対し、「死なせる」では使役が使われているためである。この対立は、使役形態素「させ」は補文構造を取るのに対し、語彙的使役である他動詞は補文構造を取らない(単一節である)ということから来ていると考えられるわけである。

一方、ベトナム語も日本語と同様に他動詞文では mình 「自分」は一義的であるのに対して使役形態素 bắt、đề、cho、làm (cho)、khiến (cho) を用いる文では mình 「自分」の解釈は二義的である。

(13) Taro giết Jiro trong phòng của mình.

太郎 殺す 次郎 で 部屋 の 自分

(太郎は次郎を自分の部屋で殺した。)

(14) Taro bắt/để/cho Jiro chết trong phòng của mình.

太郎 させる 次郎 死ぬ で 部屋 の 自分

(太郎は次郎を自分の部屋で死なせた。)

例(13)では mình 「自分」は「太郎」を指すという解釈しかない。それに対して、(14)の場合、「自分」は「太郎」でも「次郎」でも解釈できる。つまり、ベトナム語でも bắt、để、cho、làm cho、khuyến cho 使役を表す形態素を用いる使役文は補文構造をとるのに対して、他動詞文では、補文構造をとらないということが分かる。

次は数字の副詞をつける場合を考察してみよう。

(15) a. 太郎は次郎に二回買い物に行かせた。

b. Taro bắt/cho/để cho Jiro đi mua đồ hai lần

. 太郎 させる 次郎 行く 買い物 二回

例(15)では日本語とベトナム語いずれも「太郎が次郎に買い物に行くように2回指示した」また「太郎が次郎に2回買い物に行くように指示した」という意味に解釈することが可能である。この現象からも、日本語とベトナム語のいずれにおいても、<NP2 V>の部分が補文であると解釈できることがわかる。

ただし、副詞表現については両言語の間には異なる点もある。ベトナム語では、確かに解釈が二義的であるが、人によって後者の方が前者より意味がはっきりすると考える傾向もある。ベトナム語では回数を表わす場合、副詞は修飾したい言葉の近くに付けた方が落ち着きが良い。(15) b では、回数副詞が文の後ろに置かれて、文全体にかかっている。一方、(15) c のように回数副詞は太郎の動作の前に置かれているので、太郎の動作にしかかかっていない。この場合の「二回」は完全に次郎の動作は修飾しない。

(15) c. Taro 2 lần bắt/cho/đề cho Jiro đi mua đồ.
 太郎 2回 させる 次郎 行く 買い物

(太郎は次郎を買い物に行くように2回指示した。)

次は khiến cho/làm cho 使役表現における回数の副詞を見てみよう。

(16) a. 太郎は次郎を 3回 困らせた/がっかりさせた/泣かせた。

b. Taro đã làm cho Jiro lúng túng/thất vọng/ khóc 3 lần.
 太郎 [既然] させる 次郎 困る /がっかりする/泣く 3回

例(16) a、bでは、日本語とベトナム語ではいずれも「太郎が3回も何らかのことをして次郎を困らせた/がっかりさせた/泣かせた。」という意味に解釈できる。このような使役表現では NP2 の作用は意図性がなく、NP1 の働きかけを受けて自然に発生することなので、NP1 の一回の働きかけで NP2 が三回も行為を行うとは解釈し難い。(16) b での回数の副詞は文末に置かれても同時に NP1 の動作も NP2 の動作も表わすが、NP1 と使役動詞の間に置いた方がより落ち着きがいい。

(16) c. Taro đã ba lần khiến cho/làm (cho) Jiro lúng túng/thất vọng/ khóc.
 太郎 [既然] 三回 させる 次郎 困る/がっかりする/泣く

(太郎は次郎を3回困らせた/泣かせた/がっかりさせた。)

言い換えれば、ベトナム語では、再帰代名詞を付ける場合、「mình (自分)」は V の後ろに来るしかないのに対して、数字の副詞は再帰代名詞より自由に置くことが出来る。使役者の動作の回数を強調したい場合、使役動詞の前に数字の副詞を付ける。一方、V の後ろに置くと被使役者の動作、作用などを表すとも使役者の動作を表すとも解釈出来る。

この場合にも、「自分」と同様、他動詞文と使役形態素「させる」を用いる使役構文は相違点がある。

(17) 太郎は次郎を2回倒した。

(18) 太郎は次郎を2回倒れさせた。

例えば、日本語の「太郎は次郎を2回倒した。」の場合、太郎の働きかけが2回あったという解釈しかできない。それに対して、「太郎は次郎を2回倒れさせた」の場合、太郎の働きかけが2回という解釈でも、太郎が次郎に「2回倒れなさい」と1回だけ指示したという解釈でも可能である。

この点に関しても、ベトナム語は日本語と同様である。

(19) Taro xô Jiro hai lần.

太郎 倒す 次郎 二回

(太郎は次郎を2回倒した。)

(20) Taro làm cho Jiro ngã hai lần.

太郎 させる 次郎 倒れる 二回

(太郎は次郎を2回倒れさせた。)

例(19)では「太郎の働きかけ」が2回あったという解釈しかない。一方、(20)では「太郎の働き」が2回という解釈も、「次郎は倒れる」のが2回という解釈も可能である。

しかし、情態副詞の場合は、日本語とベトナム語は異なる。

(21) a. 太郎は次郎に一生懸命受験勉強をさせた。

(22) a. 太郎はわざと次郎に負けさせた。

(23) a. 太郎は全力で次郎に研究させた。

例(21)、(22)、(23) a は再帰代名詞と数字副詞と同じように、二義的に解釈することが可能である。日本語では「一生懸命」「わざと」「全力」等の副詞は、NP1の働きかけとNP2の動作をそれぞれ修飾することが出来る。一方、ベトナム語に訳す場合、「NP1が一生懸命／わざと／全力」か「次郎が一生懸命／わざと／全力」か、はっきり言及しなければならない。ベトナム語では情態副詞を用いる場合、二義性が出ないので、使役者を修飾するのか、被使役者を修飾するのかで、置く場所が異なる。(21)、(22)、(23) a は二つの方法で訳される。

「太郎が一生懸命次郎にさせる」「太郎がわざと次郎にさせる」「太郎が全力で次郎にさせる」、つまりNP1の働きかけの意味を表したい場合、(21)、(22)、(23) bのように副詞は使役動詞

の前に置かなければならない。

- (21) b. Taro đã cố gắng bắt Jiro học luyện thi.
太郎 [既然] 一生懸命 させる 次郎 受験勉強
(太郎は次郎に一生懸命受験勉強をさせた。)

- (22) b. Taro đã cố tình bắt Taro thua.
太郎 [既然] わざと させる 太郎 負ける

- (23) b. Taro đã đọc hết sức bắt Taro nghiên cứu.
太郎 [既然] 全力で させる 太郎 研究する

一方、「次郎が一生懸命受験勉強をする」「次郎がわざと負ける」「次郎が全力で研究する」ことを表したい場合、(21)、(22)、(23) cのように訳す。

- (21) c. Taro đã bắt Jiro cố gắng học luyện thi.
太郎 [既然] させる 次郎 一生懸命 受験勉強
- (22) c. Taro đã bắt Taro cố tình thua.
太郎 [既然] させる 太郎 わざと 負ける
- (23) c. Taro đã bắt Taro đọc hết sức nghiên cứu.
太郎 [既然] させる 太郎 全力で 研究する

ベトナム語では通常、副詞は修飾される動詞の前に位置し、その動詞のみを修飾する。一方、一つの文の中に二つの動詞がある場合、二つ目の動詞の前に位置していればその直後に位置する動詞が修飾されることになる。

3.3.2 様々な動詞と結合する

次は日本語とベトナム語における使役構文の動詞について考察してみる。

日本語における使役を表す「させる」は意志的動詞でも、無意志的動詞でも結合して、使役文を作る。動詞によって、使役文の意味を表す。意志的動詞と結合する場合、命令・指示によって働きかけを表すのが多いのに対して、無意志的動詞と結合する場合、指示・命令な

どの働きかけではなく、原因を表す意味を表す。一方、ベトナム語では補文の動詞の意志・無意志によって、使役を表す要素も異なる。bắt、cho、đề (cho) 使役構文は意志動詞と結合し、khiến (cho)、làm (cho) は無意志動詞と結合する。

使役を表す要素が異なるが、日本語における「させる」使役構文とベトナム語における bắt、cho、đề (cho)、khiến (cho)、làm (cho) 構文に来る動詞は様々である。自動詞も、他動詞も、感情動詞などが来るのは両言語における使役文の共通点である。勿論、両言語ではすべての動詞は使役構文に来るわけではない。日本語では所動詞、例えば「要る」、「ある」、「出来る」等の動詞は「させる」使役構文と結合することが出来ない。ベトナム語でも同様に、cần 「要る」、có 「ある」、hợp 「似合う」、~được 「出来る」などの動詞は使役文では用いられない。両言語に共起できない動詞については 3.5.4 で詳細に述べる。

3.3.3 誘発の意味を持つ

使役文は、使役者が被使役者に何らかの行為・動作を引き起こすように働きかける意味を表す。言い換えれば、被使役者によって行われた動作・作用は使役者の誘発によって引き起こされたものであり、使役者の誘発がなければ、被使役者はすすんでそのようなことをしなかったということになる。使役者とは、命令、指示などを与えて被使役者に動作を行わせる者である。ここで注目したいのは、被使役者に対する使役者の働きかけが言葉による指示、命令であるという点である。この使役構文は指示使役でも成立する。

(24) 太郎君、秘書に言って、すぐに資料を会議室に持って来させて。

(25) Taro, bảo cô thư ký mang tài liệu đến phòng họp gấp.
太郎 言う 秘書 持つ 資料 来る 会議室 すぐ

(太郎君、秘書に言って、すぐに資料を会議室に持って来させて。)

3.3.4 強制の意味を持つ

日本語における「させる」使役構文もベトナム語における bắt 使役構文も、強制的な意味を表す。それは、使役者が被使役者にある行為をさせることが、被使役者の望みや気持ち等に反するものである、また被使役者がやむを得ず使役者の命令や指示の通りにある行為をす

るという意味を表す。被使役者が嫌がったりやりたくなかったりしても使役者は何らかの形で働きかけるので、このような使役構文は強制のニュアンスが伴う。そしてこの強制使役構文では、使役者は被使役者に強制できるような立場にいることを前提とする。普通、社長と社員、先生と学生、親と子、上官と兵士、上司と部下のような統制と被統制の関係にあることが多い。

(26) お金のため、その母親は娘を年輩の人と結婚させた。

(27) Vì tiền, người mẹ đó đã bắt
 ~ため お金 母親 その [既然] させる
 con gái kết hôn với người lớn tuổi.
 娘 結婚する と 年寄りの人

(お金のため、その母親は娘を年寄りと結婚させた。)

3.3.5 許可の意味を持つ

3.3.5.1 許可を与える

両言語には「許可を与える」使役構文が存在する。この構文ではある出来事を引き起こそうという願望が被使役者にあり、その願望の実現に向けて使役者が許可を与えるという文である。

(28) 顔色が悪い花子を見て、先生は彼女を早く帰らせた。

(29) Nhìn sắc mặt Hanako không tốt,
 見る 顔色 花子 ~ない よい
 nên thầy giáo đã cho cô ấy về sớm.
 だから 先生 [既然] させる 彼女 帰る 早く

(顔色が悪い花子を見て、先生は彼女を早く帰らせた。)

「許可を与える」使役では使役者が被使役者にプラス的な影響を及ぼす意味を表す場合もある。日本語の場合はよく恩恵の授受を表す「~てやる」「~てあげる」と結合する。一方ベ

トナム語の場合は、cho は元々恩恵の授受を表すものである。このタイプの使役構文は被使役者にとって利益を得るタイプである。

(30) 彼女は娘を日本に留学させてやった。

(31) Cô ấy đã cho con gái du học Nhật.
彼女 [既然] させる 娘 留学する 日本
(彼女は娘を日本に留学させてやった。)

また、使役者は被使役者にあることをする〈許可〉を与えるのが使役者にとって不本意であることを表す場合もある。この場合、日本語では「～しかない」、ベトナム語では *đành phải* 「仕方がなく～するしかない」という言葉と結合する。

(32) 花子が熱が出たので、太郎は花子を休ませるしかなかった。

(33) Hanako sốt nên Taro đành phải cho Hanako nghỉ.
花子 熱がある ので、太郎 仕方がない させる 花子 休む
(花子が熱が出たので、太郎は花子を休ませるしかなかった。)

(32) (33) では本来なら「花子を休ませる」つもりはないが、「花子が熱が出たので」太郎はやむを得ず、「花子を休ませる」ことを表す。

3.3.5.2 許可を求める

両言語には「許可を求める」使役構文が存在する。日本語では「NP2をVさせる/Vをさしてください/Vさせていただけませんか」という表現である。ベトナム語では「cho phép NP2 V」である。どちらも、NP1に何らかの行為をさせるように許可を求める意味を表す。

(34) 自己紹介させていただきます。

(35) Cho phép tôi được tự giới thiệu.
させる 私 できる 自己紹介する
(自己紹介させていただきます。)

「許可を与える」と「許可を求める」意味を表す使役構文では、統制と被統制の関係を前提とする。

3.3.6 放任の意味を持つ

両言語における使役構文には「放任」を表す意味用法がある。被使役者が自らの意志によってある行為を引き起こそうとしている、あるいは引き起こしていることに対して、使役者は妨げず、邪魔をせず、放っておくという意味を表す。「放任」は「許可」と同様に統制と被統制の関係を前提とするが、「許可を与える」場合では、使役者は被使役者が主体となる出来事の発生に許可を与えるという形で積極的に関与する。一方、「放任」の場合は、使役者は被使役者が主体となる出来事の発生を妨げないで、成り行きに任せることで消極的に関与するという意味を表す。日本語では、よく「～ておく」と結合する。一方、ベトナム語では *để* (cho) 「～させておく」の形で表現される。

(36) 彼女が泣きたいなら、泣かせておいて。

(37) *Nó muốn khóc cứ để cho nó khóc.*
彼女 ~たい 泣く そのまま ~ておく させる 彼女 泣く
(彼女が泣きたいなら、泣かせておいて。)

「放任」使役では使役者が被使役者にプラス的な影響を及ぼす意味を表す場合もある。つまり、使役者は思いやりの気持ちで被使役者の願望に基づく動作、行為の実現を妨げず、成り行きに任せるという意味を表す。

(38) 子供の成績がよかったので、母親は子供を好きなだけ遊ばせておいた。

(39) *Vì thành tích học tập của con tốt,*
~ので 成績 学習 の 子供 よい
nên cô ấy đã để cho con chơi thỏa thích
故 彼女 [既然] させておく 子供 遊ぶ 満足する
(子供の成績がよかったので、母親は子供を好きなだけ遊ばせておいた。)

また、被使役者の動作、行為の実現を妨げないことが使役者によって不本意であるという意味を表す場合もある。

(40) 何回言っても子供が聞いてくれなかったので、彼女は子供に好きなことをやらせておいた。

(41) Vì nói mãi mà con chẳng chịu nghe, nên

～ので 言う ずっと しかし 子供 ～ない 聞く 故

cô ấy để cho con thích làm gì thì làm.

彼女 させるておく 子供 好き する 何 は する

(何回言っても子供が聞いてくれなかったので、彼女は子供を好きなことをやらせておいた。)

また、使役者は被使役者にマイナス的影響を及ぼす意味を表す場合もある。

(42) 花子は見ぬふりをして、子供たちに喧嘩させておいた。

(43) Hanako giả vờ không thấy để cho lũ trẻ đánh nhau.

花子 ふり 見えない させるておく 子供たち 喧嘩する

(花子は見ぬふりをして、子供たちに喧嘩させておいた。)

3.3.7 責任の意味を持つ

日本語における使役構文でもベトナム語における使役構文でも、たとえある者がある出来事の発生に全く関与していなかったとしても、それが使役者の立場にある人間であればその者に責任があることを表している。その出来事の発生は使役者の立場にある人間にとっては望ましくない出来事である。そして、使役者はその出来事の発生を防ぐ責任がある。

(44) 私は息子を戦争で死なせた。

(45) Tôi đã để/khiến cho con trai chết trong chiến tranh mất rồi.

私 [既然] させる 息子 死ぬ で 戦争 ～てしまう

(私は息子を戦争で死なせた。)

また、責任があるという意味を超えて、使役者には自らにとって望ましくない出来事を防ぐ責任や義務があるにもかかわらずそれをしなかったことにより望ましくない出来事を発生させてしまい、自分を非難、つまり自責する場合もある。ベトナム語のこの種類の使役構文はよく *mất rồi* 「～てしまう」という表現と結合する。

(46) 私は娘に風邪を引かせた。

(47) Tôi đã để cho con bị cảm mất rồi.
私 [既然] させる 子供 風邪を引く ～てしまう
(私は娘に風邪を引かせた。)

(48) 私は息子を事故に遭わせてしまった。

(49) Tôi đã khiến cho con trai bị tai nạn mất rồi.
私 [既然] させる 息子 遭う 事故 ～てしまう
(私は息子を事故に遭わせてしまった。)

以上は日本語における「させる」使役表現とベトナム語における使役文の *bắt*、*cho*、*để* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) の共通点を示したが、これをまとめると次の通りである。

- 1) 日本語の「させる」使役表現とベトナム語における使役文の *bắt*、*cho*、*để* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) 使役構文はいずれも、NP1 が働きかけ、NP2 がその働きかけを受けて動作を行う、あるいは NP1 が原因で NP2 にある状態変化をもたらすという意味を表す。
- 2) 日本語の「させる」使役表現とベトナム語における使役文の *bắt*、*cho*、*để* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) 使役構文は両方とも補文構造を持っている。
- 3) 日本語の「させる」使役表現とベトナム語における使役文の *bắt*、*cho*、*để* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) 使役構文は両方とも様々な動詞と結合できる。
- 4) 日本語の「させる」使役表現とベトナム語における使役文の *bắt*、*cho*、*để* (*cho*)、*khiến* (*cho*)、*làm* (*cho*) 使役構文は両方とも誘発、強制、許可、放任、責任を表すことが出来る。

3.4 「させる」と **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**khiến (cho)**、**làm (cho)** の違い

3.4.1 構文上の違い

日本語における「させる」使役構文の「NP1 が NP2 に／を V させる」では使役を表す「させる」形態素が動詞の未然形に接続した形になる。一方、ベトナム語は孤立語のため動詞に使役を表す形態素が結合することなく、「NP1 { **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**khiến (cho)**、**làm (cho)** } NP2 V」の構文では働きかけを表す **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**khiến (cho)**、**làm (cho)** 等の使役動詞と、その働きかけを受けて動作・作用を行う動詞は、間に被使役者の NP2 を挟んで形式の上では分離された形となっている。それぞれの使役動詞は異なる使役性を表す。そして、文法の役割も異なっている。日本語の「させる」と比べて、ベトナム語における使役動詞はより語彙的性格が強い。「させる」使役表現と **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**khiến (cho)**、**làm (cho)** の使役表現ではよく見られる違いは結果の含意の有無である。

3.4.2 NP2 の状態変化の結果を含意するかどうか

日本語における「させる」使役文では使役者の NP1 が被使役者の NP2 に対する働きかけが完了した時点では、被使役者の動作も完了しなければならない。一方、ベトナム語における **bắt**、**cho**、**đề (cho)**、**khiến (cho)**、**làm (cho)** の使役表現は二つのグループに分けられる。**bắt**、**cho**、**đề (cho)** 使役表現は NP1 の NP2 に対する働きかけが完了した時に、NP2 の動作は行われなくてもよいのに対して、**khiến (cho)**、**làm (cho)** の使役表現では NP1 の働きかけと同時に NP2 の動作が完了しなければならない。

まず、**bắt** 使役構文を見てみよう。ベトナム語における **bắt** 使役構文では、NP1 の NP2 に対する働きかけが行われる。その働きかけを受けた NP2 が動作を行う場合と、行わない場合の両方の解釈が可能である。

(1) Taro **đã** **bắt** Hanako đi chợ, nhưng Hanako không đi.
太郎 [既然] させる 花子 行く 市場 しかし 花子 ~ない 行く

- (2) *a.太郎は花子を市場に行かせたが、花子は行かなかった。
 b.太郎は花子を市場に行かせようとしたが、花子は行かなかった。
 c.太郎は花子に市場へ行くように言ったが、花子は行かなかった。
 d.太郎は花子に市場に行けと言ったが、花子は行かなかった。

形式上でも意味上でも、ベトナム語の例文 (1) に一番対応する表現は (2) a であると思われるが、日本語における「NP1 が NP2 に／を V させる」使役構文では、基本的に NP1 の NP2 に対する働きかけが完了した時、NP2 の動作も完了しなければならない。(2) a は NP1 の太郎の働きかけは完了しているが、NP2 の花子の動作はまだ完了してないので、非文である。「～ようとする」という表現が付加される (2) b の方が、日本語としては落ち着きが良い。日本語の (2) b はベトナム語の (1) に意味上で対応している。(2) b 「～ようとする」という表現を逆にベトナム語に訳す場合には、以下の (3) のように *định* という表現を用いる。

(3) *Taro	<i>định</i>	<i>bắt</i>	Hanako	<i>đi</i>	<i>chợ,</i>
太郎	～ようとする	させる	花子	行く	市場
<i>nhưng</i>	Hanako	<i>không</i>	<i>đi.</i>		
しかし	花子	～ない	行く		

(太郎は花子を市場に行かせようとしたが、花子は行かなかった。)

例 (1) と (3) はベトナム語では意味が異なる。例 (1) では、NP1 の太郎が NP2 の花子に対する働きかけを行っているが、働きかけを受けた花子はまだ動作を行っていないという意味を表す。一方、例 (3) では、花子の動作がまだ行われていないことは勿論、太郎の働きかけもまだ完了していない意味を表す。つまり、ベトナム語における「NP1 *định* V」は「まだ、実現していない。これから、すること」だけを表す。そして、「NP1 *định* V、しかし、～ない」構文では、文の主語も補文の主語も同じ人物でなければならない。そのため、例 (3) のベトナム語には対応しない。*định* 構文は以下の例 (4)、(5) であれば、自然な文になる。

(4) Taro	định	bắt	Hanako	đi	chợ,
太郎	～ようとする	させる	花子	行く	市場
nhưng	anh ấy	quên.			
しかし	彼	忘れる			

(太郎は花子を市場に行かせようとしたが、つい(彼女を行かせることを)忘れてしまった。)

(5) Taro	định	bắt	Hanako	đi	chợ,
太郎	～ようとする	させる	花子	行く	市場
nhưng	anh ấy	không	tìm thấy	Hanako.	
しかし	彼は	～ない	見つける	花子	

(太郎は花子を市場へ行かせようとしたが、彼女が見つからなかった。)

また、「～ようとする」構文に対応するベトナム語の表現としては **định** 「～ようとする」以外にも、**cố** 「努力する／工夫して、苦労して～する。」という表現もある。この **cố** はよく他動詞文に使われる。つまり、NP1 は工夫して、苦労してある動作を行うことを表す。**bắt** / **cho** 使役構文では通常統制被統制の関係で、NP1 は命令・指示で被使役者に働きかける。また、苦労して命令・指示するのは不自然である。

ところで、(2) c、d は (1) と形態上は対応していないが、意味上では妥当な表現である。

(2) c、d はベトナム語の例文 (1) に対応する適切な表現だと言える。

次に、**cho** 使役構文を見てみよう。**cho** 使役構文も **bắt** 使役構文と同じように、NP2 に何らかをすることに対して NP1 が許可を出す、または実行するチャンスを与えている。ただここで注意したいのは、NP2 はその許可を得るが、動作を行う場合と動作を行わない場合の両方の解釈ができることである。

(6) Taro đã	cho	Hanako về	sớm,	nhưng	cô ấy	không	về.
太郎 [已然]	させる	花子 帰る	早く	しかし	彼女	～ない	帰る

(7) a.*太郎は花子を早く帰らせたが、彼女は帰らなかった

b.太郎は花子を早く帰らせようとしたが、彼女は帰らなかった。

c.太郎は花子に早く帰るように言ったが、彼女は帰らなかった。

d.太郎は花子に早く帰ってもいいと言ったが、彼女は帰らなかった。

例(6)も形態上、最も適切に対応する日本語の表現は例(7) a であるが、日本語の例(7) a は非文である。日本語と構文的に対応する表現は例(7) b である。例(7) b は例(2) b と同様で、ベトナム語に訳したら、định か、あるいは có を付加しなければならない。しかし、cho 使役構文の使役者と被使役者の関係は統制と被統制である。使役者は被使役者の願望に応じて、許可を出す。または、被使役者が望まなくても、使役者の善意で許可を出す意味を表すので、có は適切ではない。また định では、補文を否定する場合文の主語と補文の主語も同じになる。(7) c、d は構文上(6)に対応しないが、意味的には同等の表現である。

日本語では、「させる」使役表現は必ず、NP1 の働きかけの結果、NP2 の動作も行われる意味を表すのに対して、ベトナム語では、NP2 の動作を行わない場合もある。このように、NP2 が動作を行わない場合、日本語では「～ようとする」という表現を付けなければならない。しかし、日本語における「させる」「～ようとする」とベトナム語における「bắt/cho」、「định」の用法では違いがある。

	「させる」	「ようとする」	
日本語	NP1 が働きかけ NP2 の動作も完了する。	NP1 の働きかけは完了したが、NP2 の動作はまだ行われない。	NP1 の働きかけも NP2 の動作も完了していない。
ベトナム語		bắt/cho	
	NP1 が働きかけるが NP2 の動作は含意しない。	NP1 の働きかけは完了したが、NP2 の動作はまだ行われない。	định NP1 の働きかけも NP2 の動作も完了していない。

日本語における「させる」使役文は V と「させる」とが結合して「V させる」になる。この「V させる」は複合動詞のように、使役者の働きかけと同時に被使役者の動作も表わす。使役者の働きかけと被使役者の動作を分けることが出来ないため、被使役者の動作がまだ完了していないことは表現できない。一方、ベトナム語の bắt と cho 使役文では bắt/cho と V の間に被使役者の NP2 があり、使役者の働きかけ部分と被使役者の動作の部分は分けられている。使役者の働きかけが完了した時点でも、被使役者の動作はまだ実現されていなくてもよい。

このような「させる」と bắt/cho の違いは、いくつかの現象に反映されている。まず、使

役を表す要素が単独で使われるかどうかについて見てみよう。

(8) A: 誰が花子を早く帰らせたの？

B: ??私はさせた。

(9) A: 誰が貴方にそんなにたくさんビールを買わせたの？

B: ??田中さんがさせた。

(10) A: Ai đã cho Hanako về sớm?

誰 [既然] させる 花子 帰る 早く

(誰が花子を早く帰らせたの？)

B: Tôi cho.

僕 させる

(僕がさせた。)

(11) A: Ai bắt em mua nhiều bia như vậy?

誰 させる 貴方 買う たくさん ビール そんなに

(誰がそんなにたくさんビールを買わせたの？)

B: Anh Tanaka bắt.

田中 させる

(田中さんがさせた。)

例(8)、(9)では、「させる」で使役者の働きかけだけを表わすことは不可能である。日本語における使役構文は必ず、NP2の動作を表わす動詞にNP1の働きかけの使役を表す「させる」という形態素が結合しなければならない。一方ベトナム語では、例(10)、(11)のように使役の意味を表す要素だけとりあげることも可能である。言い換えれば、NP1の働きかけを表わす使役動詞と、NP2の動作を表わす動詞は独立していて、必ず結合しなければならないということはない。

つまり、日本語の「させる」使役表現は複合した形を取っていて、NP1の働きかけが完了し、NP2の動作も実現する意味を表すのに対して、ベトナム語の bắt / cho 使役構文は日本語のように複合した形を取っていないため、NP1の働きかけとNP2の動作・作用を別々に表わすことが可能である。NP1の働きが終わった時点で、NP2の動作が行われなくてもよいのである。以下の例もこの違いを反映している。

- (12) a. Khi nào tôi cho phép nói thì em hãy nói.
 いつ 私 させる 言う は 貴方 ~ください言う
 b. (直訳*私が貴方に言わせたら、言ってください。)
 c. 私が言えと言ったら、言いなさい。
- (13) a. Trường bắt nộp học phí mấy lần rồi
 学校 させる 出す 学費 何回 [完了]
 nhưng con chưa có tiền.
 しかし 私 まだ ある お金
 b. (直訳*学校が学費を何回も出させたが、まだ出すお金がない。)
 c. 学校が何回も学費を出すように促したが、まだ出すお金がない。
- (14) a. Bố đã bắt em nấu cơm, tại sao em không nấu?
 父 [既然] させる 貴方 ご飯を作る 何故 貴方 ~ない 作る
 b. (直訳：*父は貴方にご飯を作らせたが、なぜ、作らなかったの?)
 c. 父は貴方にご飯を作るようにと言ったが、どうして作らなかったの?
- (15) a. Bác sỹ bắt anh bỏ thuốc lá, sao anh còn hút?
 医者 させる あなた 辞める タバコ 何故 あなた まだ 吸
 b. (直訳：*医者は貴方にタバコを辞めさせたが、何故まだ吸っているの?)
 c. 医者がタバコを辞めるように言ったが、何故、まだ吸っているの?

上の(12)～(15)の例文はNP1がNP2に働きかけを行ったが、NP2の動作がまだ行われていない例である。ベトナム語では**bắt**、**cho**を用いているが、日本語では「させる」を用いると、非文になってしまう。つまり、ベトナム語の**bắt**、**cho**を用いた構文ではNP1の働きかけだけを表わす。NP2の動作の実現を含意しなくてもよい。一方、日本語での「させる」は必ず、NP2の動作の実現を含意しないといけないので、このような文は日本語では、「～ようにいう」や「という」が用いられる。

次に **đề cho** と「させる」の違いについて考察してみる。

ベトナム語では **đề** (**cho**) は意味的に NP1 が何らかの働きかけをして、NP2 にある状態に変化させる、あるいはある状態を生じさせることを表わす。従って **đề**～**không V** 構文では、NP1 が何らかの働きかけをして、NP2 に「～できない」という状態を生じさせる意味を表す。

(16) a. Tôi giấu chìa khóa xe để anh ấy khỏi đi chơi.
私 隠す 鍵 車 させる 彼 ~ない 遊びに行く

b. 私は車の鍵を隠して、彼が遊びに行けないようにする。

(17) a. Tôi kéo rèm cửa để sinh viên
私 閉める カーテン ~させる 学生

không thể nhìn ra bên ngoài
~できない 見る 外

b. 私はカーテンを閉めて、学生が外を見ることができないようにする。

(18) a. Tôi đã giữ hết tiền lương của chồng
私 [既然] 預かる すべて 給料 の 主人

để anh ấy không mua sắm bất bậ được.
させる 彼 ~ない 買い物 衝動買い 出来る

b. 私はすべての主人の給料を預かっていて、彼が衝動買いできないようにする。

ベトナム語では、để 構文では、よく可能を表わす được、có thể の助動詞と結合するので、このような文を日本語に訳すと、「させる」の代わりに「ようにする」という表現の方がよく使われる。後述のように、日本語では可能形は使役動詞に用いられないためである。

để (cho) 構文では、NP2 が人間だけでなく自然現象などでも対応する。この場合でも、日本語の「ようにする」という表現を用いる。

(19) a. Taro mở cửa sổ để cho gió thông vào
太郎 開ける 窓 させる 風 通る 入る

b. 太郎は窓を開けて、風が通るようにした。

上に述べた例文では、ベトナム語でも日本語でもほとんど NP2 がある目的を持って、何らかの働きかけを行う意味を表す。しかし、ベトナム語における để cho 表現は「ようにする」という表現にだけに対応するわけでない。để cho 表現は「させる」と訳すことも可能である。以下の例 (20) ではベトナム語の để cho 構文が日本語の「させる」構文に当たる例である。

(20) a. Bác sỹ đã làm mọi cách để cho bệnh nhân hồi phục.

医者 [既然] する すべて 方法 ~させる 患者 回復する

b. 医者はあらゆる手を尽くして病人が回復するようにした。

c. 医者はあらゆる手を尽くして病人を回復させた。

「させる」と「ようにする」の異なる点について楊（1989）は「させる」は NP2 の作用・状態変化が結果として現れた場合に用いられるのに対し、「ようにする」は NP2 の作用・状態変化が目的としてまだ実現していない場合に用いられると述べている。一方ベトナム語ではこのような違いはない。日本語における「ようにする」も「させる」もベトナム語では *để cho* に対応する。

つまり、例（20）b、（20）c の違いは（20）c は NP1 の状態変化の実現を含意するものであるが、（20b）は含意しなくても良い。そのことは、以下のような例の対比にも現れている。

(21) a. Bác sỹ đã làm mọi cách để cho bệnh nhân hồi phục.

医者 [既然] する すべて 方法 ~させる 患者 回復する

nhưng bệnh nhân vẫn không hồi phục được.

しかし 患者 まだ ~ない 回復する できる

b. 医者はあらゆる手を尽くして病人が回復するようにしたが、病人は回復しなかった。

c.*医者はあらゆる手を尽くして病人を回復させたが、病院は回復しなかった。

（21）では、結果状態が生じたことを否定する文をつけたが、ベトナム語の *để cho* と日本語の「ようにする」では、結果状態の否定が可能であるのに対し、日本語の「させる」は結果状態を否定することができない。したがって、「ようにする」と *để cho* は結果状態を含意しないのに対し、「させる」は結果状態を含意することが分かる。

その「させる」と「ようにする」の違いは以下のように纏められる。

	手段と目的の関係	原因と結果の関係
日本語	～ようにする	させる
ベトナム語	để (cho)	

次に làm (cho)、khiến (cho) と「させる」の違いについて考察してみよう。

bắt, cho, để (cho) と違って làm (cho)、khiến (cho) は日本語における「させる」と同様に、NP1 が NP2 に働きかけをして、その働きかけを受けた NP2 がある行為を行う、あるいはある状態に変化するという意味を表す。つまり NP2 の動作の実現、変化の結果を含意する。bắt, cho, để (cho) は NP1 が命令・指示等で NP2 に働きかけをするのに対して、làm (cho)、khiến (cho) 使役構文では NP1 は原因で、NP2 が結果を表す。

- (22) Taro đánh vào đầu Jiro, khiến cho nó khóc.
 太郎 叩く に 頭 次郎 させる 彼 泣く
 (太郎は次郎の頭を叩いて次郎を泣かせた。)

- (23) Hanako nói chia tay làm cho Taro đau khổ.
 花子 言う 分かれる させる 太郎 悲しむ
 (花子は別れると言って、太郎を悲しませた。)

bắt, cho, để (cho) 使役構文では、NP1 が働きかけをして、NP2 はその働きかけを受けて、自分の意志で動作を行うのに対して、làm (cho)、khiến (cho) 使役構文では、NP2 は自分の意志で決めるのではなく、NP1 の働きかけを受けて、自然にある作用を行うあるいはある状態に変化する。従って、khiến cho、làm cho 使役構文では V の位置に来る動詞は通常意志動詞ではなく、人間の心理状態変化を表す動詞や感情動詞や形容詞等である。従って、NP2 は NP1 の働きかけを受けたら、何らかの状態を変化することを表す。

- (24) *Hanako đã làm cho Taro đau khổ
 花子 [既然] させる 太郎 悲しむ
 nhưng Taro không đau khổ
 しかし 太郎 ~ない 悲しむ
 (*花子は太郎を悲しませたが、太郎は悲しまなかった。)

- (25) *Sự hiểu lầm đã khiến cho hai người đó chia tay
 誤解 [既然] させる 二人 その 分かれる
 nhau nhưng hai người vẫn không chia tay.
 お互い しかし 二人 まだ ない 分かれる
 (*誤解は二人を分かれさせたが、二人は分かれなかった。)

上の例文から見ると、làm cho、khiến cho は NP1 の働きかけと同時に NP2 の変化を表すと
 言える。

3.5 誘発使役

ここまでは、日本語の「させる」とベトナム語の「bắt, cho, để (cho), khiến (cho), làm (cho)」の全体的な共通点と相違点について見てきた 3.5 から 3.7 では、柴谷 (1978) の分類に従って、そのそれぞれの使役の用法が日越の両言語においてどのように表現されるかを具体的に観察していく。

柴谷 (1978) は日本語の使役文を「誘発使役」と「許容使役」の二つに分けている。誘発使役とは、ある事象に関して使役者の誘発があったために起こったという状況を指す。誘発使役における「を」使役は被使役者の意志を無視した表現で、「に」使役は被使役者の意志を尊重した表現であるとしている。

まず誘発使役に関してであるが、定義によると被使役者が行った動作・作用は使役者の誘発によって引き起こされたものであり、使役者の誘発がなければ起こらない。誘発使役文における誘発にはいくつかの種類がある。まず、使役者が被使役者に言葉による指示・命令を下して働きかける場合がある。

- (1) 将軍が兵士に命令を出して、後退させた。

例 (1) では、NP1 は NP2 に指示・命令を出して、何らかのことをさせる意味を表す。この場合の使役文では、V の位置に来る動詞は通常意志的動詞である。

一方、使役者の働きかけが言葉による指示、命令以外の場合もある。

(2) 私は赤ちゃんに靴下を履かせてやった。

このような構文では、使役者は直接自分の手で被使役者に何らかの動作を行う。また、同じ言葉による指示、命令ではなく、働きかけを表す使役表現がある。それは、使役者が原因となって、被使役者にある変化をもたらしたりある動作をさせたりする意味を表すものである。

(3) 彼女は皆を驚かせた。

(4) 太郎は花子を笑わせた。

例(3)、(4)ではNP1はNP2に対して、命令・指示等を出したのではない。NP1は原因で、NP2がある作用を行う、あるいはある状態変化をもたらす。この場合の使役は通常意志的動詞ではなく、心理状態の変化を表す動詞などである。

以上のように、日本語では、命令・指示等による使役文、NP1が自分の手でNP2に何らかの動作を行う使役文、そして、NP1が原因となってNP2がある状態に変化する、あるいはある作用が与えられる使役文がある。日本語ではいずれも「させる」を使って表現するが、動詞によって使役の性質が若干異なる。一方、ベトナム語では、日本語のような使役の意味を表す「させる」がないため、使役動詞を使って使役表現を表す。そして使役動詞によって使役の性質も異なる。ベトナム語の使役動詞は様々あるが、そのうち最もよく使われているのは *bắt*、*cho*、*đề* (*cho*)、*làm* (*cho*)、*khiến* (*cho*) である。

本研究では、誘発使役では使役者NP1が強制的に被使役者NP2に働きかけを行う強制使役と、NP1が直接自分の手でNP2に動作を行う使役、さらにNP1が原因となってNP2の心理的状态に変化をもたらす使役といわゆる所動詞の場合に分けて考察してみることとする。

3.5.1 強制的使役

使役者が被使役者にさせるある行為が被使役者の望みや気持ちに反するものであり、使役者がやむを得ず使役者の要求通りに実行するという強制的な意味を表す使役文を強制使役文と言う。このタイプの使役は、使役者が何らかの形で働きかけて被使役者の嫌がっていることや、やりたくないことを、その被使役者に強制的にやらせることを表わすため、常に強制

のニュアンスが伴う。使役者と被使役者の関係は統制と被統制であり、使役者は被使役者に強制できるような立場にいることを前提とする。日本語では、強制的な使役を表す場合にも「させる」を用いる。ベトナム語では、この強制的な使役を代表する使役動詞は **bắt** である。

日本語でもベトナム語でも、強制使役は NP1 が言葉によって命令・指示を出すことで NP2 に働きかけを行、何からのことをさせる。

(5) a. コーチは命令して、選手達を 2 時間運動場で走らせた。

b. Huấn luyện viên ra lệnh, bắt cầu thủ
 コーチ 命令を出す させる 選手達
 chạy hai tiếng tại sân vận động.
 走る 2 時間 で 運動場

(コーチは命令して、選手達を 2 時間運動場で走らせた)

(6) a. 先生は宿題をしない生徒に 50 回も書かせた。

b. Thầy giáo bắt học sinh không làm bài tập chép 50 lần.
 先生 させる 生徒たち ~ない 宿題をする 書く 50 回

(先生は宿題をしない生徒に 50 回も書かせた。)

そして、両言語における強制使役の手段は、言葉によってだけでなく動作によっても可能である。

(7) a. 父は子供の鼻を摘んで薬を飲ませた。

b. Người bố bóp mũi, bắt con uống thuốc.
 父親 つまむ 鼻 させる 子供 飲む 薬

(父は子供の鼻をつまんで薬を飲ませた。)

(8) a. あの保育士は無理やり子ども達の口を開けてご飯を食べさせたので、逮捕された。

b. Bảo mẫu đó đã bóp miệng của những đứa trẻ
 保育士 あの [既然] 開ける 口 の 子供たち
 bắt chúng ăn nên đã bị bắt.
 させる 彼ら 食べる だから [既然] ~られる 逮捕する

例 (7)、(8) では、使役者は「鼻を摘まむ」「口を開ける」などの具体的な動作によって働きかけ、被使役者は「薬を飲む」「ご飯を食べる」という動作行わざるを得なかったという強制の意味を表す。

また、言葉に動作を交じえた「言動」である場合もある。これは日本語でもベトナム語でも同様である。

(9) a. 母は一週間も絶食して、私の結婚を止めさせた／止めさせようとした。

b. Mẹ đã tuyệt thực một tuần để bắt tôi cưới vợ.
母 [既然] 絶食する 1 週間 ~ため させる 私 結婚する
(母は一週間も絶食して、私の結婚を止めさせた／止めさせようとした)

使役者が言葉による命令や指示によって被使役者に何らかのことをさせる場合は、使役者は被使役者を統制する立場であるが、(9) の場合は家族の関係であることが多い。

強制的使役文では、基本的に使役者が被使役者にあまり望ましくないこと、嫌がっていることなどをさせる意味を表す。使役者は被使役者より社会的地位が高い。NP2 が嫌がっても、拒否することは出来ない状況である。日本語では NP2 の動作の結果を含意しているが、ベトナム語では含意されていない。実際、NP2 は NP1 の命令・指示などを拒否することは出来ないが、反抗しようと思えば NP2 は動作を行わないことも不可能ではない。つまり、NP2 が動作を行うかどうかは自分の意志で決めることもできる。

3.5.2 日本語の二重他動詞に対応する表現

このグループで代表的なのは「着る」「履く」「被る」「嵌める」等の着脱類の動詞と、「見せる」などの動詞である。これらの動詞は「着せる」「見せる」「かぶせる」などの二重他動詞を有していると同時に、「させる」と結合すると使役文になる。

松本 (2000) は「着る／着せる」のような動詞は、前者が被使役動詞としての他動詞、後者が使役動詞としての二重他動詞と呼ぶ。この種類の代表的なものは以下のような動詞である。

他動詞	二重他動詞	使役形
着る	着せる	着させる
かぶる	かぶせる	かぶらせる
見る	見せる	見させる

柴谷（1982）は、以下の例を挙げている。

- (10) a. 太郎は次郎に服を着せた。
b. 太郎は次郎に服を着させた。
- (11) a. 太郎は次郎に写真を見せた。
b. 太郎は次郎に写真を見させた。

例（10）a では使役者の太郎が直接服を手にとって次郎に着せる。（11）a では太郎が直接写真を持って次郎に見せる。つまり使役者が被使役者に直接作用を与える操作使役であり、様態副詞句が太郎の使役行為だけしか修飾できない。動作主が一人しかいないということである。一方（10）、（11）b では通常次郎に服を着るように、写真を見るように指示を与え、次郎がその指示に従って「服を着た」、「写真を見た」という状況を表す。使役者は被使役者に口頭で何らかの行為をするように指示して、物事をさせる指示使役である。動作主は二人いて、それぞれ別に動作をしている、つまり、二つの事象が言い表されているということである。

寺村（1982）は「見させる」「着させる」使役の表現もあるため、「見せる」「着せる」は、使役的他動詞ともよぶべき特殊な性質の動詞であり、「見せる」は直接的で「見させる」は間接的であると述べている。つまり、「見せる」「着せる」等の複他動詞における NP1 の働きかけは、言葉などで指示したり命令を出したりするのではなく、実際に使役者が自分の手で動作を行うのが普通である。この種類の使役を操作使役と呼ぶ。一方、使役形の「着させる」「見させる」等は使役者が言葉で指示したり命令を出したりして、間接的に被使役者に何らかをするように仕向ける。このような使役は指示使役と言える。

奥津（1980）は「見る」の主語が「見せる」の間接的目的語になると述べている。「見せる」の文でも「次郎が写真を見る」という動作は含意されている。「見る」は目的語を一つしかとらない単他動詞文で、「見せる」の方は単他動詞文を埋め込んで、目的語を2つとる複他動詞

文と呼ぶことができる」と述べている。

一方、ベトナム語では日本語のような二重他動詞は存在しない。ベトナム語には日本語の二重他動詞に対応する表現は一つの単独の動詞で表わすことは出来ない、その代わりに、主に2項を取る他動詞+cho(～てあげる)である。つまり、使役者は被使役者のために、何らかのことはしてあげる意味を表す。

(12) Người mẹ mặc áo quần cho con.
母親 着る 服 ～あげる 子供

(直訳：母親は子供に服を着てあげる。)

(母親は子供に服を着せる。)

(13) Người mẹ đội mũ cho con.
母親 かぶる 帽子 ～あげる 子供

(直訳：彼女は子供に帽子を被ってあげる。)

(彼女は子供に帽子をかぶせてあげる。)

例(13)と(14)では、ベトナム語は日本語と同様で、母親は服を手にとって直接、子供に着せる、帽子を持って、子供の頭に被せる。この場合子供は何もしないで、ただ、母親の動作を受け取るだけの意味を表す。使役者は被使役者に直接作用を与える操作使役である。普通はこのような構文では、NP2は自分で動作を行う能力がない。NP2は赤ちゃん、動物、無生物、動作を行うことが出来ない人間である。あるいはNP2は動作を行う力があるが、何らかの理由で、動作を行わないということである。例えば、熱心な奥さんが自分の愛情で旦那さんに服を着せてやるとか、靴／靴下を履かせてやる等である。

これは、一見、日本語の二重他動詞構文と同等であるように思われるが、実際にはそうではない。なぜなら、ベトナム語では、この2項を取る他動詞+cho(～てあげる)は mặc～ cho「着せる」、mang～cho「履かせる」、đội～cho「被せる」のみであり、日本語の二重他動詞である「見せる」はこの構文を取ることができないからである。しかも、ベトナム語でこの構文を取ることができる mang～choは日本語では「履かせる」にあたり、これは二重他動詞形ではなく使役形である。従って、「他動詞+cho」構文は、日本語の二重他動詞構文と一対一に対応するとは言えない。

では、日本語の「見せる」に対応するベトナム語の構文は何だろうか。それは以下のよう

な構文である。

- (14) Hanako cho Taro xem hình cưới.
花子 ~あげる 太郎 見る 結婚写真
(花子は太郎に結婚写真を見せる。)

この「cho ~ (誰かに) +2 項を取る他動詞~」構文は、動詞「見る」だけでなく、「聞く」など他の多くの動詞にも使われる一般的な構文である。

- (15) Hanako cho Taro nghe nhạc.
花子 ~あげる 太郎 聴く 音楽
(花子は太郎に音楽を聞かせる。)

松本(2000)が指摘するように、日本語の「聞かせる」「履かせる」は形式的には動詞の統語的使役形であるが、解釈としては二重他動詞的な解釈と使役的な解釈の両方を持っている。すなわち、被使役者の意図的動作を含まない解釈と含む解釈である。このことは、ベトナム語の「cho~他動詞」構文にも当てはまる。

- (16) a. トマト／赤ちゃんに音楽を聞かせた。
b. Cho cà chua/thai nhi nghe nhạc.
~あげる トマト／赤ちゃん 聴く 音楽
(トマト／赤ちゃんに音楽を聞かせた。)

(16)では、トマトや赤ちゃんが意図的に聞く動作を行うという解釈はできないという点で、二重他動詞的解釈になる。したがって、以下のような表現は不自然である。

(17) a.*トマト／赤ちゃんに音楽を聞かせたが、聞かなかった。

b.*Cho cà chua/ thai nhi nghe nhạc

～あげる トマト／赤ちゃん 聴く 音楽

nhưng cà chua/ thai nhi không nghe.

しかし トマト／赤ちゃん ～ない 聴く

(トマト／赤ちゃんに音楽を聞かせたが、聞かなかった。)

一方、(15) のような場合には、被使役者の意図的動作が含まれていると解釈されるため、以下のような表現が可能である。

(18) 太郎に音楽を聞かせたが、聞かなかった。

つまり、他動詞の一部については、「NP1 V NP2 cho NP3」という特殊な構文が使われ、この場合には必ず NP2(被使役者)の意図的な行為は含まれない。それ以外の動詞については「NP1 cho NP3 V NP2」構文が使われ、これは意図的な行為を含む場合と含まない場合がある。これは日本語の二重他動詞構文と使役構文の違いに対応していると言えるが、具体的にどの動詞がどちらの構文を取るかという点に関してはややずれが生じる。

しかも、日本語の「させる」は操作使役と指示使役の両方を意味するため、ベトナム語との対応を見る場合、bắt という形式も関連してくる。すなわち、指示使役は bắt と対応し、操作使役は cho に対応するのである。この対応は、以下のように表すことができる

a.	食べさせる	{	cho ~	ăn
			bắt/ bảo ~	ăn
b.	飲ませる	{	cho ~	uống
			bắt/ bảo ~	uống
c.	聴かせる	{	cho ~	nghe
			bắt/ bảo ~	nghe

使役形の動詞を用いる場合はベトナム語も日本語と同じように、使役者は被使役者に言葉で指示したり命令を出したりして、何らかのことにするように仕向けるという意味になる。

指示使役の場合、ベトナム語では **bắt/cho** (「NP1 **bắt/cho** NP2 V」) と対応して、操作使役の場合は **cho** 「NP1 V **cho** NP2」 (NP2 は動作を行わない場合) と 「NP1 **cho** NP2 V」 (NP2 は自分で動作を行う場合) と対応する。

cho と **bắt** の違いは、「NP1 **bắt** NP2 V」構文では NP1 が NP2 に対して言葉で指示することは可能であるが、「NP1 V ~**cho** NP2」構文では NP1 が NP2 に対して言葉による指示や命令は不可能で、実際に NP1 も動作をすることになる。一方、NP1 **cho** NP2 V 構文は、NP1 は NP2 に何らかの行為をして、そして NP2 も自分なりの動作を行う。例えば、

(19) 母親は子供に靴下を履かせる。

(20) 先生は学生にテープを聴かせる。

(21) 母親は子供にミルクを飲ませる。

という文は、(19) は (22) a、b、c の 3 つが、(20) と (21) はそれぞれ (23) a、b (24) a、b の 2 つが対応する。

(22) a. Người mẹ mang vớ cho con.

母親 履く 靴下 ~あげる 子供

b. Người mẹ cho con mang vớ.

母親 させる 子供 履く 靴下

c. Người mẹ cho/bắt / bảo con mang vớ.

母親 させる 子供 履く 靴下

(23) a. Thầy giáo cho học sinh nghe băng tiếng Nhật.

先生 ~あげる 学生 聴く テープ 日本語

b. Thầy giáo bắt / bảo học sinh nghe băng tiếng Nhật.

先生 させる 学生 聴く テープ 日本語

(24) a. Người mẹ cho con uống sữa.

母親 ~あげる 子供 飲む 牛乳

b. Người mẹ bắt / bảo con uống sữa.

母親 させる 子供 飲む 牛乳

(22) aでは、母親 (NP1) が子供 (NP2) に靴下を履くように指示することではなく、実際に靴下を持って子供に履かせたという状況を表しているのに対して、(22) bは母親は子供に「靴下をはいてもよい」という許可を出す。あるいは、寒い時に、母親が子供に靴下を出して、履くように言う状況である。(22) cでは子供は靴下を履きたくないが、母親 (NP1) が子供 (NP2) に「靴下を履け」と指示等を出して履かせたという状況を表す。一方 (23) aでは、先生はテープを流して、学生に聴かせる。(23) bでは先生は学生に「日本語のテープを聴け」と指示して、学生に「聴く」という動作を行わせる。(24) aでは二つの解釈が可能である。一つは母親が自分の手で赤ちゃんの口の中に牛乳を入れて、飲ませる。もう一つは母親は「子供が牛乳を飲んでもいい」という許可を出す。(24) bは母親は指示などを出して、子供に「牛乳を飲む」という動作を行わせる。

cho は元々「与える」「～あげる」という意味を持っている動詞である。

(25) Tôi cho con kẹo.
私 あげる 子供 お菓子
(私は子供にお菓子をあげた。)

例 (25) では「tôi」(私) が「お菓子」を与える人、「con」(子供) が「お菓子」をもらう人であり、両者の間に「cho」によって授受関係が結ばれている。cho の本動詞の意味から (20) b、(21) a、(22) a、ような文では、NP1 は NP2 のために「恩恵を与える」あるいは「許可を与える」用法とも考えられる。

3.5.3 人の心理的・生理的変化を表す使役表現

次の例文は人間の心理状態の変化を表す無意志動詞が述語となっており、使役者の何らかの実質的な働きかけによって、被使役者の心理状態を通常の状態からある状態に変化させたという意味を表す。

(26) a. 彼女が太郎を悲しませた。
b. Cô ấy đã khiến Taro đau khổ.
彼女 [既然] させる 彼 悲しむ

(27) a. 太郎は嘘をついて皆をがっかりさせた。

b. Taro nói dối khiến cho mọi người thất vọng.
太郎 嘘をつく させる 皆 がっかりする。

(28) a. 花子は大学に合格できて、両親を喜ばせた。

b. Hanako thi đỗ đại học, làm cho bố mẹ vui mừng.
花子 合格する 大学 させる 両親 喜ぶ

(花子は大学に合格できて、両親を喜ばせた。)

(29) a. ベトナムでは麻疹が流行っていて、お母さん達を心配させた。

b. Dịch sởi lan nhanh khiến cho các bà mẹ lo lắng.
麻疹 流行る 早い させる お母さん達 心配する

(麻疹が流行っていて、お母さん達を心配させた。)

(26) ~ (29) の例文においては人間の心理的状态変化を表すものである。被使役者である「太郎」「皆」「両親」「お母さん達」の心理状態が普通の状態から、「悲しむ」「がっかりする」「喜ぶ」「心配する」という状態に変化したことは、使役者である「彼女」「太郎」「花子」「麻疹が流行ること」の何らかの働きかけに対する反応である。例(26)では使役者の「彼女」の働きかけについては言及していないが、実際は使役者の「彼女」は被使役者の太郎に変なことを言ったり太郎と別れたりしたことが原因となって、その結果を受けた太郎の心理状態が変化した意味を表す。例(27)、(28)では使役者が「嘘をついた」「大学に合格した」という具体的な動作が原因で、被使役者の心理状態を変化させた。一方、例(29)ではNP2の動作、作用などではなく、事柄である。このような使役表現では主語が人間だけでなく無生物であっても可能である。つまり、NP1がしたあることが引き金になってNP2の心理的状态を引き起こすのである。この使役文を原因的使役文と呼ぶ。

仁田(2009)は、原因的使役文はある事象が要因やきっかけとなって別の事態が引き起こされることを述べるものであるとしている。ある事態が起き、その事態が原因となって後続する事態が直接的に引き起こされたという意味で、2つの事態は強い因果関係で結ばれている。因果的使役文の主語には、事柄が来る場合と人が来る場合とがあると述べている。

これらの文では、動詞も「させる」と結合して使役文として用いられる。しかし、この種類の構文での動詞は、いわゆる人間の心理的動きを表す無意志的な感情動詞、あるいは通常は自分の意志でコントロールしにくい(意志性があっても非常に低い)動詞が述語と

なる。つまり、NP1 からの NP2 に対する働きかけは言葉による指示・命令などは不可能である。いずれも、NP1 は何らかのことをして（あるいはしないで）、その結果 NP2 にある心理状態を起こさせるという意味を表す。この種類の使役文では、NP2 が自分の意志で動作・作用を行うことが出来ない。更に、V の位置に来る動詞は無意志的動詞、主に感情動詞なので、一般的に NP2 は「に」格を取ることが不可能である。

この種類の使役文では以下のような動詞がよく来る。

焦る、いらいらする、苛立つ、羨ましがる、怒る、困る、懲りる、怖がる、しょげる、心配する、泣く、びっくりする、笑う、迷惑する、煩う、まごつく、迷う、惑う、もどかしがる、狼狽する、興奮する、落ち着く、面白がる、安心する、安定する、楽しむ、喜ぶ、満足する、悩む、うっとりする、慌てる、感動する、苦しむ、がっかりする、狂う、ほっとする

日本語ではこの使役文は使役表現以外にも、「に」あるいは「によって」を用いて、能動文で言い換えることが出来る（仁田：2009）。

「に」あるいは「によって」を用いる場合、構文は以下ようになる。

「NP1 が NP1 を V させる」 → 「NP2 が NP1 に／によって V」

- (30) a. 鈴木の突然の来訪が皆を驚かせた。
b. 鈴木 of 突然の来訪に／によってみんなが驚いた。
- (31) a. 自然の素晴らしさが私を感動させた。
b. 私が自然の素晴らしさに感動した。

これらの使役表現における使役者 NP1 は、実際には NP2 の心理状態変化を誘発した原因であるので、「に／によって」以外に「で」によって表される場合もある。しかし、このような表現が用いられる場合は構文が異なる

「NP1 が NP1 を V させる」 → 「NP2 が NP1 で V」

- (32) a. 彼女が別れると言ったことは彼を悲しませた。
b. 彼女が別れると言ったことで彼は悲しんだ。

- (33) a. 母の病状が彼を心配させた。
 b. 母の病状で彼は心配した。

しかし、「NP1 が NP1 を V させる」という原因を表す使役構文は、すべて「NP2 が NP1 に / で V」という構文に置き換えられるわけではない。楊（1989）は同じ心理的状态変化を表す動詞の中にも、「NP2 が～を V」という形を取るものがあると述べている。

- (34) a. 親の死が彼を悲しませた。
 b. ?彼が親の死に悲しんだ。
 c. 彼が親の死を悲しんだ。

楊（1989）によると、「～を」の部分は一般に目的語として捉えられるが、心理的状态変化を引き起こす原因としても考えられる。しかし、原因の強調という点では明らかに（34）c よりも、（34）aの方が強いと言えよう。

ベトナム語では、原因を表す使役表現も存在する。それは *khiến* 使役構文と *làm* 使役構文である。*khiến* 使役構文では、使役者が原因となって当該の事象が非意図的に引き起こされることを表す。言い換えれば、*khiến* 使役構文は NP1、そして NP1 が行った出来事が原因となって、NP2 の心理状態を変化させる意味を表す。この構文の NP1 の位置には通常モノか、コト出来事などの無生物の使役者が来る。そして、V に当る位置に来る動詞も、人間の心理状態を表す無意志動詞であり、感情動詞が多い。一般的に NP2 の意志でそのような作用を行うことは不可能である。V の位置に来る動詞に関しては、NP1 が NP2 に言葉によって働きかける指示、命令などを与えることは不可能である。通常 NP1 は何らかのことをして（あるいはしないことで）その結果、NP2 にある心理状態を変化させるという意味を表す。

- (35) Tiếng nổ khiến mọi người giật mình.
 爆発 させる 皆 びっくりする
 (爆発が皆をびっくりさせた。)

- (36) Lời nói sơ suất của bác sỹ khiến bệnh nhân tuyệt vọng.
 不注意の一言 の 医者 させる 患者 絶望する
 (医者の不注意の一言が患者を絶望させた。)

「爆発」「医者の不注意の一言」などのコトが原因となって、「皆がびっくりする」や「患者が絶望する」などをもたらした。この種の使役構文では使役者はすべて無生物であるため、当然言葉による働きかけは不可能である。

khiến 使役構文の V の位置に来る動詞は普通、以下のような動詞である。

sợ 「怖がる」、**lúng túng** 「困る」、**hốt hoảng** 「焦る」、**bực mình** 「苛立つ」、**giận** 「怒る」、**lo lắng** 「心配する」、**ganh tỵ** 「羨ましい」、**giật mình** 「びっくりする」、**khóc** 「泣く」、**cười** 「笑う」、**đau khổ** 「悲しむ」、**vui sướng** 「喜ぶ」、**an tâm** 「安心する」、**tuyệt vọng** 「絶望する」、**thất vọng** 「がっかりする」、**xấu hổ** 「恥ずかしがる」、**phân vân** 「迷う」、**thỏa mãn** 「満足する」、**bất mãn** 「不満に思う」等

また、**khiến** は形容詞と結合することが可能である。

làm 使役構文も **khiến** と用法が類似している。主語の使役者がある事象やモノ等の無生物の場合に、それが原因となって当該の事象を生じさせることを表す。この用法では、**làm** は **khiến** と置き換えることが可能である。**làm** 使役構文では、使役者は有生物でも無生物でも可能であるが、有生物の方が比較的多い

(37)	Bệnh tật	đã	làm	Hanako	suy sụp	tinh thần.
	病気	[既然]	させる	花子	衰える	精神
	(病気は花子の精神を衰えさせた。)					

(38)	Anh ấy	quát	làm cho	thằng bé	đó	sợ.
	彼	怒鳴る	させる	男の子	あの	怖がる
	(彼は怒鳴って、あの男の子を怖がらせる。)					

ベトナム語の **khiến** 使役構文と **làm** 使役構文は、無意志的動詞以外にも形容詞とも結合できる。しかし、ベトナム語における形容詞は日本語における無意志的動詞と対応するものが多い。例えば **buồn** 「悲しい／悲しむ」、**vui** 「楽しい／楽しむ」、**đau khổ** 「悲しい／悲しむ」、**hung phấn** 「興奮する」、**khổ** 「苦しい／苦しむ」などである。

上に述べたように、ベトナム語では **khiến** 使役構文と **làm** 使役構文は原因を表す使役構文

である。一方、*bắt*、*cho*、*đề* 使役構文では、このような用法が存在しない。つまり、*bắt*、*cho*、*đề* 使役構文では無意志動詞と結合しない。逆に、意志的な動詞の場合は *khiên* が用いられない。

日本語では使役文の場合、意志的動詞でも無意志的動詞でもいずれも「させる」と結合するのに対して、ベトナム語では、前者は「*bắt*、*cho*、*đề*、*sai*、*bảo*」を用い、後者は *khiên* あるいは *làm* を用いる。

3.5.4 いわゆる所動詞の場合

井上（1976）は、使役文の中の補文の述語は必ず動詞であるが、すべての動詞が許容されるわけではないと述べている。一般的に「ある」「似る」などの状態動詞は、使役構文の述語動詞にならない。「あらせる」「似させる」などの状態動詞の意味では許容できない。

状態動詞が使役文の動詞にならないことについては、寺村（1982）は「いる」は「いさせる」となることができるから、状態動詞というよりも所動詞と呼んだほうがよいと述べた。寺村によると、受身文を作ることができない動詞はだいたい使役態にもならないと指摘されている。

- | | | |
|----------------|---|-----------------|
| (1) a.彼にお金が必要。 | → | *彼にお金を要らせる。 |
| b.彼女にその着物が似合う。 | → | *彼女にその着物を似合わせる。 |
| c.助手に運転ができる。 | → | *助手に運転を出来させる。 |
| d.木がある。 | → | *木をあらせる。 |

可能態の形になった動詞も使役態にはならない。

- (2) 彼に中国語が話せる → *彼を（に）中国語を話せさせる。

日本語には所動詞、例えば「要る」「ある」「出来る」等の動詞は「させる」使役構文と結合することが出来ない。ベトナム語でも同様に、*cần*「要る」、*có*「ある」、*hợp*「似合う」、*được*「出来る」などの動詞は使役文に出来ない。

(3) a. Anh ấy cần tiền.
彼 要る お金

(彼にお金が必要)

b. Tôi *bắt/*cho/*khiến/*làm/*đề anh ấy cần tiền.
私 させる 彼 要る お金

(4) a. Có cây.
木 ある

(木がある)

b. Tôi *bắt/*cho/*khiến/*làm/*đề có cây.
私 させる ある 木

(5) a. Bộ Kimono đó hợp với cô ấy.
着物 その 似合う に 彼女

(彼女にその着物が似合う)

b. Tôi *bắt/*cho/*khiến/*làm/*đề bộ Kimono hợp với cô ấy.
私 させる 着物 似合う に 彼女

(6) a. Anh ấy lái xe được.
彼 運転 出来る

b. Tôi *bắt/*cho/*khiến/*làm/*đề anh ấy lái xe được.
私 させる 彼 運転 出来る

日本語では「ある」は使役形を用いられないが「いる」は「いさせる」という使役形を用いることができる。一方、「いる」、「ある」に対応するベトナム語では一つの có「いる、ある」である。この có はいずれにしても cho、bắt、đề、khiến cho、làm cho と結合できない。しかし、hợp「似合う」場合は、đề (cho) 使役構文と共に用いられる場合もある。

- (7) Tôi phải để ý đến cách dùng từ của mình
私 べき 気を使う に 言葉遣い の 自分
để (cho) hợp với nghề giáo.
させる 似合う に 教員

(直訳：*私は教員に似合わせるように、言葉遣いに気を使わなければならない。)

(私は教員に似合うように、言葉遣いに気を使わなければならない。)

寺村 (1982) は、日本語における所動詞のうち、感覚に関する「見える」「聞こえる」「匂いがする」等は場合によって使役態を作れそうであると述べている。

- (8) 尻尾が見える。 → 尻尾を見えさせる。
(9) 低音だけが強く聞こえる。 → 低音だけを強く聞こえさせる。
(10) 香水の匂いがする。 → 香水の匂いをさせる。

上の (8)、(9)、(10) では「匂いをさせる」がよく使われているだろう。一方、「見える」「聞こえる」はいつも「させる」と結合できるわけではない。「させる」をつけて使役文にすることができない場合もある。その場合は「させる」の代わりに「～ように」を用いた方が自然である。

- (11) *後ろの人も見えさせるために、大きく書いてください。

は不自然な文である。このような場合では以下の (12) の方が自然である。

- (12) 後ろの人も見えるように、大きく書いてください。

一方、「見える」「聞こえる」等はベトナム語に対応する「nhìn thấy」「nghe thấy」である。これらの動詞は使役文を作ると、bắt、cho 使役動詞と結合できない。làm cho、khiến cho 使役構文にも不自然な文になる。一般的に、để cho 使役構文と結合すると自然文になる。

(13) Tôi mặc áo khoác màu đỏ, để cho mọi người dễ nhìn thấy.
私 着る コート 赤色 させる 皆 安易 見える

(私は皆見えやすいように、赤コートを着る。)

(14) Tôi nói lớn để cho mọi người phía sau cũng nghe thấy.
私 言う 大きい させる 皆 後 も 聞こえる

(私は後の方も聞こえるように、大きい声で話した。)

ベトナム語における nhìn thấy「見える」と nghe thấy「聞こえる」は、動作を表す動詞 nhìn「見る」、nghe「聞く」と結果を表す動詞 thấy「分かる／見える」から形成された。しかし、この結果は人間の認知についての結果で、自分の能力でコントロールできない動詞であるため、bắt 使役動詞と結合することが出来ない。そして cho 使役構文も結合し難い。NP1 は NP2 に働きかけを行ったが、NP2 の能力で「見る」「聞く」という動作を行っても「分かる、見える、聞こえる」状態になるかどうかは確定できない。従って、nhìn thấy「見える」と nghe thấy「聞こえる」は để cho 使役構文のみと結合すれば自然である。この場合、NP2 は自らの力で物を「見る」「聞く」、自分の意図した目的を達成するために、何らかの方法を働きかけるという意味を表す。

(15) *Tôi bắt anh ấy nghe thấy tiếng sóng biển.
私 させる 彼 聞こえる 波の音 海

(16) *Tôi bắt Hanako nhìn thấy núi Phú sỹ.
私 させる 花子 見える 富士山

例 (15)、(16) は非文である。「彼は波の音が聞こえる」「花子は富士山が見える」という目的を達成するために、(17)、(18) のように NP1 の働きかけの方法を表現したほうが自然な文になる。

(17) Tôi mở cửa sổ để cho anh ấy nghe thấy tiếng sóng.
私 開ける 窓 ~させる 彼 聞こえる 波の音

(直訳：私が窓を開けることが彼に波の音を聞こえさせた。)

(彼が波の音が聞こえるように、私は窓を開けた。)

(18) Tôi cho cô ấy ngồi cạnh cửa sổ
私 ~させる 彼女 座る そば 窓
để cô ấy có thể nhìn thấy núi Phú Sĩ.
ため 彼女 出来る 見える 富士山

(直訳：私が彼女を窓のそばに座らせることが彼女に富士山を見えさせた。)

(彼女が富士山が見えるように、私は彼女を窓側に座らせた)

ベトナム語における nhìn thấy「見える」と nghe thấy「聞こえる」は可能を表す có thể「できる」と共に用いられる。そして、nhìn thấy「見える」と nghe thấy「聞こえる」は受身文にも用いられる。

(19) Tôi bị Taro nhìn thấy khi đi ra ngoài với Hanako
私 ~られる 太郎 見える 時 出かける と 花子

(直訳：*花子と出かけたとき、太郎に見えられてしまった。)

(花子と出かけたとき、太郎に見られてしまった。)

(20) Nói lớn tiếng sẽ bị hàng xóm nghe thấy.
話す 大声 きっと ~られる 近所 聞こえる

(直訳：*大きい声で話したら、近所に聞こえられてしまう。)

(大きい声で話したら、近所に聞かれてしまう。)

「見える」「聞こえる」はベトナム語では対応するが、「匂いをさせる」ような表現は対応しない。có mùi「匂いがする」という表現以外に tỏa / bốc / bay mùi「匂いが出る／飛ぶ／広がる」等の言い方もある。

(21) Người anh ấy bốc mùi rượu.
体 彼 匂う 酒臭い

(直訳：彼の体がお酒臭いが出ている。)

(酒の臭いをぷんぷんさせていた。)

従って、日本語の「香水の匂いをさせる」「酒の臭いをさせる」等の表現は、ベトナム語に

は対応する使役表現が存在しない。このような場合は、ベトナム語では自動詞そのままである。

上に述べたように、日本語では一般的に所動詞は「させる」と共に用いられないが、ベトナム語では *để* (cho) 使役動詞と共に用いられるものと、用いられないものもあるということがいえる（勿論 *bắt/cho/kiến* (cho) / *làm* (cho) 使役動詞とは結合できない）。先に見たように、*để* (cho) と用いられるといっても、意味的には NP2 の動作の目的の結果、あるいは NP2 の状態変化の実現をめざすために、NP1 は何らかの行為を行わなければならない。NP2 の動作・作用・変化などはまだ実現していない場合に用いられる。実現された場合には、用いられない。

3.6 許容使役

許容使役とはある動作・行為を起こし、あるいは起こそうとしている状態にある被使役者に対して、使役者はその実現を妨げず、被使役者に許可を下したり、もしくは被使役者の作用・動作を放任・放置したりすることを指すものである。

誘発使役文と許容使役文の大きな違いは、誘発使役では、使役者の働きかけが先に行われて、被使役者はその働きかけを受けてから自分の意志で動作・作用を行うことである。一方、許容使役では、被使役者が動作・作用を遂行しようとする意志、もしくは既に先に行っていることを表わす。

柴谷（1978）によると、許容使役とは「ある事象が起こる状態にあって、許容者はこれを妨げることが出来たが、許容者の妨げが控えられ、その結果その事象が起こったという状況」を指す。許容使役における「積極的な許容」では、「に」使役の方が自然、「消極的な許容」（消極的には承諾を与えないが、ある物事の発生・進行を妨げるのを控える）では、「を」使役の方が自然である、とする。

安藤（2001）は、許可使役文では使役者は被使役者が何かすることを望んでいることを許可する。放置使役文では使役者は被使役者がすることを止めないで放置する意味を表している。この使役文は「そのまま」「ておく」と一緒に使われることが多いと述べている。

仁田（2009）は、許容使役ではなく受容使役と呼んでいる。そして受容使役は被使役者の望む行為の実行を認めることで、被使役者が望む事態を実現させるものである。受容的使役文には、許可的な解釈をもつものと放任・放置的な解釈をもつものがあると述べている。

(1) あいつにも使わせてやった。

使役者が聞き手で、動作の主体が使役者に許可を求める際にも、受容的使役文が用いられることが多い。

(2) 明日は休ませてください。

被使役者が実現を望んでいる行為に対して、使役者がその実現を妨げないとか、被使役者の意志に任せるとかいった態度をとり事態を実現させる場合にも、受容的使役文を用いることがある。この場合は放任的な意味を持つ。

(3) 子供を自由に公園で遊ばせた。

一方、すでに起きている事態をそのままにしておく場合には、放置的な意味になる。

(4) 疲れているようなので、妻を眠らせておいた。

本稿では、これらの研究を踏まえ、以下で許容使役を「許可を与える」使役と、「許可を求める」使役と放任使役、放置使役に分けて考察することにする。

3.6.1 許可を与える使役文

まず、許可を与える使役文を考察してみよう。

「許可を与える」使役文は、被使役がある出来事を引き起こそうという願望があり、その実現に向けて、使役者が許可を与える意味を表す。次の例文は許可を与える使役文である。

(5) 花子が一日休みたいと言ったので、太郎は彼女を休ませた。

(6) 娘がどうしても留学したいと言ったから、仕方なく留学させた。

例(5)、(6)では「させる」はいずれも、許可の意味を表している。しかし、日本語におけ

る「させる」は使役を表す形態素であるが、「誘発」「原因」「許可」「強制」等の意味を表す要素は「させる」自身ではなく、その使役の中の補文の意味からである。例(5)、(6)で許可を出す意味を表すのは、補文の「花子が一日休みたいと言った」と「娘がどうしても留学したいと言った」である。

一般的に、許可を与える使役文は二つに分けられる。一つ目は上に述べた例(5)、(6)のように被使役者の願望の実現に向けて使役者が許可を与えるものである。もう一つは以下の例(7)、(8)のように、被使役者が何も願望せずに、使役者が自分の善意で、被使役者にプラス的影響を及ぼすために、許可を与えるものである。

(7) 疲れ果てている花子を見て、太郎は彼女を休ませた。

(8) よく頑張って受験勉強をした息子に、気分転換で一日遊びに行かせた。

ベトナム語では、許可を与える使役文には *cho/cho phép* 使役動詞を用いる。日本語と違って、ベトナム語における *cho/cho phép* 使役動詞自体は「～許可を与える」意味を用いる。ベトナム語の *cho/cho phép* 使役構文では使役者は被使役者の意志に従って許可を出すという意味を表す。つまり、被使役者には何らかの出来事を引き起こす願望があり、それに対して、使役者はその願望の実現に向けて許可を与えたことを表す。*cho/cho phép* 使役構文では発話は使役者であるか、あるいは被使役者であるかによって許可を出す文なのか許可を求める文なのかが決まる。発話は使役者である場合、許可を与える意味を表す。発話者は被使役者あるいはその他の人間である場合は、必ず陳述的用法のみである。

(9) Con gái tôi thích Piano nên tôi đã cho con gái học
娘 私 好き ピアノ だから 私 [既然] させる 娘 習う

(娘はピアノが好きなので、私は彼女にピアノを習わせた。)

例(9)では被使役者に「ピアノを習う」という願望があり、その実現に向けて支配的立場にある使役者が許可を与えることを表す。一般的に、被使役者の願望の実現に向けて使役者が許可を与えるということは、利害授受的観点から言えば「好意」を表す。言い換えれば、この構文では NP2 にとっては利益を得ると捉えられやすい。

また、cho 使役構文では、被使役者が望まなくても、使役者が善意で被使役者にとって良いと考えられることに関して被使役者に何らかのことをするチャンスを与える場合もある。または、「[NP1 cho NP2 V] 構文には、被使役者に『・・・してもよい』という恩恵／好意的な許可を与える」という用法がある。(10) では、花子は何も望んでいなかったが、花子の様子を見て太郎は彼女をアメリカに行かせた、という解釈になる。

- (10) Taro cho Hanako đi tu nghiệp ở Mỹ
 太郎 させる 花子 行く 研修 に アメリカ
 (太郎は花子をアメリカに研修に行かせた。)

日本語では、このような表現は恩恵の授受を表す「～てあげる」という補助動詞を使うのが一般的であるが、ベトナム語の cho の意味は元々「～あげる」であり、日本語のように「～休ませてあげる」と表現したい場合も cho nghi 「～休ませる」で文を終わらせる。この点が日本語とベトナム語では異なる。

また、ベトナム語の cho 使役構文が発話行為を行う文として使われる時、NP1 は NP2 に直接許可を与える意味を表す(この用法については、第 4 章で詳しく議論する)。この用法では、使役者は被使役者の願望の実現に向けて許可を与えたことを表す場合もあるし、被使役者が何も望んでいなくても使役者が被使役者に良いことだと考えて、何らかの許可を与える場合も用いられる。

- (11) Mẹ cho con đi chơi đây.
 母 させる あなた 行く 遊ぶ よ
 (お母さんは貴女を遊びに行かせてあげるよ。)

- (12) Tôi cho anh nghỉ việc một tuần để suy nghĩ.
 私 させる あなた 休み 仕事 一週間 ため 考える
 (考える時間を作るため、一週間仕事を休ませてあげるよ。)

3.6.2 許可を求める使役文

動作の主体が使役者である聞き手に許可を求める際、日本語では「～させてください」「～させてもらう」「～させていただく」という表現が用いられることが多い。

(13) やらせてください。

(14) 説明させてください。

ベトナム語では、許可を求める際に「(NP1) cho / cho phép NP2 V」構文を用いる。この構文では NP2 は発話者である。

(15) Hôm nay, anh cho em về sớm nhé.
今日 あなた させる 私 帰る 早く ね
(今日、早く帰らせて下さい。)

(16) Bố cho con tổ chức tiệc sinh nhật nhé!
父 させる 私 行う 誕生日パーティー ね
(誕生日パーティーを行わせてください。)

日本語でもベトナム語でも、許可を求める表現では NP2 より NP1 のほうが社会的な地位が高く、両者の関係は統制と被統制の関係である。一方両言語において、許可を求める表現は実際許可を求める以外に、(一方的にはあるが)相手に対して自分がこれからするつもりの方について丁寧に表現する場合に用いることによって、日本語は「～させてもらう」「～させていただく」、ベトナム語では「cho phép」のように謙譲語として使われる。

(17) a. Cho phép tôi được trình bày.
許可を与える 私 できる 述べる
b. 述べさせていただきます。

(18) a. Cho phép tôi được giới thiệu.
許可を与える 私 出来る 紹介する
b. 紹介させていただきます。

例 (17)、(18) では、được 「出来る」を入れなくても意味は通るが、được を入れると自分への恩恵の気持ちが追加される。

許可使役では、NP1 はあることをしようとする NP2 に対し、許可を下す意味を表す。つまり、NP2 の動作は NP1 の元で行われるものである。

3.7 放任・放置使役文

放任使役は、使役者が被使役者のすることに對し指図を控え、干渉しないというものである。

仁田 (2009) は被使役者が実行を望んでいる行為に対して、使役者がその実行を妨げないとか、被使役の意志に任せるとかいった態度をとり事態を実現させる場合は放任的な意味を持つと述べている。これらの文では、元になる動詞は意志動詞である。使役者は事態の成立のために積極的な働きかけを行わず、被使役者の意志に任せたというニュアンスがある。

- (1) 母親は子供を自由に公園で遊ばせた。
- (2) 言いたいのなら言わせておこう。

例 (1)、(2) では、NP1 が NP2 の「遊ぶ」「言う」という動作に対して、止めさせようとしたら出来るが、NP2 がしたいままにさせた意味を表す。放任使役では、NP1 が NP2 の動作・作用に全く関与せず、その行為を防止しないことである。

一方、ベトナム語における放任使役文は *đê* 使役動詞を取る。被使役者が自らの意思によってある行為を引き起こそうとしている、あるいは引き起こしていることに対して、使役者が妨げようとするれば出来るのに、そうせずに成り行きに任せる意味を表す。この構文では NP1 と NP2 の間の関係は *cho* 使役構文と同様で、統制と被統制の関係である。被使役者が主体となる出来事の発生を妨げないで、成り行きに任せる形で消極的に関与する。この構文では NP1 も NP2 も通常有生物であるが、場合によって NP2 の位置に神様や無生物が来る場合もある。被使役者が人間の場合は、その人の望んだり意図したりしている事象を、使役者が許容・許可したり禁止しないことによってその事象が生じる場合に用いられる。

(3) Tôi để cho con cái tự quyết định tương lai của mình.
私 させる 子供 自分で 決める 将来 自分の

(私は子供に自分の将来のことを決めさせる。)

(4) Giám thị nhìn lơ để cho sinh viên quay cóp.
試験監督 見ぬふり させる 学生 カンニングする

(試験監督は見ぬふりをして、学生にカンニングさせた。)

例(3)では、被使役者である「子供」が自分の意志で「将来のことを決める」という行為を、使役者である「私」は辞めさせることも可能だがそうしなかった。例(4)も同様に、被使役者である「学生」が自らの意志によって「カンニングする」という行為を引き起こしていることを、使役者である「試験監督」が妨げようとすれば出来るのに、そうせずに「見ぬふり」をすることで成り行きに任せたことを表す。ベトナム語での để 使役動詞は元々の本動詞の意味は「～おく」であるが、使役動詞として用いても元の意味がまだ残っている。従って、日本語における放任使役文では「～ておく」をつけていても、ベトナム語では để 使役構文しか用いられない。

仁田(2009)は、既に起きている事態をそのままにしておく場合には放置的な意味になると述べている。放置使役文も「～ておく」を伴うことが多いと述べている。

「～ておく」をつけている使役表現は、被使役者が自らの意志によってある行為を引き起こしていることを使役者が成り行きに任せるという意味を表す。使役者はいつでも、被使役者が主体となっている出来事を妨害できる状態である。つまり「～ておく」を付けると、被使役者の行為はもう既に行われている意味を表し、これから引き起こそうとしている場合には用いられない。例えば例(5)では、妻がこれから眠るという行為を引き起こしているという意味には解釈できない。しかしベトナム語では、放任の意味でも放置の意味でも、いずれも同じ để (cho) 使役動詞しか用いられない。

(5) a. 家に帰って来ると妻が寝ていた。疲れているようなので、妻を眠らせておいて、一人で晩御飯を用意した。

b. Lúc về nhà vợ tôi đang ngủ. Trông vợ có vẻ mệt,
 時 帰る 家 妻 寝ている 見える 妻 よう 疲れる
 nên tôi để cho vợ ngủ, một mình nấu cơm tối.
 だから 私 させておく 妻 寝る 一人で 作る 晩御飯

ベトナム語では放任使役は、使役者が被使役者による行為を任せるという表現においては、**dành phải**「仕方がなく」という言葉を付加するかしないかによって、消極的な放任又は、積極的な放任の意味を表す。前者は使役者が被使役者の行為を仕方がなく任せるという意味を表すのに対して、後者は使役者が自分の善意で、被使役者にその行為を任せる。

(6) Con gái tôi đã đăng ký học lớp học nhảy rồi
 娘 私 [既然] 申し込む ダンスクラス [完了]
 nên tôi đành phải để cho nó học.
 だから 私 [仕方がなく] させる 彼女 勉強する
 (娘がダンスクラスに申し込んだので、仕方がなく、彼女に勉強させておく。)

(7) Tôi để cho con gái tự quyết định chuyện hôn sự của mình.
 私 させる 娘 自分で 決める 婚姻 自分の
 (私は娘に自分の結婚のことを決めさせる。)

例(6)では、使役者である「私」は被使役者の「ダンスを勉強する」行為に賛成していないが、仕方がない状態に置かれたので、消極的に被使役者の行為を任せる意味を表す。一方例(7)では、使役者は自分の意志で、被使役者による引き起こそうとしている行為を任せる意味を表す。

ベトナム語では、**cho** 使役動詞と **để** 使役動詞は場合によって置き換えることが可能である。しかし、意味的には少々異なる。

(8) a. Tôi để cho con gái tự quyết định chuyện hôn sự của mình.

私 させる 娘 自分で 決める 婚姻 自分の

(私は娘に自分の結婚のことを決めさせる。)

b. Tôi cho con gái tự quyết định chuyện hôn sự của mình.

私 させる 娘 自分で 決める 婚姻 自分の

(私は娘に自分の結婚のことを決めさせる。)

例 (8) a では、使役者は被使役者の意志を尊重する。一方 (8) b では、NP1 の許可がなければ、被使役者は自分の行為を行うことができない。つまり、許可使役の場合は被使役者である NP2 の動作は使役者である NP1 の許可の下で行われるが、放任の場合は NP2 の動作・作用は NP1 の許可なしに行うことが可能である。

3.8 使役者が有生物で、被使役者が無生物の場合

3.8.1 被使役者 (NP2) が使役者 (NP1) の体の一部である場合

日本語の「させる」とベトナム語の「cho/khiến/đề/làm」による使役文においては、NP1 が有生物で NP2 が無生物の場合もある。本節ではこのうち、NP1 が有生物で NP2 が NP1 の一部という場合を取り上げる。

日本語では人間の体の一部が被使役者の位置に来ることができる。使役構文を用いてはいるが、意味的には使役性がない。高橋 (1985) は自分自身またはその部分に対する動作の場合、これを「再帰態」と呼んでいる。この場合、被使役者の動作は使役者の動作の一部として捉えられており、使役者は被使役者に間接的に働きかけているのではなく、直接動かしている。言い換えれば、NP1 は間接的に NP2 の動作を引き起こすのではなく、体の一部を動かしていることを表わす。つまり、体の一部と体全体とを区別する意識が存在する。体全体を意識する使役者として、被使役者の位置に来る体の一部を動かす意味を表す。その際、通常はその動きを表す自動詞に対応する他動詞が用いられる。

(1) a. 太郎は手をあげた。

b. 花子は目を閉じた。

このような置き換えが可能な場合が多い。

(5) a. Cô ấy chu miệng nói.

彼女 尖る 口 言う

b. 彼女は口を尖らせて、言った。

(6) a. Con trâu trắng dẫn đàn lên núi,

水牛 白 連れる 群 登る 山

vênh đôi tai nghe sáo trở về.

峙つ 二つ 耳 聴く 笛 帰る

b. 白い水牛は群を山に連れて行き、耳を峙たせて笛の音を聞き、帰った。

(7) a. Hanako run người, lấp bấp hỏi: Ai đó?

花子 震える 体 淀む 聞く 誰?

b. 花子は身体を震わせ、口ごもりながら、聞いた：「誰？」

例 (6)、(7)、(8) a では chu 「尖る」と vênh 「峙つ」 run 「震える」は他動詞として使われているが、自動詞として使われる場合もある。しかし例 (4)、(5) とは異なり、これらの動詞が自動詞として使われる場合は、qua 「過ぎる」、lại 「来る」、lên 「上がる」、xuống 「下がる」、ra 「出る」、vào 「入る」等の方向を表わす語と共に用いる必要がある。例 (6)、(7)、(8) a は以下のように言い換えることが出来る。

(8) Cô ấy miệng chu lại nói.

彼女 口 尖る 戻って 言う

(9) Con trâu trắng dẫn đàn lên núi,

水牛 白 連れる 群 登る 山

đôi tai vênh lên nghe sáo trở về.

二つ耳 峙つ 上がる 聴く 笛 帰る

(10) Hanako người run lên, lấp bấp hỏi: Ai đó?

花子 身体 震える 上がる 淀む 聞く 誰?

これらの文においては、日本語では自動詞に対応する他動詞がないため、やむなく自動詞に「させる」を付けて、他動詞の働きをさせている。一方ベトナム語では、これらの動詞は自動詞の役割も他動詞の役割も果たすことができるし、いずれの用法を使っても文の意味は変わらない。

次に、体の一部分ではなく体の一部分の機能を果たす動作を表す場合を見てみよう。

(11) a. Cô ấy bước lật đật chẳng nhìn một ai.

彼女 歩む バタバタ ~ない 見る 一人も

b. 彼女は足をバタバタさせて、誰も見ようとしなない。

(12) a. Taro vừa chạy được một vòng sân đã thở hồng hộc.

太郎 ばかり 走る 得る 1周 運動場 [既然] 呼吸する 弾む

b. 太郎は運動場を一周したばかりなのに、もう息を弾ませている。

例(12)、(13)は体の一部分ではなく、その一部分の状態をいう。従って体の一部分を(呼吸する鼻や歩く足等)省略して、「動詞+副詞」の形で表す、あるいは「副詞+動詞」形で表わすことが可能である。例えば *hồng hộc thở* は *thở hồng hộc*、*bước lật đật* は *lật đật bước* に置き換えることが可能である。省略しない場合は *mũi (miệng) thở phì phò* 「鼻/口から、ハーハー息が吐き出される」、*chân bước lật đật* 「足がバタバタ歩む」になる。いずれも日本語に翻訳する場合は同じように訳される。日本語では、体の一部分を行う動作は言わなくてもよいが、体の一部を表現する必要がある。例えば「息」や「足」である。従って、日本語では「体の部分+動詞+させる」の形がよく使われる。

以下の(14)はベトナム語では自動詞しか用いられない。

(13) a. Kiên trượt (chân) ngã (BN:1990)

キエン 滑る (足) 転ぶ

(直訳:キエンは滑って転んだ。)

b. キエンは足を滑らせて倒れ、転んで落ちた。 (バオ:1999)

(14) a. Taro (bị) gãy tay .

太郎 (bị) 折れる 手

b. 太郎は手を折った。=手が折れた。

ベトナムの trượt「滑る」、gãy「折る」は自動詞としての用法しかない。一見「NP1 V NP2」のように見えるが、この場合、NP2 は目的語ではなく、補語としての役割を果たしている。

(15) では、日本語では、「折る」という他動詞が存在するため、「させる」を使わずに、他動詞を使う。この場合の他動詞は無意識的に使われている。しかしベトナム語ではこのような場合、他動詞を使うのでもなく自動詞を用いる。他動詞は意図的動作を表す場合に限られている。

(15) Taro bè gãy tay.

太郎 折る 手

太郎は何らかの目的で、わざと手を折った。つまり太郎の意図によるものなので自然な文であるが、太郎の意図によるものではない場合、例 (15) は不自然になる。この場合、日本語では無意識的な他動詞の役割を果たすのに対して、ベトナム語では意識的な他動詞の役割を果たす。

次は日本語では「体の一部+自動詞+させる」形を用いるのに対して、ベトナム語では「体の一部+形容詞」形である。

(16) a. Tên Ngụy thờ róc, mồm há hóc, mắt sáng trung. (BN:1990)

奴 傀儡兵 息を切らす 口あめぐり 目 キラキラする

(直訳：傀儡兵は息を切らし、口はあめぐり開き、目が輝いた。)

b. 傀儡兵は一呼吸して大きく口を開けると、目を輝かせて言った。(バオ:1999)

(17) a. (Anh ấy) môi run run nói. (BN:1990)

(彼) 唇 震える 言う

(直訳：唇が震え、言った。)

b. 唇を震わせて言った。 (バオ:1999)

このような場合は「形容詞+体の一部」に置き換えることは不可能である。sáng trung mắt、run run môi という表現は不自然である。

(18) a. ??Nhìn thấy có người đến cứu, cô ấy sáng trung mắt.

見る いる 人 来る 助ける 彼女 キラキラする 目

(19) b. Nhìn thấy có người đến cứu, mắt cô ấy sáng trung.

見る いる 人 来る 助ける 彼女 キラキラする 目

(やってくる人を見て、彼女は目が輝いた。)

(20) a. ??Anh ấy run run môi, thì thào.

彼 震える 唇 呟く

b. Anh ấy môi run run, thì thào.

彼 唇 震える 呟く

(彼は唇が震えて、呟いた。)

3.8.2 NP2 が身体部位ではない無生物の場合

日本語では被使役者である NP2 は無生物でも許容できる。しかし、NP2 が無生物の場合、NP1 は命令・指示等の働きかけを行うことが出来ない。

(21) 国を発展させる。

(22) パソコンに席を選ばせる。

(23) 機械に小説を訳させる。

対応する他動詞がない自動詞の場合は助詞「を」を取るが、他動詞の場合は助詞「に」を取る。

ベトナム語では、*làm cho* を用いる構文の中で NP2 の位置に無生物が来る場合もある。*làm cho* 構文では NP2 が自発性あるいは行為を行う能力がない無生物でも可能である。しかしこのような構文では、NP2 自体が行為を行うことが不可能であるため、NP1 は工夫して NP2 の状態変化を引き起こす必要がある。

(24) Taro có thể làm cho cái gậy đứng được.

太郎 できる させる 棒 立つ

(太郎は棒を立たせることができる。)

(25) Taro dựng cây gậy lên.

私 立てる 棒 上がる

(太郎は棒を立てた。)

(26) Bố đã làm cho con cá gỗ bơi được.

父 [既然] させる 魚 木 泳ぐ 出来る。

(父は木の魚を泳がせることが出来た。)

例 (25) では「棒」は一人で立つ力がないため、太郎は自分の意図で棒を「立つ」状態にするため、色々工夫しないとイケない。従って、NP2 がある状態を達成するために NP1 は工夫し、努力する必要がある。一方、太郎の特別な技についてではなく、ただ太郎の「棒を立てる」という動作を表したい場合は (26) のように、他動詞の *dựng* 「立てる」を用いれば十分である。また (27) では、NP2 は木の魚なので、勿論自発的に泳ぐことは出来ない。「父」はエンジンを付けたり、何らかのことで泳げる状態にさせることを表す。つまり、*làm cho* を用いる構文は本来そうなり得ない、そうなり難い、またそうなることを予想していない状態を NP1 の意思で現実に導くという意識である。

また、無生物の NP2 は原因結果を表す「NP1 khiến cho NP2 V」にも可能である。

(27) a. Taro làm bẩn áo của Hanako
 太郎 汚す シャツ の 花子

b. 太郎は花子のシャツを汚してしまった。

(28) a. Taro làm cho áo của Hanako bẩn
 太郎 させる シャツ の 花子 汚れる

b. 太郎は花子のシャツを汚してしまった。

(29) a. Tarou làm đổ cà phê khiến cho áo Hanako bẩn mất rồi.
 太郎 零す コーヒー させる シャツ 花子 汚れる てしまう

b. *太郎はコーヒーを零して、花子のシャツを汚れさせた。

c. 太郎はコーヒーを零して、花子のシャツを汚してしまった。

ベトナム語では、例 (28)、(29)、(30) a は意味上で異なる。例 (28) は動作主の太郎は直接的に花子のシャツを汚すという意味を表す。ベトナム語では *bẩn* 「汚れる」には対応する自動詞がないため、他動詞を表したい場合は *làm* と結合して、他動詞化する。従って、(28) a は日本語の (28) b に適合する表現である。しかし、(28) a は動作主である「太郎」は意図を持っているかいないかは明白ではない。一方、(29) a では太郎がわざと花子のシャツを汚すという意味である。*cho* を入れると、太郎の意図性が強くなる。一方、(30) a では、太郎の意図を表さない。太郎が間接的に、花子の服を汚してしまったという意味を表す。つまり、太郎がコーヒーを零したのが原因で花子のシャツが汚れてしまったということである。ベトナム語では (28)、(29)、(30) はそれぞれ意味が異なるが、日本語ではいずれも同じである。

この原因・結果を表す表現では、日本語は「で、～V 他動詞」表現を用いる傾向が多いのに対して、ベトナム語では *khiến cho* 使役構文を使うことが多い。

また、ベトナム語では、無生物の NP2 は場合によって *cho* 使役構文をとることも可能である。

(30) Taro cho máy chạy.

太郎 させる エンジン 動く

(直訳：太郎はエンジンを動かせる。)

(太郎はエンジンを動かす。)

(31) Cho xe dừng lại đi bác tài ơi.

させる 車 止まる ～ください 運転手 [呼びかけ語]

(運転手さん、車を止まらせてください。＝止めてください。)

例 (31)、(32) では NP1 は有性物、NP2 は無生物であるが、この場合の無生物は「エンジン」「車」なので、それ自身で動けるものである。エンジンや機械は人の働きかけ、例えばスイッチを入れたり切ったりすることで、動いたり止まったりする。

(32) Anh cho cuộc họp bắt đầu đi.

あなた させる 会議 始まる ～ください

(直訳：会議を始まらせてください。)

(会議を始めてください。)

(33) Trọng tài đã cho trận đấu kết thúc

レフェリー [既然] させる 試合 終る

(レフェリーは試合を終わらせた。)

例 (33)、(34) では、NP2 は自身で動けるものではないが、会議や試合などに参加するメンバーは人間であるため、一旦許可を得れば自力で動作を行うことが出来る。NP2 が無性物の構造は *bắt*、*sai* を用いる使役構文は取らない。例 (33)、(34) では (35)、(36) のように他動詞として使われることも可能である。

(34) Anh bắt đầu cuộc họp đi.
 あなた 始める 会議 ~ください
 (会議を始めてください。)

(35) Trọng tài đã kết thúc trận đấu.
 レフェリー [既然] 終える 試合
 (レフェリーは試合を終えた。)

3.9 両言語における対応する他動詞のない自動詞の使役形

3.9.1 日本語では対応する他動詞がない自動詞であるが、ベトナム語では他動詞が存在する場合

日本語では自動詞しか取らないスル動詞が存在する。以下のような動詞は対立する他動詞がないスル動詞である。それらの動詞は「させる」を付けて他動詞的使役構文になることで、他動詞として用いられる。

自動詞	他動詞	使役形
バックする	×	バックさせる
発展する	×	発展させる
安定する	×	安定させる
普及する	×	普及させる

- (1) 運転手は車をバックさせた。
- (2) 国を発展させるため、国民の1人ひとりがさらに頑張らないといけない。
- (3) 首相は新しい政策で、経済を安定させた。

このような動詞が他動詞の「NP1 が NP2 を V (他動詞)」のような用法を獲得するには、「させる」を付ける方法しかない。

これらの動詞は、ベトナム語では自動詞としても他動詞としても使われる。これらは語順

で自動詞か他動詞かが決まるので、ベトナム語に訳す場合は使役を表わす làm を付けない。
これらの動詞はベトナム語で表すと以下のようなになる。

～バックする	: ~lùi	～バックさせる	: lùi~
～発展する	: ~phát triển	～発展させる	: phát triển~
～安定する	: ~ổn định	～安定させる	: ổn định~
～普及する	: ~phổ cập	～普及させる	: phổ cập~

例 (1)、(2)、(3) をベトナム語に置き換えると、それぞれ以下のような (4)、(5)、(6) 文になる。

(4)	Tài xế	lùi	xe	lại.
	運転手	バックする／させる	車	来る

(直訳：運転手は車をバックした。)

(5)	Để	<u>phát triển</u>	đất nước,	từng	người dân
	～ため	発展する／させる	国	ずつ	国民
	phải	<u>cố gắng</u>	hơn nữa.		
	～なければならない	努力する	より		

(直訳：国を發展するため、国民の 1 人ひとりがさらに頑張らないといけない。)

(6)	Thủ tướng	<u>ổn định</u>	nền kinh tế	bằng	chính sách	mới.
	首相	安定する／させる	経済	で	政策	新しい

(直訳：首相は新しい政策で、経済を安定した。)

上の例文から見ると、日本語では他動詞が存在しないため、「自動詞+させる」の形で表す。
ベトナム語では、これらの動詞は自動詞としても他動詞としても用いられるため、日本語の
「自動詞+させる」形はベトナム語の他動詞文と対応する。これらの動詞は、わざとベトナム語の「làm+自動詞」の形を用いると、不自然な文になる。

3.9.2 ベトナム語の場合では対応する他動詞がない自動詞であるが、日本語では他動詞が存在する場合

前節で述べたように、日本語では対応する他動詞がない自動詞が存在する。ベトナム語でも日本語と同様に、対応する他動詞がなく自動詞だけのものがあり、主に状態を表す動詞である。以下のような動詞は状態を表す自動詞である。hông、(壊れる) tan (溶ける)、vỡ (割れる)、rách (破れる)、bẩn (汚れる)、đau (痛む)、chìm (沈む)、dịu (和らぐ)、cứng lại (固まる)、ướt (濡れる)、muộn (遅れる)、thỏa mãn (満ちる)、rơi (落ちる)、mờ (曇る)、ấm (潤う)

これらの動詞は「NP2 V」の形で用いられる。他動詞として使われたい場合、使役を表す làm 「させる」を付ける。「làm+自動詞」は他動詞化と呼ばれ、人の働きかけや原因を表す。

(7) a. Tôi làm vỡ lọ hoa.
私 割る 花瓶

b. 私は花瓶を割った。

(8) a. Con tôi đã làm bẩn chiếc váy mới của tôi.
子供 私 [既然] 汚す スカート 新しい の 私

b. 子供は私の新しいスカートを汚した。

(9) a. Họ làm rơi chiếc diều.
彼 落とす 凧

b. 彼らは凧を落とした。

例 (7)、(8)、(9) a では自動詞に làm 「させる」を結合させると他動詞の役割を果たす。「NP1 làm V NP2」という構文では NP2 を動作主として捉えられず、動作の対象としてしか捉えられない。この構文では、NP2 への NP1 による意図的な働きかけではなく、動作のみを表わす。

一方これらの動詞は日本語では他動詞が存在するため、「させる」と結合せずにそのまま

(7)、(8)、(9) b のように他動詞を用いると、自然な文になる。

また、「NP1 làm V NP2」という構文は「NP1 làm NP2 V」という構文に入れ替えることも可能である。上の (7)、(8)、(9) a は以下のように変えることが出来る。

(10) a. Tôi làm lọ hoa vỡ.
私 させる 花瓶 割れる

b. 私は花瓶を割った。

(11) a. Con tôi đã làm chiếc váy mới của tôi bẩn.
子供 私 [既然] させる スカート 新しい の 私 汚れる

b. 子供が私の新しいスカートを汚した。

(12) a. Họ làm chiếc điều rơi.
彼 させる 扇 落ちる

b. 彼らは扇を落とした。

例 (10)、(11)、(12) では、NP2 は NP1 の対象と同時に V の主語になる。従って、このような構文は使役の役割を果たしていると言えるであろう。「NP1+làm+自動詞+NP2」構文と比べると、「NP1+làm+ NP2+自動詞」構文の方が NP1 の意図性を持っている。また、これらの動詞は主に状態を表す動詞であるため、指示・命令による使役を表す *bắt*「無理やりさせる」と結合できない。

第 2 章 (2.1.1) でも述べたように、この構文は他動詞構文なのか使役構文なのかが曖昧であり、日本語の語彙的使役と統語的使役の区別とも必ずしも一致しない。

3.10 使役者が無生物で、被使役者が有生物の場合

角田 (1991) と池上 (1981) では、日本語の他動詞文及び使役構文における無生物主語の問題が扱われている。それによると、日本語のこれらの構文では、主語に無生物、目的語に有生物が来る場合、非常に不自然な表現になることが指摘されている。

第 2 章 (2.6) で、他動詞構文における無生物主語の問題を扱ったが、この節では使役構文

における無生物主語の問題を扱う。

使役者が無生物の場合は、使役者が被使役者に言葉による指示・命令などの働きかけを行うことが不可能である。使役者が無生物の場合、自分の意志で被使役者に何らかの働きかけをすることはできない。

ベトナム語における使役構文には無生物主語がよく見られるが、日本語では有生物主語が自然である。ベトナム語では、無生物主語が *khuyến cho/làm cho* 「させる」と一緒に用いられ
たり、他動詞を使って「目的語を・・・させる」という意味を表したりすることが多い。

(1)	<i>Cách mạng tháng Tám</i>	<i>thắng lợi</i>	<i>đã</i>	<i>làm cho</i>	<i>chúng ta</i>
	八月革命	勝利	[既然]	させる	我々
	<i>trở nên một bộ phận</i>	<i>trong</i>	<i>đại gia đình</i>	<i>dân chủ</i>	<i>thế giới</i>
	なる 一部	中	大家族	民主	世界

(直訳：八月革命が勝利したことが我々を世界的民主大家族の一部にさせた。)

(八月革命の勝利で、我々は世界民主の大家族の一部になった。)

(*Hồ Chí Minh*)

日本語では使役文の場合、無生物主語は不自然であるとよく言われる。日本語では無生物名詞を動作主にした使役文は何となく不自然であるか、または翻訳調に感じられる場合が多い。

(2) ?何が彼をそう考えさせたか。

(3) ?雨が私の心を悲しませる。

一方、井上(1976)は、無生名詞句でも原因格ならば他動詞文と使役文の主語になるとしている。原因格の無生名詞句を主語とする使役文は、主として感情感覚を表す動詞を持っていると述べている。

(4) 志士の死が花子を悲しませた。

しかし、井上も以下の例(5)、(6)を取り上げて、上に述べた制限を持たないと述べてい

る。

- (5) ヴェトナム戦争は多くの人を死なせた。
- (6) ドル・ショックが人々の判断を狂わせた。

実際、日本語の使役文では、無生物の主語よりも、原因を表す構文の方がよく用いられる。つまり、無生物主語は「が」格を取るよりも、原因を表す要素として「で」格で示した方が自然である。以下は、ベトナム語における無生物の主語を取る場合である。

3.10.1 自然現象が主語になる場合

- (7) a. Động đất ở Haiti khiến cho hàng ngàn người
地震 で ハイチ させる 何千 人
rơi vào tình trạng mất nhà cửa
陥る 状態 失う 家

- b. (直訳：?ハイチの地震は何千もの人を、家を失う状態に陥らせた。)
- c. ハイチの地震で何千もの人が家を失った。

- (8) a. Thời tiết xấu khiến cho khách du lịch không thể khởi hành.
天気 悪い させる 旅行者 ~ない 出発する

- b. (直訳：?悪い天気は旅行者を出発できなくさせる。)
- c. 悪い天気のために、旅行客が出発できない。

このような場合、ベトナム語では「地震」、「悪い天気」が主語になることが出来る。これらの自然現象はそこに内在するエネルギーがもととなって発生するものであり、その結果、目的語に位置する人や物がある変化を被るという意味になる。しかし、日本語ならば「・・・人が・・・の地震によって...を失った」や「悪い天気のために、・・・」のように表現される。同じ状況をより自然な日本語で表現するとしたら、原因を表す副詞（「・・・のために」、 「・・・が原因で」、「・・・で」など）を使う。このようにベトナム語において使役構文を用いる表現を日本語に翻訳する際に、使役表現ではなく因果関係を表す構文を用いる方が適当な場合が多々見受けられる。その中で、ベトナムの主語に当たる部分は、日本語では主語

ではなく原因を表す表現になる。

3.2 節でも述べたように、ベトナム語では原因—結果を表す構文は「NP1 làm cho/ khiến cho NP2 V」使役構文以外に、「vì ~ nên ~」という原因と結果を表す表現が用いられる。例 (7)、(8) では NP1 は原因で NP2 が V の動作・作用を行う。あるいは NP1 が原因で NP2 がある状態を変化させる意味を表す。従って、「vì NP2 nên NP2 V」という構文を入れ替えることも可能である。

- (9) Vì động đất ở Haiti nên hàng ngàn người
～ため 地震 で ハイチ だから 何千 人
roi vào tình trạng mất nhà cửa
陥る 状態 失う 家

(ハイチで地震が起きたので、何千もの人が家を失った)

- (10) Vì thời tiết xấu nên khách du lịch không thể khởi hành.
～ため 天気 悪い だから 旅行者 ～ない 出発する

(天気が悪かったので、旅行客が出発できなかった。)

ベトナム語では、原因を表す無生物主語構文も vì~nên~原因結果構文もいずれもよく使われるが、一般に客観的な因果関係を表す場合には、原因を表す無生物主語構文がよく使われる。一方質問されそれに答える場合には、vì~nên~因果結果構文を使う傾向がある。あるいは、主観的に何らかの事情を述べたい場合、vì~nên~原因結果構文もよく使われる。

3.10.2 一般の物事が無生物主語になる場合

ベトナム語の使役構文の主語には、病気、性格、災害、薬、毒なども生起可能である。これらも、自らの力で、他の存在に働きかけて影響を及ぼす主語と見なすことができる。これらの主語は擬人化しやすいためである。

- (11) a. Khủng hoảng kinh tế thế giới khiến cho hàng ngàn người thất nghiệp.
 不況 経済 世界 させる 何千人 失業
 b. (直訳：?世界経済不況は何千もの人を失業させた。)
 c. 世界経済不況で何千もの人が失業した。
- (12) a. Nội chiến khiến cho bao nhiêu người rơi vào bước đường cùng.
 内戦 させる いくつ 人 陥る 窮地
 b. (直訳:内戦は何人もの人を窮地に陥らせた。)
 c. 内戦で多くの方が窮地に陥った。
- (13) a. Tính cách cầu thả khiến cô ấy mất việc.
 性格 おっちょこちょい させる 彼女 失う 仕事
 b. (直訳:おっちょこちょいの性格が彼女に仕事を失わせた。)
 c. おっちょこちょいの性格のせいで、彼女は仕事を失った。)
- (14) a. Trời nóng làm cho tôi cảm giác mệt mỏi.
 熱気 させる 私 感じる だるい
 b. (直訳：暑いのが私に疲労を感じさせる。)
 c. 暑くて、私はだるく感じる。
- (15) a. Những tin đồn thất thiệt làm cho cô ấy lo lắng.
 根拠のない噂 させる 彼女 心配する
 b. (直訳:根拠のない噂が彼女を心配させた。)
 c. 根拠のない噂で彼女は心配した。

例(11)～(15)の例では、主語が抽象的な力を持っている。つまり〈対象〉(人間)を「・・・させる」力があり、無生物を〈行為者〉として擬人化している。日本語ではこのような場合にも、「無生物主語」の使役構文を用いないのが普通である。

池上(1981)によると、擬人化という表現手法は、日本語にそぐわないというところがあると述べている。一方池上によると、〈動作主〉の概念をなるべく際立たせないようにするという傾向が根強い。まして、〈抽象〉体を〈動作主〉に擬するというところまでは普通行わないと述べている。そのため、上の(14)のような文は日本語では以下の(16)のように言わなくてはならない。

これらの例文から見ると、ベトナム語では無生物を表す疑問詞を文の主語として使う構文が、典型的な使役構文になる文が多い。一方日本語では、無生物疑問詞が主語になる文は不自然な文である。角田（1991）によると、日本語ではこれらのような例文は動作が階層の上で低い方（無生物）から高い方（代名詞）に向かっているから不自然であると述べている。

3.10.4 動詞を補う型が主語になる場合

第2章では、日本語の他動詞文に対応する表現において主語がある動作を表す表現の一部として現れる場合があると述べたが、日本語の使役文に対応する表現に関しても同様である。

(21) a. Nhưng tiếng cười làm tôi lạnh hết người (BN:1990)

しかし 笑い声 させる 私 冷える 全身

b. (直訳：しかし、笑い声が私に全身を凍えさせた。)

c. だが、あの笑い声を聞くと、体が凍るよ。 (バオ:1999)

(22) a. Tiếng ngáy như đồng ca làm Kiên díp mắt (BN:1990)

いびき のよう 合唱 させる キエン 閉じる 瞼

b. (直訳：彼らの合唱のようないびきはキエンに瞼を閉じさせた。)

c. 彼らのいびきの合唱を耳にした途端、キエンの瞼も閉じそうだった。(バオ:1999)

(23) a. Mùi oải hương sẽ làm cho bạn sáng khoái.

匂いラベンダー きっと ~させる 貴方 爽やか

b. (直訳：ラベンダーの香りは貴方を爽やかにさせる。)

c. ラベンダーの香りを嗅いだら、爽やかになるよ。

(24) a. Hiện trường tai nạn khiến cho mọi người chảy nước mắt.

現場 事故 させる 皆 流す 涙

b. (直訳：事故の現場は皆に涙を流させた。)

c. 事故の現場を見て、皆は涙を流した。

- (25) a. Nước chè đậm làm cho tôi mất ngủ.
お茶 濃い させる 私 失う 寝る
- b. (直訳：濃いお茶は私を眠れなくさせた。)
- c. 濃いお茶を飲んで、私は眠れなくなった。
- (26) a. Thức ăn nhiều dầu mỡ sẽ khiến cho bạn béo đầy.
食べ物 多い 油 きっと させる あなた 太る よ
- b. (直訳：油っぽい料理は貴方を太らせるよ。)
- c. 油っぽい料理を食べると太ってしまうよ。
- (27) a. Cuốn tiểu thuyết này đã làm thay đổi quan niệm sống của tôi.
小説 この [既然] させる 変える 観念 生活 の 私
- b. (直訳：この小説は私の生活への観念を変えさせた。)
- c. この小説を読んで、私の生活への観念が変わった。
- (28) a. Vận động làm cho cơ thể khỏe mạnh.
運動 させる 体 頑丈
- b. (直訳：運動は体を頑丈にさせる。)
- c. 運動をしたら、丈夫になる。
- (29) a. Âm nhạc khiến cho cô ấy quên hết mọi ưu phiền.
音楽 させる 彼女 忘れる すべて 悩み
- b. (直訳：音楽は彼女にすべての悩みを忘れさせる。)
- c. 音楽を聴くと、彼女はすべての悩みを忘れる。

ベトナム語では、行為を行う連鎖では名詞だけを取り上げて原因を表わし、このタイプの文においては動詞を省略することが可能である。省略されても、聞き手は話し手から伝わった情報を聞くと、その動作を連想でき、そして文全体の意味を解釈できるのである。一方日本語では、無生物名詞のみ文の主語になることは不可能である。(21)～(29)のように、「聞くと」、「耳にした途端」、「嗅いだら」、「見て」、「飲んで」、「食べると」、「読んで」、「運動したら」、「音楽を聴くと」など、動詞を入れないと許容できない。

第4章 ベトナム語における使役動詞とそれに対応する日本語の表現

第2章と第3章では、それぞれ日本語の他動詞文と使役構文に対応するベトナム語の表現を観察してきた。ここでは、これらの構文に対してベトナム語の表現として *bắt, cho, đẽ(cho), khiến(cho), làm(cho)* を使った文が対応することが明らかになった。しかし、第1章でも見たように、これまでのベトナム語に関する研究の中で、いわゆる使役構文を作る要素としてあげられているのは、上の5つだけではない。また、使役構文と類似した、あるいは、関連した構文があることも従来指摘されてきた。そこで、本章では、ベトナム語における上記5つ以外の使役要素、そして、それと関連した意味を表す要素について概観し、それらの要素が日本語のどのような表現と対応するかを見ていくことにする。

Nguyễn Kim Thán (1977) と Diệp Quang Ban (2005) によると、ベトナム語における使役動詞は以下のような動詞である。これらの動詞は陳述的用法として使われる動詞もあれば、陳述的用法でも遂行的用法でも使われる動詞もある。

Nguyễn Kim Thán (1977) によると *cho, đẽ(cho), khiến(cho), làm(cho)* は真正使役動詞で、フランス語における *faire, laisser* という使役動詞に非常に近いと述べている。そして、その真正使役動詞以外にも、以下のようにいくつかの使役動詞が存在すると述べている。

bảo 「言いつける」、*bắt buộc* 「強引に従わせる」、*buộc* 「強引に従わせる」、*cản trở* 「阻む、止める」、*cho phép* 「許可を出す」、*cổ vũ* 「鼓舞する」、*cưỡng bức* 「強いる」、*cưỡng ép* 「強制する」、*dạy* 「教育する」、*dắt* 「導く」、*dẫn* 「連れる」、*điù* 「助ける」、*điù dắt* 「導く」、*đề nghị* 「提案する」、*đòi* 「求める」、*đòi hỏi* 「要求する」、*cấm* 「禁止する」、*giục* 「促す」、*gọi* 「呼ぶ」、*giúp đỡ* 「手伝う」、*hướng dẫn* 「指導する」、*hô hào* 「呼びかける」、*kêu gọi* 「呼びかける」、*kích thích* 「刺激する」、*khuyên nhủ* 「宥める」、*khuyên răn* 「警告する」、*khuyến khích* 「督励する」、*khuyên bảo* 「勧誘する」、*khuyên* 「勧める」、*lãnh đạo* 「指導する」、*mời* 「招く」、*nài* 「強請する」、*nài ép* 「無理やり強制する」、*ngăn cản* 「阻止する」、*sai* 「遣いに出す」、*thúc* 「催促する／せかす」、*thúc đẩy* 「促進する」、*thúc ép* 「強行する」、*xin* 「願う、要請する」、*thuyết phục* 「説得する」、*yêu cầu* 「要求する」等である

こうしてみると、V1 の位置に当たる動詞はかなり多くのもが存在する。しかし、Nguyễn Kim Thán (1977) が述べている動詞は必ずしも、使役の意味を表すものではないものも入っている。例えば、giúp 「助ける」、giúp đỡ 「手伝う」、gọi 「呼ぶ」、dẫn 「連れる」、đạy 「教育する」、điù 「支える」等はいずれも使役の意味を表すものではない。例えば、dẫn 「連れる」điù 「支える」の例を見てみよう。

(1) Tôi dẫn con đến trường.

私 連れる 子供 行く 学校

(私は子供を学校に連れて行く。)

(2) Tôi điù em về.

私 支える 彼女 帰る

(私は彼女を家まで支えて帰った。)

例 (1)、(2) では形式上では「NP1 V1 NP2 V2」であるが、実際には NP1 (tôi 「私」) は V1 の dẫn 「連れる」、điù 「支える」という動作のみならず、V2 の đến 「行く」、về 「帰る」という動作も自身で行っている。つまり、V2 とも関係しており、この点は bắt、cho 等とは異なる。

(3) Tôi bắt con đến trường.

私 させる 子供 行く 学校

(私は子供を学校に行かせた。)

(3) では NP1 は V1 とのみ関わっており、V2 とは関係がない。

使役構文では NP1 は NP2 に働きかけ、NP2 が何らかのことをするように仕向ける、あるいは NP2 をある状態に変化させる。通常、V1 と V2 は使役構文における原因と結果の関係を表わすが、(1) と (2) の文ではその関係は見られない。同じことが giúp 「助ける」、giúp đỡ 「手伝う」、gọi 「呼ぶ」、đạy 「教育する」等にも当てはまる。これらの動詞は使役動詞とは言えない。

一方、Nguyễn Thị Quy (1995) は使役動詞には専用の動詞と普通の使役動詞があると述べている。専用の動詞には以下のようなものがあると言う。

sai 「遣いに出す」	sai 「させる／遣いに出す」	cho phép 「許可を出す」
thỉnh cầu 「請求する」	ra lệnh 「命令を下す」	giục 「せかす」

これらの動詞は必ず「NP1 V1 NP2 V2」の V1 の位置に当たる。専用の使役動詞以外にも、以下のような普通の使役動詞があると述べている。

xin 「許可を求める」、cầu 「願う」、cầu xin 「願う、要請する」、yêu cầu 「要求する」、đòi 「求める、妬む」、bắt 「～させる」、bắt buộc 「強制する」、van 「切願する」、van nài 「懇請する」、nài 「強制する」、nài ni 「強請する／せがむ」、giục 「促す／催促する」、thúc giục 「督促する」、cưỡng bức 「強制する」、cưỡng ép 「強制する」、ép 「強要する」、khuyên 「勧める」、cấm 「禁止する」、cử 「派遣する」、dặn 「勧告する」、nhờ 「頼む、～てもらう」、cho 「～させる／～与える」、phái 「任命する」、báo 「言いつける」

これらの動詞は様々な構文内で用いることができるが、「NP1 V1 NP2 V2」の V1 の位置に当たると使役動詞になる。注意すべきことは Nguyễn Thị Quy がここで言う使役構文では、V2 は必ず「意図的」な動詞であると述べている点である。

(4) **Bố sai Taro đi mua rượu.**
 父 遣いに出す 太郎 行く 買う お酒
 (父は太郎にお酒を買いに行かせた。)

(5) ***Bố sai Taro ngủ.**
 父 遣いに出す 太郎 眠る
 (父は太郎を眠るように遣いに出した。)

(6) **Thiếu tá ra lệnh cho họ bắn.**
 少佐 命令を下す に 彼ら 撃つ
 (少佐は彼らに撃つように命令を下した。)

(7) ***Thiếu tá ra lệnh cho họ yêu nước.**
 少佐 命令を下す に 彼ら 愛国する
 (少佐は彼らに愛国するように命令を下した。)

上のような例文を挙げて、V2 は必ず意図的な動詞を取ると述べているが、これらの動詞の中には必ずしも意図的とは言えない動詞が V2 の位置に入っている。例えば *khiến* と *khuyên* を用いる構文では、いずれも V2 に当たる動詞は意図的ではない。

(8) Tôi khuyên anh ấy ngủ sớm.
私 勧める 彼 眠る 早い
(私は彼に早く寝るように勧めた。)

(9) Cái chết của bố khiến cho cô ấy đau khổ.
死 の 父 させる 彼女 悲しむ
(父の死は彼女を悲しませた。)

例 (8)、(9) では V2 に当たる動詞は意図的ではなく、状態動詞である。使役構文の特徴は、NP1 が NP2 に働きかけて NP2 が何らかの動作を行うようにしたり、ある状態に変化させたりするのである。つまり、V2 は意図的の動詞の場合もあるが、状態変化を表す動詞の場合でも許容できる。

一方、Đào Thanh Lan (2010) と Chu Thị Thủy An (2002) は以下のような動詞を挙げている。

ra lệnh 「命令を下す」、*cấm* 「禁止する」、*cho phép* 「許可する、許す」、*cho* 「～与える」、*yêu cầu* 「要求する」、*đề nghị* 「請う、提案する」、*khuyên* 「勧める」、*nhờ* 「頼む、～てもらう」、*mời* 「招く」、*chúc* 「祝賀する」、*cầu* 「祈願する」、*xin* 「願う、要請する」*xin phép* 「許可を求める」、*van* 「切願する」、*lay* 「低頭する」

上記の研究で挙げられた使役動詞のうち、筆者はその要求の度合いによって 5 つのグループに分けることが可能ではないかと考える。

- a. 使役性が非常に高い (絶対的) グループ : *bắt buộc* 「強引に従わせる」、*ép buộc* 「強引に従わせる」、*ra lệnh* 「命令を下す」等
- b. 使役性がやや高いグループ : *bắt* 「～させる」、*sai* 「使いに出す」、*bảo/biểu* 「言いつける」、*yêu cầu* 「頼む」

- c. 使役性が中間レベルのグループ：cho phép 「許可を出す」、cho 「～させる／～与える」 đề nghị 「請う、提案する」、khuyến 「勧める」等
- d. 使役性が低いグループ：nhờ 「～てもらう」、mời 「招く」、xúi giục 「唆す」等
- e. 使役性が非常に低いグループ：xin 「願う、要請する」、xin phép 「許可を求める」、van 「切願する」等

4.1 使役性が非常に高い（絶対的）グループ

4.1.1 bắt buộc 「無理やりさせる」使役文

bắt buộc 使役動詞は bắt 「～させる」使役動詞と同じように、NP1 は NP2 にある動作をするように働きかけるが、NP1 の働きかけ方は異なっている。

以下の例文を見てみよう。

- (1) Chủ đất bắt buộc nông dân phải rời khỏi trang trại ngay lập tức.

地主 無理やりさせる 農民 ~べき 出る ファーム すぐ

(地主は農民たちをすぐにファームから離れさせた。)

- (2) Tự tôi, tôi phải lựa chọn lấy một người đàn ông

独りでに 私 ~べき 選ぶ 貰う 一人 男

chứ chẳng ai ép buộc tôi cả.

けど ~ない 誰 無理やりさせる 私 よ

(NMC- Người đàn bà trên chuyến tàu tốc hành)

(私です。私は自分で一人の男を選ばなきゃならなかった。誰かが私に無理やりさせたんじゃないのよ。)

このグループの動詞を用いる構文において、NP1 は NP2 に働きかけ何らかのことをするよう命令を出す権利がある。bắt よりも、bắt buộc、ép buộc は強制的な意味を表し、NP1 は NP2 に嫌がることを強要しようとする。日本語に訳す場合には、「させる」使役文に「無理やりに」と言う副詞を入れると強制的意味を表すことになる。

4.1.2 ra lệnh 「命令を下す」使役文

次に ra lệnh 「命令を下す」を見てみる。NP1 と NP2 の地位関係から見ると、NP1 は NP2 より優位である。つまり、社会的な地位が高い人が自分より低い人に対して働きかける時に用いられる。軍関係などの特殊な社会的地位を与えられた者に限られる。一般的に上官が兵士に命令をするときによく使われる。また、政府や国の機関などが命令を出す場合に使われることも多い。ra lệnh 構文では、NP1 が NP2 に嫌がることをやらせる意味ではなく、責任、義務などを果たさせようとする。場合によっては、命令される方も喜んで行動を行う。ra lệnh 使役文では、公的な内容で NP1 が NP2 に命令して何らかをさせるので、NP2 が行った動作は NP1 のためか NP2 のためかということではない。ra lệnh 「命令を下す」には大きく分けて次の二つの用法がある。

遂行的用法

- (3) Tôi ra lệnh cho anh phải chấp hành mệnh lệnh.
私 命令を下す に あなた ~べき 従う 命令
(私は貴方に命令に従うように命じます。)

遂行的用法として使われる場合は NP1 が自分の権力や地位などを強調する意味を表す。

陳述的用法

- (4) Ngày 24-2, chính quyền Ukraine đã ra lệnh
日 政権 ウクライナ [既然] 命令を下す
bắt giữ tổng thống Viktor Yanukovich
逮捕する 大統領 ヴィクトル・ヤヌコーヴィチ

(2月24日、ウクライナ政権はヴィクトル・ヤヌコーヴィチ大統領を逮捕するように命令を下した。)

(3) の文は、単に何らかの状況を叙述するものではなく、話し手が聞き手に対して何らかの行為を行わせようとするものである。これは、金水・今仁 (2000) で述べられている「遂行的 (performative)」な文であると考えられる。金水・今仁 (2000) は、遂行的な文の特徴

として、1) 主語が一人称で、動詞が現在形（基本形）かつ肯定形である、2) 動詞が遂行動詞である、の2点を挙げているが、(3)の文はその特徴に合致している。そこで、(3)のように遂行的に使われる場合の使役文の用法を「遂行的用法」と呼ぶことにする。一方、(4)のように出来事の叙述として用いられる使役文の用法を「陳述的用法」と呼ぶことにする。遂行的用法も、陳述的用法も、日本語の「～するように命令する」という表現に対応する。

4.2 使役性がやや高いグループ

このグループの代表は *bắt*「～させる」、*sai*「遣いに出す」、*bảo/biểu*「言いつける」、*yêu cầu*「要求する」等である。*bắt*「～させる」、は第1、3章で述べたが、この節では *yêu cầu*「要求する」、*sai*「遣いに出す」、*bảo/biểu*「言いつける」をしてみる。

4.2.1 *yêu cầu*「要求」使役文

「NP1 *yêu cầu* NP2 V」構文では「NP1がNP2に要求をして、NP2に何かをしてもらう、または何かをすることを禁ずる」意味をし、VはNP2による未来の動作／行為を表す。NP1はNP2がその行為を実行する能力があると信じており、NP2がその行為をするかどうかは自明ではないが、NP2によるその行為の実現を欲している。NP1が要求した内容はNP2の権限、責務、能力の範囲に属すことであり、NP2はその行為の実行の義務を負う。この *yêu cầu*「要求する」はNP1がNP2に何らかの行動を促したり、阻んだりする際によく使われる。*yêu cầu*「要求する」を使う構文では、NP1はNP2より社会的地位が高いか、または場合によっては同等の社会的地位であり、NP2に無理矢理行為をさせるわけではない。通常、*yêu cầu*「要求する」は公式的な表現に用いられ、家族や友達等の親しい関係ではあまり用いられない。そして使われる場合は、強く要求するか、またはNP1がNP2に距離を置いて要求する意味を表す。

yêu cầu「要求する」も、遂行的用法と陳述的用法の両方での使用が可能である。遂行的用法ではNP1に要求されてから、NP2が直ぐにその要求に応じて動作を行うことを意味するため、*yêu cầu*「要求する」を使う構文は必ず現在形である。遂行的用法で使われる場合、*yêu*

cầu「要求する」の文の主語は通常第一人称 (tôi「私」、chung tôi「私達」) である。ta「我々」、chung ta「私達」、chung mình「私達」等の包括的一人称は NP1 に来ない。NP2 の位置に来る目的語は通常二人称 (anh、em「あなた」、các anh「貴方たち」) である。時制、アスペクトを表わす đã [過去]、sẽ [未来]、đang [進行形]、vừa mới [～たばかり]、sắp [もうすぐ] ...等は来ない。一方、陳述的用法として使われる場合、文の主語である NP1 も、NP2 の位置に来る目的語にも制限はなく、時制、アスペクトを表わす đã [過去]、sẽ [未来]、đang [進行形]、vừa mới [～たばかり]、sắp [もうすぐ] ...等を共に使うことができる。

遂行的用法

- (5) Tôi yêu cầu cô quên thằng Tân đi!
私 要求する 貴女 忘れる 奴 タン なさい

(タンさんのことは忘れてもらいます。)

- (6) Tao chỉ yêu cầu mày một điều,
僕 ただ 要求する お前 一つ

kiếm được bao nhiêu phải đưa về!

儲ける いくら 必ず 持って帰る

(一つだけ頼みがある。儲けたお金はすべて持ち帰ってほしい。)

yêu cầu「要求」文では、NP1 を省略することも可能である。NP1 を省略するかしないかによって、使役性が異なる。

- (7) a. Yêu cầu em đóng sách lại.
要求する あなた 閉じる 本

(本を閉じなさい。)

- b. Tôi yêu cầu em đóng sách lại.
私 要求する 貴方 閉じる 本

(本を閉じてもらいます。)

例 (7) b は (7) a より、使役性が高く、使役性が高まると同時に丁寧さが減じる。

陳述的用法

- (8) Ông chủ tịch ấy hai ba lần yêu cầu nhà tôi dạy bình dân học vụ.
主席 その 二、三回 要求する 旦那 教える 平民教育
(その主席は二、三回、うちの旦那に平民教育を教えるように求めた。)

(*Nam Cao- Đói mắt*)

陳述的用法として使われる場合は、文脈がない限り、NP1 を省略できない。

4.2.2 sai 「遣いに出す」使役文

sai の本動詞の意味は「遣いに出す」、命ずるである。「NP1 sai NP2 V」構文では、NP1 が言葉によって、NP2 に何らかのことをやらせる。sai 使役構文では NP1 と NP2 は統制と被統制の関係である。目上の人が目下の人に何らかをするように指示・命令を出す。ra lệnh 「命令を下す」使役文は NP1 が NP2 に公的なことについて何らかするように命令するので、軍に関係することを表現する際によく用いるのに対して、sai 使役文は NP1 が NP2 に私的なことをするように指示を出すため、主に家族にまつわることを表現する際によく使われる。以下の例 (9) (10) では公的な場面なので、sai を用いることは不可能である。

- (9) *Chi huy sai binh lính ngừng bắn.
指揮官 遣いに出す 兵士 止める 撃つ
(意図された意味：指揮官は兵士に撃つのを止めるよう命じた)

- (10) *Thầy giáo sai sinh viên viết luận văn.
先生 遣いに出す 学生 書く 論文
(意図された意味：先生は学生に論文を書かせた)

例 (9) では、ra lệnh 「命令を下す」を用いられないといけない。一方、例 (10) では yêu cầu 「要求する」あるいは bắt 「させる」を用いる。

(11) **Bố sai em đi mua thuốc lá.**
父 遣いに出す 私 行く 買う タバコ

(父は私にタバコを買いに行かせた。)

(12) **Mẹ sai con gái nấu cơm.**
母 遣いに出す 娘 ご飯を作る

(母は娘にご飯を作らせた。)

例 (11)、(12) は自然な文である。sai 使役文では、NP1 が自分、あるいは自分に関わる人間のため、NP2 に何かをさせる意味を表すので、例 (13) では NP2 が行うことは NP1 のためではなく NP2 のためであるため、非文である。例 (14) も不自然である。

(13) ***Mẹ sai con gái học bài.**
母 遣いに出す 娘 勉強する

(意図された意味：母は娘に勉強させた)

(14) ? **Giám đốc đã sai tôi phát biểu ý kiến.**
社長 [既然] 遣いに出す 私 発表 意見

(意図された意味：社長は私に意見を発表させた)

例 (13) では **bắt** の方が自然である。そして、例 (14) では **bắt**、**yêu cầu** の方が自然である。一方、例 (15) では公的場面であるが、社長の自分の都合で会議に行けないため、「私」に頼んで、行ってもらう場合にも使える。この文では、公的場面であるという印象よりも個人的な関係であるという印象が強い。

(15) **Giám đốc sai tôi đi họp thay cho ông ấy.**
社長 遣いに出す 私 行く 会議 代わりに 彼

(社長は私を彼の代わりに会議に出させた。)

sai 使役構文は主に陳述用法として用いられる。遂行的用法も使われるが、比較的少ない。遂行的用法として使われる場合 NP1 が NP2 に対して威張るようなイメージが強いからである。

4.2.3 báo/biểu⁴「言いつける」使役文

báo/biểu「言いつける」使役文は意味的に bắt と同じように、NP1 が NP2 に働きかけをして、何らかのことをさせるという意味を表す。

báo は以下の三つの意味を持っている。

- (16) Taro dạo này đi chơi suốt ngày,
太郎 最近 行く 遊ぶ ずっと
anh phải báo nó đi.
あなた ~べき 言いつける 彼 ~ください

(太郎は最近遊んでばかりなので、彼に言い言いつけるください。)

- (17) Taro báo Hanako đi đón mẹ.
太郎 言いつける 花子 行く 迎える 母

(太郎は花子に母を迎えに行かせた。)

- (18) Anh ấy báo mọi người ở nhà vẫn khỏe.
彼 言う 皆 家 元気

(彼は家の皆が元気だと言っていた。)

例(16)では「忠告する/勧誘する」で、例(17)では「命令・指示を下す」、例(18)では「言う」の意味を表す。báo は「忠告する/勧誘する」と「言う」の意味も表すので、命令・指示の意味の使役性が bắt、sai より低いと言える。

- (19) Tôi đã báo anh ấy viết báo cáo.
私 [既然] 言いつける 彼 書く レポート

(私は彼にレポートを書いてもらった。)

báo「言う」は陳述的用法と遂行的用法として使われているが、陳述的用法の方が比較的によく使われる。遂行的方法は NP1 が NP2 に強調的に命令を出す場合に用いる。

⁴ Biểu は南部方言

- (20) Mẹ bảo con ở nhà, không được đi đâu cả.
母 言いつける あなた いる 家 できない 行く どこも
(家にいなさい。どこにも行かないようにしなさい。)

遂行的用法として使われる場合、日本語の「～させる」ではなく「～なさい」に対応する。

4.3 使役性が中間レベルのグループ

このグループに属する動詞は、cho phép 「許可を出す」、cho 「～させる／～与える」 đề nghị 「頼む」、khuyên 「勧める」等である。

cho phép 「許可を出す」、cho 「～させる／～与える」については第3章ですでに述べた。この節では đề nghị 「頼む」、khuyên 「勧める」を見てみよう。

4.3.1 đề nghị 「頼む」使役文

đề nghị 「頼む」構文は yêu cầu 「要求する」構文と同様の特徴を持つが、yêu cầu 「要求する」構文よりやや使役性が低い。

đề nghị は漢語の「提議」に由来する語で、以下の3つの意味を持つ。

- (a) 検討したり相談したりするべきことについて意見を出す意味を表す。
- (b) 相手に要求して解決したり認めたりすることを求める意味を表す。
- (c) 相手に自分の要求通りにしてもらいたいという意味を表す。そのような観点では命令文の代わりとして使われている。

NP2 は、NP1 に要求された内容を実行するか断るか自分で決めることができる。NP1 は NP2 より社会的地位が低いか、場合によっては同等である。NP1 を省略するかしないかによって使役性は異なる。NP1 を省略しない場合は、使役性が高まると同時に丁寧さは減じる。

đề nghị 構文も二つの遂行的用法と陳述的用法を持つ。

遂行的用法

- (21) Đề nghị mọi người giơ tay biểu quyết.
頼む 皆 上げる 手 多数決する
(みなさん、多数決を取りますので、手を挙げてください。)

yêu cầu と同様で、đề nghị 文に主語がある場合、使役性が高まると同時に丁寧さは減じる。

陳述的用法

- (22) Tôi sẽ đề nghị sở cho cô nghỉ dạy.
私 きっと 頼む 教育訓練部 させる 貴方 辞める 教える
(私は教育訓練部に貴女に学校を辞めさせるように要求します。)

陳述的用法として使われる場合、文脈がない限り NP1 を省略することはできない。

yêu cầu 構文と đề nghị 構文は、遂行的用法では主語がない場合、日本語では「～てください」と訳す場合が多いが、主語があると「～てもらいます」と訳す場合が多い。一方陳述的用法では、「～ように要求する」、「～ように求める」などと訳す場合が多い。

4.3.2 khuyên 「勧める」使役文

「NP1 khuyên 「勧める」 NP2 V2」構文では NP1 は親切な態度で NP2 に「～をした方がいい／～しない方がいい」と勧める意味を表す。NP1 は V の実現が NP2 にとって有益になると信じ、それを実現させようとする。khuyên 「勧める」を用いる構文では無理矢理やらせる意味もなく、NP1 は NP2 への勧めやヒントなどを伝えるのみである。「NP1 khuyên 「勧める」 NP2 V」構文では、V は未来の行為を表す。NP1 にとって、NP2 による V の行為の実現は自明でない。

khuyên は家族、友達など親しい関係によく用いられる。khuyên 構文も遂行的用法と陳述的用法があり、遂行的用法として使われる場合、khuyên 構文は以下のような二つの構文に当てはめることができる。

遂行的用法

- (23) Tôi khuyên bác không nên tới đó.
私 勧める 叔母さん ~ない べき 行く あそこ
(叔母さんはあそこに行かないことを勧めますよ／行かない方が良いと思います。)
- (24) Tôi khuyên em nên đổi chỗ ở đi.
僕 勧める あなた べき 変える 場所 住む
(あなたは住む場所を変えることを勧めますよ／変えた方が良いと思います。)

又、「NP1 khuyên 「勧める」 NP2 V2」構文は NP2 を省略することが可能である。

- (25) Tôi khuyên không nên tới đó.
私 勧める ~ない べき 行く あそこ
(あそこに行かないことを勧めますよ／行かない方が良いと思います。)

遂行的用法として用いる場合 NP1 は普通第 1 人称であるが、日本語のように NP1 を省略することが不可能である。例 (25) のように khuyên 構文では NP2 を省略することはできるが、例 (26) のように NP1 を省略すると非文になる。

- (26) *khuyên bác không nên tới đó.
勧める 叔母さん ~ない べき 行く あそこ

陳述的用法として使われる場合、NP1 は制限されない

陳述的用法

- (27) Họ khuyên can chị Dậu đừng khóc
彼ら 勧める ザウさん ~しない 泣く
(彼らはザウさんに泣かないように勧めた。)

(Ngô Tất Tố- Tắt đèn)

遂行的用法では、khuyên を用いる構文は日本語の「~した方がいい」「~しない方がいい

と勧めます／思います」という表現に対応する。一方、陳述的用法では、「～ように勧める」という表現に対応する。

4.4 使役性が低いグループ

このグループの動詞は *nhờ* 「～てもらおう」、*mời* 「招く」、*xúi giục* 「唆す」等である。

4.4.1 *nhờ* 「～てもらおう」使役文

ベトナム語の辞書によると、*nhờ* は「他の人に頼んで何かをしてもらおう」という意味を持つ。「NP1 *nhờ* NP2 V」で NP2 がしたことによって NP1 が利益を得ることを表す。

nhờ を使う使役構文では、使役者の社会的地位が被使役者より高くても、*nhờ* を使うとそれを低めることになる。そのためベトナム語では、使役者の社会的地位が被使役者より高い場合、「依頼」の *nhờ* よりも使役性が高い *bắt*、*cho*、*sai* などの使役動詞を使う傾向がある。つまり、*nhờ* の使役的ニュアンスは低く、*nhờ* 使役構文は謙譲的使役表現だと考えられる。

また、*nhờ* 構文は陳述的用法にも遂行的用法にも用いられる。遂行的用法として使われる場合は、文の主語は通常第 1 人称 (*tôi* 「私」、*chúng tôi* 「私達」)、また、NP2 の位置に来る目的語は通常第 2 人称 (*anh* 「あなた」、*các anh* 「貴方たち」) である。時制、アスペクトを表わす *đã* [過去]、*sẽ* [未来]、*đang* [進行形]、*vừa mới* [～たばかり]、*sắp* [もうすぐ] ...等は使われない。遂行的用法として使われる文では依頼の意味を表わすが、結果には言及していない。被使役者は使役者の依頼を受け入れる可能性もあるが、断る可能性もある。

遂行的用法：

(1) *Tôi còn muốn nhờ ông một việc.*

私 まだ ~たい 頼む 貴方 ひとつ こと

(私はあなたにもう一つ頼みたい。)

(*Nam Cao- Lão Học*)

ここでは *nhờ* は「頼む」という要求行為の表現で、要求された内容の実現を意味するのではない。

遂行的文の「NP1 *nhờ* NP2 V」では NP1、また NP1、NP2 を省略することも可能である。しかし、省略するかしないかによって使役の度合いは異なる。

(2) a. Tôi nhờ chị thay tôi chăm sóc cháu.

私 頼む あなた 代わりに 私 面倒する 彼

(私の代わりに彼の面倒を見てくださいますか。)

b. Nhờ chị chuyển lá thư này cho anh Nam.

頼む あなた 渡す 手紙 この に ナム

(ナムさんにこの手紙を渡すようにお願いします。)

c. Nhờ nói với mẹ cho em tí.

頼む 話す に 母 くれる 私 ちょっと

(ちょっとお母さんに言っておいて。)

主語の NP1 が来る場合、改まる度合いが違う。(2) a は改まった依頼に対して (2) b はややくだけた依頼、(2) c はかなりくだけた依頼となる。

一方、陳述的用法として使われる場合、文の主語と NP2 の位置に来る目的語は制限されない。時制、アスペクトを表わす *đã* [過去]、*sẽ* [未来]、*đang* [進行形]、*vừa mới* [～たばかり]、*sắp* [もうすぐ] ...等とも共起できる。

陳述用法

(3) Tôi đã nhờ ông giáo bên ấy viết văn tự rồi.

私 [既然] 頼む 先生 そちら 書く 文章 [完了]

(私はそちらの先生に文章を書いてもらいました。)

(Ngô Tất Tố- Tất đên)

- (4) Cô ấy tìm đến bạn bè nhờ họ tìm anh ấy giúp.
 彼女 やって来る 友達 頼む 彼ら 探す 彼 助ける
 (彼女は友達の方にやって来て、彼を探してもらった。)

(3)、(4) 文では、「頼む」行為を表すのではなく、要求された内容を実現させることを意味する。

4.4.2 mòi 「招く」使役文

ベトナム語の辞書によれば、mòi はもともと「招く」「招待する」の意であり、「他の人に丁寧に何かをするように懇願したり要求したりする」という意味を持つ。また、mòi 「招く」構文では NP2 がしたことによって NP2 自身が利益を得る意味を表す。mòi 「招く」を使う使役構文では、使役者の社会的地位が被使役者より高くても、mòi を使うと自分を低めることになる。mòi 「招く」は使役性が低いため、被使役者は使役者の依頼を受ける可能性もあるが、断る可能性もある。mòi 「招く」は、遂行的用法にも陳述的用法にも用いられる。

nhờ 「～てもらおう」と同様に遂行的用法として使われる場合は、文の主語は通常第一人称 (tôi 「私」、 chúng tôi 「私達」)、また NP2 の位置に来る目的語は通常第二人称 (anh 「あなた」、 các anh 「貴方たち」)、時制、アスペクトを表わす đã [過去]、sẽ [未来]、đang [進行形]、vừa mới [～たばかり]、sắp [もうすぐ] ...等は使われない。ベトナム語では mòi は遂行的用法としてよく使われている。この場合は、日本語の「～てもらおう」文に訳すことはできず、「～どうぞ、～ください」文に対応する。

遂行的用法

- (5) Mòi em vào. Xin lỗi anh vẫn chưa biết tên em.
 どうぞ あなた 入る ごめん 僕 まだ 知る 名前 あなた
 (どうぞ、入ってください！僕は、まだ、君の名前を知らなかったね。)

(6) Mời cậu vào chơi với ông đồ nhà tôi xơi nước đã.

どうぞ あなた 入る 遊ぶ と 先生 家 飲む お茶

(どうぞ、まずは家の者とゆっくりお茶でも飲んでください。)

(*Nam Cao- Đón khách*)

一方、陳述的用法として使われる場合、文の主語と NP2 の位置に来る目的語は制限されず、時制、アスペクトを表わす表現を一緒に使うことができる。一方、陳述的使役動詞の場合は日本語の「～てもらう」文として訳す場合が多い。

陳述的用法

(7) Đáng lý tôi mời cô xuống đây.

普通ならば 僕 招く 貴方 来る ここ

(普通ならば、貴女にここに来てもらうはずですが。)

(*Nguyễn Minh Châu- Mảnh trăng cuối rừng*)

(8) Có nhiên là tôi mời vợ chồng anh cứ giữ lệ thường.

もちろん 私 招く 夫婦 貴方 ~まま 従う 習慣

(勿論、あなた方ご夫婦にも習慣に従っていただきます。)

(*Nam Cao- Đôi mắt*)

(9) Tôi mời Hanako ngồi, rót nước cho cô.

僕 誘う 彼女 座る 注ぐ お茶 あげる 彼女

(僕は彼女に座ってもらい、お茶を注いであげた。)

mời は元々丁寧な表現であるが、場合によっては例 (10) のように非常に冷たい命令表現になる場合もある。

- (10) Mời anh về ngay cho.
 どうぞ 貴方 帰る すぐ くれる
 (すぐに帰ってもらいます。)

冷たい命令表現であるという点を考慮すると、ベトナム語の *mời* はやはり日本語の「～てもらおう」と翻訳するのが適当であると判断できる。

4.4.3 *xúi/xúi giục* 「唆す」使役文

「NP1 *xúi/xúi giục* 「唆す」 NP2」構文では *khuyên* と違って、NP1 が NP2 に悪いことをするように働きかける場合にしか用いられない。*xúi* は *xúi giục* より、使役の度合いが低い。

- (11) Nó *xúi* chồng nó nhất định không đóng.
 彼女 唆す 夫 彼女 必ず ~ない 納める
 (彼女は夫に絶対納めないように唆した。)

(Ngô Tất Tố- Tất đên)

- (12) Taro *xúi giục* Jiro đánh Hanako
 太郎 唆す 次郎 殴る 花子
 (太郎は次郎が花子を殴るように唆した。)

4.5 使役性が非常に低いグループ

このグループの動詞は *xin* 「願う、要請する」、*xin phép* 「許可を求める」、*van* 「懇願する」、*lay* 「低頭する」等である。*xin* 「願う、要請する」、*xin phép* 「許可を求める」は第1章で述べた。この節では *van/van xin* 「懇願する」を見てみる。

van 「懇願する」 / *van xin* 「懇願する」を用いる構文では、NP1 は NP2 の同意、同情を得るように、へりくだって言う。*van* 「懇願する」は NP1 が NP にお願ひする意味が強い。*xin* よりも *van* 「懇願する」の方がよりへりくだっている。NP1 は NP2 よりも社会的地位が低いため、NP2 は NP1 のお願ひを聞くか聞かないかは自分で決める権利がある。

van「懇願する」はよく遂行的用法で用いられるのに対して、van xin「懇願する」はよく陳述的な用法で用いられる。

- (1) Nhà em xa cách quá chừng
 家 私 遠い すぎる
 em van anh đấy, anh đừng yêu em.
 私 切願する あなた よ あなた ~ないで 好き 私
 (私の家は遠すぎるのよ。お願いだから私のことを愛したりしないでね。)
- (2) Taro van xin cho nghỉ trong giây lát rồi đi.
 太郎 懇願する させる 休む しばらく また 行く
 (太郎は、しばらく休ませてから行かせてと懇願した。)

4.6 無生物主語

無生物主語の問題については、第2章(2.6)、第3章(3.10)でも扱ったが、本節で取り上げた形式についても無生物主語の問題を検討しておきたい。

使役性が非常に高い(絶対的)グループの bắt buộc「無理やりさせる」と ra lệnh「命令を下す」と使役性がやや高いグループの bắt「無理やりさせる」、sai「使いにやる」、bảo「言いつける」、使役性が中間レベルのグループの cho phép「許可を出す」、cho「~させる/~与える」、đề nghị「頼む」、khuyến「勧める」、使役性が低いグループの動詞は nhờ「~てもらう」、mời「招く」、xúi giục「唆す」、使役性が非常に低いグループの xin「願う、要請する」、xin phép「許可を求める」、van「懇願する」、lạy「低頭する」使役文では NP1 が NP2 に対して、言葉によって働きかけをして、NP2 の何らかをさせる意味を表すため、無生物主語が来ることは不可能である。これらの動詞の主語は必ず言葉を用いる人間でなければならない。

しかし、以下のような場合では、無生物も来ることができる。

- (1) a. Tình thế khẩn cấp bắt buộc chúng tôi phải ra tay.
 緊急事態 ~無理やりさせる 我々 ~べき 手を出す
 b. (直訳：緊急事態は我々に手を出させる。)
 c. 緊急事態に陥るので、我々は手を出さないといけない。

例(1) a では *tình thế khẩn cấp* 「緊急事態」が無生物であるため、言葉による命令・指示を出すことができないが、この例文では、主語が直接に「我々」に働きかけをして「手を出す」ことをさせるのではなく、因果関係を表すのである。上の文は因果関係を表す文を置き換えることができる。この場合の *bắt buộc* は「仕方なく、しなければならない」の意味を表す。

例(1) a は日本語に訳す場合、因果関係を表す「ので」「ため」などを用いて訳すと自然な文になる。

- (2) a. *Vì tình thế khẩn cấp nên bắt buộc chúng tôi phải ra tay*
 ため 緊急事態 だから 止むを得ず 我々 ~べき 手を出す
 b. 緊急事態に陥ったので、止むを得ず、我々は手を出さなければならない。

以下の例(3) a も、例(1) a と同じように、*bắt buộc* は「仕方なく、しなければならない」の意味を表す。一方、*mệnh lệnh* 「命令」は無生物であるが、「命令を下す」人が必ず存在するので、完全に単純な無生物ではない。

- (3) a. *Mệnh lệnh cấp trên bắt buộc chúng tôi phải thực thi.*
 命令 上司 無理やりさせる 我々 ~べき 実施する
 b. (直訳：上司の命令は我々に実施させる。)
 c. 上司が出した命令なので、実施しなければならない。

従って、(3) a には、二つ解釈のし方がある。一つ目は例(2) a と同じように原因・結果を表す文と、もう一つは *mệnh lệnh cấp trên* 「上司の命令」は名詞句として使わず、*cấp trên ra mệnh lệnh* 「上司が命令を下す」という補文に置き換える方法である。

- (4) a. *Vì mệnh lệnh của cấp trên nên bắt buộc chúng tôi phải thực thi.*
 ため 命令 の 上司 だから 止むを得ず
 我々 ~べき 実施する
 b. 上司の命令だから、我々は止むを得ず、実施しなければならない。

- (5) a. **Cấp trên** ra lệnh, **bất buộc** chúng tôi phải thực thi.
 上司 命令を出す 無理やりさせる 我々 ~べき 実施する
 b. 上司が命令を出して、我々を実施させる。

例(4)は使役文ではなく、原因・結果を表す文である。ここでは、文の主語は「我々」である。一方、例(5)では使役文である。文の主語は「上司」であり、「我々」は動作主となる。この場合、「我々」は「無理やりさせられた」の意味を表す。**mệnh lệnh cấp trên**「上司の命令」は **cấp trên ra mệnh lệnh**「上司が命令を下す」と同じ意味である。

例(3)(4)aは例(1)aと同様で、日本語に訳すと、「ので」「ため」等を用いると自然である。もし、**mệnh lệnh cấp trên**「上司の命令」は名詞句ではなく文に変える場合、有性物主語になるので、通常の使役構文に置き換えるのは自然文になる。

次の例(6)と(7)では **ra lệnh**「命令を下す」、**van xin**「懇願する」使役文では、**ánh mắt**「目付き」の無生物主語である。

- (6) a. **Ánh mắt** của anh ấy như ra lệnh cho chúng tôi dừng lại.
 目付き の 彼 のよう 命令を下す に 我々 辞める
 b. 彼の目付きは我々に辞めてくれと命令しているようです。
- (7) a. **Ánh mắt** của cô ấy như van xin chúng tôi đừng đi.
 目付き の 彼女 のよう 懇願する 我々 行かない
 b. 彼女の目付きは我々に行かないようにと懇願しているようです。

例(6)(7)では「目付き」が無生物主語であるが、**như**「～ように」という表現と一緒に使われることによって自然になる。このような表現は擬人化した表現であるといえる。

- (8) a. Washington đang xúi giục phe đối lập tại Kiev
 ワシントン ~ている 唆す 反対派 で キエフ
 tiến hành đảo chính.
 実施する クーデター

b. ワシントンはキエフの反対派にクーデターをするように唆している。

例 (7) ではワシントンは無生物主語であるが、実際はアメリカの政府のことを表すので、このような表現はベトナム語では自然である。

4.7 NP2 の動作の実現を含意する使役動詞と含意しない使役動詞

NP2 の動作（あるいは状態変化）の実現を含意するかどうかという問題については、第 2 章、第 3 章でも扱った。本節で扱う形式についても、NP2 の動作（状態変化）の実現が含意されるかどうかを観察する。

日本語では「NP1 は NP2 を V させる」使役構文では NP2 の動作の実現を含意する意味を表す。

- (1) 私は社員を早く帰らせた。
- (2) 母は子供に英語を習わせた。

例 (1) では「社員が帰る」こと、例 (2) では「子供が英語を習う」ことは実現したと解釈できる。

一方、ベトナム語の使役構文では、NP2 の動作・作用の実現を含意しなければならない使役動詞もあれば、NP2 の動作・作用の実現を含意しなくてもよい使役動詞もある。数の上から見れば、NP2 の動作・作用の実現を含意しない動詞の方が含意する動詞よりも多い。khiến (cho) と làm (cho) 使役動詞以外、ほとんどの使役動詞は結果を含意しなくてもよいものである。本節では NP2 の動作の実現を含意するか否かを考察してみる。

4.7.1 bắt, sai, bảo のグループ

まず、必ず有生物の NP2 を取る bắt「無理やりさせる」／sai「遣いにやる」／bảo「言いつける」使役動詞を考察してみよう。このグループの使役動詞を用いる構文では、普通、NP1 も NP2 も有生物である。NP1 が NP2 に指示し、命令を下してあることをするように仕向け、NP2 はその指示や命令、願望を聞き、自分の意志で動作を行う。よって、V2 は自分の意志で制御できる動詞である。NP1 は NP2 に対して働きかけを行ったとしても、NP2 は自分の意志で動作を行うかどうかを決めるため、その指示や命令に従って動作を行う場合もあれば、その指示や命令に従わず動作を行わない場合もある。そのため、NP2 は動作の実現を含意しない。bắt「無理やりさせる」、sai「遣いにやる」、cho「許可を出す」、bảo「言いつける」は、通常 NP1 は既に指示し、命令を下したこと、あるいは未来形を表す sẽ を付けて、これから NP2 に何らかのことをするように仕向ける意味を表す。NP2 が動作を実現するかしないかは明示できない。

- (3) Tôi đã bắt con dọn dẹp phòng rồi.
私 [已然] させる 子供 片付ける 部屋 完了
(私は子供に部屋を片付けさせた。)
- (4) Tôi đã bảo Hanako mua sách tiếng Nhật rồi.
私 [已然] 言う 花子 買う 本 日本語 完了
(私は花子に日本語の本を買うように言った。)
- (5) Tôi đã sai con nấu cơm rồi.
私 [已然] させる 子供 ご飯を作る 完了
(私は子供にご飯を作らせた。)

上に挙げた例文では、NP2 が動作を実現するか否かについては言及していない。bắt、bảo、sai、の本動詞の意味はそれぞれ「無理やりさせる」、「告げる」、「命ずる／言いつける」である。また、NP1 は NP2 より社会的地位が高い、つまり NP1 と NP2 は統制と被統制の関係を前提とするため、NP2 は通常 NP1 が出した命令あるいは指示に従うべきである。したがって NP1 bắt「無理やりさせる」／sai「遣いにやる」／bảo「言いつける」NP2 V 構文では、一般的には NP2 が動作を必ず実現すると理解される。しかし、このグループは公的な場面に限

らず、日常的な場面にもよく使われる。親子の関係、目上と目下の関係、上司と部下の関係などである。NP2がNP1の命令や指示に従わないことは、NP1にとっては好ましくないことであるが、例えばそれが法律に違反するようなことはない。場合によっては、NP2はNP1に従わない場合もある。(3)では「部屋を片付ける」ように子供に命令したが、子供はその命令に従って「部屋を片付けた」かどうかについては言及していない。(4)、(5)も同様に、NP1は命令、指示はしたが、NP2が動作を実現したかしなかったかについては言及していない。NP2の動作が実現したともしなかったとも解釈できる。上の例文に完了を表す *ròi* を入れても、NP1の動作の完了を表すと理解してもよいし、NP2の動作の実現の完了と理解してもよい。

このことは、例(6)、(7)、(8)のように、補足文を加えてNP2の動作を実現していないことを明確にしても容認されることから確認できる。

- (6) Tôi đã bắt con dọn dẹp phòng rồi,
私 [既然] させる 子供 片付ける 部屋 [完了]
nhưng nó vẫn chưa dọn.
しかし 彼 まだ 片付ける

(直訳：私は子供を片付けさせたが、子供はまだ片づけていない。)

(私は子供に片付けるように言ったが、彼はまだ片づけていない。)

- (7) Tôi đã bảo Hanako mua sách tiếng Nhật
私 [既然] 言う 花子 買う 本 日本語
rồi nhưng cô ấy vẫn chưa mua.
完了 しかし 彼女 まだ 買う

(私は花子に日本語の本を買うように言ったが、彼女はまだ買っていない。)

- (8) Tôi đã sai con nấu cơm nhưng nó vẫn chưa nấu.
私 [既然] させる 子供 ご飯を作る しかし 彼 まだ 作る

(直訳：私は子供にご飯を作らせたが、子供はご飯をまだ作っていない。)

(私は子供にご飯を作るように言ったが、子供はまだ作っていない。)

4.7.2 chỉ thị、ra lệnh、chỉ đạo のグループ

ここでも NP1 と NP2 の関係は統治と被統治の関係で、NP1 も NP2 も有生物である。そして、NP1 が NP2 に指示し、命令を下してあることをするように仕向けるが、chỉ thị「指示する」、ra lệnh「命令する」、chỉ đạo「指導する」という使役動詞は NP2 の動作の実現を含意しない。これらの動詞を用いる使役構文では NP1 と NP2 の間に距離がある。NP1 による NP2 への命令や指示は、文章や何らかの公的な方法でなされる。NP1 の命令、指示が NP2 に届くには、時間がかかりかかったり空間的に遠かったりする。従ってこのような構文では、NP2 の動作の実現を強調するのではなく、NP1 の動作の方に重点がある。

- | | | | | | |
|-----|-----------|---------|---------|----------------|---------|
| (9) | Thủ tướng | chỉ thị | các cấp | chuẩn bị chống | bão lụt |
| | 首相 | 指示する | 当局 | 準備 予防する | 台風と洪水 |

(首相は各部局に台風と洪水の(被害を)予防をするための準備を指示した。)

- | | | | | | |
|------|-----------|---------|------|---------|---------------|
| (10) | Chính phủ | ra lệnh | bắt | lãnh tụ | đảng đối lập. |
| | 政府 | 命令する | 逮捕する | 幹部 | 反対党 |

(政府は野党の幹部を逮捕するように命令を下した。)

- | | | | | | | |
|------|---------|------|---------|----------------|-------------|-------------------|
| (11) | Bộ y tế | đã | chỉ đạo | các địa phương | phòng chống | dịch cúm gia cầm. |
| | 医療省 | [既然] | 指導する | 各地方 | 予防する | 鳥インフルエンザ |

(医療省は各地方に鳥インフルエンザを予防するように指導した。)

例 (9)、(10)、(11) chỉ thị「指示する」、ra lệnh「命令下す」、chỉ đạo「指導する」は公式場面でよく使われる。主に上司と部下、政府と当局の関係で、NP1 は NP2 より権力が強かったり社会的地位が高かったりする。その指示、命令は法的なものなので、NP2 は責任をもって動作を実現する。公式の場面でよく使われるため、NP2 は NP1 の指示、命令などを実現しないと法令に違反することになる。ra lệnh「命令を下す」は場合によっては日常生活でも使われ、法的な拘束力はないが、相手に強制的に何かをさせる意味を表わす。従って、嫌でもその命令、指示に従わなければならない。下した命令や、指示は必ず実現されるため、この

ような文では NP2 の実行に言及しなくても、必ず実現されるものと理解される。従って、*chỉ thị* 「指示する」、*ra lệnh*、「命令を下す」、*chỉ đạo* 「指導する」使役構文に完了を表わす *rồi* を入れても NP1 の動作の実現しか表わさない。NP2 の動作の実現には言及しないのである。

4.7.3 *yêu cầu*、*đề nghị*、*nhờ* のグループ

yêu cầu 「要求する」／*đề nghị* 「請う」／*nhờ* 「頼む」使役動詞は陳述的用法でも、遂行的用法でも使われる。陳述的用法として使われる場合、*yêu cầu* 「要求する」／*đề nghị* 「請う」／*nhờ* 「頼む」は *bắt* 「無理やりさせる」、*sai* 「遣いにやる」、*cho* 「許可を出す」、*bảo* 「言いつける」と同様の役割を果たして、NP1 が NP2 に何らかの要求をしてあることをするように仕向け、NP2 はその要求に応じて、自分の意志で動作を行うという意味を表す。そして V2 は自分の意志で制御できる動詞である。NP1 は NP2 に対して働きかけは行うが、NP2 が自分の意志でその動作を行うかどうかを決めるため、その要求に応える場合もあるがその要求を無視する場合もある。*bắt* 「無理やりさせる」／*sai* 「遣いにやる」／*cho* 「許可を出す」／*bảo* 「言いつける」と違って、*yêu cầu* 「要求する」／*đề nghị* 「請う」／*nhờ* 「頼む」構文では NP1 と NP2 の関係は統治と被統治の関係ではなく、例 (12) のように NP1 は NP2 より社会的地位が高い場合もあれば、場合によって、例 (13) のように NP1 は NP2 より地位が低い、例 (14) のように同等の関係の場合もある。

(12) *Giám đốc đã yêu cầu Taro viết báo cáo.*
 社長 [既然] 要求する 太郎 書く レポート
 (社長は太郎にレポートを書いてもらった。)

(13) *Chúng tôi đã đề nghị nhà trường tăng lương cho giáo viên.*
 我々 [既然] 提議 学校 増給する に 教員
 (我々は学校に教員の給料を上げてもらった。)

(14) *Taro đã nhờ Hanako dạy tiếng Anh.*
 太郎 [既然] 頼む 花子 教える 英語
 (太郎は花子に英語を教えてもらった。)

yêu cầu 「要求する」、*đề nghị* 「請う」、*nhờ* 「頼む」は NP1 の命令、指示ではなく、NP1 が

NP2に何かを頼んだり、お願いしたりすることなので、NP2の動作の実現可能性は *bắt* 「無理やりさせる」 / *sai* 「遣いにやる」 / *cho* 「許可を出す」 / *bảo* 「言いつける」 ほど高くない。*yêu cầu* 「要求する」は *đề nghị* 「請う」、*nhờ* 「頼む」より、使役性が高い表現である。NP1はNP2より一般的に社会的地位が高いが、*chỉ thị* 「指示する」、*ra lệnh* 「命令下す」、*chỉ đạo* 「指導する」程ではない。過去形にしても、NP2の動作の完了を表わすよりもNP1の行為の完了の意味を表すニュアンスが強い。が、例(15)、(16)、(17)のように、否定を表わす補文を入れると、NP2の結果をまだ実現していない意味が明白になる。

- (15) *Giám đốc đã yêu cầu Taro viết báo cáo rồi*
 社長 [既然] 要求する 太郎 書く レポート 完了
nhưng Taro vẫn chưa viết.
 しかし 太郎 まだ 書く

(社長は太郎にレポートを書くように頼んだが、太郎はまだ書いていない。)

- (16) *Chúng tôi đã đề nghị nhà trường tăng lương cho giáo viên rồi nhưng nhà trường vẫn chưa chịu tăng.*
 我々 [既然] 提議 学校 増給する に
 教員 完了 しかし 学校 まだ 同意する 上げる

(我々は学校に教員の給料を上げるよう要求したが、学校はまだ上げていなかった。)

(社長は太郎にレポートを書くように言ったが、太郎はまだ書いていない。)

- (17) *Taro đã nhờ Hanako dạy tiếng Anh nhưng Hanako không dạy.*
 太郎 [既然] 頼む 花子 教える 英語
 しかし 花子 ~ない 教える

(太郎は花子に英語を教えてくれるように頼みましたが、花子は教えてくれなかった。)

4.7.4 *khuyến khích*、*khuyên*、*mời* のグループ

khuyến khích 「励ます」、*khuyên* 「勧める」、*mời* 「誘う」は *yêu cầu* 「要求する」、*đề nghị* 「請う」、*nhờ* 「頼む」よりも、要求度が低い。

(18) Tôi khuyên khích anh ấy thi vào trường đại học Y dược
私 励ます 彼 受験する に 大学 医薬

(医療大学を受けるように彼を激励した。)

(19) Tôi khuyên Hanako mua ngôi nhà đó.
私 勧める 花子 買う 家 その

(私はその家を買うように花子に勧めた。)

(20) Chúng tôi đã mời anh Tanaka tham gia tiệc cưới.
我々 [既然] 招待する 田中さん 参加する 結婚式

(田中さんを結婚式に招待した。)

このグループの動詞は NP1 が NP2 に助言、許可などを与える意味を表わす。これらの動詞も NP2 の動作の実現を含意しない。過去形、また完了を表わす *rồi* を入れても、NP1 の動作の完了しか表わさない。

第5章 日本語における「～ように」「～てもらおう」構文に対応するベトナム語の表現

第1章に述べたように、日本語の使役動詞連鎖では、他動詞、「させる」使役表現、「～てもらおう」表現と「ようにいう」表現が存在する。そして、第2、3、4章で考察したが、ベトナム語の使役動詞と日本語の間の他動詞構文、そして「させる」使役表現は対応する場合もあるが、対応できない場合も生じる。本章では他動詞構文・使役構文に対応しない場合の表現としての「～てもらおう」「～ように」について見ていくことにする。

5.1 「～てもらおう」「～ていただく」構文について

本節では「～てもらおう」構文について考察し、ベトナム語に対応する表現を提示することを目的とする。「～てもらおう、～ていただく」は「～てやる」「～てくれる」などといった授受表現の一つで、「NP1はNP2に」何らかの利益を受ける意味を表す。そのため、「～てもらおう」はベトナム人向けの日本語教育では、「～てもらおう／～ていただく」はベトナム語の *được* 「得る」あるいは利益を受ける受身文の助動詞に_対対応すると言われている。

「～てもらおう」には一般的に *được* 「(利益を)得る」が対応するが、他に *nhờ* 「頼む」 *yêu cầu* 「要求する」、*đề nghị* 「請う」、*đề/ đề cho* 「～させておく」、*mời* 「誘う」等も「～てもらおう」に対応すると考えられる。まず、それらの例を挙げよう。

- (1) Tôi được anh ấy đàn piano cho nghe.
私 得る 彼 引く ピアノ 聞かせる

(私は、彼にピアノを弾いて聞かせてもらいました。)

- (2) Hôm qua tôi nhờ anh ấy giúp.
昨日 私 頼む 彼 手伝う

(昨日、彼に手伝ってもらいました。)

(3) Mời anh ra khỏi nhà tôi ngay.

どうぞ あなた 出る 家 私 すぐ

(すぐに私の家を出て行ってもらいます。)

(4) Chúng tôi yêu cầu anh trả lời đúng nội dung câu hỏi.

私たち 要求する あなた 答える 正しい 内容 質問

(質問の内容に正しく答えてもらいます。)

(5) Tôi đề nghị anh tắt thuốc lá.

私 請う あなた 消す タバコ

(タバコを消してもらいます。)

(6) Mọi việc để cho ông trời quyết định.

すべてのこと 任せる 神様 決める

(すべてのことは神様に決めてもらいます。)

5.1.1 「～てもらう」構文の文法的特徴

奥津（1982）は、「～てもらう」はまず利益的行為の取得という基本的な意味があり、この基本的な意味から派生して、文脈などによって使役行為の謙譲表現となると述べた。

「NP1 は NP2 に～てもらう」構文は、NP1 は NP2 から「～をする」行為を利益として受けるという意味を表す。例えば（7）では、主語の「私達」は「田中先生」から「日本語を教える」という行為を受けるのである。

(7) 私たちは、大学で田中先生に日本語を教えてもらいました

(8) 私は、近所の人にどうして私の子どもを殴ったのか説明してもらいました。

(7) では、「私たち」は日本語を勉強したいと望み、田中先生に頼んで教えてもらったり、教科の一つとして教えてもらったと理解できる。一方、(8) では、「私」が要求しない限り、

近所の人は私に子どもを殴った理由を説明してくれるはずがない。

つまり (8) では、NP1 が何かを要求して NP2 にしてもらおうということになる。これは一種の使役であると言える。

使役には、使役者が被使役者に対して要求したり許容したりすることによって被使役者がある行動をするための指令、許可、放任がある。

- (9) a.田中さんは（遊んでばかりいる）娘を留学させる。
b.田中さんは（お金がかかるけど、留学したいという）娘を留学させる
c.田中さんは（自分で留学手続きをしてしまった）娘を留学させる。

「～させる」文の場合は、(9) a、b、c のように指令、許可、放任が考えられる。一方、「～てもらおう」文は、指令としての積極的な働きかけの表現にしか使えない。許可、放任の意味で「～させる」に置き換えることはできない。

「～させる」文と「～てもらおう」文はいずれも使役者は指令して被使役者にある行為をしてもらおうが、(10) a、b のように多少待遇価値が異なる。

- (10) a.私は彼女に部屋を掃除させた。
b.私は彼女に部屋を掃除してもらった。

(10) a の「～させる」文は、使役者の「私」が（たとえ彼女が嫌がっても、自分の立場、自分の権力で）強制的に被使役者の「彼女」に掃除という行為をさせることを表す。いかにも尊大で強制的な感じを与える。一方、(10) b 「～てもらおう」文では、「彼女」に依頼して（「私」にとって利益となる）「部屋を掃除する」行為をさせる。「～てもらおう」文は「～させる」文より使役性が低い。「～てもらおう」文は謙讓的使役表現である。

澤田（2006）によると、「～てもらおう」構文は「強制的」な文脈の中では成立しにくい。

(11) a.??太郎は無理やり息子に行ってもらった。

b.??太郎は有無を言わず娘に結婚してもらった。

また、「～てもらう」は丁寧に他人に頼んで何かをしてもらう意味を表すが、文脈そして口調によって非常に強い命令と感じられる場合もある。特に、遂行的用法として使われる時は強い強制を表すことが多い。

(12) a.あなたに部屋を掃除してもらいます。

b.これを食べてもらいます。

c.すぐに帰ってもらいます。

(10) b と (12) a と比べると、(10) b では、主語の「私」が強制的に「彼女」にさせるのではなく、「彼女」に依頼し、「彼女が部屋を掃除した」という行為によって、自分が利益を受ける意味に感じられる。一方、(10) a では、強い命令を与えると感じる。

5.1.2 「受動」、「使役」の解釈と影響度

5.1.2.1 対象の影響度は「受動」、「使役」の意味解釈に関わる

澤田 (2006) によると、「～てもらう」構文では主語名詞句が与格名詞句による補文 (NP2) の行為の「影響」を受けている場合には「受動」と「使役」の両方の解釈が可能であり、その「影響」を受けていない場合には「使役」の解釈となると述べた。

以下の例文を比較してみよう。

(13) a. 私は彼らに手伝ってもらった。 ≠ 私は彼らを手伝わせた。

b. 私は彼らに黙ってもらった。 = 私は彼らを黙らせた。

(13) a では、私は「彼らが私を手伝う」という行為の影響を受けている。この例文は、「私」は何も頼まなくても「彼ら」が手伝ってくれる「受動」の意味を解釈することが可能である。また、「私」は「彼ら」に手伝うように頼んで、「彼らが手伝ってくれる」の「使役」の意味と解釈することも可能である。一方 (13) b では、「私」は「彼らが黙る」影響を受けていない。この例文では、「私」は「彼ら」に黙るように要求していたので、「使役」の意味のみが可能と予測される。

5.1.2.2 NP2 の行為が否定形で表されている場合

「～てもらおう」構文では NP2 の行為が否定形で表されている場合、その行為は未成立であることを示し、さらにその場合、主語名詞句は影響を受けていると見做されにくく、それ故「受動」の解釈は得られにくいと澤田（2006）は述べた。

- (14) a. 彼女に部屋を掃除してもらった。
b. ?? 彼女に部屋を掃除しないでもらった。

例 (14) a では、「思いがけず」と結合したら「受動」の意味、「頼んで」などの要求を表す表現と結合したら「使役」の意味と解釈することが可能である。一方 (14) b の例文では、「思いがけず」と結合しても意味をなさない。

5.1.2.3 「～てもらおう」構文では行為が「未実現」の場合

「～てもらおう」構文では行為が未実現の場合、「受動」の解釈ができない。このような場合は「使役」の解釈の方が自然である。

- (15) a. 昨日、友達に駅まで迎えに行ってもらいました。
b. 明日、友達に駅まで迎えに行ってもらいます。

(15) a では、「受動」でも「使役」でも解釈が可能であるのに対して、(15) b は「使役」の解釈しか得られない。

5.1.2.4 「受動」、「使役」の解釈と他動性

澤田 (2006) は、補文に参与者を一つしか取らない自動詞が生起した場合、「受動」の解釈は成り立ちにくく、それは自動詞は基本的に他者に影響を与えないからであると述べた。

- (16) a. 私は {??思いがけず／頼んで} 彼女に帰ってもらった。
b. 私は {??思いがけず／頼んで} 彼女に部屋を出てもらった。

(16) a、b では「思いがけず」が「～てもらう」構文に使われる場合、「受動」の意味にならず不自然な文になる。一方、「頼んで」を使うと、「使役」の意味を表すので自然な文になる。

しかし、「～てもらう」構文に使われる自動詞がすべて「受動」の意味にならないわけではない。「来る」が使われる「～てもらう」構文を見てみよう。

- (17) 日本留学フェアに、大勢の人に来てもらって嬉しかった。

「来る」は自動詞であり、主語名詞句たる話し手はその行為の影響を受けていないように感じられる。この例文では「使役」の意味ではなく、むしろ「受動」の意味に解釈される。

澤田 (2006) によると、「来る」は「求心性」を帯びており、話し手が何らかの影響を受けたことを含意し、同じ方向を表す自動詞であっても「行く」は遠心的な動詞なので影響性を

含意しにくいと述べた。

5.1.3 「～てもらおう」とベトナム語に対応する表現

5.1.3.1 được 構文

được は「NP1 được NP2 V」という構文を形成する。ベトナム語の được は「何か利益を得る」という意味を持ち、「NP1 được NP2 V」で NP1 が NP2 から何らかの恩恵を得ることを示す表現となる。したがって、được 構文は、「～てもらおう」の利益的行為の取得の基本的な意味に対応すると言える。

「NP1 được NP2 V」構文では、NP1 は必ず文頭に来る。そして、NP1、NP2 は省略不可能である。

(18) a. Tôi được Tanaka đưa về nhà bằng xe ô tô.

私 得る 田中 送る 帰る 家 で 車

(私は、田中さんに車で家まで送ってもらいました。)

例(18)では、主語の「私」は「田中さん」から「家まで送る」という行為を利益として受けたことを意味している。được を使う構文では、V2 は要求行為ではなく結果を表わす。

このように、ベトナム語の được と「受動」の「～てもらおう」構文の意味が対応することが明らかだろう。được も「～てもらおう」も、利益的行為を取得する意味を表し、恩恵を受けるという点が一致しているため翻訳上でも対応する。

được はもともと漢語の「得」に由来するので、話し手の身内である主文の主語が第三者である補文の主語の行為を利益として取得するという意味を表す。例えば(18) a を(18) b のように「私」と「彼」の位置を置き換える形にすると、やや不自然になる。

(18) b.?? Ông ấy được tôi đưa về nhà bằng xe ô tô.

彼 得る 私 送る 帰る 家 車

(彼は私に車で家まで送ってもらいました。)

NP2 の位置に第一人称が来ると、相手を低く捉えた非常に高慢な印象になる。

「～てもらおう」構文も được 構文と同様で、他のものが文の主語で身内が NP2 の位置に来ることは不自然である。

(19) ??彼は私に車で送ってもらいました。

日本語の「～てもらおう」構文は、行為を自然に利益として受けること（「受動」の意味）も、要求して受けること（「使役」の意味）も意味するのに対し、ベトナム語の được 構文は「要求して利益を受ける」のではなく自然な利得のみを表す。「要求して利益を受ける」使役の意味を表す場合は、ベトナムでは nhờ 構文を使う。

5.1.3.2 nhờ 「頼む」構文

第 4 章に述べたように nhờ 「頼む」構文は遂行的用法でも陳述的用法でも使われる。この節では、日本語における「～てもらおう」構文と nhờ のそれぞれの用法の相違点を見てみよう。

遂行的用法：

(20) Tôi nhờ chị nấu hộ nội cơm có được không.

私 頼む 貴方 作る 助ける ご飯 いいですか

(ご飯を炊いてもらっていいですか。)

(21) Nhờ chị mua cho em ít rau vói.
 頼む あなた 買う くれる 私 すこし 野菜 ね

(お姉さんにちょっと野菜を買ってもらってもいいですか。)

遂行的用法でも nhờ は日本語の「～てもらう」に対応できる。

例 (22)、(23) の文では、「頼む」行為を表すのではなく。要求された内容を実現させることを意味する。

陳述用法：

(22) Tôi đã nhờ anh ấy mua máy tính rồi.
 私 [既然] 頼む 彼 買う パソコン 完了

(私は彼にパソコンを買ってもらいました。)

(23) Hanako đã nhờ Taro chỉ cách gọi điện thoại quốc tế.
 花子 [既然] 頼む 太郎 教える かけ方 国際電話

(花子は太郎に国際電話のかけ方を教えてもらった。)

以上のように、要求使役 nhờ 「頼む」構文と使役の意味を解釈する「～てもらう」との対応関係が明らかになる。以下では、両者の類似点と相違点について述べる。

まず、類似点として、要求使役 nhờ 構文と「使役」の意味を解釈する「～てもらう」構文は、利益と待遇性を帯びる表現であるという特性があるためか、両言語とも NP2 は必ず有生物に限られているという点が挙げられる。以下の例 (24)、(25) は不自然な例である。

(24) a.*太郎は車に走てもらおう。

b.* Taro nhờ xe chạy.
 太郎 頼む 車 走る

(25) a.*太郎はプリンに固まってもらった。

(26) b.* Taro nhờ bánh Pudding đông.
太郎 頼む プリン 固まる

例 (24)、(25) では「～てもらう」と nhờ 「頼む」を用いるので、不自然な文となる。以下の (26)、(27) のように「～てもらう」と nhờ の代わりに、「～させる」と cho/làm/khiến 等を使えば自然になる。

(27) a. 太郎は車を走らせる。

b. Taro cho xe chạy.
太郎 させる 車 走る

(28) a. 太郎はプリンを固まらせた。

b. Taro làm cho bánh pudding đông.
太郎 させる プリン 固まる

次に、相違点について述べる。第一に、日本語における「～てもらう」構文は「～させる」の使用を避けるため、つまり「～させる」による使役表現を和らげるために使われるのに対し、nhờ はそうではないという点が挙げられる。日本語では、目上の人が目下の人に何かをさせる時、明らかな使役行為であっても「～させる」を避けて「～てもらう」を使う場合が多い。

(29) a. 私は秘書を辞めさせた。

b. 私は秘書に辞めてもらった。

(30) a. 私は太郎さんを出張に行かせた。

b. 私は太郎さんに出張に行ってもらった。

(31) a.私は学生に論文を書かせた。

b.私は学生に論文を書いてもらった。

上の (28)、(29)、(30) は、それぞれ社長が社員に仕事を辞めさせる場合、上司が部下に出張に行かせる場合、先生が学生に論文を書かせる場合であって、「～させる」も「～てもらおう」も使える。

一方、ベトナム語では *nhờ* は要求使役文であるが、基本的に恩恵を受ける意味を持つため利益を受けない場合は使えない。NP2 がしたことは NP1 にとって利益を得ることである。そして、NP1 は NP2 によって行われたことに恩恵を受ける意味も含意するため、*nhờ* 「頼む」表現は強制的な意味を表さない。以下の例 (31) は不自然な文である。

(32) *Tôi nhờ cô thư ký nghỉ việc.

私 頼む 秘書 辞める 仕事

このような場合には、社長が自分の権力で社員を無理やり辞めさせるからベトナム語では *cho/bắt* を使わなければならない。

(33) Tôi bắt/cho cô thư ký nghỉ việc.

私 させる 秘書 辞める 仕事

(私は秘書を辞めさせた。)

例 (33) も (32) と同様に *cho/bắt* を用いるので自然であるが、(34) のように *nhờ* を使うと非文になる。

(34) Tôi bắt/ cho Taro đi công tác.

私 させる 太郎 出張する

(私は太郎を出張に行かせた。)

(35) *Tôi nhờ Taro đi công tác.

私 頼む 太郎 出張する

(33)の文では上役は仕事上で部下に出張させる場合は **cho/ bắt** を使わなければならない。しかし、出張すべき人は「私」であるが、何らかの理由で出張に行けない「私」が太郎に頼んで自分の代わりに行ってもらう場合は **nhờ** を使うことができる。

(36) Tôi nhờ Taro đi công tác.

私 頼む 太郎 出張する

(私は太郎に出張に行ってもらった)

また、例 (35) では、先生が学生に論文を書かせるのは当たり前のことで、先生が恩恵を受けることはないので **nhờ** を使うことはできない。この場合も **cho/ bắt** を使わなければならない。

(37) Tôi bắt/ cho sinh viên viết luận văn.

私 させる 学生 書く 論文

しかし、先生がなんらかの理由で自分の論文を書くことができず、学生に書いてもらう場合は **nhờ** を使うことができる。この場合は、学生が論文を書くことによって先生が利益を受けるためである。

(38) Tôi nhờ sinh viên viết luận văn.
私 頼む 学生 書く 論文

第二の相違点として、日本語における「～てもらう」構文では感情動詞が伴うことがあるのに対し、ベトナム語の nhờ 構文では、「悩む」、「悲しむ」、「喜ぶ」、「困る」、「心配する」、「安心する」、「びっくりする」、「驚く」、「怒る」などとは結合できないという点がある。

(39) a. 太郎は花子に喜んでもらった。

b. *Taro nhờ Hanako vui.
太郎 頼む 花子 楽しむ

c. Taro khiến/ làm cho Hanako vui.
太郎 させる 花子 楽しむ

感情動詞を伴う場合、nhờ ではなく (39) c のように khiến、làm cho 「～させる」等を使わなければならない。

第三に、「～てもらう」文では主語は身内でなければならぬのに対し、ベトナム語の nhờ 構文では主語に制限はないという点が挙げられる。

(40) a. Anh Tanaka nhờ tôi giúp.
田中さん 頼む 私 助ける

(田中さんは私に救助を求めた。)

b. *田中さんは私に助けてもらった。

日本語では (40) b のような表現は NP2 の位置に第一人称の「私」が来ると不自然な文となる。一方、ベトナム語では、このような場合でも、普通に使われている。

第四の相違点として、「～てもらおう」は、(41)のように結果を表わす場合、許容できないという点がある。基本的に「～てもらおう」構文では、NP2の動作・作用の実現を含意するが、ベトナム語の *nhờ*「頼む」構文では、NP1の *nhờ*「頼む」行為のみ表す。NP2の動作の実現をするか否かについて言及しない。

(41) *昨日私は彼に助けてもらったが、彼は助けてくれなかった。

例(41)のような日本語が許容できないのに対して、ベトナム語では(42)のように *nhờ* 構文は許容できる。

(42) Hôm qua tôi nhờ anh ấy giúp nhưng anh ấy không giúp.
 昨日 私 頼む 彼 助ける しかし 彼 ~ない 助ける
 (昨日彼に助けてくれるように頼んだが、助けてくれなかった。)

この場合、*nhờ*は結果を表わすのではなく、ただ、「頼む」という行為について言及するのみである。このような場合では、「～てもらおう」ではなく、「～ように頼む」等を用いたほうが自然文となる。

以下は「～てもらおう」構文と *nhờ*「頼む」表現のまとめである。

	「～てもらおう」	<i>nhờ</i> 「頼む」
「させる」の意味	○	×
感情動詞と結合する。	○	×
NP2の動作の結果を含意しない。	×	○

5.1.4 mòi 「招く」の構文

第4章で述べたように、ベトナム語では mòi は遂行的用法としても、陳述的用法としても用いられる。ベトナム語では mòi は遂行的用法としてよく使われている。この場合は、日本語の「～てもらおう」文に訳すことはできず、「～どうぞ、～ください」文に対応する。

遂行的用法

(43) Mòi em ngòì.

どうぞ あなた 座る

(どうぞ、座ってください。)

(44) Mòi mọi người dùng hoa quả đi ạ.

どうぞ 皆 食べる 果物 ～ください

(どうぞ、果物を食べてください。)

一方、陳述的使役動詞場合は日本語の「～てもらおう」文として訳す場合が多い。

陳述的用法

(45) Tôi đã mòi anh ấy phát biểu ý kiến.

私 [既然] 招く 彼 発表する 意見

(彼に意見を発表してもらいました。)

(*Nam Cao- Đồi mắt*)

(46) Tao mòi cô đến, giải thích cho cô hiểu mọi chuyện.

僕 招く 彼女 来る 説明する に 彼女 分かる すべての事

(僕は彼女に来てもらい、すべての事を説明した。)

mòi はもともと丁寧な表現であるが、場合によっては、例(46)のように非常に冷たい命

令表現になる場合もある。

- (47) Mời anh về ngay cho.
 どうぞ あなた 帰る 直ぐに くれる
 (すぐに帰ってもらいます。)

例(46)は、日本語の訳文に、意味的にも、文法的にも対応できる。冷たい命令表現という点が一致しているため、ベトナム語の *mời* と日本語の「～てもらう」は翻訳上対応している。

mời 表現	日本語の対応する表現
遂行的用法	「～てください」、「どうぞ」
陳述的用法	「～てもらう」
遂行的用法で、冷たい命令として用いる場合	「～てもらう」

5.1.5 *yêu cầu* 「要求する」構文

yêu cầu 構文は第4章に述べたが、この節では、*yêu cầu* と「～てもらう」構文との関係を見てみよう。

遂行的用法

- (48) Tôi yêu cầu cô giải thích lý do đến muộn.
 私 要求する あなた 説明する 理由 遅刻
 (私は貴方に遅刻する理由を説明してもらいます。)

(49) Tôi yêu cầu các anh phải dọn dẹp sạch sẽ.
 私 要求する 貴方たち べき 片付ける きれいに
 trước khi rời khỏi đây.
 前 出る ここ

(私はあなたたちにここに出る前にきれいに片付けてもらいます。)

(50) Tôi yêu cầu em đóng sách lại.
 私 要求する あなた 閉じる 本

(私は君に本を閉じてもらいます。)

日本語では NP1 yêu cầu NP2 V のような表現は「NP1 が NP2 に V1 要求する」のような表現はあまり自然ではない。普通「～要求する」は公的場面に使われている。日常会話では、このような表現があまり用いられない。一方、ベトナム語では、yêu cầu 表現はよく使われているがやや硬い表現である。自分の要求を強調する場合に用いる。通常、yêu cầu 構文は社会的な地位が高い人が自分より地位が低い人に命令・指示等をする場合に用いる。このような文では、主語を入れると、より使役性が高くなる。従って、このような文は日本語の「～てもらう」に訳せば適切である。

一方、yêu cầu 文では NP1 を省略することも可能である。NP1 を省略するかしないかによって使役性が異なる。ベトナム語では主語がある場合、使役性が高まると同時に丁寧さは減ずる。主語が入れる文と比べると、これらの表現のほうが、使役性が低い。日常会話によく使われている。

(51) Yêu cầu cô giải thích lý do đến muộn.
 要求する あなた 説明する 理由 遅刻

(遅刻理由を説明してください。)

(52) Yêu cầu em đóng sách lại.

要求する 貴方 閉じる 本

(本を閉じてください。)

主語を入れない yêu cầu 表現は日本語では「～てもらおう」よりも「～ください」の方が適切ではないかと考えられる。

一方、陳述的用法として使われる場合は、文脈がない限り NP1 を省略できない。

陳述的用法

(53) Giám đốc đã mấy lần yêu cầu anh ấy đi công tác nước ngoài.

社長 [既然] 何回も 要求する 彼 海外出張する

(社長は何回も彼に海外出張に行ってもらった。)

(社長は何回も彼に海外出張に行くように頼んだ。)

(54) Trưởng phòng đã yêu cầu Taro viết báo cáo gấp.

部長 [既然] 要求する 太郎 書く 報告書

(部長は太郎にすぐに報告書を書いてもらった。)

(部長は太郎にすぐに報告書を書くようにと頼んだ。)

5.1.6 đề nghị 構文

đề nghị 構文は yêu cầu 構文と同様の特徴を持つが、yêu cầu 構文よりやや使役性が低い。

遂行的用法

(55) Đề nghị mọi người im lặng.

請う 皆 静かにする

(皆さん、静かにしてみてください。)

(56) Đề nghị anh cho xem giấy tờ.

請う あなた 見せる 身分証

(身分証を見せてください。)

(57) Tôi đề nghị anh Taro hát một bài.

私 請う 太郎 歌う 一曲

(太郎さん、一曲歌ってください。)

(58) Tôi đề nghị mọi người nên cho anh ấy thêm một cơ hội.

私 請う 皆 ~べき あげる 彼 もう 一つ チャンス

(皆さん、彼にもう一つチャンスをください。)

遂行的用法として使われる場合には、主語を入れても省略しても容認可能である。đề nghị は yêu cầu より、使役性が低いので、遂行的用法として使われる場合は、日本語の「～てもらおう」よりも、「～てください」に訳した方が適切である。

陳述的用法

(59) Tôi đã thay mặt công đoàn đề nghị cấp trên

私 [既然] 代わりに 労働組合 請う 上司

xem xét lại chế độ thưởng Tết.

検討する 再び 制度 ボーナス 正月

(私は労働組合の代わりに上司に正月のボーナスの制度をもう一同検討してもらった。)

(私は労働組合の代わりに上司に正月のボーナスの制度をもう一同検討していただくように頼んだ。)

(60) Tôi đã đề nghị chủ nhà lắp máy điều hòa rồi.

私 [既然] 請う 大家 付ける エアコン [完了]

(私は大家にエアコンをつけて貰いました。)

(私は大家にエアコンをつけるように言いました。)

(61) Tôi đã đề nghị ban tổ chức thông báo đến các báo cáo viên.
私 [既然] 請う 取材者 知らせる に 発表者

(私は取材者に発表者に知らせてもらった。)

(私は取材者に発表者に知らせるようにと言いました。)

「NP1 đề nghị NP2 V」構文も「NP1 yêu cầu NP2 V」と同じように、NP1 の「要求する」「請う」という働きかけのみ表わすが、NP2 の動作の実現をしたか否かについて言及しない。これらの構文を日本語に訳す場合、NP2 の行為も実現された場合、「～てもらおう」を用いることが可能である。一方、NP2 の行為を実現されない場合、「ようにいう」を用いた方が自然な文となる。

5.2 「～ようにいう」構文について

日本語では使役を表す場合に「させる」という表現以外に「～ように」、「～てもらおう」などの表現も用いる。この節では、「～ように」表現を考察してみよう。

5.2.1 命令の間接化の場合

「～ようにいう」表現について楊（1989）は「命令の間接化」あるいは「勧告間接話法表現」と呼び、「話法」として扱っている。

(62) 彼に行くようにいった。

(63) a. 行きなさい。

b. 行けよ。

(61) は (62) のように、a や b のような直接の命令文から転じたものであるというふうに捉えられるからであると述べている。

奥津（1970）は命令文の間接化については、動詞の命令形語尾に「-ru yoo ni」を付けると

述べている。この転形のルールは以下のようなものであると述べている。

[...V-ru yoo ni...]inderiect

(64) アナタハ私ニソレヲアナタニ見セ-トオッシャッタ。⇒アナタハ私ニソレヲアナタニ見セ-ルヨウニトオッシャッタ。

一方、柴谷 (1978) は「「命令」する・「勧める」・「命じる」といった「勧告動詞」を持つ文は命令的な内容を表す引用句を含むが、間接用法の場合は「ように」という要素が引用文の直ぐ後に挿入されている。「ように」は、単に「よう」とされる時もあり、引用標識「と」は普通省かれる場合が多い。」と述べている。

(65) a.父は僕に、「お前が庭を掃け」と命令した。
b.父は僕に庭を掃くように命令した。

ベトナム語にも、日本語と同じような間接化の用法が存在する。

(66) Bó báo tôi rằng: “Tôi nay hãy về sớm đấy!”
父 言う 私 と 今晚 ~なさい帰る 早く よ
(父は僕に「今晚早く帰りなさい！」と言った。)

(67) Bó báo tôi tối nay phải về sớm.
父 言う 私 今晚 ~べき 帰る 早く
(父は僕に今晚早く帰るようにと言った。)

ベトナム語でも (65) は (66) か (67) のような表現で表わすことが可能である。ベトナム語では直接に相手が言った言葉を伝えるために例 (66) のように、rằng/là「と」結合し、その後、相手が言った言葉を全部述べる用法である。しかし、rằng/là「と」を省略する場合もある。また、例 (67) のように、直接ではなく、間接的に相手が言った言葉を伝える。この用法では、rằng/là「と」と結合しない、そして、相手が言った内容を全部ではなく、

主な内容だけを述べる。

上の文のようにベトナム語では命令文を間接化する用法がある。このような場合が日本語の「～ように」表現に相当する。

しかし、ベトナム語ではすべての文が間接化すると NP1 bảo NP2 「NP2 は NP2 に～ように言う」という表現で表われる訳ではない。以下の間接化の例文を見てみよう。

(68) a. Taro nói với tôi rằng “Tôi cấm anh đến đây.”

太郎 言う に 私 と 私 禁止する 貴方 来る ここ

b. 太郎は僕たちに「私は貴方がここに来るのを禁止する」と言いました。

(69) a. Taro cấm tôi đến đây.

太郎 禁止する 私 来る ここ

b. (直訳：太郎は僕にここに来るのを禁止しました。)

c. 太郎は僕にここに来ないようにと言いました。

(70) a. Taro nói với tôi rằng:

太郎 言う に 私 と

“Tôi yêu cầu anh giải thích lý do vắng mặt.”

私 要求する あなた 説明する 理由 欠席

b. (直訳：太郎は私に「私は貴方に欠席の理由を説明するのを要求します。」と言いました。)

c. 太郎は私に「欠席の理由を説明しなさい。」と言いました。

(71) a. Taro yêu cầu tôi giải thích lý do vắng mặt.

太郎 要求する 私 説明する 理由 欠席

b. (直訳：太郎は僕に欠席の理由を説明するのを要求しました。)

c. 太郎は私に欠席の理由を説明するようにと言いました。

(72) a. Taro nói với tôi là: “Tôi đề nghị anh làm hội trưởng”

太郎 言う に 私 と 私 薦める あなた する 会長

b. 太郎は僕に「会長になることを薦めます。」と言いました。

(73) a. Taro đề nghị tôi làm hội trưởng.

太郎 薦める 私 する 会長

b. (直訳：太郎は私に会長になるのを薦めた。)

c. 太郎は私に会長になってくれるように言いました／薦めました。

(74) a. Taro nói với tôi là: “Tôi khuyên anh nên về nước.”

太郎 言う に 私 と 私 勧める 貴方 べき 帰国する

b. 太郎は僕に「私は貴方が帰国したほうがいいと勧めます。」と言いました。

(75) a. Taro khuyên tôi nên về nước.

太郎 勧める 私 ~べき 帰国する

b. 太郎は僕に帰国するように勧めました。

(76) a. Taro nói với tôi là: “Tôi nhờ anh giúp một tay”

太郎 言う に 私 と 私 頼む 貴方 手を貸す

b. (直訳：太郎は僕に「私は貴方に手を貸してくれるように頼みます。」と言いました。)

c. 太郎は僕に「手を貸してくれませんか。」と言いました。

(77) a. Taro đã nhờ tôi giúp một tay.

太郎 [既然] 頼む 私 手を貸す

b. 太郎は僕にちょっと手を貸してくれるようにと頼んだ。

上の例文から見るよ、日本語では、一般的に「禁止する」、「要求する」、「薦める」等の動詞は発話行為構文にあまり使われていない。「NP1 が NP2 に禁止する／要求する」の構文は NP1 が威張っているような感じを与える。このような表現の代わりに「～ください／～てもらおう」という表現を用いる。従って間接化する場合、これらの動詞を用いるよりも「ように言う」の方が自然である。一方、ベトナム語では、cấm 「禁止する」、yêu cầu 「要求する」、đề nghị 「薦める」、khuyên 「薦める」、nhờ 「頼む」はよく発話行為構文に来る。～hãy 「～ください」「～đừng」「～しないでください」等の命令文を使うよりも、依頼表現／推奨表現の方がよく使われる。cấm 「禁止する」、yêu cầu 「要求する」使役動詞は NP1 が NP2 より社会手的地位が高い。あるいは、ある力をもって NP2 が何らかをすること（あるいは、しないこと）を命令・要求することが可能である。この場合、NP1 cấm 「禁止する」／yêu cầu 「要求する」

NP2にV構文を用いた方が、使役性がより高い。反面、*đề nghị*「薦める」*khuyên*「薦める」、*nhờ*「頼む」等はNP1がNP2より、社会的地位が低い、あるいは、NP2に何らかするような働きかけ力が弱いので、主語を入れて、NP1 *đề nghị*「薦める」*khuyên*「薦める」、*nhờ*「頼む」NP2にV構文を用いると、より礼儀正しい感じを与える。一方、日本語では、主語をよく省略する。しかも、自分の主張を避ける言語なので、ベトナム語のような表現はあまり好ましくない。

NP1が*cấm*「禁止する」、*yêu cầu*「要求する」、*đề nghị*「薦める」等NP2 V表現が公的場面だけではなく、日常会話にもよく用いる。これらの動詞自体は「言う」の意味を用いるので間接化する場合、「言う」を用いなくても良い。

ベトナム語では、「NP1 V1 NP2 V2」構文では、V1の位置に来る働きかける動詞は様々である。動詞の意味が微妙に違くと、文の意味のニュアンスが異なる。一方、日本語では、「NP1がNP2にV1するようにV2する」という働きかけの動詞は制限されている。自分の主張になりやすい動詞はあまり来ない。一般的に「～ように言う」「～ように勧める」「～ように頼む」「～ように命令する」といった動詞がよく用いられる。しかし、日本語では、V1にはいろいろな形が来る。つまり、ベトナム語では、V1の位置に来る動詞が文のニュアンスを決めるのに対して、日本語のV1の形、例えば「する」「しない」「していただく」「してくれる」文のニュアンスを決める。

次に、元の文が命令文などの場合は、間接化するとき、文脈、あるいはその命令文の内容に応じて、適切な動詞を入れることが可能である。以下のような命令文を見てみよう。

(78) a. Taro nói với tôi là: “Đi nhanh lên!”

太郎 言う に 私 と 行く 早く

b. 太郎は僕に「早く行け。」と言いました。

c. Taro bảo/yêu cầu/giục tôi đi nhanh lên.

太郎 言う/要求/促す 私 行く 早く

c. 太郎は僕に早く行くように言いました/促した。

(79) a. Taro nói với tôi là: “Hãy học cho kỹ!”
 太郎 言う に 私 と ~なさい 勉強 しっかり

b 太郎は僕に「しっかり勉強しろ。」と言った。

c. Taro khuyên/nói /nhắc nhở tôi hãy học cho kỹ
 太郎 勧める/言う 私 ~なさい 勉強する しっかり

d. 太郎は私にしっかり勉強するように勧めました/言いました/注意しました。

(80) a. Taro nói với tôi là “Hãy bình tĩnh!”
 太郎 言う に 私 と 太郎 ~なさい 落ち着く

b 太郎は僕に「落ち着いて」と言いました。

c. Taro bảo /khuyên/đề nghị tôi hãy bình tĩnh.
 太郎 言う/勧める/請う 私 ~なさい 落ち着く

d. 太郎は私に落ち着くようにと言いました/勧めました。

(81) a. Taro nói với tôi là: “đừng đi!”
 太郎 言う に 私 と ~ない 行く

b. 太郎は僕に「行くな」と言いました。

(82) a. Taro bảo/khuyên/ngăn tôi “đừng đi!”
 太郎 言う/勧める/とめる 私 ~ない 行く

b. 太郎は僕に行かないようにと言いました/勧めました/とめました。

(83) a. Taro nói với tôi là: “Hãy nhận lỗi đi!”
 太郎 言う に 私 と ~なさい 認める 過ち

b. 太郎は僕に「過ちを認めよう」と言いました。

c. Taro bắt/bảo /khuyên tôi hãy nhận lỗi đi
 太郎 させる/言う/勧める 私 ~なさい 認める 過ち

d. 太郎は私に過ちをみとめるようにさせました/言いました/勧めました。

このように、命令文を間接化する場合、ベトナム語では文脈によって、色々な動詞を入れることが可能であるが、日本語に訳す場合、一般的に「~ように言う」「ように勧める」が、

よく用いられる。

また、命令文の間接化用法以外にも使役動詞の陳述的用法も、日本語に訳す場合、「～ように」を用いると自然な文になる。

5.2.2 使役動詞の陳述的用法の場合

ベトナム語における使役動詞中、*bắt*、*đề*、*khuyến*、*làm*、*cho*、*sai* 等は使役性が強いため、特定の場合一つしか遂行的用法は使われず、普通は陳述的用法の方がよく使われている。一方、他の使役動詞は普通、遂行的用法と陳述的用法二つの用法が存在する。遂行用法は発話者が発話時に同時に動作を行う。

- (84) Tôi không cho phép tôi bỏ trốn.
私 ~ない 許可を出す 私 逃げる
(私は自分が逃げることを許さない。)

(*Nguyễn Minh Châu- Bức tranh*)

発話者は「許さない」と発言すると同時に、「許可を出さない」という行為を行うことになる。

一方、陳述的用法として使われている使役構文では、NP1 は NP2 に何らかのことをするように仕向けること描写する。使役動詞の陳述的用法では日本語の「～させる」に対応しない場合が多い。これらの動詞は主に「言う」、「命令する」、「勧める」、「頼む」、「求める」、「促す」、「せがむ」、「唆す」、「許可を求める」等それぞれ違う使役動詞であり、それによって意味に違いが生じる。

- (85) Thành Dân thúc giục mẹ đi tìm chị nó.
奴 ザン 促す 母親 探す 姉 彼
(ザンは母親に自分の姉を探しに行くように促した。)

(*Ngô Tất Tố- Tắt đèn*)

(86) Cô vội nhảy ùm xuống nước, bảo tôi tắt đèn đi.

彼女 急いで 飛び込む 水 言う 私 消す 電気

(彼女は私に電気を消すようにと言ってから、急いで水の中に飛び込んだ。)

(Nguyễn Minh Châu- Mảnh Trăng cuối rừng)

(87) Nó đòi bế ra vườn.

彼 せがむ 抱く 出る 庭

(彼は庭に抱いて出るようにせがんだ。)

(88) Thị Nở giục hắn ăn nóng.

ティノー 促す 彼 食べる 暖かい

(ティノーは彼に暖かいうちに食べるようにと促した。)

(Nam Cao- Chí Phèo)

(89) Ai nấy đều khuyên chị Dậu phải yên lòng.

皆 すべて 勧める ザウさん ~べき 安心する

(皆はザウさんに安心するように諭した。)

(Ngô Tất Tố- Tắt đèn)

(90) Chàng mời tất cả mấy người cùng.

彼 誘う すべて 皆 一緒

về nhà trọ mình ăn cơm.

帰る 借家 自分 食べる ご飯

(彼は皆に自分の借家に一緒に来てご飯を食べるように誘った。)

(Ngô Tất Tố- Lều chõng)

(91) Ông thúc chúng ăn nhanh.

彼 促す 子どもたち 食べる 早い

rồi còn về kéo khuya.

そして まだ 帰る 遅い

(彼は子供たちに早く食べて、遅くならないうちに帰るように促した。)

(Nam Cao- Một đám cưới)

(92) Họ cứ làm ồn ào, thúc giục đòi kể tiếp.

彼ら ずっと 騒ぐ 促す 妬む 話す 続く

(彼らはがやがやと、話を続けるようにと催促した。)

(Nguyễn Minh Châu- Mảnh Trăng cuối rừng)

(93) Hấn xin phép mở trường tư.

彼 許可を求める 開く 学校 私立

(彼は私立学校を開く許可を求める。)

(Nam Cao- Quên điều độ)

(94) Nó không về mà xúi cho mọi người về trước.

彼～ない 帰る しかし 唆す に 皆 帰る 先

(彼は、自分は帰らずに他の人に先に帰るように唆した。)

(95) Họ yêu cầu mọi người đừng đi lên cỏ.

彼ら 頼む 皆 ～ないで 歩く 上 芝生

(彼らは皆に芝生の上を歩かないように頼んだ。)

(96) Chúng tôi đã đề nghị anh ấy phát biểu.

我われ [既然] 頼む 彼 発表する

(我われは彼が発表するように頼んだ。)

ベトナム語では、陳述的用法に使われている使役動詞は多くの場合は日本語の「させる」表現を用いることが不可能になり、その代わりに「～ように～」表現に対応すると言える。

5.2.3 NP2 の動作の実現を含意しない場合

日本語では「～させる」を用いる使役構文ではほとんどの場合、NP1 が NP2 に指示して何らかのことにするように働きかける。その際、NP2 の行動が実現されることを含意する。

(97) 私は彼を早く帰らせた。

例(96)では「私」が「彼」に早く帰るように指示し、その指示に従って、彼が早く帰ったという状況を表わすことが可能である。この場合では、NP1(私)のNP2(彼)に対する指示は終わり、そして、NP2の早く帰るといふ動作が実現した時にのみ用いられる。つまり、NP2「彼」はNP1「私」の指示を反対して、帰らなかったという意味を表すのは不可能である。言い換えれば、例(97)のようにNP2の動作が実現されない場合は、不自然な文である。

(98) *私は彼に早く帰らせたが、彼は帰らなかった。

日本語の「させる」使役構文では、NP2の動作の実現を含意するものである。NP1の働きかけが終わったが、NP2の動作がまだ実現していない場合には用いられない。そのような場合には、「ようにいう」表現が用いられる。

(99) 私は彼に早く帰るように言ったが、彼は帰らなかった。

一方、ベトナム語の使役構文ではNP1は言葉を通じてNP2に指示、つまり何らかのことにするように働きかけたとしても、NP2は自分の意志で動作を行う場合もあるが行わない場合もある。「させる」の代わりに、「ように言う」という構文を用いる。

(100) Tôi sai con nấu cơm nhưng nó đã không nấu.
私 させる 子供 作る ご飯 しかし 子供 [既然] ~ない 作る
(*私は子供にご飯を作らせたが、子供は作らなかった。)

(101) Tôi đã bắt con trai học lên, nhưng nó không học.
私 [既然] させる 息子 進学 しかし 彼 ~ない 勉強する
(*私は息子を進学させたが、彼は進学しなかった。)

(99)、(100)はベトナム語では言えるのに対して、日本語では非文である。日本語の「させる」はNP2の動作の実現を含意するもので、この意味では「させる」は用いられない。

(102) 私は子供にご飯を作るように言ったが、子供は作らなかった。

(103) 私は息子に進学するように言ったが、彼は進学しなかった。

つまり、日本語では、NP1 は NP2 に指示して、何らかの件事をするように働きかける構文では、NP2 が実現すれば「させる」を用いるが、実現しなければ「～ように言う」という表現が用いられる。一方、ベトナム語ではこのような区別はない。NP2 が動作を実現してもしなくても、同じような使役動詞を使う。従って、ベトナム語の使役文を日本語に訳す場合、二つの訳し方が存在する。

(104) Tôi bắt con gái đi mua sắm.
私 させる 娘 行く 買い物する
(私は娘を買い物に行かせる。)

(104) では、NP1 の tôi 「私」は NP2 con gái 「娘」に「買い物に行きなさい」という指示をした。「娘」はその指示に従って、買い物に行ったという状況を表すこともできれば、「娘」がその指示に反抗して行かなかったという状況を表すこともできる。そのため、(104) の文は日本語に訳すと、以下のように二つ文が可能である。前者は (105) のように「～させる」と訳す。一方、後者は (106) のように「～ようにいう」表現で訳す。

(105) 私は娘を買い物に行かせた。

(106) 私は娘に買い物に行くように言った／行かせようとした。

「させる」と「ようにいう」の二つの構文を比べて、NP1 が NP2 にある動作・作用をするように働きかけ点においては、同様であるが、NP1 の働きかけを受けて、動作・作用を実現するかしないかと言う点では異なる。例 (105) では NP1 の「私」は NP2 の「娘」に「買い物に行く」という指示をした。そして、「娘」がその指示を受けて買い物に行ったという意味を表す。一方、(106) では、「娘」がその指示を受けて、買い物に行くという意味を含意していない。つまり、「させる」使役表現は NP1 の働きかけだけではなく、NP2 の動作・作用の実現も含意するが、「～ようにいう」は NP1 の働きかけのみを含意する。NP2 の動作・作用の実現をするかしないかは問題にしない。日本語では「させる」と「ようにいう」表現の違

いははっきりしているが、ベトナム語では、bắt、cho、sai 等の使役構文では NP1 の働きかけを表わすが、NP2 の動作・作用の実現を含意するか、しないかには言及していない。

また、ベトナム語では、(107) のように他動詞文でも NP2 の結果を含意しない場合が多く見られる。

- (107) a. Tôi mở cửa rồi nhưng không mở ra được.
私 開ける ドア 完了 しかし ~ない 開ける できる
b. *私はドアを開けたが、開かなかった。

このような NP2 の状態変化を含意しない場合、日本語に訳す場合、例 (108) の「~ようとする」という表現を用いた方が適切である。

- (108) 私はドアを開けようとしたが、開かなかった。

この問題も「させる」使役表現と同様で、日本語の他動詞は多くの場合は結果の変化を表わすが、ベトナム語における他動詞は動作のみを表わす。動作の結果までは含意しない。従って、日本語に訳す場合、NP2 の状態変化を表わす場合、他動詞のみ用いる。一方、NP2 の状態変化を含意しない場合、「ようとする」表現を用いる。

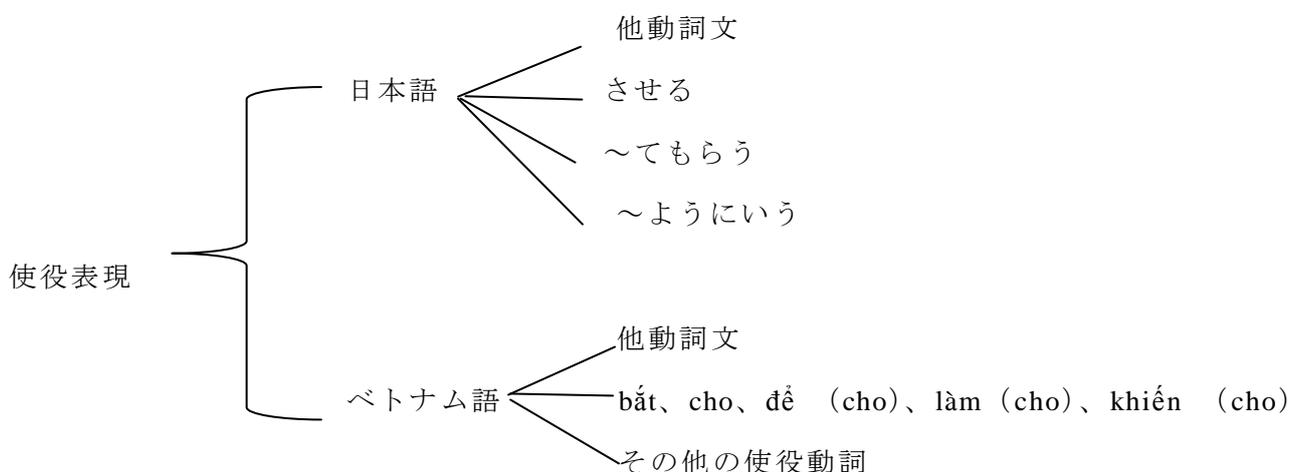
以下は他動詞と「ように言う」をベトナム語の他動詞や「させる」使役表現と「~ようとする」を bắt、sai、cho との関係づけて示すものである。

NP1 が NP2 にある動作・作用をするように働きかける	～ようにい う	さ せ る	bắt, sai, cho
NP2 の動作・作用を含意する	×	○	○
NP2 の動作・作用を含意しない	○	×	

NP1 が NP2 を V	～ようとする	日本語の他動 詞	ベトナム語 の他動詞
NP2 の状態変化を含意する	×	○	○
NP2 の状態変化を含意しない	○	×	

第6章 結び

本論文では、対照研究の立場から、日本語とベトナム語における使役構文についての相違点と類似点を見てきた。特に、使役者の NP1 が被使役者の NP2 に働きかけ、ある動作・作用を引き起こす、あるいは、ある状態に変化させる意味を中心に使役表現という枠組みを設定した。本研究で使役表現として考察の対象となったのは、日本語では他動詞文と使役を表わす「させる」表現の他に「～てもらおう」「～ようにいう」構文であり、ベトナム語では他動詞文と *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm(cho)*、*khiến cho* の真正使役動詞に加えて、他の使役動詞を用いた使役構文である。これを略図で示すと次のようになる。



本研究の目的は使役表現に関する日本語とベトナム語の比較対照を通じて、両言語における使役表現の相違点と類似点を考察し、明らかにし、そして、そしてベトナム語、日本語との翻訳上の対応からベトナム語の使役文の特徴を再確認することであった。

第1章では、日本語とベトナム語における使役についての概念を考察した。そして、本研究の位置づけを試みた。

第2章では、主として、日本語とベトナム語における他動詞構文の相違点を考察した。特に、ベトナム語における自動詞+他動詞の結合による複合動詞を考察した。

第3章では、日本語における「させる」使役表現とベトナム語における *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* の相違を考察した。

第4章では、ベトナム語の様々な使役動詞とそれに対応する日本語に表現を考察した。

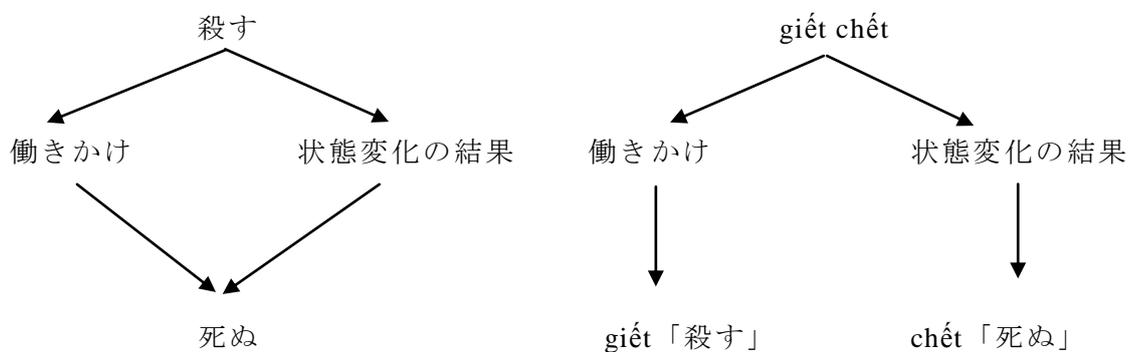
第5章では、日本語における「～てもらおう」「～ようにいう」表現とそれに対応するベトナム

ム語の表現を考察した。

各章の対照比較を通じて、使役表現に関する日本語とベトナム語の相違について以下のようなことが明らかになった。

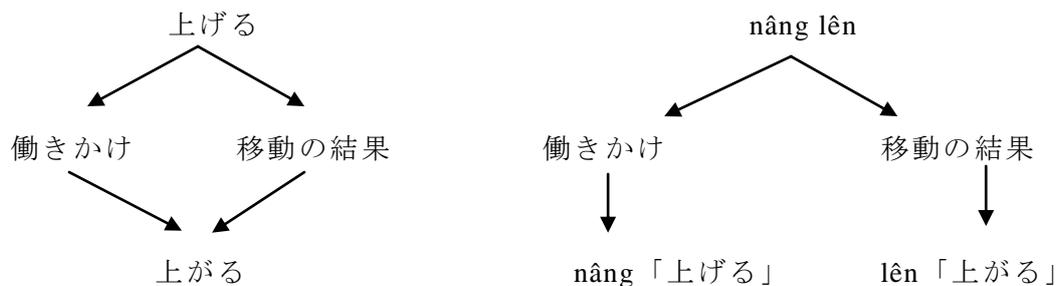
まず第一に、NP1 の働きかけと NP2 の変化を表す他動詞について、日本語での他動詞は一つの動詞で NP1 への働きかけと NP2 の変化を同時に表す。つまり、NP1 の働きかけが完了した場合、NP2 の変化の結果も同時に現れる。一方ベトナム語では、一般的に他動詞は NP1 の働きかけのみを表す。NP1 の働きかけと同時に NP2 の変化の結果を表す場合は、働きかけた他動詞と状態変化自動詞の組み合わせで表す。このような複合動詞では、前の形態素が働きかけのみを表し、後の形態素は NP2 の変化の結果を表す。(二つの形態素を分けることができない漢語動詞の場合のみ、NP1 の働きかけと同時に NP2 の状態変化の結果を表す。)

このような違いは、以下のように図示できる。



このようにベトナム語では、働きかけのみを表したい場合は、前の他動詞のみを用いる。これに対して日本語では、働きかけのみを表したい場合、「～ようとする」「～ように言う」などを用いるのが必要となる。

また、移動を表す動詞も同様で、日本語では一つの動詞で NP1 の働きかけと同時に移動も含意する。一方、ベトナム語では移動を表す他動詞は働きかけのみを表す。日本語のように働きかけと同時に移動も表したい場合、働きかけの他動詞と方向を表す自動詞、あるいは方向を表す補助動詞と結合しなければならない。



また、両言語において対応する他動詞がない場合、使役を表す形態素と結合することで他動詞化する。日本語の場合は自動詞に「させる」、そして、ベトナム語では *làm* を付加して他動詞の役割をさせる。

日本語では他動詞文には無生物の主語があまり来ない。主語に据えられるのは自然現象などに制限されている。一方ベトナム語の他動詞文では、自然現象のみではなく、病気、性格、災害、また疑問詞、動詞を補う型も主語になる。

第二に、日本語の「させる」とベトナム語の *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* についての違いである。日本語では、動詞に「させる」を結合すると一つの他動詞のように働くが、ベトナム語では使役動詞の *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* と動詞が直接結び付くことは不可能で、使役動詞と動詞の間に被使役者が入る。ベトナム語の使役動詞の *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* は語彙的使役動詞であるが、日本語の「させる」は文法範疇としての態の用法と捉えられる。また、日本語の「させる」は意志的動詞とも無意志的動詞とも結合して、使役文を作る。一方、ベトナム語では *bắt*、*cho*、*đề (cho)* 使役動詞は一般的に意志的動詞と結合し、*làm (cho)*、*khiến (cho)* は無意志的動詞と結合する。日本語は所動詞や動詞の可能態などは「させる」と結合できず、ベトナム語の *bắt* 使役動詞は日本語と同様にこれらの動詞と結合することはできないが、*đề (cho)* は動詞の受身態と結合できる場合もある。日本語では被使役者が使役者の体の一部である場合は「自動詞＋させる」形で表すが、ベトナム語では体の一部の動作は体の全体の動作と見なされるので「動詞＋体の一部」あるいは「体の一部」の形で表されるのが一般的である。また、使役者が無生物で、非使役者が有生物の場合では、日本語は不自然または、翻訳調に感じられると言われる。原因を表す場合は無生物主語の「が」格を取るよりも、「で」格で表したほうが自然である。一方、ベトナム語の使役構文には無生物主語がよく見られる。特に、*làm (cho)*、*khiến (cho)* の原因を表す使役文ではよく無生物主語が来る。

第三に、他動詞と同様に「させる」と *bắt*、*cho*、*đề (cho)*、*làm (cho)*、*khiến (cho)* との

間に NP1 の働きかけの結果、NP2 が動作を行うか否か、つまり NP2 の動作の実現を含意するかしないかという点においては日本語とベトナム語は異なる。日本語の「させる」使役表現では使役者の NP1 が被使役者の NP2 に対する働きかけが完了した時点では、被使役者の動作も完了しなければならない。一方、ベトナム語における使役動詞では *bắt*、*cho*、*đề* (*cho*) 使役動詞は NP1 の NP2 に対する働きかけが完了したときに、NP2 の動作は行わなくてもよいのに対して、*làm* (*cho*)、*khuyến* (*cho*) の使役表現では NP2 の動作も完了しなければならない。ベトナム語では、NP1 の働きかけは完了したものの NP2 の動作はまだ実現されない場合、日本語では、「～ようとする」という表現を用いる。

	NP1 が働きかけ、NP2 の動作も完了する。	NP1 の働きかけは完了したが、NP2 の動作はまだ行われな い。	NP1 の働きかけも NP2 の動作も完了していない。
日本語	させる	ようとする	
ベトナム語	<i>bắt/cho</i>		<i>định</i>

第四に、ベトナム語の使役動詞には *bắt*、*cho*、*đề* (*cho*)、*làm* (*cho*)、*khuyến* (*cho*) 専用の動詞以外にも普通の使役動詞が存在する。その要求の度合いによって 5 つのグループに分けることが可能である。

- a. 使役性が非常に高い（絶対的）グループ：*bắt buộc*「強引に従わせる」、*ép buộc*「強引に従わせる」、*ra lệnh*「命令を下す」等
- b. 使役性がやや高いグループ：*bắt*「～させる」、*sai*「遣いに出す」、*bảo/biểu*「言いつける」、*yêu cầu*「頼む」
- c. 使役性が中間レベルのグループ：*cho phép*「許可を出す」、*cho*「～させる／～与える」*đề nghị*「請う、提案する」、*khuyến*「勧める」等
- d. 使役性が低いグループ：*nhờ*「～てもらう」、*mời*「招く」、*xúi giục*「唆す」等
- e. 使役性が非常に低いグループ：*xin*「願う、要請する」、*xin phép*「許可を求める」、*van*「切願する」等

これらの動詞を用いる「NP1 V1 NP2 V2」構文では NP1 が NP2 に対して、言葉によって働きかけをして、NP2 に何らかをさせる意味を表すため、無生物主語が来ることは不可能であ

る。これらの動詞の主語は必ず言葉を用いる人間でなければならない。

これらの動詞を用いる「NP1 V1 NP2 V2」構文では、すべて NP1 の動作の完了しか表わさない。NP2 の動作・作用の実現を含意しなくてもよい使役動詞である。

第五に、日本語における使役構文は他動詞文、「～させる」使役表現以外にも、「～てもらおう」「～ようにいう」が存在する。

「NP1 は NP2 に～てもらおう」構文は、NP1 は NP2 から「～をする」行為を利益として受けるという意味を表す。「させる」と「～てもらおう」の違いは「させる」使役文では、使役者が被使役者に対して要求したり許容したりすることによって被使役者がある行動をするための指令、許可、放任がある。一方、「～てもらおう」文は、指令としての積極的な働きかけの表現にしか使えず、許可、放任の意味で「～させる」に置き換えることはできない。「～させる」使役文は、使役者が強制的に被使役者行為をさせることを表し、いかにも尊大で強制的な感じを与える。一方、「～てもらおう」文では、使役者は被使役者に依頼して何らかの行為をさせ、「～させる」文より使役性が低い、謙讓的使役表現である。それゆえこの構文は「強制的」な文脈の中では成立しにくい。「～てもらおう」はベトナム語の *nhờ*「頼む」、*mời*「招く」、*yêu cầu*「要求する」、*đề nghị*「請う」等に対応する。

また「～ようにいう」は命令を間接化する場合に用いる。日本語では、NP1 が NP2 に指示して何らかのことをするように働きかける構文において、NP2 が実現すれば「させる」を用いるが、実現しなければ「～ように言う」という表現が用いられる。一方、ベトナム語ではこのような区別はない。NP2 が動作を実現してもしなくても、同じような使役動詞を使う。

以下は他動詞と「ようにする」をベトナム語の他動詞や「させる」使役表現と「～ように」を *bắt*、*sai*、*cho* との関係づけて示したものである。

NP1 が NP2 にある動作・作用をするように働きかける	～ようにい う	さ せ る	bắt, sai, cho
NP2 の動作・作用を含意する	×	○	○
NP2 の動作・作用を含意しない	○	×	

NP1 が NP2 を V	～ようにする	日本語の他動 詞	ベトナム語 の他動詞
NP2 の状態変化を含意する	×	○	○
NP2 の状態変化を含意しない	○	×	

上に挙げたこれらの点は本研究の主な成果である。これらの他にも、多くの問題について触れて、多くの小説からの例文や日常的によく使われている実例を通じて両言語における使役文の類似点と相違点を指摘し、明らかにした。しかし、これらの問題はまだ事実を指摘しただけにとどまり、検討が十分でないところが多数ある。本研究は、日本人のベトナム語学習者に対してベトナム語の使役についての概念を紹介するものでもある。ベトナム語における使役動詞を日本語に訳す場合、どのように、翻訳すれば意味的、構文的に対応するかについても触れた。ベトナム語における自動詞・他動詞の問題、無生物主語の問題については紹介しただけにとどまり、使役を表わすモダリティ、依頼表現等についてはまだ十分に触れていない。これらの問題を今後の研究課題としておきたい。

参考文献

【日本語文献】

- 青木伶子 1995 「使役—自動詞・他動詞との関わりにおいて」『成蹊国文』第10号.
- 安藤節子・小川誉子美 2002 『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身—ボイス』スリーエーネットワーク.
- 池上嘉彦 1981 『「する」と「なる」の言語学』大修館書店.
- _____ 1982 「表現構造の比較講座—<スル>的な言語と<ナル>的な言語」国広哲弥編『日英語比較講座 第4巻 発想と表現』所収. 大修館書店.
- 井上和子 1976 『変形文法と日本語』大修館書店.
- 王恬 1990 「「～てもらう」文の意味と統語的特徴—「～（さ）せる」文との比較を兼ねて」『東京外国語大学日本語学科年報』第12号.
- 奥津敬一郎 1967 「自動化・他動化及び両極化変形—自・他動詞の対応」『国語学』第70号.
- _____ 1970 「引用構造と間接化転形」『言語研究』第56号.
- _____ 1980 「動詞文型の比較」国広哲弥編『日英語比較講座 第2巻 文法』所収. 大修館書店.
- 奥津敬一郎・徐昌華 1982 「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現—“請”を中心に—」『日本語教育』第46号.
- 影山太郎 1996 『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版.
- 菊地康人 1997 『敬語』講談社.
- 北原保雄 1981 『日本語助動詞の研究』大修館書店.
- 金水敏・今仁生美 2000 『意味と文脈』（現代言語学入門4）岩波書店.
- 国広哲弥編 1980 『日英語比較講座 第2巻 文法』大修館書店.
- 国広哲弥教授還暦退官記念論文集編集委員会編 1990 『文法と意味の間』くろしお出版.
- 久野暲 1973 『日本文法研究』大修館書店.
- _____ 1978 『談話の文法』大修館書店.
- _____ 1983 『新日本文法研究』大修館書店.
- 久野暲・柴田方良編 1989 『日本語学の新展開』くろしお出版.

- 黒田成幸 1980「文構造の比較」国広哲弥編『日英語比較構造第2巻 文法』所収。大修館書店。
- 阪田雪子 1980「使役を表わす言い方・せる させる」『教師用日本語教育ハンドブック 4 文法Ⅱ』所収。凡人社。
- 定延利之 1991「SASE と間接性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』所収。くろしお出版。
- _____ 2000『認知言語論』大修館書店。
- 佐藤里美 1986「使役構造の文—人間の人間にたいするはたらきかけを表現するばあい」言語学研究会編『ことばの科学 1』所収。むぎ書房。
- _____ 1990「使役構文の文 (2) —因果関係を表現するばあい」言語学研究会編『ことばの科学 4』所収。むぎ書房。
- 澤田淳 2006「日本語の授受構文のヴォイス的特性—「XがYにVてもらう」構文が有する「受動性」と「使役性」を中心に—」『日本認知言語学会論文集』第6号。
- 澤田治美編 2012『構文と意味』(ひつじ意味論講座 第2巻) ひつじ書房。
- 柴谷方良 1978『日本語の分析』大修館書店。
- _____ 1982「ボイス—日本語と英語」森岡健二他編『講座日本語学 10巻 外国語との対照Ⅰ』所収。明治書院。
- 須賀一好 1983「現代語における複合動詞の自・他の形式について」『静岡女子大学研究紀要』17。
- 須賀一好・早津恵美子編 1995『動詞の自他』(日本語研究資料集 第1期第8巻) ひつじ書房
- 高橋太郎 1985「現代日本語のヴォイスについて」『日本語学』第4巻第4号。明治書院。
- 高見健一 2011『受身と使役—その意味規則を探る』開拓社。
- 高見健一・久野暲 2002『日英語の自動詞構文』研究社。
- 札西才讓 2011『日本語とアムド・チベット語の使役表現の対照研究』笠間書院。
- 筑波大学現代言語学研究会 2002『事象と言語形式』三修社
- 角田太作 1982「オーストラリア原住民語」森岡健二他編『講座日本語学 10巻 外国語との対照Ⅰ』所収。明治書院。
- _____ 1991『世界の言語と日本語』くろしお出版。

- 寺村秀夫 1975 「「表現の比較」ということについて」文化庁、国立国語研究所編『日本語と日本語教育—発音・表現編』所収。大蔵省印刷局。
- _____ 1982 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版。
- _____ 1984 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版。
- 富田健次 1988 『ベトナム語の基礎知識』大学書林。
- 西光義弘・パルデシ、プラシャント編 2010 『自動詞・他動詞の対照』（シリーズ言語対照〈外からみる日本語〉第4巻）くろしお出版。
- 西村義樹 1998 「第Ⅱ部 行為者と使役構文」中右実・西村義樹『構文と事象構造』（日英語比較選書5）所収。研究社出版。
- 仁田義雄 1981 「話法」（北原保雄他編『日本文法辞典』）有精堂。
- _____ 1981 「態（ヴォイス）」北原保雄他編『日本文法辞典』所収。有精堂。
- _____ 1982a 「再帰動詞、再帰用法—Lexico-Syntax の姿勢から」『日本語教育』第47号。
- _____ 1982b 「日本語の自動詞・他動詞とは何か」『国文学 解釈と教材の研究』第27巻第16号。学燈社。
- _____ 1991 『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版。
- 日本語記述文法研究会編 2009 『現代日本語文法2』くろしお出版。
- 野田尚史 1991 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』所収。くろしお出版。
- 早津恵美子 1989a 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に」『言語研究』第95号。
- _____ 1989b 「有対他動詞と無対他動詞の意味上の分布」『計量国語学』第16巻第8号。
- 姫野伴子 2004 「～させていただく」文の与益・使役者と動作対象について」『留学生教育』第6号。埼玉大学留学生センター。
- 許明子 2000 「テモラウ文と受身文の関係について」『日本語教育』第105号。
- 益岡隆志・田窪行則 1992 『基礎日本語文法—改訂版』くろしお出版。
- 松本曜 2000 「日本語における他動詞／二重他動詞ペアと日英語の使役交替」丸田忠雄・須賀一好編『日英語の自他の交替』所収。ひつじ書房。
- 丸田忠雄 1998 『使役動詞のアナトミー—語彙的使役動詞の語彙概念構造』松柏社。

- 三上直光 2007 「ベトナム語の結果表現について」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 38 号.
- 宮川繁 1989 「使役形と語彙部門」久野暲・柴田方良編『日本語学の新展開』所収. くろしお出版.
- 宮島達夫 1985 「ドアをあけたがあかなかった一動詞の意味における〈結果性〉」『計量国語学』第 14 巻第 8 号
- 森田良行 1971 「受身、使役の言い方」『講座日本語教育』第 9 分冊. 早稲田大学語学教育研究所.
- 楊凱榮 1985 「「使役表現」について—中国語との対照を通じて」『日本語学』第 4 巻第 4 号. 明治書院.
- _____ 1989 『日本語と中国の使役表現に関する対照研究』くろしお出版.
- 鷺尾龍一・三原健一 1997 『ヴォイスとアスペクト』(日英語比較選書 7) 研究社.

【ベトナム語文献】

- Cao Xuân Hạo, 2003, *Tiếng Việt máy vấn đề ngữ âm, ngữ pháp, ngữ nghĩa*, Nxb Giáo dục _____, 1991, *Tiếng Việt sơ thảo ngữ pháp chức năng* (quyển 1), TP Hồ Chí Minh: Nxb KHXH
- Cao Xuân Hạo, Hoàng Xuân Tâm, Nguyễn Văn Bằng, Bùi Tất Tươi, 2007, *Ngữ pháp chức năng tiếng Việt, Câu trong tiếng Việt*, Nxb Giáo dục
- Chu Thị Thủy An, 2002, *Câu cầu khiến tiếng Việt*, Luận án Tiến sĩ ngữ văn, Viện ngôn ngữ học
- Diệp Quang Ban, 2005, *Ngữ pháp Tiếng Việt*, NXB Giáo Dục
- Đào Thanh Lan, 2010, *Ngữ nghĩa ngữ pháp của lời cầu khiến Tiếng Việt*, NXB Khoa học xã hội.
- Lê Kính Thắng, 2004, “Về kiểu cấu tạo “làm+X” trong tiếng Việt”, *Ngôn ngữ và đời sống*, số 7, Hà Nội; tr.1-4
- _____, 2004, “Vấn đề phạm trù nội động/ ngoại động trong tiếng Việt”, *Hội thảo khoa học các nhà ngữ văn trẻ lần 2*, trường ĐHSP T.p HCM, Tr. 127-132

- _____, 2007, “Mở rộng diễn trị và sự chuyển loại vị từ trong tiếng Việt”, *Ngôn ngữ*, số 5, Hà Nội; Tr.40-45
- Hoàng Trọng Phiến, 1980, *Ngữ pháp Tiếng Việt Câu*, NXB Đại học và trung học chuyên nghiệp
- Lê Quang Thiêm, 1989, *Nghiên cứu đối chiếu các ngôn ngữ*, NXB Đại Học và Giáo Dục Chuyên Nghiệp
- Lý Toàn Thắng, 2004, *Lý thuyết trật tự từ trong cú pháp*, NXB Đại học Quốc Gia Hà Nội
- Mai Ngọc Chừ, Vũ Đức Nghệ, Hoàng Trọng Phiến, 2007, *Cơ sở ngôn ngữ học và tiếng Việt*, NXB Giáo dục
- Nguyễn Đình Hòa, 1972, *Vietnamese/Tiếng Việt không son phần*, John Benjamins Publishing Co
- Nguyễn Kim Thân, 1977, *Động từ trong tiếng Việt*. Hà Nội: NXB KHXH
- Nguyễn Minh Thuyết · Nguyễn Văn Hiệp, 2004, *Thành phần câu tiếng Việt*, NXB Giáo Dục
- Nguyễn Thị Quy, 1994, “Tiêu chí phân loại các vị từ hành động tiếng Việt”(theo quan điểm ngữ pháp chức năng), *Ngôn ngữ số 1*, Hà Nội, tr.42-45
- _____, 1995, *Vị từ hành động trong tiếng Việt và các tham tố của nó*, NXB Khoa học xã hội, Hà Nội.
- Nguyễn Thị Thu Hương, 2007, *Nghiên cứu đối chiếu câu gây khiến, kết quả trong tiếng Anh và Tiếng Việt*, ĐH KHXH&NV.
- Nguyễn Văn Hiệp, 2008, *Cơ sở ngữ nghĩa phân tích cú pháp*, NXB Giáo dục

【英語文献】

- Shibatani, Masayoshi 1972 “Three reasons for not deriving ‘kill’ from ‘cause to die’ in Japanese.” *Syntax and Semantics 1*. Kimball, John P.(ed.). Seminar Press.
- Shibatani, Masayoshi 1976 “Causativization” *Syntax and Semantics 5; Japanese Generative Grammar*. Shibatani, Masayoshi(ed.). Academic Press.

【引用資料】

バオ,ニン、1991『愛は戦いの彼方へ』（大川均訳）遊タイム出版.

Bảo Ninh, *Nỗi buồn chiến tranh*, NXB Trẻ, 1990

Khải Hưng, *Nửa chừng xuân*, NXB Hội nhà văn, 2009

Nam Cao, *Tuyển tập Nam Cao, Tập 1*. NXB Văn học, 1997

Nam Cao, *Tuyển tập Nam Cao, Tập 2*. NXB Văn học, 1997

Nguyễn Hồng, *Nguyễn Hồng tuyển Tập*, NXB Văn học, 2012

Nguyễn Công Hoan, *Bước đường cùng* –NXB Văn Nghệ, Tp HCM, 1995

Nguyễn Minh Châu *toàn tập*, NXB Văn học, Hà Nội, 2001

Tuyển tập truyện ngắn 30-45, NXB Đại học và trung học chuyên nghiệp Hà Nội, 1986

Truyện ngắn Việt Nam 1945-1985, NXB Giáo dục, 1985

Văn học 12, NXB Giáo dục, 2000

100 truyện ngắn hay Việt Nam, NXB Hội nhà văn Hà Nội, 1998

謝辞

高校時代から文学が専門だった筆者は、大学に入って日本語を勉強し始めたのだが、そこで日本語、そして日本の文学が好きになった。当時は、大学を卒業したら日本に留学したい、そして最新の知識を身に付け、日本の小説の翻訳者になりたいという夢を抱き続けていた。大学を卒業してから、様々な事情で一旦は大学の講師になったが、9年目によく日本の文部科学省の奨学金を得、来日することができた。ここで、きわめて貴重な機会を与えてくださった日本国文部科学省、大阪大学、指導を引き受けてくださった今井忍先生に対して心より感謝を述べたい。

今井先生には、博士前期課程の頃から数えて5年間という長い期間、大変お手数をおかけした。先生はこの間、日本語の能力から言語知識に至るまで、筆者の勉強不足を博士後期課程の主旨導教官として丁寧に指導をしてくださった。また、生活の面でも隔々にまで気を遣ってくださった。そして筆者の帰国後、一人の教員として学生をどのように応援したら良いかなども種々指導してくださった。先生の親身な激励がなければ、今日の論文完成まで至らなかったであろう。言葉では表せない程、感謝の念で一杯である。

博士後期課程在学中の副指導教官である清水政明先生、そして山川太先生にも心より感謝を申し述べたい。

清水政明先生は筆者が研究生のときからお世話になっており、何も知らなかった筆者にベトナム語の文法の知識と文法記述の方法について、実に細かいところまで懇切に指導してくださった。そして、生活の面でもまるで親戚のように隔々にまで気を遣ってくださった。

山川太先生にも博士前期課程の頃から大変お世話になった。日本語の文法の知識について細かいところまで懇切に指導してくださった。そして、先生は生活の面についても、激励してくださった。

また、本論文の作成に当たって、富田健次先生に対して心より感謝を述べたい。富田先生には研究生の時から、ずっとお世話になった。先生は日本語のみならずベトナム語についての知識も教えてくださった。そして、親族のように、生活の面についていろいろ教えてくださった。日本語とベトナム語の翻訳についても、豊富なご経験をもとにたくさん教えてくださり、ほぼ毎週のように日本語の原稿をチェックしてくださった。この場をお借りして、改めて感謝を表したい。

そして、日本語の添削を行ってくれた友人達にも感謝を表したい。分かりにくい表現を根気強く直したり、貴重なコメントをしてくれたりした。

いつも筆者の成功を祈り続けてくれた日本にいる義父母、故郷にいる両親、そして、いつも支えてくれた主人に対して心より、感謝する。

最後に、様々な形で応援してくれた、筆者の所属する貿易大学、ホーチミン市人文社会科学大学の先生方、同僚、友人、大阪大学の院生の皆様、そして多くの方々に感謝する。

正誤表

頁／行目	誤	正
6 頁 4 行目	～使役文のベトナム語に対応する～	～使役文と対応するベトナム語～
8 頁 14 行目	4 つの	5 つの
10 頁 9 行目	阪田 (1980) ～	阪田 (1980) によると～
17 頁 17 行目	(2004)	(2005)
19 頁 12 行目	「NP1 V NP2」	「NP1 làm V NP2」
22 頁 12 行目	ナムさん	ナム
23 頁 8 行目	「彼らは犬を～」	「彼らは車を～」
25 頁 12 行目	2004	2005
27 頁 1 行目	2004	2005
27 頁 5 行目	因果結果	原因結果
28 頁 2 行目	原因関係	因果関係
28 頁 6 行目	(Giap は～) 直訳	(直訳 : Giap は～)
32 頁 8 行目	(29) Nam～	(29) *Nam～
38 頁 19 行目	のみ用である。	のみである。
44 頁 4 行目	(19) では	(6) では
67 頁 8 行目	(28)、(28)	(27)、(28)
67 頁 11 行目	(28)、(28)	(27)、(28)
67 頁 22 行目	～動詞が多い。	～動詞が少ない。
68 頁 6 行目	花子	音楽
70 頁 4 行目	(16) では	(13) では
78 頁 22 行目	～できる。」	～できる。
90 頁 8 行目	(10) (11) では	(14) (15) では
91 頁 21 行目	例 (18)	例 (19)
98 頁 14 行目	他動詞か	他動詞
107 頁 7 行目		段落分けをしない。
107 頁 11 行目	娘は」	娘は
111 頁 21 行目	「NP1 bắt NP2 V」	「NP1 bắt, cho, để, khiến, làm NP2 V」
140 頁 7 行目	(15)	(8)
142 頁 16、17 行目	(20) b、(21) a、(22) a	(22) b、(23) a、(24) a
161 頁 21 行目	(4) では～ (5) の	(3) では～ (4) の
161 頁 22 行目	(4) の～と (5) の	(3) の～と (4) の
162 頁 13 行目	例 (6)、(7)、(8)	例 (5)、(6)、(7)
162 頁 14 行目	例 (4)、(5)	例 (3)、(4)
162 頁 16 行目	例 (6)、(7)、(8)	例 (5)、(6)、(7)

163 頁 12 行目	例 (12)、(13)	例 (11)、(12)
163 頁 20 行目	(14)	(13)
166 頁 16 行目	(25)	(24)
166 頁 19 行目	(26)	(25)
167 頁 11 行目	(28)、(29)、(30)、～。例 (28)	(27)、(28)、(29)、～。例 (27)
167 頁 13 行目	(28)	(27)
167 頁 14 行目	(28)	(27)
167 頁 15 行目	(29)	(28)
167 頁 16 行目	(30)	(29)
167 頁 19 行目	(28)、(29)、(30)	(27)、(28)、(29)
168 頁 8 行目	(31)、(32)	(30)、(31)
168 頁 18 行目	(33)、(34)	(32)、(33)
168 頁 20 行目	(33)、(34)	(32)、(33)
168 頁 20 行目	(35)、(36)	(34)、(35)
182 頁 1 行目	sai 「遣いに出す」 sai 「遣いに出す」	sai 「遣いに出す」
188 頁 9 行目	命ずる	「命ずる」
202 頁 6 行目	(7)	(8)
205 頁 2 行目	統治と被統治	統制と被統制
206 頁 14 行目	統治と被統治	統制と被統制
212 頁 11 行目	(10) a	(12) a
218 頁 2 行目	(26) b*	b*
219 頁 3 行目	上の (28)、(29)、(30)	上の (29)、(30)、(31)
219 頁 9 行目	例 (31)	例 (32)
219 頁 17 行目	例 (33) も (32) ～、(34)	例 (34) も (33) ～、(35)
220 頁 12 行目	例 (35)	例 (37)
223 頁 11 行目	例 (46)	例 (47)
224 頁 5 行目	例 (46)	例 (47)
228 頁 19 行目	(61) は (62)	(62) は (63)
231 頁 23 行目	đề nghị 「薦める」	đề nghị 「請う」
231 頁 25 行目	社会手的	社会的
232 頁 1、3、7 行目	đề nghị 「薦める」	đề nghị 「請う」
232 頁 12 行目	「～ように V2 する」	「～ように V2」
232 頁 1 行目	(78) c	(78) d
237 頁 1 行目	例 (96)	例 (97)
237 頁 5 行目	例 (97)	例 (98)
237 頁 20 行目	例 (99)、(100)	例 (100)、(101)